

salesforce

Salesforce Spring '15 リリース ノート

Salesforce, Spring '15



目次

Salesforce Spring '15 リリースノート	1
リリースノートの使用法	2
機能の影響	8
全般的な機能強化	35
分析	47
モバイル	61
コミュニティ	104
セールス	130
Work.com	151
Data.com	155
サービス	156
Chatter	184
Salesforce1 レポート	197
Force.com のカスタマイズ	200
Force.com 開発	253
その他の Salesforce 製品	345

Salesforce Spring '15 リリースノート

Spring '15 リリースでSalesforceは、強力なビジネスインテリジェンスの新機能、案件やプロジェクトでの多様なコラボレーションの手段、およびデータに対する管理強化を実現します。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforceの新機能や既存の機能の機能強化について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。その変更に対して準備ができるようにリリース前にユーザに通知してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

Salesforce 全体: より適切な検索、重複管理、その他

Spring '15では、より適切な検索、重複レコードの処理方法の追加、より詳細な個人取引先、メールセキュリティの強化、リッチテキストエディタの整理により、Salesforceの全体的な操作性が改善されました。リリースノートもより簡単に使用できます。

分析: Analytics Cloud、Wave の概要

Salesforce Analytics Cloudは、あらゆるユーザ向けに設計されています。ビジネスユーザ、アナリスト、開発者のいずれでも、Analytics Cloudを使用して、データにアクセスしたり、質問への回答を得たり、すぐにアクションを実行したりすることができます。こうして誰もが強力な洞察にアクセスし、データにストーリーを語らせることができるようになりました。つまり、これは専門家でなくても使用できるビジネスインテリジェンスです。

モバイル: 外出先で実行できる Salesforce1 操作の増加

Spring '15では、営業担当の現場での作業が改善されました。フィード投稿からのToDoの即時作成で、ワークフローが合理化されます。ダッシュボード検索条件や簡単にアクセスできるレポートによって、迅速な決定が可能になります。重要な取引先に関する最新のニュースや、セールスプロセスを通じて営業担当をコーチングするビジュアルアシスタントを使用することで、営業の生産性が高められます。これらは機能強化のほんの一部にすぎません。

コミュニティ: 簡単な設定とブランド設定、質問-to-ケース

Spring '15でのコミュニティの主要な機能強化として、コミュニティ設定の簡略化、コミュニティ管理設計の改善、コミュニティビルダーの機能の追加、およびNapiliセルフサービスコミュニティテンプレートの機能の追加が行われています。

セールス: 重複管理、セールスパス、その他

Spring '15 からは、重複レコードの管理が容易になり、また担当者がセールスプロセスを進めやすくなります。それだけではありません。新たに導入されたエンタープライズテリトリー管理では付随するオブジェクトを含めてテリトリーを追跡する点が特に強化され、コラボレーション売上予測では営業担当者が各自の調整を行えるようになりました。メール接続、Salesforce for Outlook、活動などにも画期的な新機能が搭載されています。

Work.com: 無料の機能、シングルアドオン

Spring '15 では、感謝やスキルの機能を無料で使用することや、コーチング環境をカスタマイズすること、そして目標 (パイロット) のより多くの機能を使用することができます。

Data.com

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタと Data.com クリーンアップのほかに、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。

サービス: 投稿をケースにしてサポートへの期待を管理

Spring '15 では、メールやソーシャルメディア投稿をすばやくケースにする手段も提供されています。また、顧客が締結したサポート契約や所有する商品を追跡することや、より多くのナレッジ記事を提供すること、さらに新しい [コンソール] タブでエージェントをサポートすることができます。

Chatter: レポート作成、質問-to-ケース、グループ内のレコード

Spring '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

Salesforce1 レポート: レポート通知

レポートの機能強化により、主要な総計値をより多くの方法で把握できます。

Force.com のカスタマイズ: クリックとコードによる Salesforce の適合化

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Web サイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント & クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

Force.com 開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

その他の Salesforce 製品

リリースノートの使用方法

リリースノートでは、Salesforce の新機能や既存の機能の機能強化について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つ実装のヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

PDF 版と HTML 版が用意されています。

既知の問題

これらのリリースノートは、新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「[既知の問題](#)」のサイトを参照してください。

Twitter を使用した更新

Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **フィードバックフォーム:** Salesforce ヘルプ、リリースノート、Salesforce Developers の開発者ガイドのすべてのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter:** @salesforcedocs 宛にツイートしてください。

リリースの前

Salesforce ヘルプ、実装ガイド、ヒント集、開発者ガイドへのリンクの一部は、Salesforce リリース自体が Sandbox または本番組織で使用できるようになるまで機能しません。

このセクションの内容:

お客様のご要望

Salesforce の今回のリリースの機能の多くは、IdeaExchange でのお客様のご要望が反映されています。

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

お客様のご要望

Salesforce の今回のリリースの機能の多くは、IdeaExchange でのお客様のご要望が反映されています。

IdeaExchange	実現したアイデア
DomainKeys (DKIM) による送信メールの署名	送信メールの DKIM 署名
コーチングメモを自分自身のみに表示	組織に合わせたコーチングのカスタマイズ
目標での Chatter の自動投稿の削減	拡張目標 (パイロット) の活用

IdeaExchange

実現したアイデア

Work.com 設定での「目標設定」の名前変更
 グループの目標の作成
 コメント/ToDo ボックスへの WYSIWYG エディタの追加
 新しい目的の作成時にデフォルト表示を設定する機能
 目標へのグループの追加
 目的作成時の代理アクセス
 目的のコピー
 目的のラベル付け
 優先度順の主要結果の並び替え
 非公開目標の削除
 HPD 目標のテキストボックス
 目標のロック解除
 チーム目標、すべての目標のリスト
 目標の割り当て
 Work.com での「すべての目標の参照」
 四半期ごとの目標の参照
 Work.com: カスタム項目
 Work.com - 総計値項目でのフィールド更新の無効化
 Work.com 内の非公開目標のデフォルト設定
 Work.com の入力規則を設定するオプション
 Work.com の目標フォルダ
 目標の所有権と目標の共有ルールの転送
 Work.com の目標をデフォルトで非公開に設定

公開グループの管理者の委任

代理管理者による公開グループの管理が可能

標準オブジェクトの Address データ型項目への地理位置情報項目の追加

地理位置情報項目の制限事項の変更 (正式リリース)

クロスオブジェクトワークフロー
親オブジェクトから子オブジェクトへのワークフローアクション

視覚的表示によるビジネスプロセスの自動化 (正式リリース)

承認の一括申請

条件付きワークフローアクション

高度なワークフロープロセスのサポート

IdeaExchange**実現したアイデア**

ワークフローを使用した任意のオブジェクトの作成

ワークフローアクションのネイティブ作成

ワークフローを使用した承認申請

順次ワークフローまたはワークフローアクション

レコードを新規作成するワークフロー

繰り返しのワークフロールール

ワークフロー項目自動更新-関連オブジェクトへのアクセス

50 超のワークフロールールが必要

ワークフローにコールされる Apex

最終活動日および最終更新日をワークフロー条件オプションに追加

ワークフローをトリガする数式項目値の変更を許可
ワークフロールールおよびタスクのグラフィカルな表示

ワークフローからのケースの作成

Chatter のワークフロー

Workflow Visualizer

レコードを新規作成するワークフロー

他のワークフローをトリガ可能なワークフロー

関連レコードへのワークフロー項目自動更新

セカンダリオブジェクトでワークフローを定義する機能

参照項目、項目自動更新

商談最終活動日項目の公開

ワークフローを目的とする所有者のマネージャの使用

クロスオブジェクトワークフロー

ワークフロールールの制限の増大

ワークフローから視覚フローのトリガ

承認申請を起動する機能

ワークフローによってトリガされる自動承認プロセス

IdeaExchange	実現したアイデア
<p>[納入商品] タブ 納入商品の履歴追跡 納入商品のレコードタイプ</p>	<p>Assets オブジェクトの標準オブジェクトとしての再設計</p>
<p>ナレッジ記事でのケース関連リスト ナレッジ記事に関連付けられているケースの参照 記事インターフェースからの関連ケースの表示</p>	<p>記事の [リンク済みケース] 関連リスト</p>
<p>公開記事の編集のキャンセルで元の状況に戻す ユーザがドラフト記事を必要としない場合は記事をキャンセル (削除) 保存アクションが実行された場合にのみドラフトナレッジ記事を作成</p>	<p>公開記事のドラフトのキャンセルによる新しいバージョンの保存の廃止 (ページ 169)</p>
<p>デフォルトで記事のプロパティを表示する機能の追加 Salesforce1 モバイルアプリケーションでの記事と記事の管理</p>	<p>内部ユーザ向けに更新された記事のプレビューページ</p>
<p>複数選択リストのワークフロー項目自動更新 ワークフローによる複数選択リストの変更を許可 プロセスビルダー: プロセスリストを参照時のリストビューおよびオブジェクト情報 プロセスビルダー: [Salesforce に戻る] ボタン プロセスビルダー: 複数選択リストで複数の値の選択を許可</p>	<p>より効率的なプロセスの作成と管理</p>
<p>プロセスビルダー: 条件に AND/OR ロジックを使用する機能</p>	<p>プロセスビルダーの条件ロジックのカスタマイズ</p>
<p>プロセスビルダー: 無効化プロセスの編集を許可またはバージョンを許可</p>	<p>プロセスのバージョンの作成</p>
<p>カスタムメタデータ型</p>	<p>リリース可能なカスタムメタデータ型の開発(パイロット)</p>
<p>アプリケーションのアップグレード中の計画的ダウンタイムの排除</p>	<p>組織同期によるビジネス継続性の向上 (正式リリース)</p>
<p>商品の項目履歴管理のアップグレード</p>	<p>商品に項目履歴管理を搭載</p>

IdeaExchange	実現したアイデア
非同期処理での「Apex キュー」の実装	Apex Flex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加 (正式リリース) および キュー可能 Apex によるジョブチェーニング数の増加
Apex キュー/逐次化の一括処理	Apex Flex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加 (正式リリース)

関連トピック:

[機能が使用可能になる方法と状況](#)

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

- [Release Readiness Community](#)。Salesforce エキスパートのコミュニティに参加しましょう。
- [リリースデモ](#)。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- [トレーニングリリースノート](#)。変更および新規追加された機能について、オンラインやインストラクター指導のトレーニングで学習できます。トレーニングリリースノートは4か月ごとに発行され、トレーニングの最新情報を簡単に確認できます。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

2015 年 1 月 14 日

モバイル: 外出先で実行できる Salesforce1 操作の増加

Spring '15 での Salesforce1 モバイルアプリケーションへの機能強化のすべてを説明するコンテンツが追加されました。

重要な更新「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」の有効化日の変更

元の有効化日が 2015 年から 2014 年 12 月 10 日に修正されました。機能上の変更はなく、リリースノートのテキストのみが変更されました。

組織に合わせたコーチングのカスタマイズ

非公開メモに関する制限は、ほとんどのユーザには該当しないため、削除されました。

Salesforce CTI Toolkit のサポートの終了

Salesforce CTI Toolkit のサポート終了に関する通知が追加されました。

作業を効率化するためのケースフィードでのマクロの使用

マクロを使用できるのは Service Cloud ライセンスのみであることを明確化するためにエディション情報が修正されました。

2015年1月7日

カスタムの呼び出し可能アクション

Apex アクションの説明と呼び出しで、Apex クラスへのプロファイルアクセス権に従うことが明記されました。

新規および変更された Apex クラス

System.Test クラスの新しいメソッドと、新しい System.Continuation クラスに関する情報が追加されました。

お客様のご要望

Apex で配信された2つのアイデアへの IdeaExchange リンクが追加されました。

フィードへの顔文字の追加

顔文字の有効化に関する修正。顔文字をユーザが使用できるようにするには、Salesforce システム管理者が、[Chatter の設定] で顔文字を有効にする必要があります。

リリースノートの使いやすさの向上

再構成されたリリースノートに関するリリースノートが追加されました。

2014年12月22日

マクロの共有

マクロの共有に関する情報がリリースノートに追加されました。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring'15の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。その変更に対して準備ができるようにリリース前にユーザに通知してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

Spring '15の変更をご利用のインスタンスでいつから確認できるかを知るための最適な方法は、trust.salesforce.com/trust/maintenance/にあるSalesforceのTrustサイトで、「メジャーリリース予定」セクションを確認することです。

次の一連の表には、Spring'15の機能とユーザへの影響がまとめられています。ご使用のSalesforceのエディションに関連する機能の詳細を確認してください。

このセクションの内容:

全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況

Spring '15では、より適切な検索、重複レコードの処理方法の追加、より詳細な個人取引先、メールセキュリティの強化、リッチテキストエディタの整理により、Salesforceの全体的な操作性が改善されました。リリースノートもより簡単に使用できます。

Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce Analytics Cloud は、あらゆるユーザ向けに設計されています。ビジネスユーザ、アナリスト、開発者のいずれでも、Analytics Cloud を使用して、データにアクセスしたり、質問への回答を得たり、すぐにアクションを実行したりすることができます。こうして誰もが強力な洞察にアクセスし、データにストーリーを語らせることができるようになりました。つまり、これは専門家でもなくても使用できるビジネスインテリジェンスです。

モバイル機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、営業担当の現場での作業が改善されました。フィード投稿からの ToDo の即時作成で、ワークフローが合理化されます。ダッシュボード検索条件や簡単にアクセスできるレポートによって、迅速な決定が可能になります。重要な取引先に関する最新のニュースや、セールスプロセスを通じて営業担当をコーチングするビジュアルアシスタントを使用することで、営業の生産性が高められます。これらは機能強化のほんの一部にすぎません。

Chatter 機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 でのコミュニティの主要な機能強化として、コミュニティ設定の簡略化、コミュニティ管理設計の改善、コミュニティビルダーの機能の追加、および Napili セルフサービスコミュニティテンプレートの機能の追加が行われています。

セールス機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 からは、重複レコードの管理が容易になり、また担当者がセールスプロセスを進めやすくなります。それだけではありません。新たに導入されたエンタープライズテリトリー管理では付随するオブジェクトを含めてテリトリーを追跡する点が特に強化され、コラボレーション売上予測では営業担当者が各自の調整を行えるようになりました。メール接続、Salesforce for Outlook、活動などにも画期的な新機能が搭載されています。

Work.com 機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、感謝やスキルの機能を無料で使用することや、コーチング環境をカスタマイズすること、そして目標(パイロット)のより多くの機能を使用することができます。

Data.com の機能が使用可能になる方法と状況

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタ と Data.com クリーンアップのほかに、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。

サービス機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、メールやソーシャルメディア投稿をすばやくケースにする手段も提供されています。また、顧客が締結したサポート契約や所有する商品を追跡することや、より多くのナレッジ記事を提供すること、さらに新しい [コンソール] タブでエージェントをサポートすることができます。

Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況

レポートの機能強化により、主要な総計値をより多くの方法で把握できます。

Force.com のカスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Web サイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント & クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

Force.com の開発機能が使用可能になる方法と状況

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、より適切な検索、重複レコードの処理方法の追加、より詳細な個人取引先、メールセキュリティの強化、リッチテキストエディタの整理により、Salesforce の全体的な操作性が改善されました。リリースノートもより簡単に使用できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
迅速で関連性の高い検索結果の取得 (正式リリース) (Spring '15 リリース時にローリング方式でリリース)	✓			
重複のアラートとブロック (正式リリース)			✓	
取引先と取引先責任者の簡便なインポート				✓
人オブジェクトのミドルネームおよび肩書き項目 (正式リリース)				✓
さらに合理化されたリッチテキストエディタの外観	✓			
送信メールの DKIM 署名 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)		✓		

Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況

Salesforce Analytics Cloud は、あらゆるユーザ向けに設計されています。ビジネスユーザ、アナリスト、開発者のいずれでも、Analytics Cloud を使用して、データにアクセスしたり、質問への回答を得たり、すぐにアクションを実行したりすることができます。こうして誰もが強力な洞察にアクセスし、データにストーリーを語らせることができるようになりました。つまり、これは専門家でなくても使用できるビジネスインテリジェンスです。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
分析: Analytics Cloud、Wave の概要				✓

モバイル機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、営業担当の現場での作業が改善されました。フィード投稿からの ToDo の即時作成で、ワークフローが合理化されます。ダッシュボード検索条件や簡単にアクセスできるレポートによって、迅速な決定が可能になります。重要な取引先に関する最新のニュースや、セールスプロセスを通じて営業担当をコーチングするビジュアルアシスタントを使用することで、営業の生産性が高められます。これらは機能強化のほんの一部にすぎません。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce1				
オブジェクトのホームページでのレコード詳細の表示 (タブレットのみ)	✓			
全機能を備えたリストビューの表示 (タブレットのみ)	✓			
グラフを使用したリストビュー詳細の表示 (タブレットのみ)	✓			
その他のリストビューの表示 (携帯電話のみ)	✓			
他の場所でのアクションおよびアクションバーの使用	✓			
コミュニティフィードのおすすめ情報のカスタマイズ (ベータ)			✓	
投稿への複数の添付の追加	✓			
1つの投稿にバンドルされた複数のレコード更新の表示	✓			
Chatter の未回答の質問に対するケースの作成 (正式リリース)			✓	
Chatter グループへのレコードの追加 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Chatter グループでのお知らせの投稿			✓	
Chatter グループのグループ写真の表示、アップロード、削除	✓			
新しい Salesforce ファイルフィルタを使用した他のファイルの検索	✓			
外部ファイルの参照および共有			✓	
類似したクイック結果の区別	✓			
検索結果での詳細の表示 (タブレットのみ)	✓			
適切なレコードをすばやく見つけるための検索結果の並び替え	✓			
重複レコードの回避(正式リリース)			✓	
標準住所項目での Google マップ画像の表示 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			
標準住所項目での住所のオートコンプリートの使用			✓	
取引先に関するニュースの表示			✓	
取引先ニュースへのアクセスの設定			✓	
モバイル連絡先リストからの連絡先のインポート機能の有効化/無効化		✓		
セールスパスを使用した成約率の向上			✓	
セールスパスの設定			✓	
取引先責任者へのリードの変換 (ベータ)			✓	
タブレットでの ToDo 一覧の迅速な操作	✓			
投稿からの ToDo の作成			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Salesforce Today の他の主要情報を使用した日常業務の効果的な管理	✓			
ダッシュボードの検索条件の使用	✓			
動的ダッシュボードでの実行ユーザの指定	✓			
ダッシュボードのより簡単な更新	✓			
ダッシュボードのすべての列の同時表示 (タブレットのみ)	✓			
レポートグラフへのすばやいアクセス (タブレットのみ)	✓			
ナビゲーションメニューからの最近使ったレポートへのアクセス	✓			
Salesforce ナレッジの検索結果での昇格済み用語、強調表示、スニペットの表示	✓			
一時停止中のすべてのフローインタビューを 1 か所で表示			✓	
レポートに関するアプリケーション内通知の受信 (正式リリース)	✓			
オンラインパフォーマンス向上のための Salesforce1 オフラインキャッシュの使用			✓	
アクションバーへのカスタムブランドの適用の停止			✓	
Salesforce1 のその他の変更				
Windows 8.1 タブレットでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの使用	✓			
デフォルトの Salesforce1 ナビゲーションメニューで項目を異なる配置で表示	✓			
タブレットでコメントをすばやく参照	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
フィード投稿のトピックを追加または削除	✓			
プロフィール写真の表示を制御	✓			
グループを活動順に並び替えてグループリストビューに表示	✓			
メンバーのプロフィール写真をグループメンバーリストに表示	✓			
グループの [特長] 領域からのグループへの参加または参加要求	✓			
人およびグループについて関連性の高い検索結果を表示	✓			
グループフィードの検索	✓			
さらに多くのコーチング機能へのアクセス	✓			
Today で更新情報を必要に応じて取得	✓			
Today でさらに多くのアクションを実行	✓			
Today カードを2列に表示 (タブレットのみ)	✓			
Today での天気情報の表示を停止	✓			
Salesforce1 の追加情報				
Salesforce1 アプリケーションへのアクセス	✓			
Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い	✓			
Salesforce1 アプリケーション開発の概要			✓	

Chatter 機能が使用可能になる方法と状況

Spring '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポート				
Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージを使用した Chatter 利用状況のレポート			☑	
グループ				
ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加の許可			☑	
メールによるグループへの投稿での一意ではないメールアドレスのサポート	☑			
リストに記載しないグループの機能強化	☑			
ファイル				
ファイルおよびコンテンツ用の新しい Salesforce Files 設定ノード		☑		
Files でのレコードタイプとページレイアウトのサポート		☑		
Salesforce Files Sync での新しい OS のサポートと制限の緩和	☑			
共有ファイルの同期	☑			
OneDrive for Business のコンテンツへの接続			☑	
セキュアエージェントの機能強化		☑		
フィード				
質問-to-ケースを使用した Chatter の質問の管理 (正式リリース)			☑	
新規 ToDo アクションによるフィードの機能拡張			☑	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
アクションリンクを使用した投稿からのアクションの実行 (正式リリース)		✓		
フィードへの顔文字の追加	✓			
その他の Chatter の変更				
Apex トリガを使用した Chatter 非公開メッセージのモデレーション		✓		
プレビューリンクの追加	✓			
投稿での複数添付ファイルの表示	✓			
API の機能強化				
Chatter REST API		✓		
ConnectApi (Chatter in Apex)		✓		

コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況

Spring'15でのコミュニティの主要な機能強化として、コミュニティ設定の簡略化、コミュニティ管理設計の改善、コミュニティビルダーの機能の追加、および Napili セルフサービスコミュニティテンプレートの機能の追加が行われています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティ管理				
[設定]からコミュニティ管理に移動した管理設定		✓		
コミュニティ管理設定の更新のために必須となったコミュニティメンバーシップ		✓		
コミュニティ管理の動的ナビゲーションで関連するコミュニティ設定のみを表示	✓			
コミュニティ管理でのコミュニティテンプレートの直接変更		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
[コミュニティ管理]でのフラグ付きファイルの直接モデレート	✓			
コミュニティメンバーによる外部システムに対する独自の認証設定の管理の有効化			✓	
コミュニティのトピックの管理	✓			
コミュニティのトピック名の翻訳(ベータ)	✓			
簡略化されたログインおよびセルフ登録オプション		✓		
セルフ登録ユーザの個人アカウントの作成			✓	
コミュニティビルダー				
高度なウィザードを使用したコミュニティ作成の合理化		✓		
コミュニティビルダーでのページの編集		✓		
ポップアウトプレビューを使用した設計変更のプレビュー		✓		
コミュニティ内の任意のページへの移動		✓		
機能強化されたブランド設定と使用した色とスタイルとの厳密な一致		✓		
コミュニティビルダーからのテンプレートの更新		✓		
コミュニティテンプレート				
スパム送信者によるケース作成の防止			✓	
Napili テンプレートに追加された [ユーザ設定] ビュー			✓	
Napili プロファイルビューの機能強化			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Napili コミュニティの質問へのファイル添付	✓			
Napili 評価ランキング表で活発なメンバーを強調表示			✓	
Napili テンプレートのその他のトピック機能			✓	
分析				
スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザ向けのダッシュボードの更新	✓			
コミュニティのその他の変更				
質問-to-ケースで回答をすばやく取得 (正式リリース)			✓	
コミュニティメンバーによる外部システムに対する独自の認証設定の管理の有効化			✓	
パートナーユーザ向けに追加された [キャンペーン] タブのサポート	✓			
コミュニティのお知らせメールのフッターへのユーザ名の追加を廃止	✓			
投稿からのトピックの追加または削除	✓			
Koa、Kokua、Napili テンプレートに加えられたアクセシビリティの改善	✓			

セールス機能が使用可能になる方法と状況

Spring'15からは、重複レコードの管理が容易になり、また担当者がセールスプロセスを進めやすくなります。それだけではありません。新たに導入されたエンタープライズテリトリー管理では付随するオブジェクトを含めてテリトリーを追跡する点が特に強化され、コラボレーション売上予測では営業担当者が各自の調整を行えるようになりました。メール接続、Salesforce for Outlook、活動などにも画期的な新機能が搭載されています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Data.com 重複管理				
重複レコードの管理			✓	
ユーザによる重複レコードの保存の防止			✓	
重複レコードの特定に使用するロジックの定義			✓	
重複レコードレポートのカスタムレポートタイプの作成			✓	
リード				
リードの変換時の取引先責任者や取引先の重複の回避			✓	
セールスパス				
セールスパスで営業担当者の販売クローズを促進			✓	
エンタープライズテリトリー管理				
リストビューおよびオブジェクトページでのテリトリー管理のカスタム項目の表示			✓	
取引先に割り当てられたテリトリー内のユーザの識別			✓	
商談へのテリトリーの手動割り当て			✓	
特定の取引先レポートでのテリトリーの追加情報の表示			✓	
商談とコラボレーション売上予測				
独自の売上予測金額の調整			✓	
商品				
商品に項目履歴管理を搭載			✓	
Salesforce for Outlook				
Salesforce の定期的な ToDo と Microsoft® Outlook® の同期			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
チームのサイドパネルに関連する取引先責任者やリードが表示される可能性の向上	✓			
営業チームの意向に基づいて個人取引先にメールを追加可能			✓	
ToDo を受け入れる複数の Salesforce レコードへのメールの追加				✓
メール接続 - Exchange Sync (ベータ)				
クラウドでのユーザの取引先責任者や行動の同期 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)			✓	
Exchange Sync 機能に Salesforce サイドパネルを補完 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)			✓	
活動				
自分に割り当てた ToDo では通知が生成されない	✓	✓		
1 つの ToDo に対する定期的な ToDo 所有者の再割り当て	✓	✓		
Salesforce to Salesforce				
Salesforce to Salesforce の新しいメールテンプレートおよびトーン	✓			
Salesforce Console for Sales				
Salesforce コンソールの機能強化	✓			

Work.com 機能が使用可能になる方法と状況

Spring'15では、感謝やスキルの機能を無料で使用することや、コーチング環境をカスタマイズすること、そして目標 (パイロット) のより多くの機能を使用することができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
感謝およびスキルの無料使用 (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)			✓	
新しいアドオンを使用したすべての Work.com 機能へのアクセス				✓
組織に合わせたコーチングのカスタマイズ	✓			
拡張目標 (パイロット) の活用				✓
Work.com のその他の変更				
パフォーマンスサイクルのリリースの詳細なエラーメッセージの受信		✓		
感謝オブジェクトのページレイアウトのカスタマイズ		✓		
Salesforce1 をさらに活用	✓			

Data.com の機能が使用可能になる方法と状況

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタ と Data.com クリーンアップのほかに、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Data.com API		✓		

サービス機能が使用可能になる方法と状況

Spring'15では、メールやソーシャルメディア投稿をすばやくケースにする手段も提供されています。また、顧客が締結したサポート契約や所有する商品を追跡することや、より多くのナレッジ記事を提供すること、さらに新しい [コンソール] タブでエージェントをサポートすることができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ケースフィード				
作業を効率化するためのケース フィードでのマクロの使用	✓	✓	✓	
マクロのショートカットの使用				
マクロの表示および実行	✓	✓	✓	
マクロの作成および編集(ページ 160)	✓	✓	✓	
マクロの共有(ページ 161)	✓	✓	✓	
マクロの削除(ページ 162)	✓	✓	✓	
エンタイトルメント管理				
マイルストーンカウントダウンタイ マーの再設計	✓	✓	✓	
納入商品オブジェクト				
Assets オブジェクトの標準オブジェ クトとしての再設計	✓	✓	✓	
ホームページへの [納入商品] タブ の追加	✓	✓	✓	
Assets オブジェクトへの共有ルール の追加		✓	✓	
納入商品レコードへの [納入商品所 有者] 項目の追加	✓	✓	✓	
納入商品レコードでの項目履歴管 理のサポート		✓	✓	
納入商品レコードへのレコードタ イプの追加	✓	✓	✓	
ナレッジ				
記事の [リンク済みケース] 関連リ スト	✓			
内部ユーザ向けに更新された記事 のプレビューページ	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
公開記事のドラフトのキャンセルによる新しいバージョンの保存の廃止	✓			
メールによる記事の内容の送信 (ベータ)			✓	
Salesforce ナレッジのその他の変更	✓			
Salesforce CTI Toolkit				
Salesforce CTI Toolkit のサポートの終了			✓	
Open CTI				
新しいメソッド			✓	
Salesforce コンソール				
コンソールインテグレーションツールキットの新しいメソッド			✓	
新しいキーボードショートカットによる生産性の向上	✓			
新しいシステム推奨事項に従うことによるコンソールパフォーマンスの改善	✓			
コンソールアプリケーションのコピー		✓		
いくつかのコンソール機能への自動的なアクセス (Spring '15 リリース後 24 時間以内にリリース)	✓			
積み上げコンポーネントの高さと幅の自動サイズ変更		✓		
コンソールタブの再配置	✓			
ユーザによるナビゲーションタブのカスタマイズ		✓		
[コンソール] タブ				
新しい組織からの [コンソール] タブの削除		✓		
サービスコミュニティ				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成(正式リリース)			✓	
ソーシャルカスタマーサービス				
ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack		✓		
管理の改善		✓		
新しいケースフィードアクションによるソーシャル投稿の操作	✓			
ソーシャルアクションによるリードフィード内のリードへの応答			✓	
ブログやフォーラム、サイトのコンテンツのブロードリスニング			✓	
ビジネス継続性				
組織同期によるビジネス継続性の向上 (正式リリース)			✓	✓

Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況

レポートの機能強化により、主要な総計値をより多くの方法で把握できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポート通知の受信登録 (正式リリース)	✓			
レポートのエクスポートおよび印刷に必要なセッションセキュリティレベルの強化			✓	
[レポート] および [ダッシュボード] タブをクリックジャックから保護 (ページ 200)		✓		

Force.com のカスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント&クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

このセクションの内容:

[全般的な管理](#)

[データ](#)

[ビジネスロジックおよびプロセスの自動化](#)

[セキュリティと ID](#)

[共有](#)

[グローバリゼーション](#)

[重要な更新](#)

[その他のカスタマイズ](#)

全般的な管理

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
アクション用語の変更	✓			
代理管理者による公開グループの管理が可能		✓		
カスタム権限を管理する権限の変更		✓		
無効ユーザが所有するレコードの作成または編集	✓			
設定における他の項目の検索(ベータ)		✓		
数式関数で使用できる複合項目の変更		✓		
標準住所項目での Google マップの表示	✓	✓		
地理位置情報項目の制限事項の変更(正式リリース)	✓	✓	✓	

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
[設定]の項目リストへのインデックス付き列の追加		✓		

データ

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ユーザによる外部システムの各自の認証設定管理の有効化			✓	
外部システムの認証設定に関する用語の変更		✓		
「Lightning Connect: OData 2.0」の外部データソースでの要求と応答の圧縮			✓	
外部オブジェクトのタブと表示ラベルの名称変更		✓		
外部データソースに関するテキストの明確化		✓		
項目監査履歴を使用した項目履歴の保持 (正式リリース)				✓
データパイプラインを使用した顧客データの管理 (パイロット)				✓

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

機能	システム管理者/開発者 に対する有効化	システム管理者の設 定が必要	Salesforce に連絡し て有効化
プロセスビルダー			
視覚的表示によるビジネスプロセスの自動化 (正式リリース)	✓		
プロセスのバージョンの作成	✓		
プロセスからの Apex メソッドのコール	✓		

機能	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
1回のトランザクションでの複数回のプロセスのトリガ	✓		
特定の項目が変更されたかどうかの判断	✓		
プロセスビルダーの条件ロジックのカスタマイズ	✓		
より効率的なプロセスの作成と管理	✓		
数式関数のスペース不要	✓		
より多くのアクションの作成	✓		
項目のツールチップによる簡単な操作	✓		
Visual Workflow			
フローインタビューの一時停止をユーザに許可		✓	
フローを一時停止可能なユーザの制御	✓		
一時停止および再開されたインタビューのデバッグ	✓		
フローの条件ロジックのカスタマイズ	✓		
フローインタビューの動的表示ラベルの作成	✓		
フローから Apex クラスへのアクセスの簡略化	✓		
「トリガ対応フロー」から「自動起動フロー」への名前変更	✓		
フロー種別の指定	✓		
待機中のインタビューに関する詳細情報の取得	✓		
フローで作成された Chatter 投稿の ID の参照	✓		
フローで送信された承認申請の情報の参照	✓		
フロー変数へのイベント出力の割り当て	✓		
デフォルトコネクタの設定なしでのフローへの決定要素と待機要素の追加	✓		

機能	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
実行時に延期されたフロー要素のデバッグ	✓		
追加オブジェクトの日付/時間項目を使用した時間ベースのフローの作成	✓		
[実行制限] の代わりにフローの [種別] を監視	✓		

セキュリティと ID

機能	ユーザに表示	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証				
Google 認証プロバイダの設定		✓		
Salesforce 管理値を使用した認証プロバイダの設定		✓		
Apex クラスによる SAML ジャストインタイムユーザプロビジョニングのカスタマイズ		✓		
接続アプリケーションでの複数のコールバック URL の使用		✓		
セッションドメインロックのセキュリティの強化		✓		
Facebook 認証プロバイダの承認、トークン、およびユーザ情報エンドポイントの編集		✓		
URL からのカスタムドメインまたはコミュニティの認証設定の取得		✓		
コールアウトエンドポイントおよびその認証設定を定義する指定ログイン情報の作成		✓		
セッションコンテキストによる ID 別のログイン履歴の追跡		✓		
ログイン履歴によるデータローダログインの追跡		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
RSA-SHA256 による SAML シングルサインオン要求の署名		✓		
ソーシャルサインオンユーザのログアウトページの選択		✓		
OAuth 2.0 Web サーバフローのコード確認および検証値の指定		✓		
OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフローのエラーメッセージの変更		✓		
ID				
接続アプリケーションを使用したサードパーティアプリケーションのユーザのプロビジョニング (ベータ)				✓
管理				
ログの ID プロバイダイベントの最大 180 日間の監視		✓		
Salesforce 組織への個々の API クライアントアクセスの制御				✓
ユーザのログインおよびログアウトアクティビティの監視 (正式リリース)		✓		
ログインフォレンジックを使用したユーザ活動の正当化 (パイロット)				✓
Salesforce1 レポートのクリックジャック保護の有効化		✓		
[セッションの設定] のクリックジャック表示ラベルの変更		✓		

共有

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
すべての組織で使用可能なマネージャグループ	✓			
無効な共有の非同期削除 (パイロット)				✓

グローバル化

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
サポート対象言語の変更および追加	✓	✓	✓	

重要な更新

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ApexFlex キューを使用した一括処理 ジョブ送信数の増加(正式リリース)			✓	
追加の文字をエスケープするた めに修正された String メソッド			✓	
重要な更新「Visualforce ドメイン からの静的リソースの提供」の有効 化日の変更			✓	

その他のカスタマイズ

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning ページへのフレキシブル ページの名称変更		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
クイックアクションの定義済み項目値におけるクロスオブジェクト参照の増加		✓		
一部のクイックアクション表示レベルの変更	✓			

Force.com の開発機能が使用可能になる方法と状況

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

[変更セットとリリース](#)

[Visualforce](#)

[Apex コード](#)

[Lightning コンポーネント](#)

[API](#)

[ISVForce](#)

[Force.com 開発のその他の変更](#)

変更セットとリリース

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
変更セットで使用可能な新規コンポーネント		✓		
短時間でのコンポーネントのリリース (正式リリース)		✓		
より多くのコンポーネントのリリースと取得		✓		
コンポーネントの更新前後でのコンポーネントの削除		✓		

Visualforce

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Visualforce 開発				
場所データをより明確に表示するための Visualforce 地図コンポーネントの使用		✓		
Visualforce のその他の変更				
<flow:interview> の新しい属性		✓		
sforce.one.navigateToRelatedList() のパラメータ値の変更		✓		
重要な更新「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」の有効化日の変更			✓	

Apex コード

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
ApexFlex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加(正式リリース)			✓	
Visualforce ページでの長時間コールアウトの実行		✓		
テストクラス全体のテストデータの設定		✓		
キュー可能 Apex によるジョブチェーニング数の増加		✓		
Apex を使用した住所複合項目および地理位置情報複合項目へのアクセス		✓		
Apex コールアウト実行のデータの増加		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Tooling API エンドポイントを使用した Apex クラスおよびトリガのリスト		✓		
エンドポイントとしての指定ログイン情報の指定による認証済み Apex コールアウトの簡略化			✓	
Apex SOAP API で実行されたテストのデータ分離モードの確認		✓		
追加の文字をエスケープするために修正された String メソッド			✓	
新規および変更された Apex クラス		✓		
ConnectApi (Chatter in Apex)		✓		

Lightning コンポーネント

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning コンポーネントの開発				
新しいコンポーネント		✓		
新しいイベント		✓		
Lightning コンポーネントのその他の変更				
大文字と小文字の区別		✓		
他のエディションに追加された作成のサポート		✓		
名前空間の要件の削除		✓		
デフォルトの名前空間のサポートの追加		✓		
Lightning コンポーネント/アプリケーションの拡張		✓		
参照整合性の検証の追加		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
Lightning アプリケーションビルダー および Lightning ページでの Lightning コンポーネントのサポート		✓		

API

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
新しいオブジェクト		✓		
変更されたオブジェクト		✓		
API				
REST API		✓		
SOAP API		✓		
Chatter REST API		✓		
Data.com API		✓		
Publisher.js API		✓		
ストリーミング API		✓		
Bulk API		✓		
Tooling API		✓		
メタデータ API		✓		
Salesforce コンソール API (インテグ レーションツールキット)		✓	✓	
Open CTI API		✓		

ISVForce

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
環境ハブへの組織の接続時にデフォ ルト SSO を使用して時間を節約		✓		

機能	ユーザに表示	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡 して有効化
環境ハブの説明によるメンバー組織の追跡		✔		
未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化		✔		
指定ログイン情報のパッケージ化		✔		

Force.com 開発のその他の変更

機能	すべてのユーザ に自動的に表示 されます。設定 は不要です。	すべての管理者 に自動的に表示 されます。設定 は不要です。	自動的に表示 されません。機 能は有効化され ていますが、い くつかの設定が 必要です。	この機能を有効 にするには、 Salesforce に連絡 してください。
リリース可能なカスタムメタデータ型の開発 (パイロット)				✔

Salesforce 全体: より適切な検索、重複管理、その他

Spring '15 では、より適切な検索、重複レコードの処理方法の追加、より詳細な個人取引先、メールセキュリティの強化、リッチテキストエディタの整理により、Salesforce の全体的な操作性が改善されました。リリースノートもより簡単に使用できます。

このセクションの内容:

リリースノートの使いやすさの向上

情報をよりすばやく見つけることができるようにリリースノートが再編成されました。

サポートされるブラウザ

Salesforce フルサイトでサポートされるブラウザについて説明します。

迅速で関連性の高い検索結果の取得 (正式リリース)

検索エンジンが更新され、Salesforce 全体で迅速かつスマートな検索を行い、より関連性の高い結果を得られるようになりました。

重複のアラートとブロック (正式リリース)

Data.com 重複管理を使用して、データをクリーンかつ正確に維持できるようになりました。Salesforce 内の重複レコードの作成、重複レコードを識別するために使用されるロジックのカスタマイズ、保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成をユーザに許可するか否かとそのタイミングを制御します。

取引先と取引先責任者の簡便なインポート

2014年12月17日以降にリリースされた新規組織およびトライアル組織で使用でき、他のすべての組織でもまもなく使用可能になる機能で、一般的なデータソースから取引先と取引先責任者を選択し、Salesforce にすばやく簡単に取り込みます。

人オブジェクトのミドルネームおよび肩書き項目 (正式リリース)

人オブジェクトに [ミドルネーム] および [肩書き] 項目を追加すると、レコードに関連付けられた人の名前を適切に表すことができます。これらの項目を使用すると、2つのレコードの名と姓が同じ場合でも混乱を避けることもできます。

送信メールの DKIM 署名

DKIM (DomainKeys Identified Mail) 鍵機能を使用して、Salesforce が組織に代わって送信されるメールに署名できるようにします。有効な署名によって、受信者は、組織が承認する方法で Salesforce などのサードパーティによってメールが処理されたことを確信できます。

さらに合理化されたリッチテキストエディタの外観

リッチテキストエディタはHTMLエディタとも呼ばれ、ほとんどのリッチテキストエリア項目で使用できますが、新しい外観、パフォーマンスの向上、バグ修正、貼り付けたデータのスタイル設定の改善、貼り付けた画像の処理の改善、新しいブラウザとの互換性の向上が行われました。更新されたエディタは、レコードなどのリッチテキストエリアカスタム項目でも使用できます。

関連トピック:

[全般的な機能強化が使用可能になる方法と状況](#)

リリースノートの使いやすさの向上

情報をよりすばやく見つけることができるようにリリースノートが再編成されました。

より迅速な情報の検索

この新しい形式は組織に影響する特定の変更と全体像が調和されているため、必要なニュースを少ないクリック数で見つけることができます。

- Spring '15 リリース全体の概要はアプリケーションエリアごとに整理され、リリースノートの上部に表示されるようになりました。Webでは、これが最初に表示されるPDFのページで、直ちに目次を確認できます。ここからドリルダウンし、任意の詳細情報にアクセスできます。
- 変更の概要は、各アプリケーションエリアの最初に表示されるようになりました。一目で基本情報を確認したり、クリックして必要な詳細情報を確認したりできます。

サポートされるブラウザ

Salesforce フルサイトでサポートされるブラウザについて説明します。

重要: Summer '15 以降、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは停止されます。これらのバージョンでは、このリリース日以降一部の機能が動作しなくなる可能性があります。このリリース日以降、Salesforce カスタマーサポートでは Internet Explorer 7 および 8 に関する問題の調査は行いません。

Salesforce1 アプリケーションでサポートされるモバイルブラウザについては、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」を参照してください。

ブラウザ	コメント
Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7、8、9、10、11	<p>Internet Explorer を使用する場合は、Salesforce でサポートされている最新バージョンを使用することをお勧めします。すべての Microsoft ソフトウェア更新を適用してください。次の制限があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Salesforce フルサイトは、Windows 向けタッチ対応デバイスの Internet Explorer ではサポートされていません。代わりに Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用してください。 • [Salesforce1 の設定] ページと Salesforce1 ウィザードを使用するには Internet Explorer 9 以降が必要です。 • Internet Explorer 11 の HTML ソリューションエディタは、Salesforce ナレッジではサポートされていません。 • Internet Explorer の互換表示機能はサポートされていません。 • Internet Explorer 10 の Metro バージョンはサポートされません。 • Internet Explorer 6 および 7 は、複数アカウントのログインヒントではサポートされていません。 • Internet Explorer 7 および 8 は、データインポートウィザードではサポートされていません。 • Internet Explorer 7、8、および 11 は、開発者コンソールではサポートされていません。 • Internet Explorer 7 は、Open CTI ではサポートされていません。 • Internet Explorer 7 および 11 は、CTI Toolkit バージョン 4.0 以降を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。 • Internet Explorer 7 は、Force.com Canvas ではサポートされていません。 • Internet Explorer 7 は、高度なブラウザパフォーマンスや最近の Web テクノロジーを必要とする Salesforce コンソール機能ではサポートされていません。Internet Explorer 7 で使用できないコンソール機能は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - [最新のタブ] コンポーネント - サイドバーの複数のカスタムコンソールコンポーネント - サイドバーに積み上げられているコンソールコンポーネントの垂直方向の自動サイズ調整

ブラウザ

コメント

- コンソールコンポーネントの [ボタン CSS] のフォントとフォントの色
- マルチモニターコンポーネント
- サイズ変更可能な強調表示パネル
- フィードベースのページレイアウトの全体の幅のフィードオプション

- Internet Explorer 7 および 8 は、セルフサービスのコミュニティテンプレートではサポートされていません。
- Internet Explorer 7 および 8 では、商談分割の複数行の編集が使用されると、パフォーマンス上の問題が生じます。
- セルフサービスのコミュニティテンプレートでは、Internet Explorer 9 以降でデスクトップユーザが、Internet Explorer 11 以降でモバイルユーザがサポートされています。
- Internet Explorer 7、8、および 9 は、Salesforce Analytics Cloud ではサポートされません。

設定の推奨事項については、Salesforce ヘルプの「Internet Explorer の設定」を参照してください。

Mozilla® Firefox® の最新の安定バージョン

Salesforce は Firefox の最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。

- Mozilla Firefox は、セルフサービスのコミュニティテンプレートのデスクトップユーザに対してのみサポートされています。

設定の推奨事項については、Salesforce ヘルプの「Firefox の設定」を参照してください。

Google Chrome™ の最新の安定バージョン

Google Chrome は自動的に更新を適用するため、Salesforce は最新バージョンのテストおよびサポートに努めています。Chrome の設定に関する推奨事項はありません。Chrome は、[Google ドキュメントを Salesforce に追加] ブラウザボタンまたは [コンソール] タブではサポートされていません (Salesforce コンソールはサポートされています)。

Mac OS X での Apple® Safari® バージョン 5.x および 6.x

Safari の設定に関する推奨事項はありません。iOS の Apple Safari は、Salesforce フルサイトではサポートされていません。

- Safari は、Salesforce コンソールではサポートされていません。
- Safari は、バージョン 4.0 より前の CTI Toolkit を使用して作成された Salesforce CRM Call Center ではサポートされていません。
- Safari は、Salesforce Analytics Cloud ではサポートされていません。

すべてのブラウザに関する推奨事項と要件

- すべてのブラウザに対して、JavaScript、Cookie、TLS 1.0 を有効にする必要があります。
- Salesforce では、ユーザの操作性を最大限に高めるために、少なくとも 1024x768 の画面解像度を使用することをお勧めします。画面解像度が 1024x768 未満である場合、レポートビルダーやページレイアウトエディタなどの Salesforce 機能が表示されない可能性があります。
- Apple Safari または Google Chrome を使用している Mac OS ユーザは、システム設定の [スクロールバーを表示] が [常に] に設定されていることを確認してください。
- 一部のサードパーティ Web ブラウザプラグインと拡張は、Chatter の機能に干渉する可能性があります。Chatter が正常に機能しなかったり、整合性のない動作をする場合は、すべての Web ブラウザのプラグインと拡張を無効にしてから、もう一度試してみてください。

Salesforce の特定の機能には、一部のデスクトップクライアント、ツールキット、およびアダプタと同様に、独自のブラウザ要件があります。次に例を示します。

- Internet Explorer は、次の機能を唯一サポートしているブラウザです。
 - 標準差し込み印刷
 - Windows Mobile デバイスへの Salesforce Classic のインストール
 - Connect Offline
- 高度なページレイアウトエディタには、Firefox をお勧めします。
- Salesforce コンソールには、8 GB の RAM が搭載されたマシンで Chrome を使用することをお勧めします。
- Chatter で複数のファイルをアップロードする場合には、ブラウザ要件も適用されます。

停止されたサポートまたは制限付きのブラウザサポート

Summer '12 の時点で、Salesforce は Microsoft Internet Explorer 6 に対するサポートを停止しました。このブラウザで以前に機能していた既存の機能は、2014年まで継続して動作する予定です。次のサポート制限があります。

- Internet Explorer 6 は、以下ではサポートされていません。
 - アンサー
 - Chatter
 - Chatter アンサー
 - Cloud Scheduler
 - 拡張されたダッシュボードグラフオプション
 - 拡張プロファイルユーザインターフェース
 - 売上予測
 - グローバル検索
 - 結合レポート
 - Live Agent
 - 見積テンプレートエディタ
 - Salesforce コンソール
 - Salesforce ナレッジ

- スキーマビルダー
- Site.com
- エンタープライズテリトリー管理
- 新しいユーザインターフェースのテーマ

Internet Explorer 7 は、Site.com および Chatter Messenger ではサポートされていません。

迅速で関連性の高い検索結果の取得 (正式リリース)

検索エンジンが更新され、Salesforce 全体で迅速かつスマートな検索を行い、より関連性の高い結果を得られるようになりました。

Winter '15 リリースでは、新しい検索インフラストラクチャを使用して Salesforce ナレッジ記事検索が更新されました。Spring '15 では、この検索インフラストラクチャが、グローバル検索、サイドバー検索、高度な検索を含むすべての検索ユーティリティに拡張されます。この拡張機能は、以前はパイロットプログラムでのみ使用可能でした。

これらの改善点および新しい検索機能は、Spring '15 リリース期間中にローリング方式でリリースされます。

インデックス化速度の向上

レコードの作成または更新後に短時間でレコードを検索できるようになりました。

トークン化の改善

新しい検索インフラストラクチャの重要な機能強化は、バイグラムトークン化から形態的トークン化への変更です。ユーザが検索すると、インデックスのトークンと一致する検索文字列のトークンに基づいて検索エンジンから結果が返されます。トークン化が改善されて、コンテンツがより適切にインデックス化されるようになり、検索結果の不適切な一致が少なくなりました。

! **重要:** CJKT 言語を使用する場合は、Sandbox 環境でビジネスシナリオを実行し、SOSL に依存するインテグレーションをテストして、アップグレード後も引き続き期待どおり動作することを確認することをお勧めします。

形態的トークン化により、中国語、日本語、韓国語、タイ語(CJKT)などの単語間にスペースのない東アジア言語の検索で、正確な検索結果が得られるようになりました。以前の検索エンジンでは、文字列をインデックス化するとき、バイグラムトークン化を適用して、文字列をバイグラムと呼ばれる文字のペアに分割していました。

たとえば、Spring '15 より前のリリースでは、日本語の「京都」(Kyoto)を検索したときに、検索結果に誤って「東京都」(Tokyo Prefecture)が含まれることがありました。

バイグラムを使用した場合は、「東京都」(TokyoPrefecture)が次の2つのバイグラムにトークン化されます。

東京	京都	
----	----	--

形態的トークン化では、同じ語句が次の2つのトークンに適切に分割されます。

東京	都
----	---

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

このコンテキストでは、どちらのトークンも正しく意味を持ち、「京都」(Kyoto)はトークン化されません。今回のリリースでは、「京都」(Kyoto)を検索したときに、「京都」(Kyoto)が含まれる結果のみが返され、「東京都」(Tokyo Prefecture)が含まれなくなりました。

日本語のユーザが中国語としてトークン化されたレコードをクエリする場合の制限

レコードに 300 以上の文字があり、カタカナやひらがなは含まれず、漢字のみが含まれている場合、コンテンツは中国語としてトークン化されます。そのため、日本語のユーザがこのレコードを検索すると、検索結果から除外される可能性があります。漢字のみが含まれる 300 文字未満のレコードは、中国語と日本語でトークン化されます。

英数字検索の改善

句読点の処理の効率化により、URL、メールアドレス、および電話番号などの特別な文字列を検索するときの検索結果が改善されました。先頭と末尾の特定の句読点の記号(<>[]{}()!.,;:"')が、トークン化された文字列に囲まれている場合は削除されるようになりました。たとえば、「(415)」は、「415」としてトークン化されます。インデックス化されたコンテンツやユーザの検索からこうした記号を削除するため、ユーザが電話番号を検索している場合などに、検索エンジンで容易に認識できるようになります。

以前は、ユーザが日本語の「きっと、来る」を検索する場合、この文字列に句読点が含まれているため、「きっと来る」の検索結果からは除外されていました。現在では、この検索結果が一致するようになりました。

文字と数字の両方を含む語は、別のトークンに分割されます。たとえば、「web2lead」は、「web」、「2」、「lead」というトークンに分割されます。「web」の検索では「web2lead」を含む用語が一致しますが、「web2lead」の検索では完全な「web2lead」を含む用語のみが返されます。

以前は、「web2lead」を検索すると、データ内の別々の場所にある場合でも、「web」、「2」、「lead」と一致していました。

さらに、完全一致検索を行う場合、特殊文字は検索語の一部とみなされるため、目的のレコードをより効率的に検索するのに役立ちます。たとえば、「"100!%"という語を検索した場合、「100!%」のみが一致します。「100%」という用語は一致しません。

Spring '15 より前のリリースでは、「"100!%"を検索した場合に、「100」または「100%」が一致していました。

検索語の先頭または末尾にある AND NOT 演算子の制限

AND NOT 演算子を最も効果的に使用するため、AND NOT 演算子の前後に単語を含まない検索では、「and」および「not」という語は検索語として処理されます。たとえば、「AND NOT apples」を検索すると「apples」を含む用語が返されますが、「oranges AND NOT apples」を検索すると「apples」を含む用語は返されません。

新しい検索インフラストラクチャでの検索についての詳細は、Salesforce ヘルプの「検索処理」を参照してください。

重複のアラートとブロック (正式リリース)

Data.com 重複管理を使用して、データをクリーンかつ正確に維持できるようになりました。Salesforce 内の重複レコードの作成、重複レコードを識別するために使用されるロジックのカスタマイズ、保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成をユーザに許可するか否かとそのタイミングを制御します。

 **メモ:** 重複管理では Data.com テクノロジーを使用していますが、Data.com ライセンスは必要ありません。

Data.com 重複管理の動作と設定手順についての詳細は、[重複管理\(正式リリース\)](#) (ページ 132)を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Lead Edit
Help for this Page ?

Save (Ignore Alert) Save & New (Ignore Alert) Cancel

8 Possible Duplicate Records Found
 You're creating a duplicate record. We recommend you use an existing record instead.

Leads

Name	Street	Phone	Zip/Postal Code	Email	Company	City	Title	Last Modified By	Last Modified Date
marc benioff	1 market street	(800) 555-5555		mbenioff@salesforce.com	salesforce.com, Inc	San Francisco		Madison Rigsby	10/3/2014 2:47 PM
m benioff	1 market street	(800) 555-1234		mbenioff@salesforce.com	salesforce.com, Inc	San Francisco		Madison Rigsby	10/3/2014 2:48 PM
marc benioff	1 market street	(800) 555-5555		marc.benioff@salesforce.com	salesforce.com, Inc	San Francisco		Madison Rigsby	10/3/2014 2:51 PM
marc benioff	1 market street	(800) 555-5555		marc.benioff@salesforce.com	salesforce.com, Inc	San Francisco		Madison Rigsby	10/10/2014 3:37 PM
marc benioff	100 market street	(800) 555-5555		m.benioff@salesforce.com	salesforce.com, Inc	San Francisco		Madison Rigsby	10/17/2014 1:12 PM

[Show All >>](#)

Contacts

Name	Phone	Mailing City	Account Name	Email	Mailing Street	Mailing Zip/Postal Code	Title	Last Modified By	Last Modified Date
marc Benioff	(800) 555-5555	San Francisco	Salesforce.com, Inc	mbenioff@salesforce.com	1 Market Street			Madison Rigsby	10/17/2014 10:27 AM
Mike Benioff		San Francisco	Salesforce.com, Inc	mbenioff@salesforce.com	1 Market Street			Madison Rigsby	10/17/2014 10:28 AM

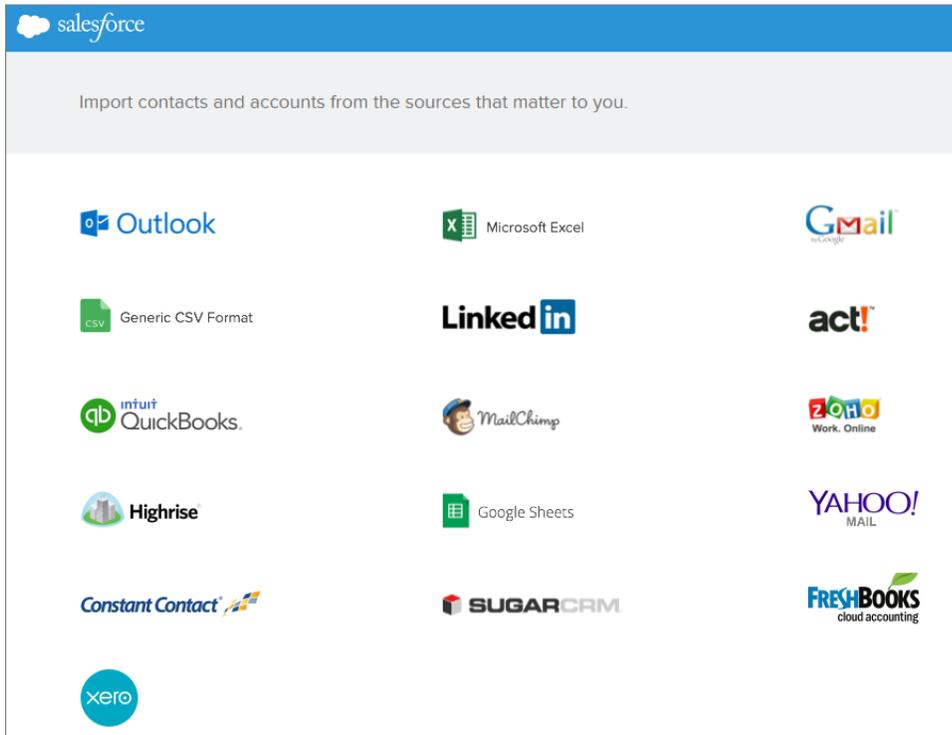
Lead Information ! = Required Information

Lead Owner	Madison Rigsby	Lead Status	Open
First Name	--None-- <input type="text" value="marc"/>	Phone	<input type="text" value="(800) 555-5555"/>
Last Name	<input type="text" value="benioff"/>	Email	<input type="text" value="mbenioff@salesforce.com"/>
Company	<input type="text" value="salesforce.com"/>	Rating	--None--
Title	<input type="text"/>		

取引先と取引先責任者の簡便なインポート

2014年12月17日以降にリリースされた新規組織およびトライアル組織で使用でき、他のすべての組織でもまもなく使用可能になる機能で、一般的なデータソースから取引先と取引先責任者を選択し、Salesforce にすばやく簡単に取り込みます。

[私の取引先と取引先責任者のインポート]ウィザードが刷新され、ユーザにとって重要なデータソースから取引先や取引先責任を今までよりも簡単にSalesforceに取り込めるようになりました。新しいSalesforce組織がある場合、Salesforceの[取引先]タブや[取引先責任者]タブからウィザードを利用できます。また、[あなたの名前]>[私の設定]>[インポート]>[取引先と取引先責任者をインポート]をクリックするだけで、インポートウィザードを開始できます。データは下記のソースから選択します。



インポートジョブの途中でも、他のソースから別のインポートを自由に開始できます。あるいは、インポートウィンドウを閉じて他の作業を行います。プロセスが終了すると、インポートジョブごとにメールが送信されます。

データの準備と処理

インポートジョブを開始する前に、ソースの取引先と取引先責任者のデータが適切なものであることを確認します。不適切な場合、開始早々 Salesforce に誤ったデータや重複するデータが取り込まれることになります。

インポートウィザードに従って、インポート元のデータソースやファイルを選択します。ソースのデータに Salesforce に適合しないものがある場合は、データソースの項目をいくつか対応付け、こうした項目のデータが Salesforce の適切な項目にインポートされるようにします。たとえば、データソースには「事務所のメール」という項目があったけれども、Salesforce では「メール」という項目に対応付けることができます。

一定のお気に入りのソースからの取引先と取引先責任者のインポート

使用可能なデータソースの詳細について具体的に説明します。

対象	操作方法	知っておくべき詳細
Gmail™	Gmail に直接接続	Gmail と Salesforce 間の接続を確立すると、インポートウィザードで取引先と取引先責任者がインポートされます。項目を対応付ける必要はありません。すばやく簡単に行えます。

対象	操作方法	知っておくべき詳細
<ul style="list-style-type: none"> LinkedIn® プロフェッショナルネットワークサービス Act!™ Outlook® 	カンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成	インポートウィザードがこれらのデータソースの項目を Salesforce に自動的に対応付け、インポートプロセスを簡略化します。
使用可能な他のすべてのデータソース	CSV ファイルを作成	対応付け可能な項目はインポートウィザードが対応付けますが、対応付けできない項目はユーザが対応付ける必要があります。

人オブジェクトのミドルネームおよび肩書き項目 (正式リリース)

人オブジェクトに [ミドルネーム] および [肩書き] 項目を追加すると、レコードに関連付けられた人の名前を適切に表すことができます。これらの項目を使用すると、2つのレコードの名と姓が同じ場合でも混乱を避けることもできます。

Spring '14 では、ミドルネームおよび肩書き項目がベータ機能として追加されました。Spring '15 では、この機能が拡張され、すべてのユーザが使用できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

このセクションの内容:

ミドルネームおよび肩書き項目の有効化

[ミドルネーム] および [肩書き] 項目は、取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザの人オブジェクトで使用できます。これらの項目を使用するには、次の操作を実行する必要があります。

ミドルネームおよび肩書きの制限事項

これらの項目について把握しておく必要がある制限事項がいくつかあります。

ミドルネームおよび肩書き項目の有効化

[ミドルネーム] および [肩書き] 項目は、取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザの人オブジェクトで使用できます。これらの項目を使用するには、次の操作を実行する必要があります。

重要: ミドルネームおよび肩書きを参照項目で検索できるようにするには、拡張ルックアップを有効化する必要もあります。

- Salesforce カスタマーサポートに問い合わせ、新しい項目を有効化します。
- [設定] > [カスタマイズ] > [ユーザインターフェース] をクリックします
- [名前設定] セクションで、[人名のミドルネームを有効にする] および [人名の肩書きを有効にする] を選択します。
- [保存] をクリックします。

ユーザ権限

[ミドルネーム] および [肩書き] 項目を表示する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ミドルネームおよび肩書きの制限事項

これらの項目について把握しておく必要がある制限事項がいくつかあります。

- 次の例外を除き、取引先責任者、リード、個人取引先の氏名が表示される大部分の場所に [ミドルネーム] および [肩書き] 項目の値が表示されます。
 - キャンペーン (キャンペーンメンバーリストを含む)
 - Data.com レコード
- ミドルネームおよび肩書きは、ユーザの氏名を表示する場合には使用されません。たとえば、レコードを最後に編集したユーザには、名または姓のみが表示されます。
- ミドルネームおよび肩書きは、拡張ルックアップが有効になっている場合にのみ参照項目で検索できます。

送信メールの DKIM 署名

DKIM (DomainKeys Identified Mail) 鍵機能を使用して、Salesforce が組織に代わって送信されるメールに署名できるようにします。有効な署名によって、受信者は、組織が承認する方法で Salesforce などのサードパーティによってメールが処理されたことを確信できます。

DKIM 鍵を作成するときに、Salesforce で公開鍵と非公開鍵のペアが生成されます。公開鍵は DNS に公開して、ドメインの所有者がこの鍵を使用したメールの署名を承認していることを受信者に知らせる必要があります。Salesforce は秘密鍵を使用して、送信メールに DKIM 署名ヘッダーを作成します。メールの受信者は、署名ヘッダーと DNS の公開鍵を比較して、メールが承認された鍵を使用して署名されたかどうかを判断します。ドメインで DMARC (Domain-based Message Authentication, Reporting & Conformance) ポリシーも公開されている場合は、受信者が DKIM 署名を使用して、メールが DMARC に準拠していることを確認できます。

EmailDomainKey オブジェクトは次の項目で構成されます。

- Domain — DKIM 鍵を生成する組織のドメイン名。
- DomainMatch — この DKIM 鍵で署名する前に送信ドメイン名に必要な一致の具体性。有効な値は、次のとおりです。
 - DomainOnly
 - SubdomainsOnly
 - DomainAndSubdomains
- IsActive — DKIM 鍵が有効か (true)、否か (false)。
- PrivateKey — ドメインからのメールヘッダーの暗号化に使用される、DKIM 鍵のペアの非公開部分。DKIM 鍵の作成時に値を指定しない場合、暗号化された PrivateKey が Salesforce によって生成されます。値を指定する場合は、別の EmailDomainKey オブジェクトにすでに存在する有効な PrivateKey を指定する必要があります。

この項目には実際の非公開鍵は含まれず、システム内の鍵を表す値が含まれます。したがって、次の影響があります。

- 実際の非公開鍵が漏洩することはありません。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

DKIM 鍵を管理する

- アプリケーションのカスタマイズ

- 独自のメール署名を行う値は使用できません。
- `PublicKey` — メール受信者が DKIM ヘッダーを復号化してドメインを検証するために取得する、ドメイン鍵のペアの公開部分。このドメイン鍵での署名を開始する前に、`PublicKey` の値をドメインの DNS レコードに追加します。この値を追加しない場合、メール受信者がメールを拒否することがあります。
- `Selector` — DKIM 鍵を組織が指定したドメインに使用する他の DKIM 鍵と区別するために使用するテキスト。

各ドメイン鍵は、次の順序で作成することをお勧めします。

1. `Domain`、`DomainMatch`、および `Selector` を挿入します。
2. ドメインの DNS レコードを更新します。
 - a. `selector._domainkey.domain` で DNS レコードを見つけます。たとえば、`mail._domainkey.mail.example.com` です。
 - b. `PublicKey` の値を次のように追加します: `V=DKIM1; p=public_key`

送信メールの DKIM 署名

- a. さらに、必要に応じてレコードをテストモードにし、メールの署名に基づいて決定しないことを受信者に指示できます。DNS エントリにパラメータ `t=y` を追加して、`V=DKIM1; t=y; p=public_key` のようにします。
3. API または UI を使用して鍵を更新し有効にします。

ドメイン鍵を使用するときは、次の点に留意してください。

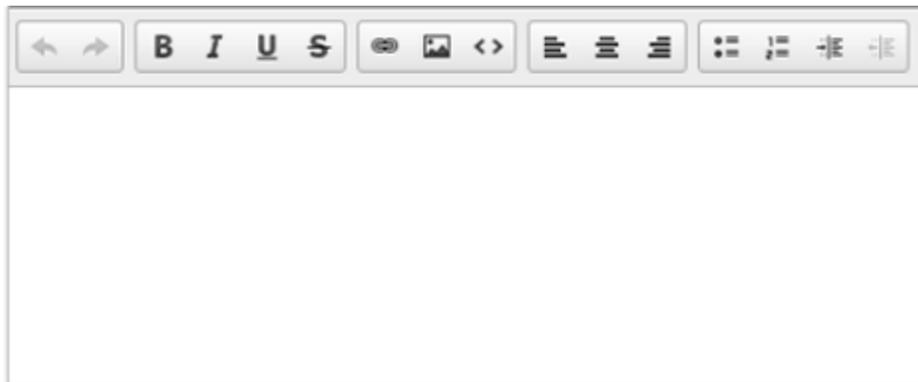
- Salesforce で鍵を有効にする前に、公開鍵を DNS レコードに追加していることを確認して、DKIM 署名を開始します。DKIM 署名は、DKIM 鍵が有効な状態のときは常に有効です。
- 1つのドメイン名に有効な DKIM 鍵を複数使用することはできません。組織が複数のドメインからメールを送信する場合、または組織ドメインのサブドメインを使用していて、サブドメインレベルでドメインの一致を指定した場合は、有効な DKIM 鍵が複数存在する可能性があります。
- 複数の組織で同じ DKIM 鍵を使用することも可能です。鍵を作成して、最初に1つの組織でその鍵が機能することを確認します。次に、API または UI を使用して、他の組織で鍵を作成します。このときに、新しい鍵の対応する項目に元の鍵と同じ値を設定します。
- DKIM 鍵を挿入または更新したときに、既存のドメイン鍵が変更の影響を受ける可能性があります。たとえば、`example.com` ドメインの `DomainMatch` を `DomainAndSubdomains` に設定し、`mail.example.com` ドメインの `DomainMatch` を `SubdomainsOnly` に設定した場合、どちらの鍵も使用可能になってしまう場合があります。DKIM 鍵が重複する場合に競合を解決する方法を次に示します。
 - 同一ドメインの2つの鍵で一致に関する具体性が等しい場合、新しい鍵が既存の鍵に置き換えられ、既存の鍵は無効化されます。
 - 新しい鍵の一致に関する具体性が既存の鍵よりも高い場合は、新しい鍵が使用され、既存の鍵は無効に変更されます。
 - 複数の鍵に送信ドメインに一致する異なるドメインがある場合、ドメイン名が最も長い鍵が使用されます。長さが同じ場合は、最も具体的な鍵が使用されます。たとえば、`DomainOnly` と `SubdomainsOnly` は `DomainAndSubdomains` よりも具体的であるため、新しい `DomainOnly` 鍵によって既存の `DomainAndSubdomains` 鍵の `DomainMatch` は `SubdomainsOnly` に変更されます。長さが同じ場合は、最も具体的な鍵が使用されます。

さらに合理化されたリッチテキストエディタの外観

リッチテキストエディタはHTMLエディタとも呼ばれ、ほとんどのリッチテキストエリア項目で使用できますが、新しい外観、パフォーマンスの向上、バグ修正、貼り付けたデータのスタイル設定の改善、貼り付けた画像の処理の改善、新しいブラウザとの互換性の向上が行われました。更新されたエディタは、レコードなどのリッチテキストエリアカスタム項目でも使用できます。

リッチテキストエディタにより、ユーザはリッチテキスト項目や、ナレッジ記事エディタなどのツール、Chatter アンサーの質問、およびケースフィードメールアクションのテキストをすばやく容易に書式設定できます。

更新されたエディタは次のようになります。



更新されたリッチテキストエディタは、以前と同じ機能を備えています。

Microsoft® Internet Explorer® 6 および 7 では、互換性のために、すべてのリッチテキストエリア項目で前のバージョンのエディタが引き続き使用されます。

分析: Analytics Cloud、Wave の概要

Salesforce Analytics Cloud は、あらゆるユーザ向けに設計されています。ビジネスユーザ、アナリスト、開発者のいずれでも、Analytics Cloud を使用して、データにアクセスしたり、質問への回答を得たり、すぐにアクションを実行したりすることができます。こうして誰もが強力な洞察にアクセスし、データにストーリーを語らせることができるようになりました。つまり、これは専門家でなくとも使用できるビジネスインテリジェンスです。

あらゆるデータを取り込む

データは、Salesforce、データウェアハウス、CRM および ERP システム、ログファイル、CSV ファイルなど、あらゆる場所に存在します。Analytics Cloud は、Salesforce データやその他のデータソースとシンプルかつシームレスに統合されます。

データにストーリーを語らせる

価値ある洞察はすでにデータの中にあります。それを見つけるだけでよいのです。リッチな対話型の視覚化インターフェースを使用して探索や質問を行うことで、思いもよらない答えを見つけることができます。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

発見を通じてアクションを促進する

分析の目標はアクションにあります。ダッシュボード、Chatter、およびiOSモバイルアプリケーションを使用して、チームや組織内で判明事項を簡単に共有してコラボレーションできます。

迅速に行動し、コントロールを維持する

Salesforce 分析は、クラウドに対してネイティブであり、Wave プラットフォーム上に構築されています。従来のビジネスインテリジェンス実装の数分の1の時間でカスタム分析アプリケーションを設計してユーザーにリリースできると同時に、最高レベルのセキュリティと容易なシステム管理も提供されます。



このセクションの内容:

データ内の値の検索

すべてのユーザーが対話型の視覚化インターフェースを通じてデータを操作できるようになりました。Salesforce 分析は、すばやく答えを返してユーザーの好奇心を満たします。データの種類や組み合わせに関係なく、興味深く強力な探索を容易に実行できます。

Salesforce Analytics for iOS で場所を問わずにデータを探索

洞察をデスクトップ以外でも利用できるようになりました。モバイルファーストの Analytics Cloud では、モバイルデバイスからあらゆる種別のデータを探索できます。たとえば、当四半期の顧客のケースを調べたり、売上目標の達成状況を追跡したり、学んだことをすぐにチームと共有したりできます。どこにいても、同僚とコラボレーションや洞察の共有ができ、顧客への理解がこれまで以上に深まります。

Web ブラウザでのリッチなデータ視覚化

ダッシュボードは、互いにやりとりするレンズのコレクションです。いずれかにドリルインして、それ以外が変化するのを確認すると、自分の質問の全体像を把握できます。視覚化されたデータを参照するだけでなく、ダッシュボードの各ツールを使用して関心のあるデータを深く掘り下げてみましょう。さまざまな場所をクリックして探索してみてください。

強力な視覚化ツールを使用したデータの探索

データの境界と全体像を把握しましょう。エクスプローラの対話型視覚化ツールを使用して、さまざまなビューを試したり、ズームイン/アウトしたり、多様なグラフオプションでどのような情報が得られるかを確認したりできます。

SAQL を使用した強力なクエリの作成 (パイロット)

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) を使用して、探しているデータをレンズが的確に返すようにすることができます。SAQL は、データセットに保存されているデータのアドホック分析を可能にするリアルタイムのクエリ言語です。

ダッシュボードによるユーザの自己解決の支援

ダッシュボードは、データに関して具体的な焦点を絞ったストーリーを伝え、ユーザがそこから学び、アクションを実行できるようにする手段です。ダッシュボードを使用すると、チームメンバーはどこにいてもデータに関してディスカッションやコラボレーションを活発に行うことができます。Analytics Cloud データをダッシュボード経由で共有することで、データセット全体を解放せずにエンドユーザ自身が探索を実行できるようになります。

あらゆる場所からデータを統合

ビジネスのデータは、ウェアハウス、スプレッドシート、ログ、Salesforce など、あらゆる場所にあります。Analytics Cloud では、どのソースからのデータでも簡単に統合できます。これには、SAP や Oracle のデータ、モバイルアプリケーションデータ、製品のセンサーデータなどの外部データも含まれます。

分析の迅速な設定と稼働

設定は使い慣れた簡単な操作で行うことができます。Analytics Cloud は、[設定] メニューから有効化できます。アクセス制御とセキュリティは、他の Salesforce 製品の場合とまったく同じように有効化、設定、および確立できます。

関連トピック:

[Analytics Cloud 機能が使用可能になる方法と状況](#)

データ内の値の検索

すべてのユーザが対話型の視覚化インターフェースを通じてデータを操作できるようになりました。Salesforce 分析は、すばやく答えを返してユーザの好奇心を満たします。データの種類や組み合わせに関係なく、興味深く強力な探索を容易に実行できます。

Analytics Cloud では、高速で柔軟な方法でデータをドリルスルーして、説得力のある洞察を発見したら、適切に視覚化して共有することでデータのストーリーを伝えることができます。データセット、レンズ、ダッシュボード、およびアプリケーションは、ソースシステムでアップロードされた未加工データから、厳選されパッケージ化されたデータビューに至るまで、それぞれ異なるレベルで絞り込まれたデータのコレクションです。

- データセットは、対話型の探索ができるように特別に形式が設定され、最適化されたソースデータのセットです。データセットは、Salesforce データ、外部データ、または組み合わせ(取引先データと商品利用状況データのマッシュアップなど)にすることができます。
- レンズは、データセットの特定のビューです。探索は、レンズから対話型の視覚化インターフェースを使用して実行します。視覚化は、一般的に棒グラフ、ドーナツグラフ、時系列図、ヒートマップなどのチャートやグラフを使用します。比較表やピボットテーブルなど、表形式のデータにすることもできます。どの

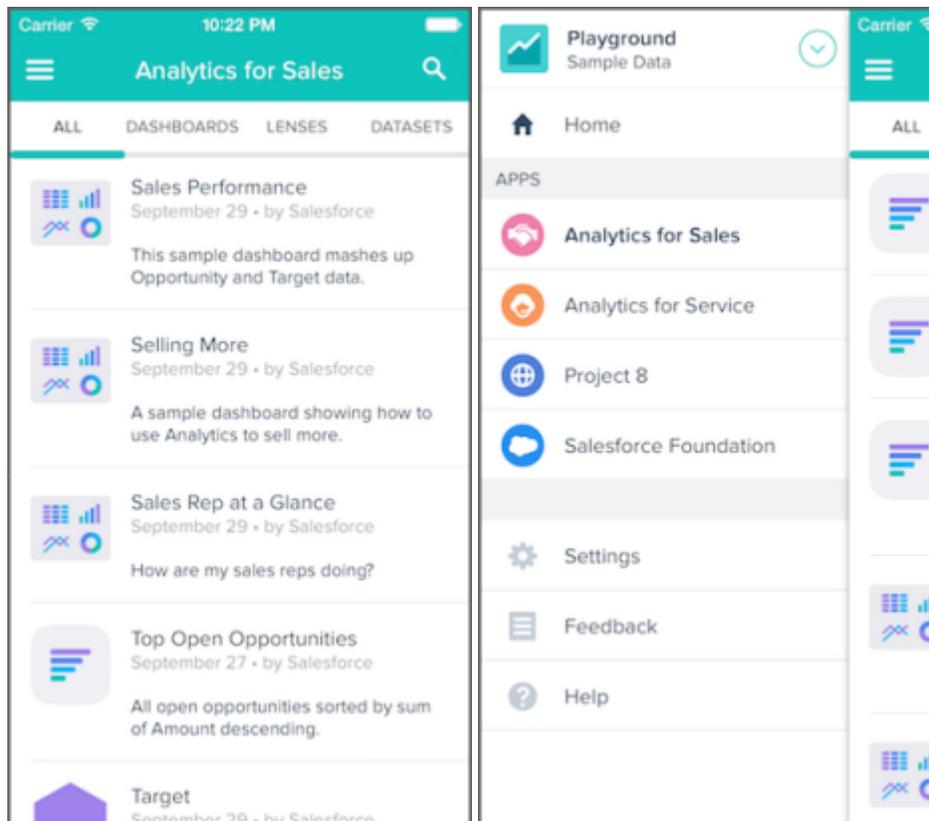
視覚化にも基礎となるクエリがあり、Analytics Cloud はこれらのクエリを使用してソースデータから情報を取得します。

- ダッシュボードは、1つ以上のレンズでデータに基づいて選ばれたグラフ、総計値、テーブルのセットです。ダッシュボードは対話型です。グラフ、ボタン、およびその他の要素をタップして動的にデータを絞り込んでドリルインできます。
- アプリケーションには、ダッシュボード、レンズ、およびデータセットが、データ分析を同僚と共有するために妥当な任意の組み合わせで含まれます。Analytics Cloud アプリケーションでは、フォルダのように、ユーザが独自のデータプロジェクト (非公開と共有の両方) を整理して共有を制御できます。

Salesforce Analytics for iOS で場所を問わずにデータを探索

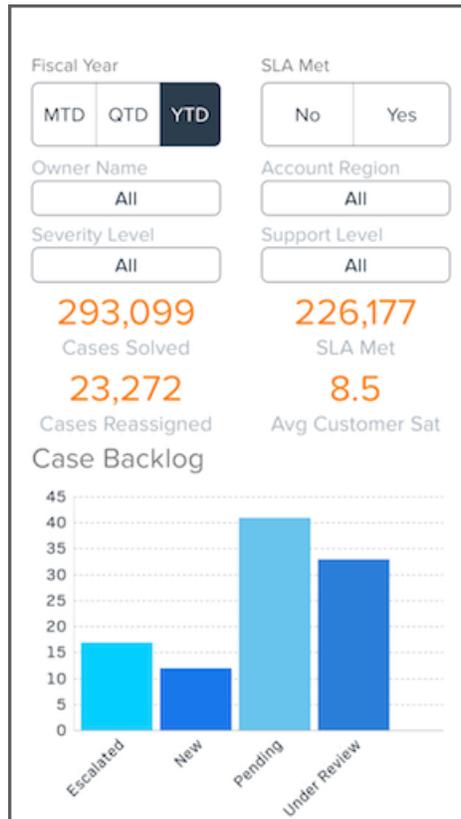
洞察をデスクトップ以外でも利用できるようになりました。モバイルファーストのAnalytics Cloudでは、モバイルデバイスからあらゆる種別のデータを探索できます。たとえば、当四半期の顧客のケースを調べたり、売上目標の達成状況を追跡したり、学んだことをすぐにチームと共有したりできます。どこにいても、同僚とコラボレーションや洞察の共有ができ、顧客への理解がこれまで以上に深まります。

電話ですべてにアクセス



1、2回タップするだけで、アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、およびデータセットのコレクション全体にアクセスできます。ラップトップを持ち歩かなくても、電話ですべてを操作できます。

ダッシュボードおよびレンズの操作



ダッシュボードやレンズは静的ではありません。自由にタップしてみてください。データがリアルタイムで更新されているのがわかります。検索条件を適用して特定のデータポイントにドリルインし、詳細を調べることができます (たとえば、エスカレーションされたケースの理由など)。

判明事項をチームと共有



判明事項をチームと共有する準備ができれば、テキストの追加、図の作成、重要なデータポイントの強調表示などを行って視覚化にアノテーションを付けることができます。

すぐにダウンロード

Salesforce Analytics for iOS は App Store からダウンロードできます。Analytics for iOS は、iOS 7 以降を実行する Apple iPhone 4 以降のモデルで使用できます。



関連トピック:

<http://tiny.cc/analyticshelpRN>

Web ブラウザでのリッチなデータ視覚化

ダッシュボードは、互いにやりとりするレンズのコレクションです。いずれかにドリルインして、それ以外が変化するのを確認すると、自分の質問の全体像を把握できます。視覚化されたデータを参照するだけでなく、ダッシュボードの各ツールを使用して関心のあるデータを深く掘り下げてみましょう。さまざまな場所をクリックして探索してみてください。



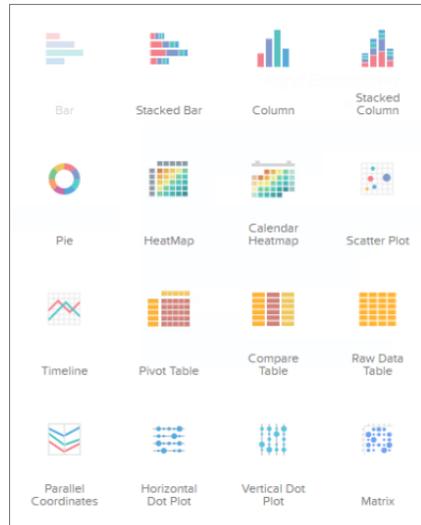
Salesforce 分析ダッシュボードを対話型で参照するには、表示されているウィジェットをクリックします。どのウィジェットにも、検索条件が設定されたライブデータベースクエリがあります。

- セレクタは、関心のある特定の値への絞り込みを可能にするドロップダウンリストです。セレクタは多くの場合、順序に従って互いに関連付けられているため、徐々に深くへとドリルダウンできます。
- 多種多様なグラフには、複数の観点からのデータが表示されます。グラフの多くの部分是对話型です。たとえば、棒グラフの棒をクリックしてどうなるか見てみましょう。
- 情報には、単一の数値で表すのが最も適しているものがあります。また一部の数値ウィジェットは、グラフやセレクタに対して実行した検索条件アクションによる影響を受けることがあります。
- 範囲ウィジェットは、ダッシュボード上の他のウィジェットを絞り込むためのコントローラです。この例では、最大スライダと最小スライダを設定して、ダッシュボードに特定範囲内の金額のみを表示します。

強力な視覚化ツールを使用したデータの探索

データの境界と全体像を把握しましょう。エクスプローラの対話型視覚化ツールを使用して、さまざまなビューを試したり、ズームイン/アウトしたり、多様なグラフオプションでどのような情報が得られるかを確認したりできます。

リッチでカラフルな視覚化インターフェースが揃っているため、どのデータビューが最も説得力のあるストーリーを伝えるかを確認できます。

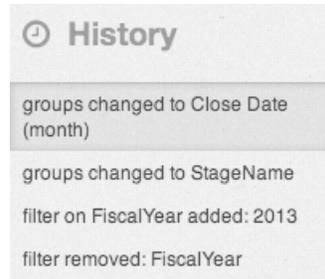


Analytics Cloud の視覚化はすべて、少なくとも1つの測定に基づいています。測定には、数値で表現されるものを使用されます。測定は通常、何らかの方法で集計されます。たとえば、2つの測定を横に並べてグラフ化し、両方に収益金額の合計と予想収益の平均を表示することができます。測定には、データセットを探索するときの視覚化の種類と範囲を定義します。



視覚化の多くには、測定に加えて次元も含まれます。次元は、会社名、地域、商品など、数値で表現できない定性的な要素です。次元は、フェーズ名別の収益値を表示する場合など、扱いやすいカテゴリにデータをグループ化するとき便利です。視覚化から不要なデータを除外する場合や、グラフを整理して最も関連性のある内容に焦点を絞る場合にも便利です。

データを探索していくと、多くのパスにつながる場合があります。すべてのパスが有益であるとは限りませんが、それでも問題ありません。エクスプローラは、レンズにユーザのアクティビティの全履歴を保持しています。レンズを不適切な方法で変更した場合は、履歴を使用してすぐに以前の状態の視覚化まで戻すことができます。



Analytics Cloud ユーザと視覚化を共有できます。

- 固有の URL 経由で特定のダッシュボード、レンズ、アプリケーションへのアクセス権を同僚に付与できます。
- アプリケーション自体をユーザ、グループ、またはロールと共有できます。
- ダッシュボード、レンズ、またはアプリケーションへのリンクを Chatter に投稿できます。
- 視覚化を画像ファイルとして保存できます。

関連トピック:

https://na1.salesforce.com/help/pdfs/en/bi_user_guide_explore_share.pdf

SAQL を使用した強力なクエリの作成 (パイロット)

Salesforce Analytics Query Language (SAQL) を使用して、探しているデータをレンズが的確に返すようにすることができます。SAQL は、データセットに保存されているデータのアドホック分析を可能にするリアルタイムのクエリ言語です。

SAQL は複合的です。各ステートメントに結果があり、ステートメントをまとめてチェーニングできます。Analytics Cloud は、レンズ、ダッシュボード、およびエクスプローラのバックグラウンドで SAQL を使用して視覚化のためのデータを収集します。

- ☑ **メモ:** SAQL は現在、パイロットプログラムで使用できます。プレスリリースや公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

関連トピック:

http://www.salesforce.com/us/developer/docs/bi_dev_guide_eql/bi_dev_guide_eql.pdf

ダッシュボードによるユーザの自己解決の支援

ダッシュボードは、データに関して具体的な焦点を絞ったストーリーを伝え、ユーザがそこから学び、アクションを実行できるようにする手段です。ダッシュボードを使用すると、チームメンバーはどこにいてもデータに関してディスカッションやコラボレーションを活発に行うことができます。Analytics Cloud データをダッシュボード経由で共有することで、データセット全体を解放せずにエンドユーザ自身が探索を実行できるようになります。

ダッシュボードは、1つ以上のレンズでデータに基づいて選ばれたグラフ、総計値、および表で構成されます。グラフをダッシュボードにドロップし、フォームファクタに合わせてサイズを調整すると、電球が点灯します。

このセクションの内容:

ダッシュボードビルダーを使用した迅速なダッシュボードの作成

ダッシュボードビルダーは、特定の利用者にデータに関するストーリーを伝えるダッシュボードをすばやく簡単に作成するための視覚化インターフェースです。使用するデータはレンズで収集します。データの完全に同期されたライブビューが、ウィジェットと呼ばれるコンテナに表示されます。各ウィジェットは、連動してさまざまな角度からデータのストーリーを語るように設計する必要があります。

JSON によるダッシュボードデータの表現

ダッシュボードはビルダーで簡単に設計できますが、JSON を使用してもダッシュボード内のデータを直接操作できます。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/apex/HTViewHelpDoc?id=bi_dashboard_design.htm

ダッシュボードビルダーを使用した迅速なダッシュボードの作成

ダッシュボードビルダーは、特定の利用者にデータに関するストーリーを伝えるダッシュボードをすばやく簡単に作成するための視覚化インターフェースです。使用するデータはレンズで収集します。データの完全に同期されたライブビューが、ウィジェットと呼ばれるコンテナに表示されます。各ウィジェットは、連動してさまざまな角度からデータのストーリーを語るように設計する必要があります。

同じデータセットから作成された各ウィジェットには、デフォルトで facet が設定されます。つまり、1つのウィジェットを絞り込むと、関連するすべてのウィジェットが同じ方法で絞り込まれます。ウィジェットごとに facet を有効または無効にできます。

ウィジェットを使用してデータを標準的な方法 (折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、ドロップダウンセレクションリストなど) で表示できます。重要なのは、これらのグラフィックは単に情報を表示しているわけではないということです。各グラフはそれ自体がライブクエリであるため、ユーザは自由にドリルインしてより焦点を絞った知識を得ることができます。

JSON によるダッシュボードデータの表現

ダッシュボードはビルダーで簡単に設計できますが、JSON を使用してもダッシュボード内のデータを直接操作できます。

SAQL クエリの指定、クエリ制限の設定、値間の手動バインドの作成など、高度なダッシュボード機能をより詳細に制御するには、JSON を使用します。

関連トピック:

http://www.salesforce.com/us/developer/docs/bi_dev_guide_json/bi_dev_guide_json.pdf

あらゆる場所からデータを統合

ビジネスのデータは、ウェアハウス、スプレッドシート、ログ、Salesforce など、あらゆる場所にあります。Analytics Cloud では、どのソースからのデータでも簡単に統合できます。これには、SAP や Oracle のデータ、モバイルアプリケーションデータ、製品のセンサーデータなどの外部データも含まれます。

データはユーザがデータセットに統合します。データセットは、Analytics Cloud で対話型の探索ができるように特別に形式が設定され、最適化されたデータのコレクションです。データセットには、Salesforce データ、外部データ、または組み合わせを含めることができます。データセットを登録してユーザがその中にあるデータを探索できるようにすることができます。

このセクションの内容:

Salesforce データの統合

Salesforce データを探索する必要がある場合、データフローを使用すれば、データをデータセットに読み込むことができます。データフローは、Salesforce からデータを抽出してデータセットに読み込む方法を定義した、再利用可能な命令のセットです。

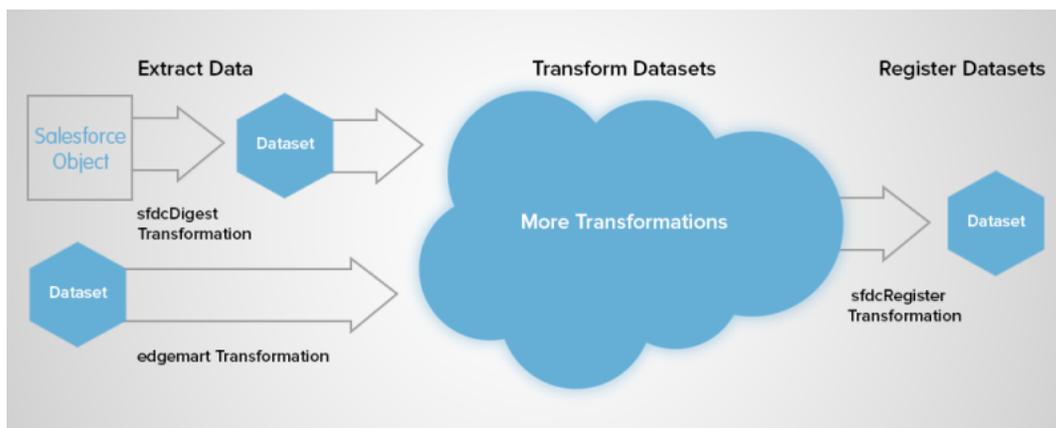
外部データの取り込み

Salesforce Analytics Cloud は、Salesforce 内だけでなく、どこからのデータでも処理できます。アプリケーションを使用して外部データをアップロードしたり、外部データ API を使用してより詳細に制御したりできます。

Salesforce データの統合

Salesforce データを探索する必要がある場合、データフローを使用すれば、データをデータセットに読み込むことができます。データフローは、Salesforce からデータを抽出してデータセットに読み込む方法を定義した、再利用可能な命令のセットです。

データフローを使用して、つながっていないデータを関連付けることもできます。依然としてスプレッドシートの情報で Salesforce データを補完していませんか? データフローを使用すれば、それら 2 つのソースを同じデータセット内でつなぐことができます。



データフローは変換もサポートしているため、データセットを作成、変換、および最適化してさまざまな種類の分析に使用できます。たとえば、2つの異なるデータセットを結合する、既存のデータセットをデータフ

ローに取り込む、データセットに対するセキュリティを設定する、データセットを登録してクエリで使用できるようにする、などが可能です。データフローが実行されると、Analytics Cloud は各変換を逐次実行します。データフローを設定したら、Analytics Cloud にアップロードし、実行してデータセットを作成します。



データフローは、データの同期を維持するために毎日実行されます。午前 10 時の会議に最新のダッシュボードデータを使えないのではないかと心配ですか? 安心してください。データフローを要望に応じて開始して、最新データを取得することもできます。

関連トピック:

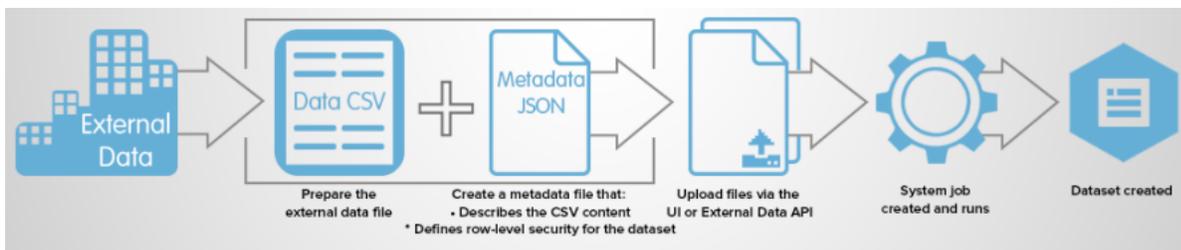
https://na1.salesforce.com/help/pdfs/en/bi_admin_guide_dataflow.pdf

外部データの取り込み

Salesforce Analytics Cloud は、Salesforce 内だけでなく、どこからのデータでも処理できます。アプリケーションを使用して外部データをアップロードしたり、外部データ API を使用してより詳細に制御したりできます。

Analytics Cloud には、新しい Salesforce sObject が追加され、プログラムによる外部データのアップロードが容易になりました。これらのオブジェクトを操作し、SOAP API、REST API、Apex など使い慣れた Salesforce API を使用してデータをアップロードできます。

API で外部データをアップロードするには、CSV 形式でデータを準備し、メタデータ JSON ファイルを作成してデータの構造を指定します。次に、InsightsExternalData オブジェクトにデータセットの名前、データの形式、データに対して実行する操作を設定します。InsightsExternalDataPart オブジェクトを使用してデータをアップロードします。その後は、状況の更新がないか InsightsExternalData オブジェクトを監視して、ファイルが正常にアップロードされたことを確認するだけです。



関連トピック:

http://www.salesforce.com/us/developer/docs/bi_dev_guide_ext_data/bi_dev_guide_ext_data.pdf

分析の迅速な設定と稼働

設定は使い慣れた簡単な操作で行うことができます。Analytics Cloud は、[設定] メニューから有効化できます。アクセス制御とセキュリティは、他の Salesforce 製品の場合とまったく同じように有効化、設定、および確立できます。

このセクションの内容:

Salesforce の強固なセキュリティによるデータへのアクセス制御

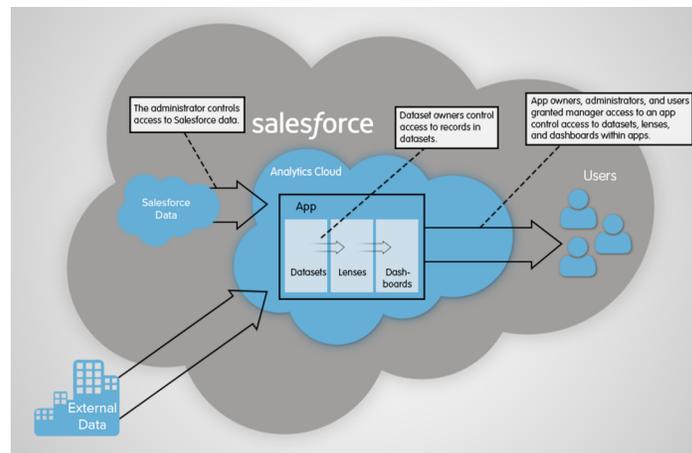
Analytics Cloud は、さまざまなソースから大量のデータを取り込み、エクスプローラとビルダーを介したクエリでそれを使用できるようにします。ただし、すべてのユーザにすべてのデータへのアクセスが必要とは限りません。Analytics Cloud では、適切なユーザが適切な情報にアクセスできるように、複数レベルのアクセス制御を実装できます。

Analytics Cloud の制限事項

Analytics Cloud は、他の Salesforce 機能とは異なる動作をする場合があります。

Salesforce の強固なセキュリティによるデータへのアクセス制御

Analytics Cloud は、さまざまなソースから大量のデータを取り込み、エクスプローラとビルダーを介したクエリでそれを使用できるようにします。ただし、すべてのユーザにすべてのデータへのアクセスが必要とは限りません。Analytics Cloud では、適切なユーザが適切な情報にアクセスできるように、複数レベルのアクセス制御を実装できます。



Salesforce データ

システム管理者は、Analytics Cloud でデータセットに読み込み可能な Salesforce データを制限できます。また、システム管理者は、ロール階層やその他のユーザ対データの対応付け手段を使用して、各データセット内の共有アクセス権も設定できます。Salesforce Analytics Cloud では、データセット内の項目レベルセキュリティは複製されませんが、システム管理者はさまざまな項目を持つ複数のデータセットを作成して、利用者によるその権限に基づいてアクセス権を付与できます。

データセット、レンズ、およびダッシュボード

アプリケーションへのマネージャアクセス権が付与されたアプリケーション所有者、システム管理者、およびユーザーによって、アプリケーション内のデータセット、レンズ、ダッシュボードへのアクセスが制御されます。データセット、レンズ、ダッシュボードを他のユーザーに対して非表示にするには、非公開アプリケーション内に保持します。全員と共有するには、それらを共有アプリケーションに追加します。

データセットレコード

データセット所有者は、作成した各データセットに行レベルセキュリティを実装し、そのレコードへのアクセスを制限できます。

関連トピック:

https://na1.salesforce.com/help/pdfs/en/bi_admin_guide_security.pdf

Analytics Cloud の制限事項

Analytics Cloud は、他の Salesforce 機能とは異なる動作をする場合があります。

リリースは同時に行われる

新しい Analytics Cloud 機能のリリースは、インスタンスに関係なく、すべての Analytics Cloud ユーザーに同時に送信されます。通常のコアリリースのようにスケジュールがずらされることはありません。Analytics Cloud のリリースは、メジャーリリースとは異なるスケジュールで行われる場合があります。

イノベーションとリリースが迅速である

Analytics Cloud のリリースは、メジャーリリースよりも頻繁なスケジュールで行われる場合があります。つまり、ユーザーにとって、製品のイノベーションが迅速に行われ、エンドユーザー機能もより頻繁に変更される可能性があるということです。リリースの時期はすべてのユーザーに通知されます。

Sandbox へのコピーがサポートされない

ユーザーは現在、新しい Analytics Cloud 機能を Sandbox でプレビューまたはテストしてから本番環境で有効化できますが、アセットを Sandbox 環境と本番環境間で移行することはできません。

ローカライズと国際化が行われない

Analytics Cloud のユーザーインターフェースの表示ラベルと製品ドキュメントは英語でのみ提供されます。翻訳された表示ラベルやドキュメントは提供されません。

Analytics Cloud ではマルチ通貨はサポートされません。分析が自動的に通貨項目を変換することはありません。そのため、同時に複数の通貨を分析するユーザーは、分析の前にそれらを1つの通貨マスタに変換する必要があります。

アクセシビリティ機能がサポートされない

Analytics Cloud はアクセシビリティ機能に対応していません。

パッケージ化とメタデータ API はサポートされない

Analytics Cloud ではメタデータ API の使用はサポートされません。Analytics Cloud アプリケーションのパッケージ化とバージョン管理はできません。Analytics Cloud のデータ、オブジェクト、およびアプリケーションを Sandbox から本番組織に移行する場合は、手動で行う必要があります。組織を複製するためのデフォルト組織テンプレート (DOT) はサポートされません。

項目レベルセキュリティが制限される

ファイル経由でアップロードされる外部データに項目レベルセキュリティを使用できません。元のデータベースまたは Salesforce オブジェクトに実装されている項目レベルセキュリティは、データが Analytics Cloud データセットに読み込まれると保持されません。詳細は、『[Security Implementation Guide for Analytics Cloud](#)』を参照してください。

サポートされるブラウザ

ブラウザサポートは、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 10 および 11、Mozilla® Firefox® の最新の安定バージョン、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンで使用できます。

モバイル: 外出先で実行できる Salesforce1 操作の増加

Spring '15 では、営業担当の現場での作業が改善されました。フィード投稿からの ToDo の即時作成で、ワークフローが合理化されます。ダッシュボード検索条件や簡単にアクセスできるレポートによって、迅速な決定が可能になります。重要な取引先に関する最新のニュースや、セールスプロセスを通じて営業担当をコーチングするビジュアルアシスタントを使用することで、営業の生産性が高められます。これらは機能強化のほんの一部にすぎません。

このセクションの内容:

[Salesforce1 アプリケーションへのアクセス](#)

モバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

[このリリースでの Salesforce1 の機能強化](#)

Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、モバイルアプリケーションがより実用的になり、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

[Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い](#)

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使用できない機能がいくつかあります。

Salesforce1 アプリケーション開発の概要

Salesforce1 の開発をサポートする Force.com プラットフォームにいくつかの機能強化があります。

関連トピック:

[モバイル機能が使用可能になる方法と状況](#)

Salesforce1 アプリケーションへのアクセス

モバイルデバイスで Salesforce1 にアクセスする方法は複数あります。

- Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションを Android™ および Apple® モバイルデバイスにインストールします。ユーザは App Store または Google Play™ からアプリケーションをダウンロードできます。
- Android、Apple、BlackBerry、および Windows 8.1 デバイスがサポートされているモバイルブラウザから Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションにアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

サポートされているデバイスおよびブラウザについての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」を参照してください。

このリリースでの Salesforce1 の機能強化

Salesforce1 の一連の新機能と改善された機能により、モバイルアプリケーションがより実用的になり、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce1 は、追加ライセンスなしで、すべてのエディション (Database.com Edition を除く) で使用できます。ただし、Salesforce1 で使用できる Salesforce のデータや機能は、組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられているプロファイルと権限セットによって決まります。

- ☑ **メモ:** お気づきのとおり、一部の新機能は Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。これらの機能強化の多くは、Android および iOS デバイス用の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーション向けに今後更新されるため心配いりません。ダウンロード可能アプリケーションの新しいバージョンが Google Play および Apple App Store でリリースされる時期についての詳細は、改めてご連絡させていただきます。

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
デバイスおよびブラウザのサポート				
一部の Windows 8.1 タブレットでモバイルブラウザアプリケーションを使用する。			✓	
使用可能なデータおよびナビゲーションの機能強化				

デバイスおよびブラウザのサポート

一部の Windows 8.1 タブレットでモバイルブラウザアプリケーションを使用する。



使用可能なデータおよびナビゲーションの機能強化

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
異なるデフォルトの Salesforce1 ナビゲーションメニューを表示する。	✓	✓	✓	✓
最近参照したレコードに関する詳細を表示してリストビューに簡単にアクセスできる、高度なオブジェクトのホームページを利用する。(タブレットのみ)			✓	
全機能を備えたリストビューでレコード詳細を表示する。(タブレットのみ)			✓	
リストビューグラフを使用して、ビジネスデータのビジュアルスナップショットを表示する。(タブレットのみ)			✓	
オブジェクトのホームページからその他のリストビューを直接表示する。	✓	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	
アクションの機能強化				
関連リストや検索結果など、より多くの場所でアクションおよびアクションバーを使用する。	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	
Salesforce Communities の機能強化				
フィードに自動的に表示される推奨事項を使用して、コミュニティユーザにアクションの実行を促す (ベータ)。			✓	✓
Chatter の機能強化				
複数の添付を 1 回の操作で投稿に追加する。			✓	
複数のレコード更新を 1 つの投稿にバンドルして、フィードを見やすくする。			✓	
投稿に関するすべてのコメントをフィードで直接参照する。(タブレットのみ)		✓ (制限付き)	✓	
既存のフィード投稿でトピックのリストを編集する。	✓ (制限付き)	✓ (制限付き)	✓	
Chatter の質問をケースにエスカレーションする。			✓	

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
プロフィール写真をゲストユーザーに表示するかどうかを指定する。	✓		✓	
レコードをグループに追加して、他のグループメンバーとのコラボレーションを強化する。	✓	✓	✓	✓
グループフィードにお知らせを投稿して、メンバーを最新の状態に保つ。	✓	✓	✓	✓
グループに使用する写真を管理する。	✓	✓	✓	
グループリストビューを活動順に並び替える。	✓	✓	✓	
グループメンバーのプロフィール写真を表示する。	✓	✓	✓	
グループに簡単に参加する。	✓	✓	✓	
フィードに投稿する場合に、ファイルリストの新しいフィルタを使用して、あらゆる種類のファイルを参照および共有する。			✓	
SharePoint または OneDrive for Business からファイルを参照および共有する。			✓	✓
検索の機能強化				
名前が似ているレコードを区別できる詳細情報を使用して、検索の「クイック結果」を適切に認識する。	✓		✓	
検索結果にレコード詳細を表示する。(タブレットのみ)			✓	
検索結果を並び替えて、適切な情報をすばやく見つける。			✓	
人およびグループに関係する検索結果を表示する。	✓	✓	✓	
グループフィードを検索する。	✓	✓	✓	
リレーションおよびデータの管理の機能強化				
重複レコードの作成を回避する。(正式リリース)	✓	✓	✓	✓
標準住所項目で静的な Google マップ画像を使用して、取引先責任者または取引先の場所をすばやく確認する。	✓	✓	✓	✓
標準住所項目に一部のテキストを入力した後に一致する住所をリストから選択する。	✓	✓	✓	✓

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
Salesforce フルサイトで使用できるすべての Work.com コーチング機能にアクセスする。	✓	✓	✓	
営業の生産性の機能強化				
取引先に関する最新のニュースを使用して、営業担当を最新の状態に保つ。	✓	✓	✓	✓
組織の取引先ニュースを有効にする。				✓
モバイルデバイスの連絡先リストからユーザが Salesforce に連絡先を直接インポートできるかどうかを制御する。				✓
営業担当が組織のセールスプロセスに従って簡単に成約率を上げられるようにする。	✓	✓	✓	✓
組織のセールスパスを有効にする。				✓
評価済みリードを取引先責任者に変換する。(ベータ)	✓	✓	✓	✓
活動の機能強化				
ToDo リストに ToDo 詳細を表示して、ToDo の更新をより効率的に行う。(タブレットのみ)			✓	
Chatter 投稿から ToDo を直接作成する。	✓ (制限付き)	✓ (制限付き)	✓	✓
Salesforce Today の機能強化				
現在の Chatter 投稿、最新のダッシュボード、関連する取引先ニュースなどの主要な情報に一元的にアクセスできる Today から日常業務の管理を改善する。	✓	✓		
ページを更新して、Today カードに最新情報を表示する。	✓	✓		
アクションバーを使用して、Today から他のアクションを実行する。	✓ (バージョン 7.0 以降)	✓ (バージョン 7.0 以降)		
2 列に Today カードを表示する。(タブレットのみ)			✓ (バージョン 7.0 以降)	

Salesforce1 の機能強化	Android ダウンロード可能アプリケーション	iOS ダウンロード可能アプリケーション	モバイルブラウザアプリケーション	フルサイトの [設定]
Today のパフォーマンスを向上するため、アプリケーションで天気情報を表示しない。	✓	✓		
Salesforce1 レポートの機能強化				
ダッシュボード検索条件を表示および使用する。	✓	✓	✓	
動的ダッシュボードの実行ユーザを選択する。	✓	✓	✓	
ダッシュボードおよび対応するソースレポートを再実行するか、最新の更新からデータを再読み込みする。	✓	✓	✓	
横方向でダッシュボードに最大3列を同時に表示する。(タブレットのみ)		✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	
グラフの新しいサイドバーを使用してレポートを絞り込む。(タブレットのみ)		✓ (バージョン 7.0 以降)	✓	
Salesforce1 ナビゲーションメニューから、最近使ったレポートに直接アクセスする。	✓	✓	✓	
カスタマーサービスツールの機能強化				
昇格済み検索語、強調表示された検索語、および関連テキストのスニペットが含まれる検索結果で、最適な Salesforce ナレッジ記事をすばやく特定する。			✓	
ビジネスロジックおよびプロセスの自動化の機能強化				
一時停止中のフローインタビューを再開または削除する。			✓	✓
通知の機能強化				
指定した条件をレポートが満たしている場合に、アプリケーション内通知を受信する。	✓	✓	✓	✓
その他の機能強化				
Salesforce1 オフラインキャッシュを使用して、オフラインで操作しているダウンロード可能アプリケーションのパフォーマンスを向上する。	✓ (バージョン 6.0 以降)	✓ (バージョン 6.0 以降)		✓
Salesforce1 設定の機能強化				

Salesforce1 の機能強化

Android ダウンロード可能アプリケーション

iOS ダウンロード可能アプリケーション

モバイルブラウザアプリケーション

フルサイトの [設定]

Salesforce1 のカスタムブランド設定に加えた変更が、アクションバーおよびアクションメニューアイコンに与える影響を理解する。

✓
(バージョン 7.0 以降)

✓
(バージョン 7.0 以降)

✓

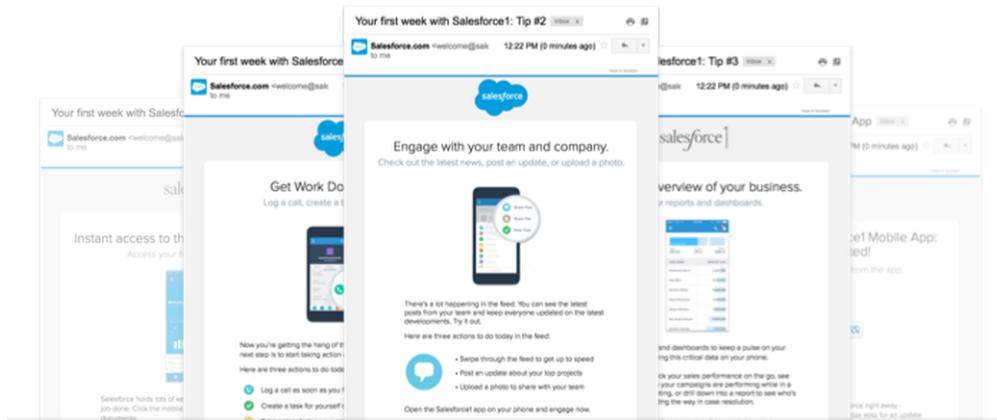
✓

Salesforce Adoption Manager を使用したユーザの教育

Salesforce Adoption Manager を使用して、ユーザを上級ユーザに変えることができます。この機能を有効にすると、Salesforce フルサイトと Salesforce1 モバイルアプリケーションの両方で行う作業に基づいて、カスタマイズされた提案がユーザに送信されます。

Spring '15 の Salesforce Adoption Manager では、Salesforce1 でユーザがより効果的に作業を行えるようにするためのさまざまなアクションが提案されます。ユーザは、モバイルデバイスでの表示が最適化されたメール経由で提案を受信します。メールに含まれる内容は、次のとおりです。

- Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションをインストールするためのカスタムリンク
- レコードまたは他の CRM 詳細を外出中に表示するためのヒント
- 活動の記録や ToDo の作成など、便利なアクションに関するベストプラクティス

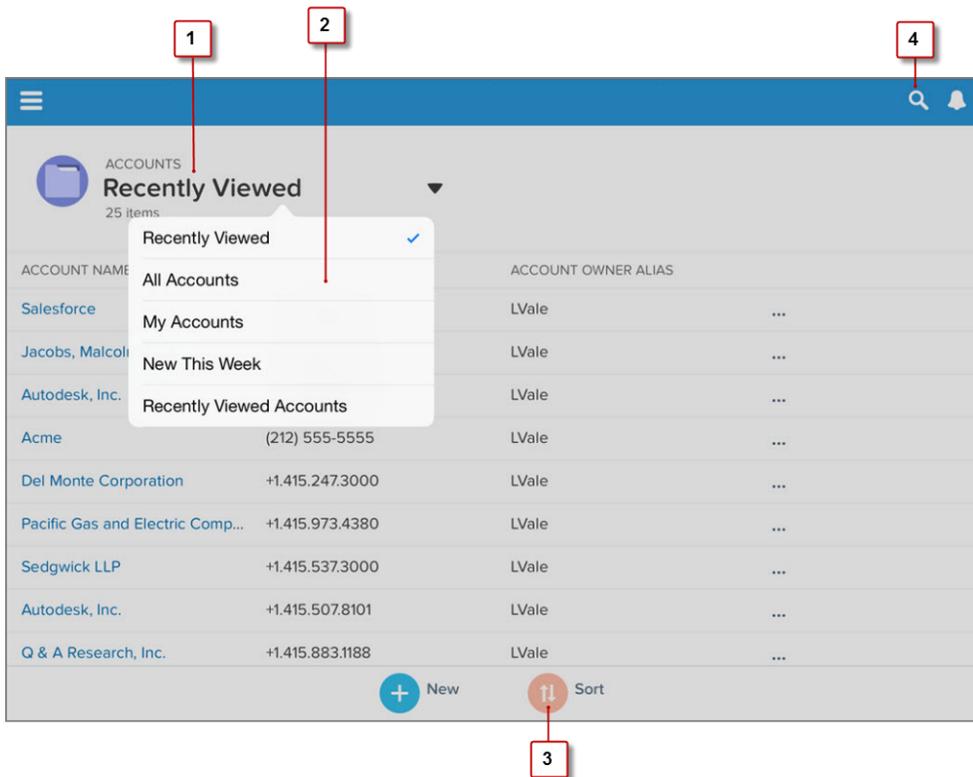


Salesforce Adoption Manager を有効にするには、Salesforce フルサイトの [設定] から [ユーザの管理] > [Adoption Manager] をクリックし、[Salesforce Adoption Manager を有効化] をオンにします。

オブジェクトのホームページでのレコード詳細の表示 (タブレットのみ)

Salesforce1 では、タブレットの大きい画面を活用するため、スマートフォンで提供されるものとは異なる、オブジェクトのホームページインターフェースを使用しています。タブレットユーザは、最近参照したレコードに関する詳細の表示、標準リストビューおよびカスタムリストビューへの直接アクセス、現在のオブジェクトだけでなく他のオブジェクトにまたがった検索を行うことができます。タブレットバージョンのオブジェクトのホームページは現在、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

Salesforce1 ナビゲーションメニューから取引先、グループ、ダッシュボードなどのオブジェクトを選択すると、オブジェクトのホームページ (以前は Salesforce1 ヘルプで「レコード検索ページ」と呼ばれていました) が開きます。

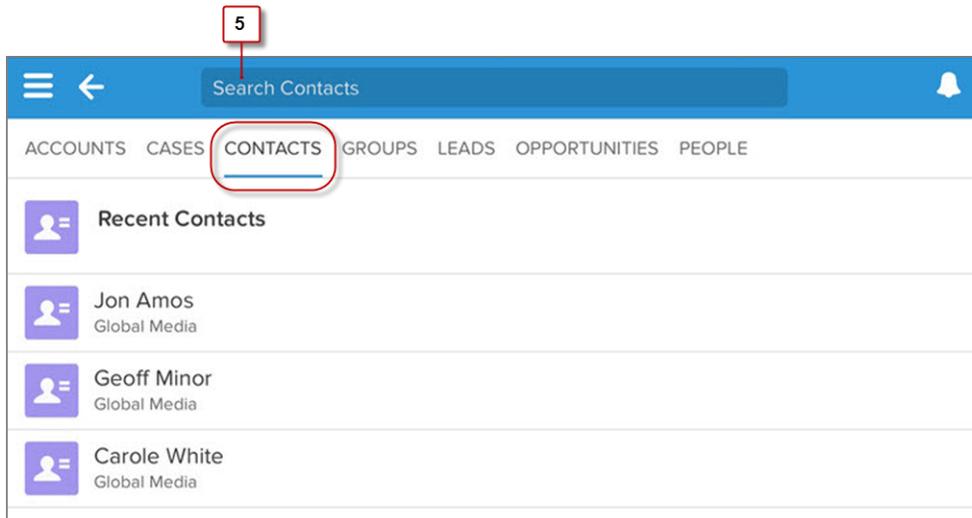


次に、オブジェクトのホームページをタブレットで表示した場合の重要事項を示します。

- オブジェクトのホームページには、最近参照したレコードのリスト(1)が携帯電話での表示より詳しく表示されます。
- ユーザは、200個の標準リストビューおよびカスタムリストビューに、リストビューメニューから直接アクセスできます(2)。最初に Salesforce フルサイトで任意のリストビューにアクセスする必要はありません。リストビューには完全な機能が備わっており、フルサイトと同じレコード詳細が表示されます。
- 最近のレコードリストは、項目別に昇順または降順に並び替えることができます。たとえば、営業担当は、最近のリードを「リード状況」項目別に並び替え、すべての評価済みリードをグループ化することができます。並び替えを最も簡単に行うには、項目の列ヘッダーをタップします。または、アクションバーで 

をタップして、項目を選択します(3)。Salesforce1 を携帯電話で使用する場合は、最近参照したレコードを並び替えることはできません。

- オブジェクト固有の検索は、携帯電話での検索とは動作が異なります。オブジェクトのホームページの検索ボックスは、Salesforce1 ヘッダーの検索  アイコンに置き換えられました(4)。このアイコンでは、検索範囲が現在のオブジェクトに自動的に設定された検索ボックスが開きます(5)。また、オブジェクトのホームページから移動しなくても、異なるオブジェクトを選択して検索範囲バーから検索することもできます。

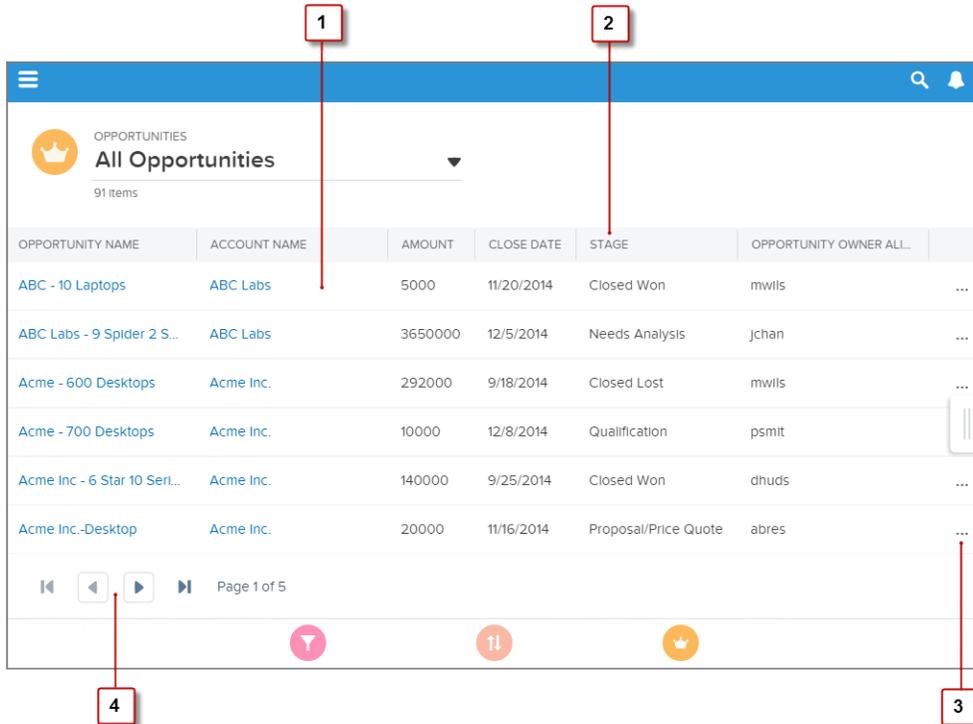


関連トピック:

[全機能を備えたリストビューの表示 \(タブレットのみ\)](#)

全機能を備えたリストビューの表示 (タブレットのみ)

Salesforce1 をタブレットで使用する場合、レコード詳細が一覧表示され、含まれる並び替えオプションが増え、この追加情報間を移動するための直観的なコントロールを備えた、高度なリストビューが表示されるようになりました。タブレットバージョンのリストビューは現在、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。



次に、タブレットでのリストビューに関する重要事項を示します。

- 各オブジェクトホームページから 200 個までの標準リストビューおよびカスタムリストビューにアクセスできます。ユーザが最初に Salesforce フルサイトで任意のリストビューにアクセスする必要はありません。
- 情報は Salesforce フルサイトと同じ方法 (各項目の列とレコードの行) で表示されるため、レコード詳細のスクリーンと比較が簡単です (1)。この表形式レイアウトは、リストビューを携帯電話で操作するときに表示されるレコードプレビューカードとは異なります。
- 携帯電話の場合に表示される項目のサブセットではなく、すべての項目がリストに表示されます。
- Winter '15 リリースの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションおよびバージョン 7.0 の Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでは、アクションバーからのリストビューの並び替え (2) が追加されました。また、項目の列ヘッダーをタップしてリストを並び替えることもできるようになりました (2)。フルサイトと同様に、ほとんどの項目は英数字順に並び替えられますが、商談の [フェーズ] 項目は商談成立にどの程度近いかによって並び替えられます。
- リスト項目アクションにアクセスするには、レコード行の最後にある ... をタップします (3)。携帯電話の場合にリスト項目アクションを表示するために行うスワイプ操作は、タブレットには適用されません。
- ページごとに 20 件のレコードが表示されます。リストが複数ページにまたがる場合は、戻る、進む、最初、最後の各ボタンを使用して簡単に移動できます (4)。

リストビューには、リストビューレコードおよびそのデータを視覚的に表す、対応するグラフも用意されています。

関連トピック:

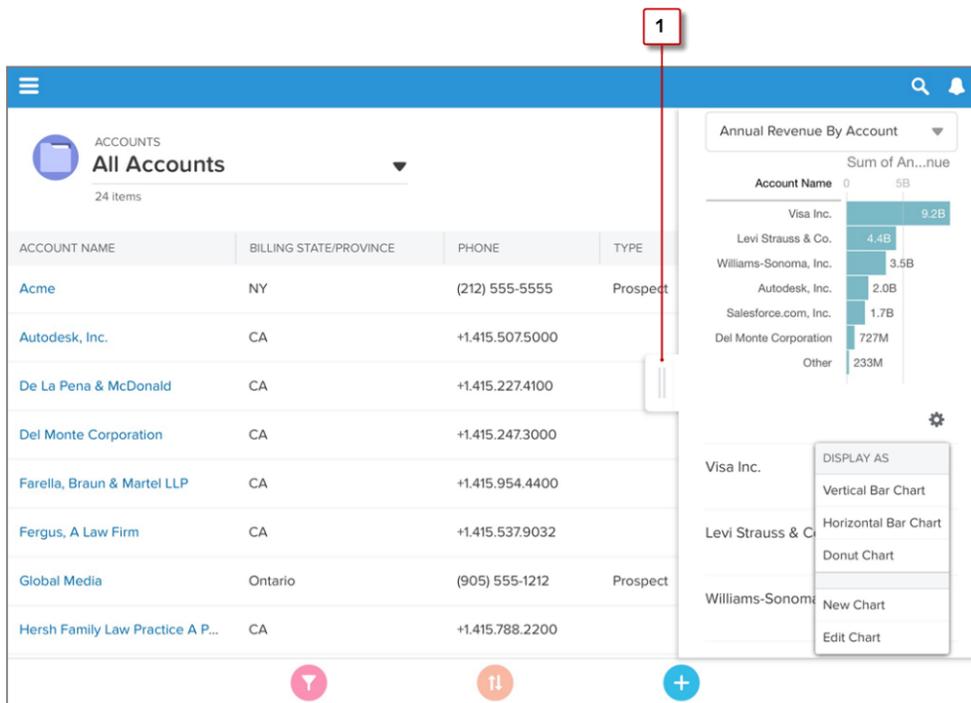
[グラフを使用したリストビュー詳細の表示 \(タブレットのみ\)](#)

[その他のリストビューの表示 \(携帯電話のみ\)](#)

グラフを使用したリストビュー詳細の表示 (タブレットのみ)

「見る」ことは読むことより効果的な場合があります。Salesforce1 のリストビューグラフを使用すると、営業担当は、ビジネスデータをわかりやすく表示したビジュアルスナップショットを簡単に取得できます。ユーザーは、独自のグラフを作成、編集して、1つの項目で情報を集計および計算し、別の項目でその情報をグループ化することができます。データは、縦棒グラフ、横棒グラフ、ドーナツグラフで表示することができます。リストビューグラフは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションが搭載されたタブレットでのみ使用できます。

リストビューグラフにアクセスするには、リストビューを表示しているときにページの右側でパネルタブ (1) をタップします。



標準オブジェクトには、すぐに使えるグラフが用意されています。新しいグラフを作成するには、グラフパネルで  をタップします。新規グラフページで、グラフに名前を付け、グラフの種類を選択します。集計の種類では、項目データの計算方法(合計、カウント、平均)を指定できます。集計項目により、計算データの取得元がグラフに指示されます。グルーピング項目により、グラフの区分にラベルが付けられます。

 **例:** オフィス家具製造業の営業担当は、取引先を従業員数で比較して、見込み客を大企業に絞り込もうとしています。集計の種別には「カウント」、集計項目には「従業員数」、グルーピング項目には「取引先名」を選択して、横棒グラフを作成します。グラフには、各取引先の従業員数が、取引先名別に表示されます。

関連トピック:

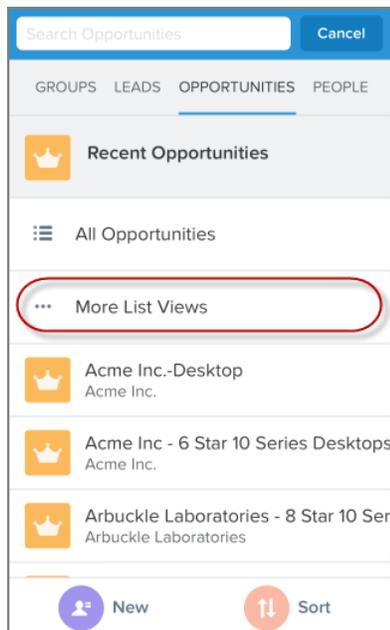
[全機能を備えたリストビューの表示 \(タブレットのみ\)](#)

その他のリストビューの表示 (携帯電話のみ)

Salesforce1 をスマートフォンで使用する場合、オブジェクトの最大200個のリストビューをオブジェクトのホームページから直接表示できるようになりました。他のリストビューにアクセスするために、特定のリストビューを最初に開く必要はなくなりました。この機能強化は、当初はバージョン 7.0 の Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションに含まれましたが、モバイルブラウザアプリケーションでも使用できるようになりました。

モバイルブラウザアプリケーションを使用して、オブジェクトホームページで[その他のリストビュー]をタップします (Salesforce フルサイトからオブジェクトのどのリストビューにもアクセスしていない場合は、オプションが[リストビューを表示]になります)。

この機能は、iOS デバイス用ダウンロード可能アプリケーションでは動作が若干異なります。ユーザがフルサイトで 5 個以上のリストビューにアクセスすると、[その他のリストビュー]オプションがオブジェクトホームページに表示されます。



タブレットでモバイルブラウザアプリケーションを使用している場合は、その他のリストビューの選択方法が異なります。詳細は、[全機能を備えたリストビューの表示 \(タブレットのみ\)](#) (ページ 69)を確認してください。

他の場所でのアクションおよびアクションバーの使用

Salesforce1 でアクションバーを使用できる場所が増え、外出中のビジネスの対応がさらに簡単になりました。アクションバーは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションおよび Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.0 以降で使用できます。

アクションバーが次のようにページに新しく追加され、これらの場所でアクションを使用できます。

オブジェクトのホームページ (タブレットのみ)

新しいレコードを作成し、[最近参照した] リストでのレコードの表示方法を並び替えます。[新規] アクションは、以前にページ上部に表示されていた [新規] ボタンに代わるものです。

標準オブジェクトの関連リスト

新しいレコードを作成します。

検索結果

新しいレコードを作成し、検索結果を並び替えます。[新規] アクションは、以前に検索結果ページ上部に表示されていた [新規] ボタンに代わるものです。

検索結果には、リスト項目のアクションも含まれます。電話機の場合は、レコードを左にスワイプして、これらのアクションにアクセスします。タブレットの場合は、... をタップします。

ToDo リスト (タブレットのみ)

リスト項目のアクションとして使用できるアクションと同じセットが、ToDo リストの項目に表示されます。

Today (ダウンロード可能アプリケーションのみ)

組織のグローバルパブリッシャーレイアウトで定義されたアクションのセットが表示されます。詳細は、Salesforce ヘルプの「グローバルパブリッシャーレイアウトの使用」を参照してください。

コミュニティフィードのおすすめ情報のカスタマイズ (ベータ)

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの場合、コミュニティフィードに表示されるカスタムおすすめを作成して、ユーザーに動画の閲覧やトレーニングの受講などを促します。カスタムおすすめは、「Napili」または「Salesforce タブ + Visualforce」テンプレートを使用するどのコミュニティでもサポートされています。

 **メモ:** おすすめ情報の管理インターフェースはベータ版であり、既知の制限があります。すべての機能を利用するには、[Chatter REST API](#) を使用してください。

[コミュニティ管理] で、[管理] > [推奨] をクリックします。手順についての詳細は、Salesforce ヘルプの「コミュニティフィードのおすすめ情報のカスタマイズ」を参照してください。

エディション

おすすめを使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

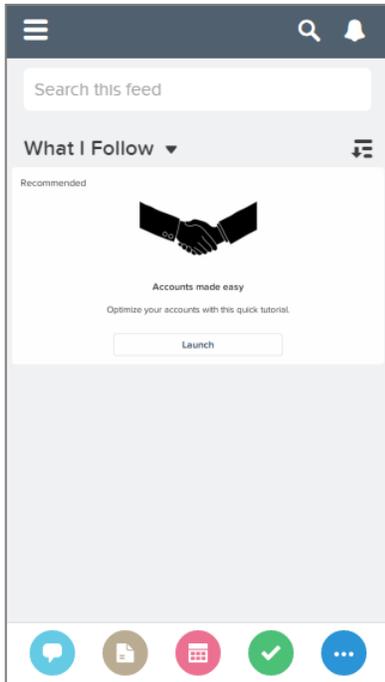
ユーザー権限

[コミュニティ管理] ページにアクセスする

- 「コミュニティの管理」

または

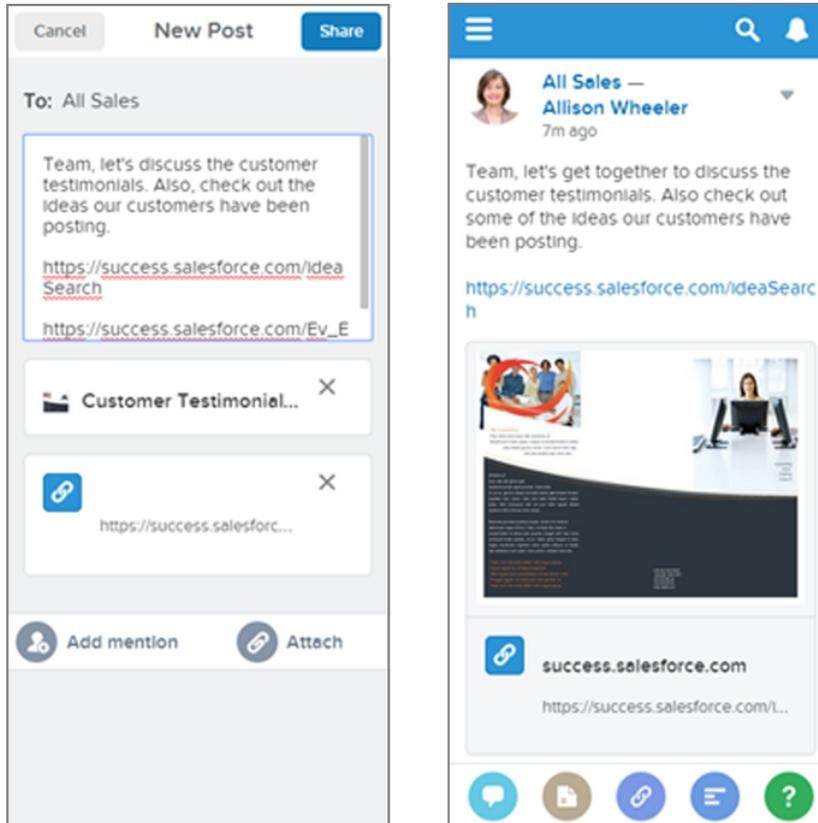
「コミュニティの作成および設定」



投稿への複数の添付の追加

ファイルやリンクを投稿に添付するたびに、異なる操作が必要なことをユーザはとても面倒に感じていることでしょう。[新規投稿] ページから、ファイルやリンクを投稿に直接添付できるようになりました。この機能は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

ファイルアクションとリンクアクションが投稿アクションに追加され、投稿ごとに複数の添付が可能になりました。ユーザが投稿を作成 (🗨️) するときに、[新規投稿] ページからリンクやファイルを投稿に直接添付できます。



[新規投稿] ページから複数の添付を追加する方法は、次のとおりです。

- ファイルを添付するには、📎 をタップしてから、添付するファイルを選択します。現在は1つのファイルしか添付できません。
- リンクを添付するには、URL を投稿の本文に入力するか、貼り付けます。

添付ファイル/リンクは、ファイルのプレビュー画像およびURLを含めて(使用可能な場合)、投稿の本文に表示されます。複数のURLを添付した場合は、最初のURLのプレビュー画像のみが表示されます。

個々のリンク(📎)およびファイル(📎)のアクションも、アクションバーから引き続き使用できます。

1つの投稿にバンドルされた複数のレコード更新の表示

レコード更新について表示するフィード投稿数を減らしつつ変更の追跡をユーザが引き続き希望する場合、バンドル投稿が役立ちます。同じレコードで追跡する項目に2つ以上の更新がある場合、これらの更新が1つの投稿に集約されます。この機能は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

バンドル投稿は、レコードフィードと[自分がフォローするもの] フィードに表示されます。バンドル投稿には、10分間隔以内のレコード更新が含まれます。間隔が10分を超える更新は、別の投稿として表示されます。



デフォルトでは、最新の2つの更新がバンドル投稿に表示されます。過去24時間に行われたすべてのバンドル更新を表示するには、[すべての更新を表示]をタップします。バンドルに含まれる投稿に誰かがコメントすると、その投稿はバンドルから削除され、フィードに別個に表示されます。

Chatter の未回答の質問に対するケースの作成 (正式リリース)

組織で Chatter の質問が有効化されていると、モデレータが Chatter の質問をケースにエスカレーションして、顧客の問題を追跡および解決しやすくなることができます。質問-to-ケースは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

関連トピック:

[質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成 \(正式リリース\)](#)

[質問-to-ケースを使用した Chatter の質問の管理 \(正式リリース\)](#)

エディション

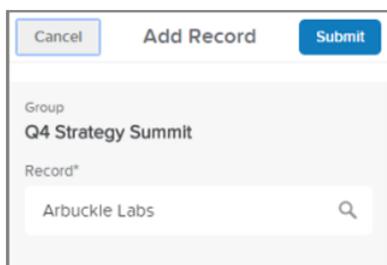
Chatter の質問および質問-to-ケースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Chatter グループへのレコードの追加

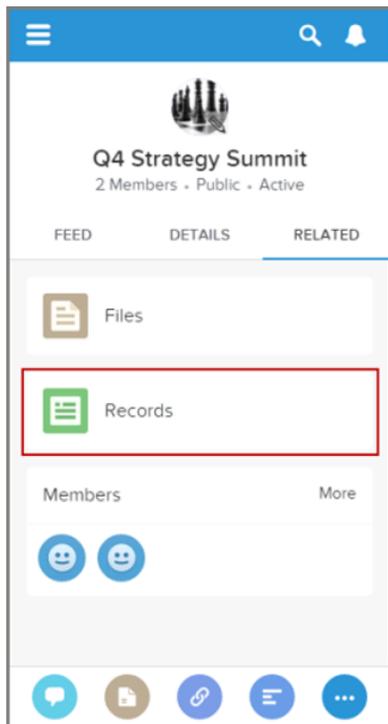
すべての Salesforce1 ユーザが、外出中に Chatter グループにレコードを追加できるようになりました。

このオプションをユーザに提供するには、グループレイアウトを編集し、[レコードの追加]クイックアクションをグループパブリッシャーに追加して、グループの Salesforce1 アクションバーでアクションを使用できるようにします。この機能の設定についての詳細は、[ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加の許可](#) (ページ 186)を参照してください。

Salesforce1 で、グループの表示中にアクションバーの [レコードの追加] をタップします。



グループレコードが、グループレコード関連リストに表示されます。

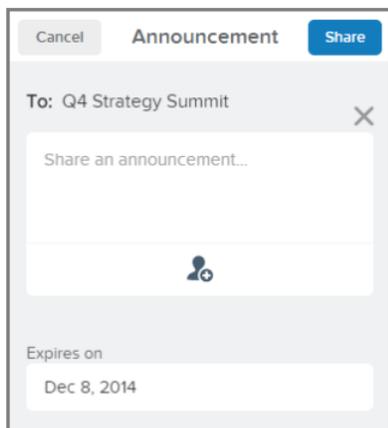


関連トピック:

[ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加の許可](#)

Chatter グループでのお知らせの投稿

グループのアクションバーにお知らせアクションを追加すると、グループ所有者とグループマネージャが、Salesforce1 から Chatter グループでのお知らせを共有できます。

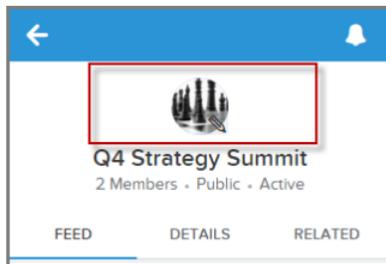


グループレイアウトとアクションバーの設定についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Chatter グループレイアウトとクイックアクションのカスタマイズ」を参照してください。

Chatter グループのグループ写真の表示、アップロード、削除

グループ所有者とグループマネージャは、Salesforce1 モバイルアプリケーションからグループ写真を表示、アップロード、削除できます。

グループ所有者とグループマネージャは、グループページ上部にある [特長] 領域で写真 (または写真のプレースホルダ) をタップして、グループ写真を管理できます。ユーザは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでグループ写真を表示、更新、削除できます。また、ダウンロード可能アプリケーションでグループ写真を表示または削除できます。



グループレイアウトとアクションバーの設定についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Chatter グループレイアウトとクイックアクションのカスタマイズ」を参照してください。

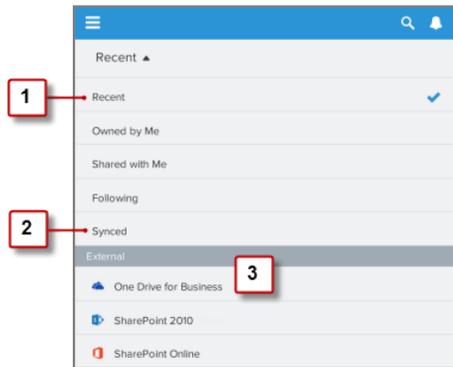
新しい Salesforce ファイルフィルタを使用した他のファイルの検索

同期済みファイル、外部ファイル用の新しいフィルタと再構成されたフィルタリストを使用して、ファイルをすばやく検索できるようになりました。この機能強化は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

新しいファイルフィルタは、投稿またはコメントにファイルを添付する場合に、[ファイル] ホームページのフィルタリストに含まれます。フィルタリストに、次の変更が加えられました。

エディション

Files を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition



- フィルタが並び替えられました。[最近] (1) ファイルが常に一番上に表示されます。
- Salesforce Files Sync を有効にした場合、[同期済み] (2) ファイルがフィルタリストに含まれるようになりました。
- 組織で Files Connect が設定され、接続済みのファイルソースがある場合、[外部] (3) ファイルソースがフィルタリストに含まれるようになりました。詳細は、[外部ファイルの参照および共有](#) (ページ 79) を参照してください。

外部ファイルの参照および共有

すべてのコンテンツをユーザが簡単に利用できるようにします。Files Connect が組織に設定されている場合、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションユーザは、Microsoft SharePoint や OneDrive for Business などの外部データソースのファイルを参照および共有できます。

フィード投稿またはコメントへのファイルの添付や、[ファイル]リスト内の移動を行う場合、Salesforce に保存されたファイルを参照すると同様に、外部ファイルを参照できます。[最近]、[自分が所有者]、[自分と共有されている]、[フォロー中] フィルタを適用すると、関連する外部ファイルが[ファイル]リストに表示されます。[ファイル]リストが折りたたまれている場合は、[外部]セクションから外部ファイルに直接移動できます。

関連トピック:

[OneDrive for Business のコンテンツへの接続](#)

[新しい Salesforce ファイルフィルタを使用した他のファイルの検索](#)

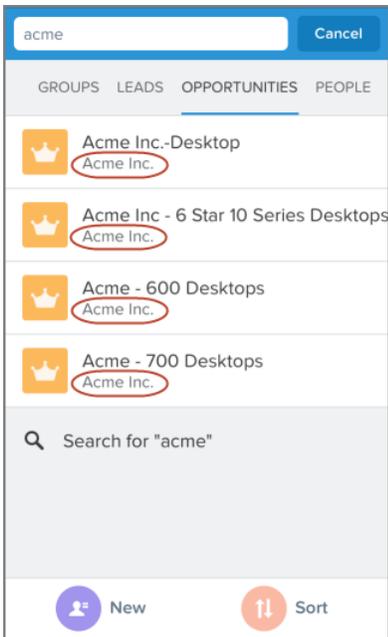
類似したクイック結果の区別

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションおよび Android デバイス用ダウンロード可能アプリケーションで検索中に表示される「クイック結果」に、レコード名以外の追加情報が含まれるようになりました。これにより、検索中に表示されるコンテキストが増え、名前が似ているレコードを区別できるため、目的の情報をすばやく取得するのに役立ちます。この機能は、iOS デバイスのダウンロード可能アプリケーションでは使用できません。

エディション

Files Connect を使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

ユーザが検索ボックスにキーワードを入力し始めると、一致する各レコードの名前と、オブジェクトの検索結果レイアウトに対する 2 番目の項目のデータが、クイック結果のリストに表示されます (追加項目を参照する権限がある場合は、この情報のみが表示されます)。



たとえば、(Salesforce フルサイトの [設定] > [カスタマイズ] > [商談] > [検索レイアウト] で) 商談の検索結果レイアウトに対する 2 番目の項目として「取引先名」が指定されている場合、ユーザが検索ボックスに検索語を入力するときにクイック結果で商談名の下に取引先名が表示されます。

検索結果レイアウトを編集して、検索のクイック結果を表示する 2 番目の項目を制御する方法については、Salesforce ヘルプの「[検索レイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

検索結果での詳細の表示 (タブレットのみ)

Salesforce1 をタブレットで使用する場合、拡張された検索結果にレコード詳細がさらに表示されるようになりました。タブレット用に拡張された検索結果は現在、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

Opportunity Name	Account Name	Stage	Close Date	Opportunity Owner	Alias
Acme Inc - 6 Star 1...	Acme Inc.	Closed ...	9/4/2014	dhuds	...
Acme Inc.-Desktop	Acme Inc.	Proposa...	10/26/2014	abres	...
Acme - 600 Desk...	Acme Inc.	Closed ...	8/28/2014	mwils	...
Acme - 700 Deskto...	Acme Inc.	Qualific...	11/17/2014	psmit	...

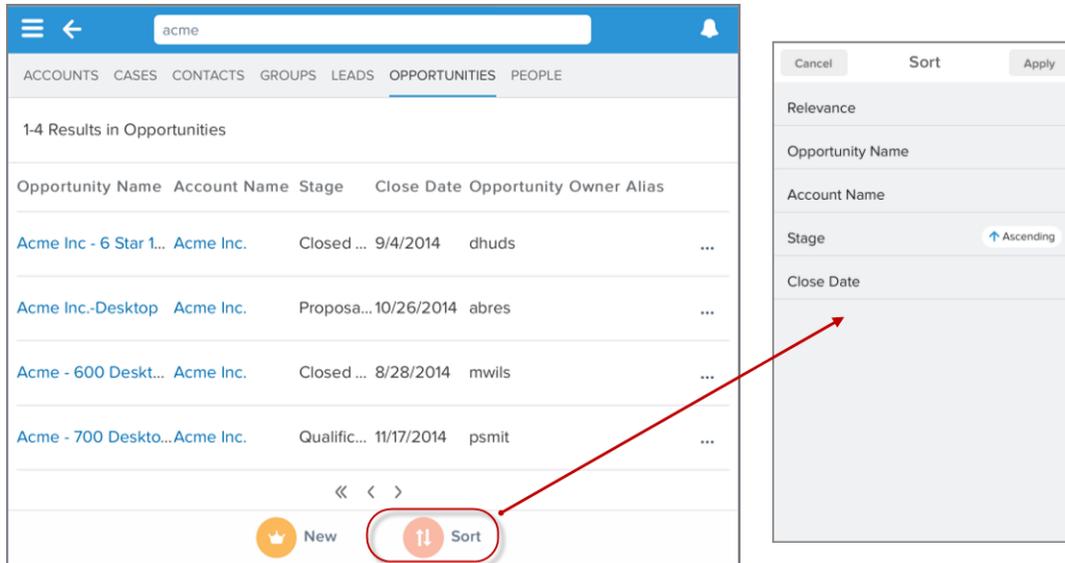
タブレットでの検索は、次のようになります。

- 携帯電話で検索する場合に表示されるレコードプレビューカードのリストではなく、各項目の列とレコードの行を含む表形式で結果が表示されます。
- 携帯電話の場合に表示される項目のサブセットではなく、オブジェクトの検索結果に定義されたすべての項目が表示されます。
- リスト項目アクションにアクセスするには、レコード行の最後にある ... をタップします。携帯電話の場合にリスト項目アクションを表示するために行うスワイプ操作は、タブレットには適用されません。
- ページごとに15件の結果が表示されます。複数のページ間を移動するには、ページ下部のボタンを使用します。

適切なレコードをすばやく見つけるための検索結果の並び替え

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションユーザーは、検索結果を並び替えて、目的の情報を簡単に見つけることができます。

デフォルトでは、検索結果は関連性の順に並び替えられ、検索語に最も一致するレコードが検索結果ページの先頭に表示されます。作成日別の取引先やフェーズ別の商談など、検索結果を別の方法で並び替えて表示したい場合は、検索結果ページのアクションバーで  をタップするだけで、この操作が可能になりました。



重複レコードの回避 (正式リリース)

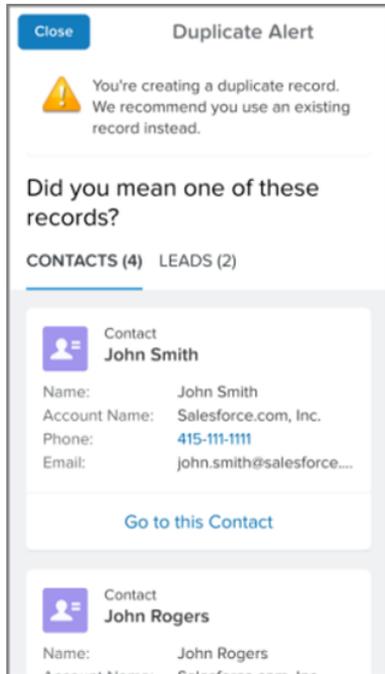
Data.com 重複管理では、Salesforce 内に重複レコードを作成することをユーザーに許可するかどうか、および許可する条件を制御できます。Salesforce フルサイトで重複ルールを設定して、重複の可能性があると識別されたレコードを Salesforce1 ユーザーが保存できるかどうかを管理することもできます。重複管理は、Salesforce1 モバイルアプリケーションのすべてのバージョンで正式にリリースされました。

既存の Salesforce レコードと重複する可能性があるレコードをユーザーが作成しようとしたときに、重複ルールが Salesforce に実行するアクションを通知します。たとえば、ルールを使用して、重複する可能性があるレコードをユーザーが保存するのをブロックしたり、ひとまず保存を許可したりできます。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



ユーザがレコードを保存するときに、デフォルトで重複ルールが実行されます。ユーザがレコードの項目に入力すると重複ルールが実行されるように、Salesforce1 のこの動作を変更できます。これにより、データの入力時間を削減できます。これは、モバイルデバイスで常に望まれていることです。Salesforce フルサイトで、[設定] から、[Salesforce1 の設定] > [重複排除] をクリックします。[重複ルールの設定] セクションで、[ユーザが項目を完了するときの重複ルールの実行] をオンにします。

設定方法などの、重複ルールについての詳細は、リリースノートの SalesCloud セクションの「[重複管理\(正式リリース\)](#)」を参照してください。

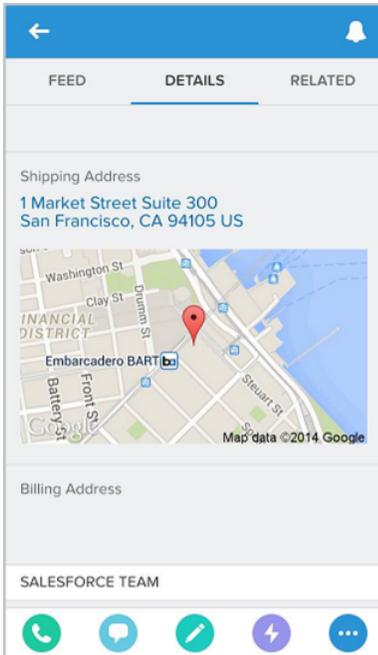
関連トピック:

[重複のアラートとブロック\(正式リリース\)](#)

標準住所項目での Google マップ画像の表示

標準住所項目があるレコードでは、その住所の Google マップ画像が表示されるようになりました。これにより、外部マップアプリケーションで住所を検索する代わりに、取引先責任者または取引先の場所を確認できるため、時間を節約できます。この機能は、すべてのバージョンの Salesforce1 で使用できます。

レコードの詳細ページに移動すると、その住所項目の Google マップ画像が表示されます。マップ画像を生成するには、住所に町名・番地および市区郡項目に加え、都道府県、郵便番号、または国のいずれかが含まれている必要があります。



住所のマップ画像は静的であり、ズームインまたはズームアウトはできません。ただし、マップ画像をタップすると、マップアプリケーションで住所が開き、詳細を確認できます。起動されるマップアプリケーションはモバイルデバイスによって異なります。Apple マップは iOS デバイスで開き、Google マップは Android、BlackBerry、Windows 8.1 デバイスで開きます。

 **メモ:** 一部のオブジェクトのアクションバーに表示される  アイコンは、デバイスのマップアプリケーションも起動する Salesforce1 の生産性アクションです。このアクションは、Google マップ機能とは関係なく、Google マップが無効の場合でも常に使用できます。

住所項目にいずれかの必須情報が欠けている場合、マップは表示されません。組織で Salesforce1 オフラインアクセスが有効になっていると、ユーザのデバイスがオフラインのときにマップは表示されません。

現在、Developer Edition の組織では地図およびロケーションサービスを使用できません。

標準住所項目でのマップは、デフォルトで有効化されています。組織でマップを無効にするには、「[マップおよび場所のサービスの有効化](#)」(ページ 205)を参照してください。

関連トピック:

[場所データをより明確に表示するための Visualforce 地図コンポーネントの使用](#)

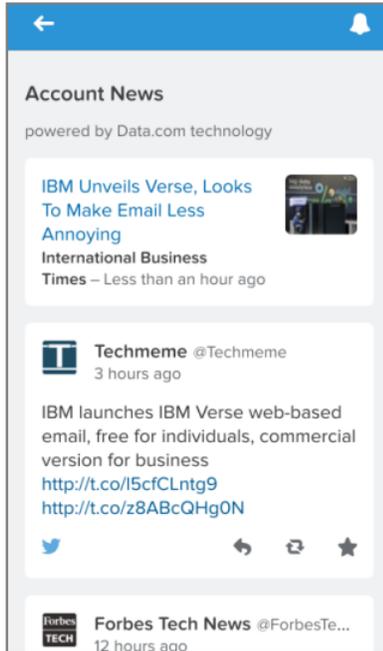
標準住所項目での住所のオートコンプリートの使用

すべての Salesforce1 ユーザに対して、標準住所でオートコンプリートを有効にすることができます。これにより、ユーザは標準住所項目でテキストを入力し、一致する可能性のある住所を選択リストに表示できます。

オートコンプリートを有効にするには、Salesforce フルサイトの [設定] から [カスタマイズ] > [地図およびロケーション] > [設定] をクリックし、[標準の住所でのオートコンプリートを有効化] をオンにします。

取引先に関するニュースの表示

営業担当は、Salesforce1 の取引先ニュースを使用して、時間と場所を問わず、取引先に関する最新のニュースを表示できます。この機能は、全バージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。



組織で取引先ニュースを有効にすると、取引先の関連情報ページに取引先ニュースカードが表示されます。カードには、取引先に関するトップニュース項目が1つ表示されます。[さらに表示]をタップすると、最大10個のニュース項目が表示されます。Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションユーザーの場合、取引先ニュースは Salesforce Today にも表示されます。

各ユーザーには、取引先の名称と業種に基づいて固有のニュース項目が表示されます。Salesforce Today では、ユーザーのモバイルカレンダーの今後の行動および最近参照した取引先に基づいた記事の選択も行われます。

取引先ニュースは、Data.com で提供される技術を使用して選定されます。Salesforce では、すべてのニュース記事を前処理して関連性のある記事に絞り込み、スパムや不適切な内容は除外されます。Spring'15では、ニュースソースの追加または変更はできません。

- ☑ **メモ:** ほとんどの取引先の場合、Yahoo、RSS フィード、ニュースプロバイダの Twitter コンテンツからニュースを収集する Salesforce 独自のニュース処理プラットフォームから記事が提供されます。一致する記事がデータベースで見つからない場合は、Salesforce に登録した取引先名を使用して、取引先固有のニュースを Yahoo で検索できます。Salesforce で実行されるクエリは、セキュリティ保護されたプロトコルを使用して実行され、個々の Salesforce ユーザーにリンクされることはありません。

関連トピック:

[取引先ニュースへのアクセスの設定](#)

[Salesforce Today の他の主要情報を使用した日常業務の効果的な管理](#)

取引先ニュースへのアクセスの設定

取引先ニュースを有効にすると、全バージョンの Salesforce1 で取引先の関連情報ページに取引先ニュースカードが自動的に表示されます。また、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションで使用できる Salesforce Today にも表示されます。

取引先ニュースは、デフォルトで無効になっています。この機能は、Salesforce フルサイトで有効にします。[設定] から、[Salesforce1 の設定] > [取引先ニュース] をクリックします。[取引先ニュースを有効化] チェックボックスを探してください。

関連トピック:

[取引先に関するニュースの表示](#)

[Salesforce Today の他の主要情報を使用した日常業務の効果的な管理](#)

モバイル連絡先リストからの連絡先のインポート機能の有効化/無効化

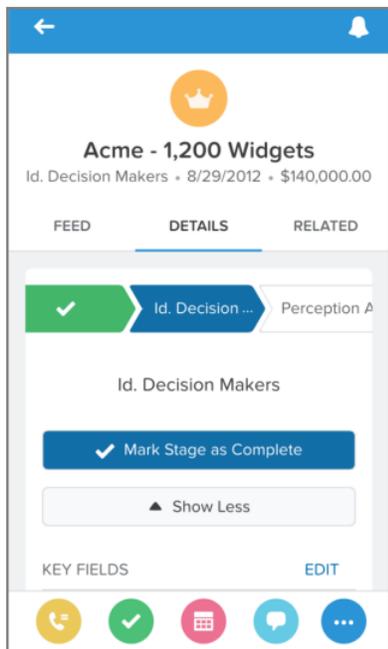
Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.0 以降では、モバイルデバイスの連絡先リストから Salesforce に連絡先を直接インポートできます。これらのソースから連絡先をインポートしない場合は、この機能を組織で無効化できるようになりました。

Salesforce フルサイトの [設定] から、[モバイル管理] > [Salesforce1] > [設定] をクリックし、[Salesforce1 が、モバイルデバイスの取引先責任者リストから取引先責任者をインポートできるようにする] をオンまたはオフにします。

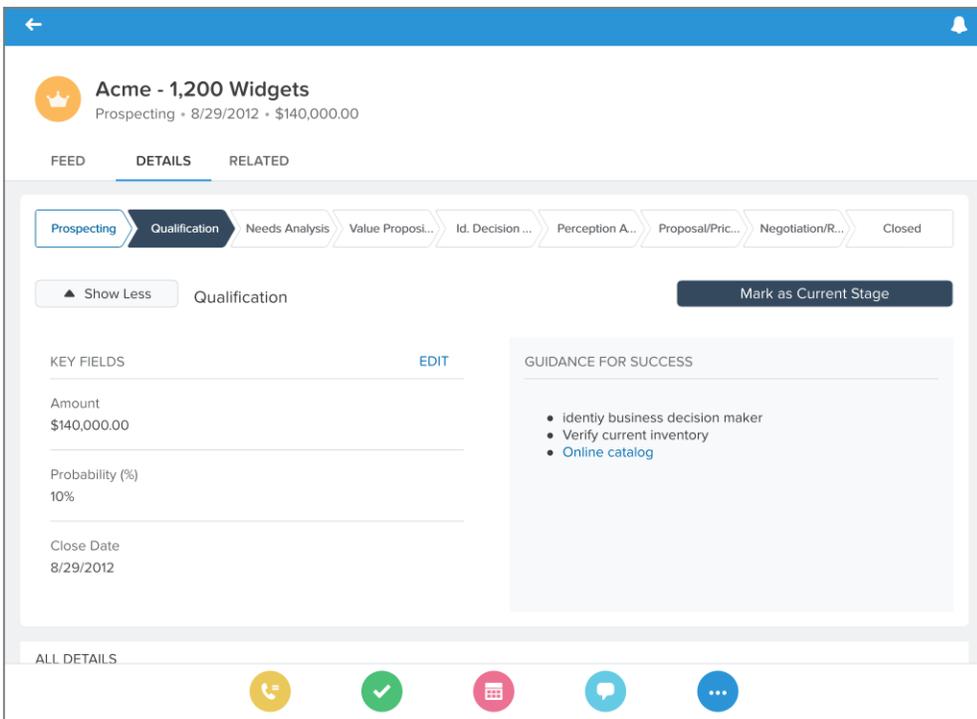
セールスパスを使用した成約率の向上

営業担当が、組織のセールスプロセスに従って簡単に商談を成立させることができるようにします。セールスパスは、販売の成立に必要な各フェーズを営業担当に説明するビジュアルアシスタントです。セールスパスでは、フェーズごとに主要な商談項目が強調表示され、販売の成立に役立つヒントや Chatter リンクなどの追加情報が表示されます。この新しいツールは、すべてのバージョンの Salesforce1 で使用できます。

営業担当が Salesforce1 で商談を参照すると、商談のフェーズ、成立させるための主要な項目、および Chatter 投稿やファイルへのリンク、フェーズのヒント、ポリシーメモなど、フェーズに関連する追加情報がセールスパスに表示されます。フェーズが完了したら、営業担当は [フェーズを完了としてマーク] をタップして続行します。商談が次のフェーズに更新され、新しいフェーズの主要な項目と追加情報が表示されます。



[フェーズを完了としてマーク]を選択したのが早すぎた場合は、フェーズ名を選択して[現在のフェーズとしてマーク]をタップするか、商談レコードでフェーズを変更すれば、以前のフェーズに簡単に戻ることができます。販売を速やかに処理するには、同じプロセスを使用して後のフェーズまでスキップできます。



[表示件数を減らす]をタップするとセールスパスを非表示にでき、[表示件数を増やす]をタップすると再表示できます。いずれの場合も、すべての項目を含めた商談全体は[すべての詳細]の下に表示されます。

関連トピック:

[セールスパスの設定](#)

[セールスパスで営業担当者の販売クローズを促進](#)

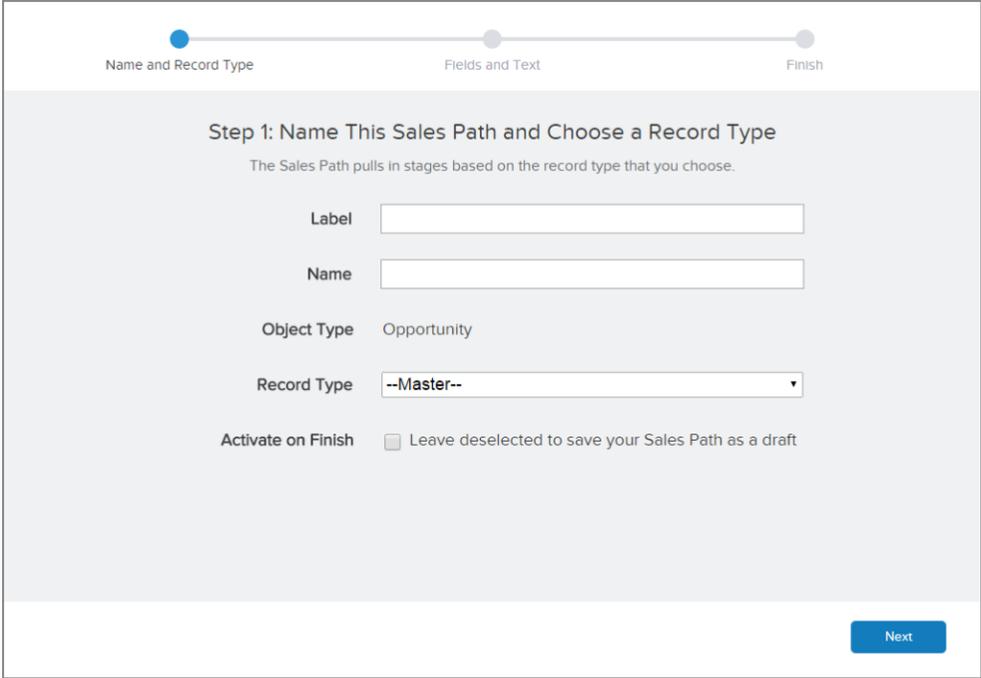
セールスパスの設定

Salesforce1 ユーザ向けのセールスパスの設定は、簡単なプロセスです。選択した商談レコードタイプ情報がフェーズに入力されます。商談レコードタイプごとに1つのセールスパスを使用して、セールスプロセスごとにセールスパスを設定できます。

Salesforce フルサイトの [設定] から、セールスパスを有効にします。[カスタマイズ]>[セールスパス]>[設定] をクリックし、[有効化] をクリックします。

セールスパスを設定するには、[新しいセールスパス] をクリックするだけで十分です。レコードタイプを選択すると、適切なフェーズがセールスパスに自動的に取り込まれます。次に、ヒント、リンク、販売成立に導く他の情報と共に、営業担当が各フェーズを完了するために必要とする項目を指定すれば完了です。

 **ヒント:** 最良のパフォーマンスを得るには、フェーズ数が20を超えないセールスプロセスにセールスパスを作成することをお勧めします。



最後のステップを行ってからセールスパスを有効にするには、[完了時に有効化] をオンにします。特に追加設定を行わなくても、ユーザはセールスパスを自動的に使用できるようになります。

関連トピック:

- [セールスパスを使用した成約率の向上](#)
- [セールスパスで営業担当者の販売クローズを促進](#)

取引先責任者へのリードの変換 (ベータ)

外出中の営業担当が、評価済みリードを取引先責任者に変換し、商談を作成できるようになりました。営業担当は、この機能を収益のパイプラインの増加のために活用できます。このオプションは、Salesforce1 のすべてのバージョンで使用できます。

 **メモ:** Salesforce1 のリードの取引開始機能はベータ版です。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。リードの取引開始についてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

Winter'15の機能が改善されました。重複管理を有効にすると、営業担当が変換しようとするリードについて重複している取引先責任者を把握できるようになりました。

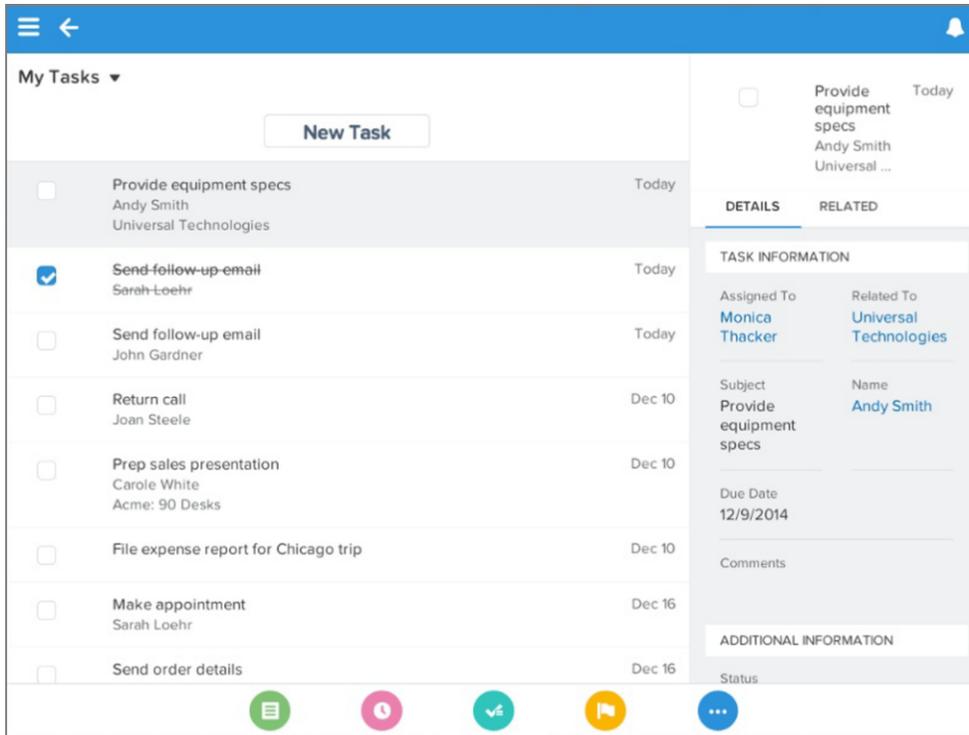
このオプションを営業担当が使用できるようにする手順は簡単です。Salesforceフルサイトで、[設定]から、[カスタマイズ]>[リード]>[設定]をクリックします。次に、オプション [Salesforce1 アプリケーションで取引開始を有効化] をオンにします。

関連トピック:

- [リードの変換時の取引先責任者や取引先の重複の回避](#)

タブレットでの ToDo 一覧の迅速な操作

ToDo リストで、タブレットユーザがToDo リストとToDoの詳細の間を切り替える必要がなくなりました。代わりに、別の列にリスト内で選択したToDoの詳細が表示されるようになりました。タブレットバージョンのToDo リストは現在、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。



タブレットのアクションバーに、選択した ToDo レコードのアクションが表示されます。ToDo リストで左にスワイプすると、同じアクションが表示されます。

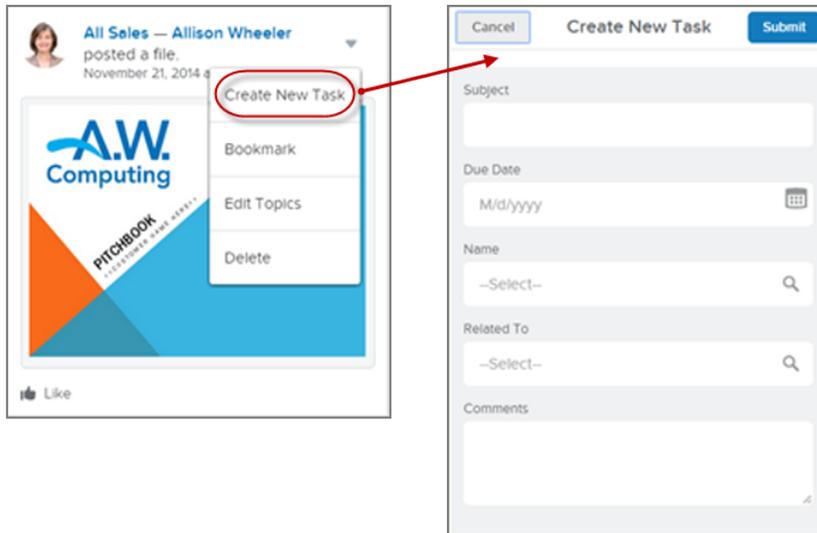
投稿からの ToDo の作成

投稿から ToDo を直接作成できる新しいアクションを使用してフィードを拡張します。Salesforce フルサイトで [新規ToDoの作成] アクションを有効化し、モバイルユーザが使用できるようにします。この機能を有効にすると、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのすべてのフィードおよび Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのレコードフィードでのみ使用できます。

このアクションの有効化についての詳細は、[新規ToDoアクションによるフィードの機能拡張](#) (ページ 191) を参照してください。[新規ToDoの作成] アクションは、テキスト投稿、コンテンツ投稿、リンク投稿でのみ使用できます。たとえば、レコード更新などのシステム生成された投稿から ToDo を作成することはできません。

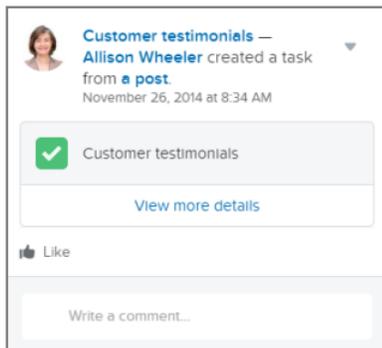
ユーザが、フィードで投稿を読んでいる、その投稿のフォローアップを望んでいるとします。[新規ToDoの作成] アクションを使用すると、追加の手順を実行してアクションバーから ToDo を作成するのではなく、その投稿から ToDo を直接作成できるようになりました。[新規ToDoの作成] アクションは、投稿のドロップダウンメニューに表示されます。

投稿のドロップダウンメニューに [新規ToDoを作成] アクションが含まれる投稿を次に示します。このアクションをタップすると、[新規ToDoの作成] ページが開きます。



ToDo を送信するために必要な ToDo 項目はありません。ToDo は、それを送信したユーザに割り当てられ、投稿に関連付けられます。

ユーザが ToDo を送信すると、ToDo がユーザのフィードに表示されます。



ToDo 名または [詳細を表示] をタップすると、ToDo の詳細ページが表示されます。元の投稿を表示するには、[投稿] をタップします。ToDo は、ユーザの [私の ToDo] リストにも表示されます。

Salesforce Today の他の主要情報を使用した日常業務の効果的な管理

営業担当が Salesforce Today を使用して日常業務を 1 か所で管理できるようにするため、目的の情報を見つけるのに Salesforce1 内を移動しなくても、より多くの主要情報が表示されるように Today のメインページが拡張されました。ユーザに直接関連する現在の Chatter 投稿、当日にミーティングを予定している取引先に関するニュース、最後にアクセスしたダッシュボードを表示できるようになりました。Today は、引き続き Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでのみ使用できます。

Today のメインページに、現在の行動、予定、私の ToDo、私の最近のレコード、自分宛てのフィード、取引先ニュース、ダッシュボードが、この順序で一連のカードに表示されるようになりました。

自分宛てのフィードカード

- このカードには、自分宛てのフィードから最大2個の最新の投稿が表示されるため、返答または対応を必要とする活動を一目で確認できます。
- 過去72時間以内の投稿のみが表示されます。自分宛てのフィードに含まれるすべての投稿がこれより古い場合、このカードは表示されません。
- 投稿の詳細を開くには投稿をタップし、ファイルまたはレコードにアクセスするには投稿内のリンクをタップします。[さらに表示]リンクをタップすると、自分宛てのフィードがすべて開きます。

取引先ニュースカード

- このカードには、取引先ニュースが組織で有効になっている場合に表示されます。当日にミーティングを予定している取引先に基づいて、ユーザに最も関連のあるニュース項目が強調表示されます。[さらに表示]リンクをタップすると、ユーザにとって最も重要な最大10件の取引先関連のニュース項目を含むリストが表示されます。表示されるニュース項目は、ユーザごとに異なります。
- 表示する取引先関連のニュース項目がない場合、このカードは表示されません。
- ニュース項目に使用されるソースおよびコンテンツの表示方法については、[取引先に関するニュースの表示](#) (ページ 85)を参照してください。このカードを組織で有効にするには、[取引先ニュースへのアクセスの設定](#) (ページ 86)を参照してください。

ダッシュボードカード

- ダッシュボードへのアクセス権限がユーザにある場合、このカードには、ユーザが最後にアクセスしたダッシュボードからの最初のグラフが表示されます。表示されるグラフはユーザのダッシュボード活動によって変わり、カードの表示ラベルには現在のダッシュボードの名前が常に表示されます。
- コンポーネントおよびそれに対応するレポートを開くには、グラフをタップします。[さらに表示]リンクをタップすると、ダッシュボード全体が開きます。
- ユーザがどのダッシュボードにも最近アクセスしていない場合、または最後に表示したダッシュボードが空の場合、このカードは表示されません。

Todayに加えられたいくつかの他の更新については、[Salesforce Todayのその他の機能強化](#) (ページ 101)を参照してください。

ダッシュボードの検索条件の使用

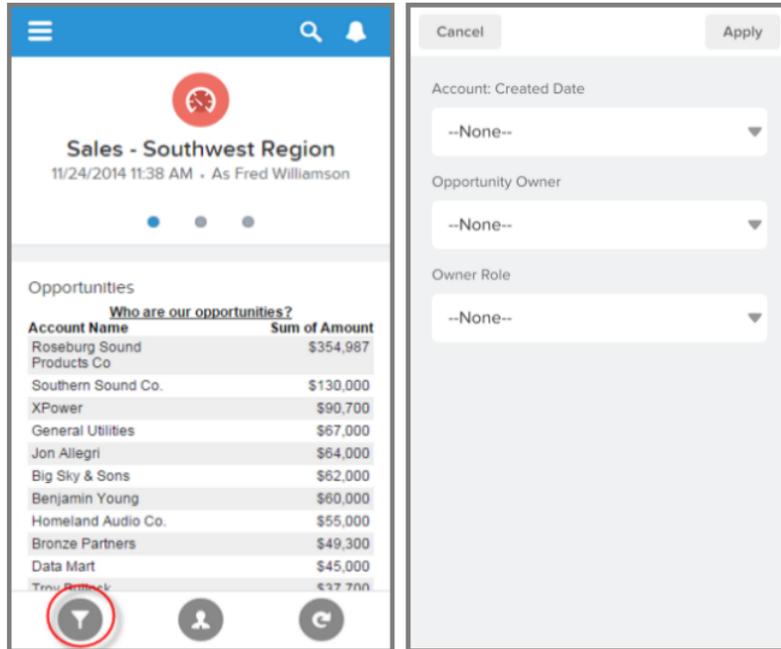
ダッシュボード検索条件により、1つのダッシュボードからさまざまなデータの組み合わせを簡単に得られます。すべての Salesforce1 ユーザが、以前に Salesforce フルサイトで設定されていたダッシュボード検索条件を表示および適用できるようになりました。

検索条件を適用するには、 をタップします。

エディション

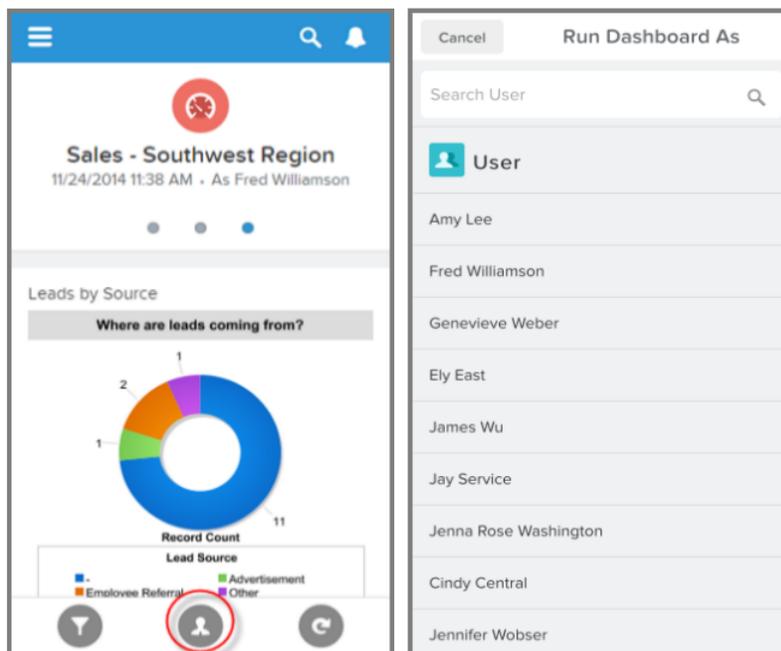
Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



動的ダッシュボードでの実行ユーザの指定

すべての Salesforce1 ユーザが、指定ユーザとして実行するよう設定された動的ダッシュボードで実行ユーザを選択できるようになりました。以前は、モバイルアプリケーションでデフォルトユーザを変更できませんでした。



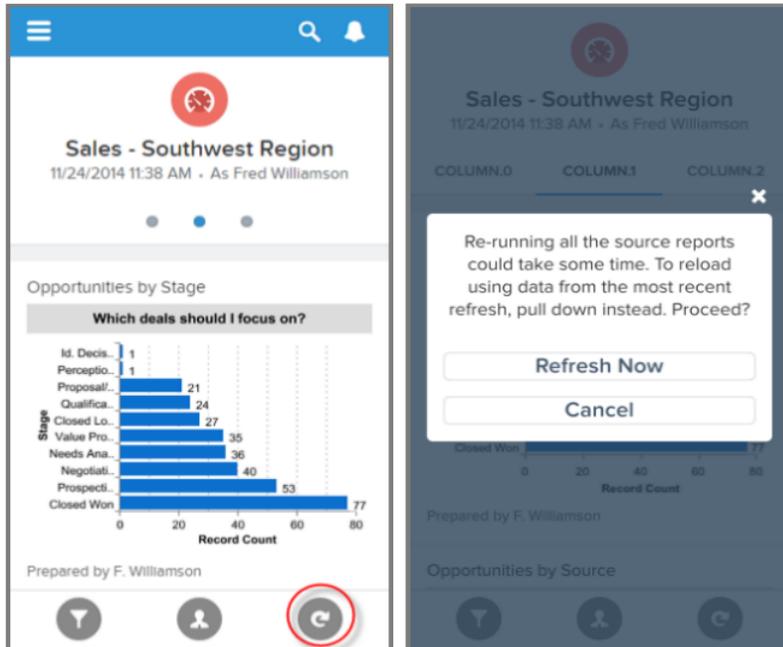
ユーザのアクセスレベルからダッシュボードを表示する実行ユーザを選択するには、 をタップします。

エディション

Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ダッシュボードのより簡単な更新

Salesforce1 アプリケーションで、2通りの方法でダッシュボードを更新できるようになりました。すべてのソースレポートを含む、ダッシュボードを再実行する新しいアクションが、アクションバーに追加されました。ただし、レポートの再実行には少し時間がかかることがあります。最新の更新データを使用してダッシュボードをすばやく再読み込みするには、ダッシュボードをプルダウンします。以前は、ダッシュボードの更新には、プルして更新する操作しか使用できませんでした。



ダッシュボードのすべての列の同時表示 (タブレットのみ)

タブレットでは、Salesforce1 ユーザーが最大3列をダッシュボードに同時に表示できるようになりました。以前は、各列が別のページに表示され、すべての列を表示するにはページ間をスワイプする必要がありました。各列を縦にスワイプすると、その列のコンポーネントが表示されます。タブレット用のダッシュボードは、バージョン7.0以降のSalesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションおよびSalesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。携帯電話では、引き続き一度に1列のみが表示されます。

エディション

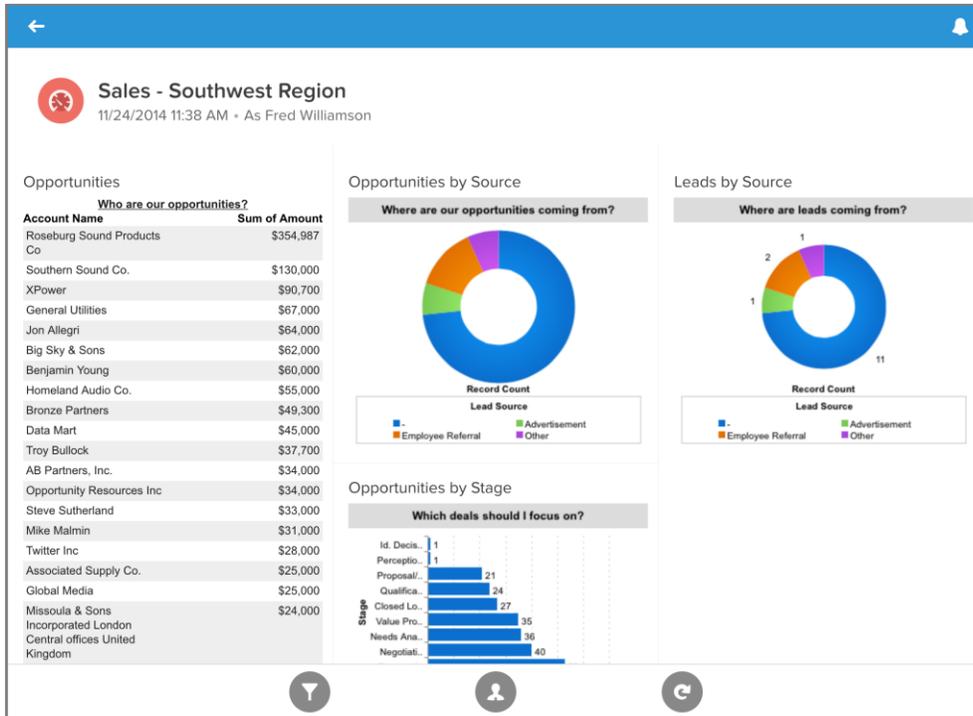
Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



レポートグラフへのすばやいアクセス (タブレットのみ)

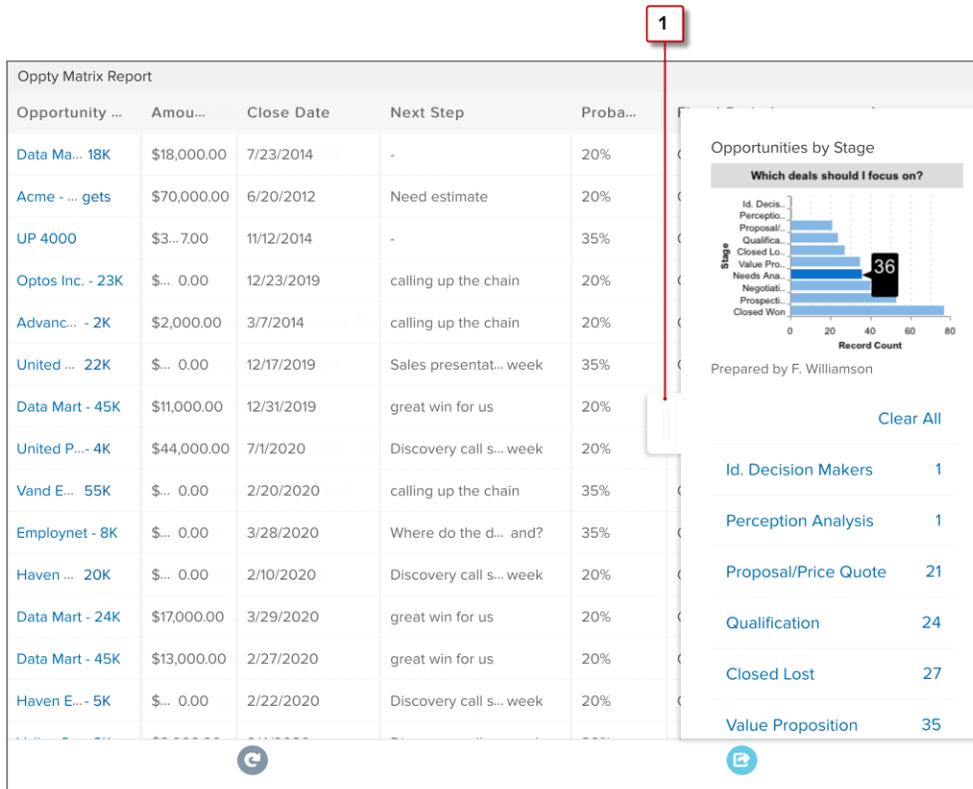
横方向のタブレットでユーザがダッシュボードコンポーネントにドリルダウンしてレポートにアクセスすると、スライドして開く新しいパネルにグラフが表示されますこの機能は、バージョン7.0以降のSalesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーションおよびSalesforce1 モバイルブラウザアプリケーションで使用できます。縦方向のタブレットを使用する場合、またはSalesforce1をスマートフォンで使用する場合は、引き続きグラフがレポート上部に表示されます。

レポートグラフにアクセスするには、ページの右側でパネルタブ (1) をタップします。

エディション

Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



グラフの値でレポートを絞り込むには、値をタップします。再度タップすると、フィルタが削除されます。複数の値で絞り込むには、グラフの下にあるグラフの凡例で複数のエントリをタップします。ただし、凡例を使用して絞り込むと、グラフに適用されたフィルタが上書きされます。絞り込まれたレポートは、並び替えることができます。グラフを非表示にするには、グラフをスワイプして閉じます。

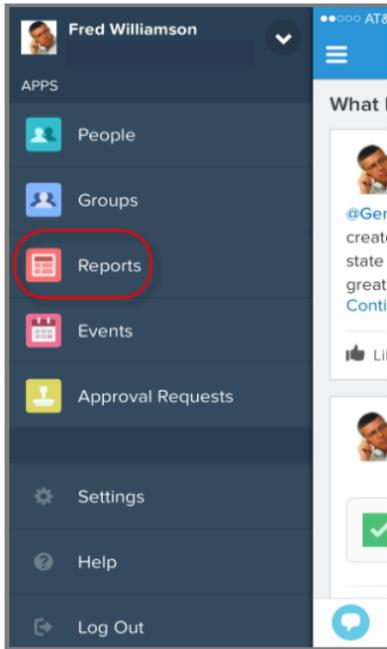
ナビゲーションメニューからの最近使ったレポートへのアクセス

Salesforce1 ナビゲーションメニューから、最近使ったレポートにアクセスできるようになりました。以前は、ダッシュボードからレポートにドリルダウンする必要がありました。[レポート]項目は、すべてのバージョンの Salesforce1 で使用できます。Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションでは、レポートが検索結果にも含まれるようになりました。

エディション

Salesforce1 レポートを使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



ナビゲーションメニューから使用できるのは、最近アクセスしたレポートのみです。他のレポートにアクセスするには、ダッシュボードからドリルダウンします。

すべてのレポートは表形式で表示され、レポートの最後にグループが列として追加されました。たとえば、業種および種別でグループ化されたサマリーレポートでは、これらの項目がレポートの最後の2列として表示されます。結合形式のレポートは表示されません。

Salesforce ナレッジの検索結果での昇格済み用語、強調表示、スニペットの表示

Salesforce1 での記事の検索結果に、昇格済み検索語、強調表示された検索語、関連テキストのスニペットが表示されるようになり、最も適切な記事をすばやく特定し、検索結果が検索語とどのように一致するかを確認できます。この機能強化は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

ナレッジマネージャは、キーワードの記事に関連付けることによって、検索結果で記事を昇格することができます。このようなキーワードを検索するエンドユーザには、関連付けられた記事が検索結果で最初に表示されます。昇格済み検索語は、エンドユーザの検索に特定のキーワードが含まれている場合に、よく使用される記事を昇格させてサポート問題を解決するのに役立ちます。

検索の強調表示とスニペットにより、特定の結果が検索クエリにどのように一致するかについて、エージェントおよびユーザにコンテキストが与えられます。関連テキストは、タイトルの下に表示され、検索語は太字で示されます。

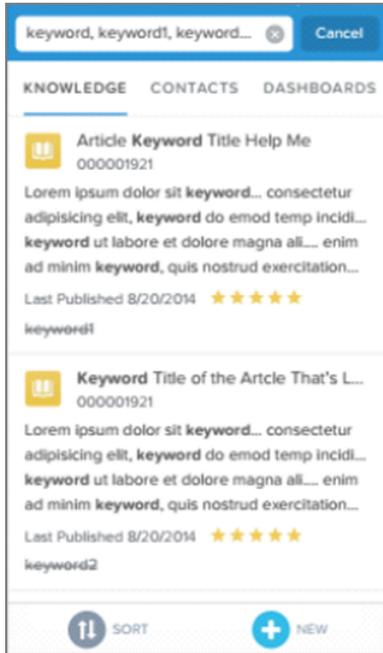
エディション

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション:

Performance Edition および **Developer Edition**

有料オプションで Salesforce ナレッジを使用可能なエディション:

Enterprise Edition および **Unlimited Edition**



一時停止中のすべてのフローインタビューを1か所で表示

フローを操作するユーザの場合、一時停止中のすべてのフローインタビューが Salesforce1 で一元的に表示され、外出中にインタビューを再開しやすくなりました。この機能は、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションでのみ使用できます。

フローは、ロジックの実行、Salesforce データベースの操作、Apex クラスのコール、画面を順に進んでデータの収集と更新を行える Cloud Flow Designer に組み込まれたアプリケーションです。たとえば、フローにより、ユーザが以前に携帯電話で行った選択内容に基づいて異なる質問を示すコールスクリプトをサポート担当に順を追って説明できます。これにより、サポート担当は、顧客がすでに所有している製品を販売することがなくなります。フローインタビューは、フローの実行中のインスタンスです。

一時停止中のインタビューを Salesforce1 で表示するには、ナビゲーションメニューから [フローインタビュー] を選択します。現在のユーザが一時停止したフローインタビューが、リストに表示されます。特定のインタビューをタップして詳細を表示してから、[再開] または [削除] をタップできます。ユーザが一時停止する前に入力した有効な値はインタビューにすべて保存されるため、再開するときにその情報を再入力する必要はありません。

デフォルトでは、[フローインタビュー] 項目が Salesforce1 ナビゲーションメニューに表示されます。この項目をナビゲーションメニューで表示する場所をカスタマイズできます。Salesforce フルサイトの [設定] から、[Salesforce1 の設定] > [モバイルナビゲーション] をクリックします。

関連トピック:

[Visual Workflow](#)

エディション

フローを使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、および **Developer Edition**

レポートに関するアプリケーション内通知の受信 (正式リリース)

モバイルユーザは、登録したレポートに関する Salesforce1 アプリケーション内通知を受信できるようになったため、最も関心のある総計値について最新の状態に保つことができます。たとえば、未解決の問題レポートを登録しているユーザは、未解決の問題が20個を超えるたびに通知されるよう選択できます。これらの通知は、すべてのバージョンの Salesforce1 アプリケーションで使用できます。

この通知を受信するには、Salesforce フルサイトでレポート通知を設定し、Salesforce1 通知種別を選択する必要があります。レポート通知の設定についての詳細は、[レポート通知の受信登録\(正式リリース\)](#)(ページ198)を参照してください。

Salesforce1 通知についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 通知の概要」を参照してください。

オンラインパフォーマンス向上のための Salesforce1 オフラインキャッシュの使用

Salesforce1 オフライン機能を使用すると、Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションユーザは、Salesforce に接続できなくても、最近アクセスしたレコードを引き続き参照できます。オンラインパフォーマンスほど明白ではありませんが、この機能は、ダウンロード可能アプリケーションの全体的なパフォーマンスを向上するのにも役立ちます。オフラインアクセスが有効になっていると、最近参照したデータが、各ユーザのモバイルデバイスで暗号化された永続キャッシュに保存されます。ダウンロード可能アプリケーションでは、デバイスがオンラインであってもこのキャッシュが使用されます。つまり、Salesforce1 では、Salesforce から頻繁にデータを取得する必要がないため、情報をより迅速に表示できます。

Salesforce フルサイトで Salesforce1 オフライン設定ページにアクセスし、[設定] から [Salesforce1 の設定] > [オフライン同期] をクリックします。このページの情報テキストは、この設定の役割を明白にするよう更新されています。また、このページのチェックボックスは [Salesforce1 のキャッシュを有効化] という名前に変更されました。

アクションバーへのカスタムブランドの適用の停止

Salesforce1 アプリケーションを会社のブランドのデザインに合わせてカスタマイズしても、ブランドの色要素によってアクションバーまたはアクションメニューアイコンが変更されなくなりました。アクションバーは、Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションおよび Salesforce1 ダウンロード可能アプリケーションのバージョン 7.0 以降で使用できます。

この変更により、ブランドの色として設定できる色に関して柔軟性が向上しました。以前は、ブランドの色として白を使用した場合、アクションメニューアイコン  の背景が白になるため、アクションバーの白い背景に対して「見えなく」なっていました。

Salesforce1 のその他の変更

Salesforce1 アプリケーションのその他の変更

デバイスおよびブラウザのサポート

Windows 8.1 タブレットでの Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションの使用

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションが、一部の Windows® タブレットで使用できるようになりました。アプリケーションは、Microsoft® Internet Explorer® 11 ブラウザで実行する必要があり、Windows 8.1 更新プログラムが実行されている Microsoft Surface 2 および Surface Pro 3 デバイスで使用できます。

サポートされていない旧バージョンの iOS モバイルデバイスからユーザを移行

Salesforce1 をより良い環境でご利用いただくため、以下に挙げる動作の遅い旧バージョンの iOS デバイスのサポートが停止されました。

- iPhone 4 および 4s
- iPad 2 および iPad 3
- iPad mini (初代)

当面の間は以上のデバイスで Salesforce1 をご利用いただくことは可能ですが、Salesforce では起こりうる問題のバグ修正や機能拡張などのサポートは行いません。古いデバイスをお持ちのユーザの皆様には、サポートされているスマートフォンまたはタブレットにすみやかにアップグレードいただくことをおすすめいたします。数ヶ月中に iOS7 のサポートが停止されると、古いデバイスで Salesforce1 をご利用いただくことはできなくなります。サポートされているデバイスのリストは、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 アプリケーションの使用の要件」をご覧ください。

データおよびナビゲーションで使用可能なその他の機能強化

デフォルトの Salesforce1 ナビゲーションメニューで項目を異なる配置で表示

新しい組織のナビゲーションメニューのデフォルトの配置が変更されました。フィード、Today、ダッシュボード、ToDo、メモ、スマート検索項目、人、グループ、レポート、行動、承認の順で、これらの項目がすべての Salesforce1 アプリケーションに自動的に含まれます。Spring '15 より前の組織では、この変更による影響はありません。ナビゲーションメニューを変更する場合は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 ナビゲーションメニューのカスタマイズ」を参照してください。

Chatter その他の機能強化

タブレットでコメントをすばやく参照

Salesforce1 をタブレットで使用する場合、投稿のすべてのコメントがインラインで表示されるため、投稿を開いてすべての会話を表示する必要はありません。投稿のタイムスタンプをタップすると、投稿およびそのすべてのコメントの展開ビューを引き続き表示できます。インラインコメントは、モバイルブラウザアプリケーションのすべてのフィードおよび iOS タブレットのダウンロード可能アプリケーションのレコードフィードでのみ使用できます。この機能は、Android デバイスのダウンロード可能アプリケーションでは使用できません。

フィード投稿のトピックを追加または削除

Salesforce1 ユーザが、Salesforce フルサイトと同様に、既存のフィード投稿でトピックのリストを編集できるようになりました。投稿またはコメントで ▼ をタップします。スマートフォンで作業しているユーザは、まず投稿の展開ビューを開く必要があります。この機能は、モバイルブラウザアプリケーションのすべてのフィードおよびダウンロード可能アプリケーションのレコードフィードでのみ使用できます。

プロフィール写真の表示を制御

モバイルブラウザアプリケーションおよび Android デバイスのダウンロード可能アプリケーションのユーザーは、自分の写真をゲストユーザーの前(アップロードした写真のすぐ下)に表示するかどうかを指定できます。この設定は、公開コミュニティなど、ライセンスのないゲストユーザーに対して写真を非表示にするのに便利です。

グループを活動順に並び替えてグループリストビューに表示

グループリストビューに、グループが利用状況順に表示されるようになりました。最後に使用したグループが、リストの先頭に表示されます。以前は、グループがアルファベット順に表示されていました。この機能強化は、すべての Salesforce1 アプリケーションで使用できます。

メンバーのプロフィール写真をグループメンバーリストに表示

グループメンバーリストに、グループメンバーのプロフィール写真が表示されるようになりました。以前のリリースでは、グループメンバー名のみが表示されていました。この機能強化は、すべての Salesforce1 アプリケーションで使用できます。

グループの [特長] 領域からのグループへの参加または参加要求

[グループに参加] および [参加を要請] ボタンが、グループ詳細ページからグループ上部の [特長] 領域に移動し、グループに簡単に参加できるようになりました。この機能強化は、すべての Salesforce1 アプリケーションで使用できます。

検索のその他の機能強化

人およびグループについて関連性の高い検索結果を表示

Spring '15 より前のリリースでは、Salesforce1 で返される検索結果は、名前が検索語で始まる人またはグループでした。検索対象となるのは [名前] 項目のみでした。すべてのバージョンの Salesforce1 アプリケーションで、これらのオブジェクトの任意の項目内ですべての単語が含まれる人およびグループが検索されるようになりました。ただし、[名前] 項目での一致は、他の一致項目より関連性が高いとして順位付けられません。

たとえば、「*customer support*」を検索すると、「Customer Support」という名前のグループと、グループの説明が「We support our customers」というグループが検索結果に表示されます。

グループフィードの検索

すべての Salesforce1 ユーザーが、グループフィードを検索して、グループ内の投稿、コメント、ファイルをすばやく見つけることができるようになりました。

リレーションおよびデータ管理のその他の機能強化

さらに多くのコーチング機能へのアクセス

すべての Salesforce1 ユーザーが、コーチングリレーションの編集、非公開メモの表示、コーチングに関連する目標総計値の表示など、Salesforce フルサイトで使用できるすべての Work.com コーチング機能にアクセスできるようになりました。

Salesforce Today のその他の機能強化

Today で更新情報を必要に応じて取得

ユーザーがナビゲーションメニューからアクセスするたびに、すべての Today カードが更新されます。ただし、ユーザーが(たとえば、行動を開き、投稿、ダッシュボード、ToDo、他のレコードに切り替えることによ

り) Today を離れてから  を使用して戻ったり、Today の表示情報に影響するアクション (新規 ToDo の作成など) を行った場合、カードは自動的に更新されません。これで、「プルして更新」操作を行って、Today ページの情報を必要に応じて更新できるようになりました。

更新情報をモバイルのカレンダーの行動にも表示するには、「プルして更新」操作を使用します。

Today でさらに多くのアクションを実行

バージョン 7.0 以降のダウンロード可能アプリケーションでは、Today のメインページでアクションバーを使用できるようになりました。使用できるアクションのセットは、グローバルパブリッシャーレイアウトで定義されたものです。

Today カードを 2 列に表示 (タブレットのみ)

iOS タブレットのバージョン 7.0 以降のダウンロード可能アプリケーションを使用している場合、Today カードが 2 列で表示されるため、スクロールせずに多くの情報を表示できます。この機能強化は、Android デバイスのダウンロード可能アプリケーションでは使用できません。

Today での天気情報の表示を停止

Today のパフォーマンスを向上するため、天気情報がアプリケーションから削除されました。

Salesforce1 と Salesforce フルサイトとの違い

Salesforce1 アプリケーションには Salesforce フルサイトのすべての機能はありません。また、フルサイトでは使用できない機能がいくつかあります。

Spring '15 で導入または更新された機能については、次の領域に相違点があります。

- [Chatter の質問](#)
- [重複管理](#)
- [Salesforce1 レポート](#)

Salesforce1 の Salesforce 機能の相違点についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce1 の制限と Salesforce フルサイトとの違い」を参照してください。

Chatter の質問を使用する場合の相違点

- Salesforce1 では、ユーザが質問をするときに類似する質問およびナレッジ記事は表示されません。
- Salesforce1 ユーザが質問のアクションドロップダウンメニューにアクセスするには、質問をタップする必要があります。

重複管理の相違点 (正式リリース)

- 重複の可能性があるたびに「重複カード」に表示されます。Salesforce1 では、さらに重複の可能性があったとしても、表示されるのは最大 30 件 (オブジェクトあたり 10 件) です。以前は、Salesforce1 で最大 15 件の重複が表示されると記載されていました。

Salesforce1 レポートを使用する場合の相違点

- レポートグラフは使用できません。
- 3 個を超えるチェックボックス項目を含むレポートにはドリルインできません。

- 最近のレポートを表示する場合、サマリーレポート、マトリックスレポート、表形式レポートは表示されますが、結合レポートは表示されません。
- フルサイトと同様に、Salesforce1 ユーザはロール階層内のユーザとしてのみダッシュボードを実行できます。ただし、Salesforce1 では、組織内のすべてのユーザから選択できます。ロール階層外のユーザを選択すると、エラーが発生します。

Salesforce1 アプリケーション開発の概要

Salesforce1 の開発をサポートする Force.com プラットフォームにいくつかの機能強化があります。

- [Lightning ページ](#)
- [Visualforce](#)
- [クイックアクションの名前および表示ラベルの変更](#)
- [フィールドのアクションリンク](#)
- [API のサポート](#)

Lightning ページ

Salesforce ドキュメントとユーザインターフェース全体で、フレキシブルページの名前が「*Lightning* ページ」に変更されました。ただし、API では引き続き FlexiPage が使用されます。

Visualforce

Visualforce には、モバイルで使いやすく、Salesforce1 アプリケーションに対応している 2 つの新しいマッピングコンポーネントがあります。これらのコンポーネントを使用すると、わずか 10 行のコードで位置情報に基づくデータをマップに簡単に表示できます。詳細は、[場所データをより明確に表示するための Visualforce 地図コンポーネントの使用](#) (ページ 259) を参照してください。

受け入れられるパラメータ値についてわずかな変更を `sforce.one.navigateToRelatedList()` 関数に適用しました。詳細は、[sforce.one.navigateToRelatedList\(\) のパラメータ値の変更](#) (ページ 261) を参照してください。

クイックアクションの名前および表示ラベルの変更

ドキュメント、Salesforce、Salesforce1 ユーザインターフェースで一部のアクション種別の名前が変更され、アクション種別を正確に説明する用語が表示されるようになりました。これらの変更およびその影響についての詳細は、[アクション用語の変更](#) (ページ 202) を参照してください。

- パブリッシャーアクションがクイックアクションになりました。
- レコードアクションおよびアンカーアクションが生産性アクションになりました。

一部のクイックアクションのボタンは、以前は[登録]という表示ラベルでした。これらのボタンの表示ラベルは[保存]に変更されました。

フィードのアクションリンク

アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別のWebページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、Salesforce または外部サーバへの API コールを呼び出したりできます。アクションリンクには、URL と HTTP メソッドが含まれ、リクエストボディとヘッダー情報 (認証用の OAuth トークンなど) を含めることができます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。

アクションリンクは、[Apex](#) (ページ 277) および [Chatter REST API](#) (ページ 315) で使用できます。

API のサポート

Force.com API では、Salesforce1 の開発がサポートされています。別途記載がない限り、Salesforce1 開発のこれらの機能強化は、API バージョン 33.0 で使用できます。

オブジェクト

PlatformAction オブジェクトが、REST API、SOAP API、SOQL クエリで使用できるようになりました。PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトで、ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコード ID に応じて、UI に表示するアクション (標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなど) をクエリできるようにします。

ListviewChart オブジェクトは、タブレットで Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションが使用されている場合にリストビューに表示される画像グラフを表します。グラフでは、現在表示されているリストビューに基づいて絞り込まれたデータが集計されます。

詳細は、[API](#) (ページ 303) を参照してください。

Chatter REST API

おすすめ定義リソースでは、コミュニティフィードに表示されるカスタムおすすめを作成できます。これらのリソースは、おすすめ定義の情報取得、作成、変更、削除に使用します。また、これらのリソースを使用して、おすすめ定義写真の情報取得、アップロード、変更、削除を行うこともできます。詳細は、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「おすすめ定義リソース」を参照してください。

スケジュール済みおすすめ定義リソースでは、スケジュール済みおすすめに関する情報が返され、スケジュール済みおすすめを作成、更新、削除できます。『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「スケジュール済みおすすめリソース」を参照してください。

コミュニティ: 簡単な設定とブランド設定、質問-to-ケース

Spring '15 でのコミュニティの主要な機能強化として、コミュニティ設定の簡略化、コミュニティ管理設計の改善、コミュニティビルダーの機能の追加、および Napili セルフサービスコミュニティテンプレートの機能の追加が行われています。

このセクションの内容:

コミュニティ管理

Spring '15 では、以前は [設定] からアクセスしていた [コミュニティ管理] ページに機能が追加され、コミュニティ設定に基づいた動的なナビゲーションが可能となり、新しい [概要] ページも提供されました。

コミュニティビルダー

コミュニティのデザインを簡略化し、1つのインターフェースからページをさらにカスタマイズできるようにするため、コミュニティビルダーが拡張されました。

コミュニティテンプレート

セキュリティ用の reCAPTCHA、評価リーダーボード、ログインユーザが個人設定を更新できるユーザ設定ビューなどの新機能が追加され、コミュニティテンプレートが強化されました。

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザ向けのダッシュボードの更新

Spring '15 では、外部ユーザがコミュニティダッシュボードを操作しやすくするための改善が加えられました。

質問-to-ケースで回答をすばやく取得 (正式リリース)

コミュニティを構築する場合、ユーザの質問にスピーディに回答できるようにすることは重要です。質問-to-ケースにより、モデレータが簡単なプロセスに従って Chatter の質問からケースを作成でき、コミュニティの質問が効率的に解決されるようになりました。

コミュニティメンバーによる外部システムに対する独自の認証設定の管理の有効化

ユーザごとの認証に使用する外部データソースと指定ログイン情報にアクセスする場合、ユーザが独自の認証設定を管理できるようになったため、システム管理者が管理する必要はなくなりました。

コミュニティのその他の変更

コミュニティに加えられたその他の重要な変更には、ユーザが評価ポイントを獲得する新しいアクション、コミュニティのお知らせメールの変更、投稿からトピックを追加および削除する機能などがあります。

関連トピック:

[コミュニティ機能が使用可能になる方法と状況](#)

コミュニティ管理

Spring '15 では、以前は [設定] からアクセスしていた [コミュニティ管理] ページに機能が追加され、コミュニティ設定に基づいた動的なナビゲーションが可能となり、新しい [概要] ページも提供されました。

このセクションの内容:

[設定] からコミュニティ管理に移動した管理設定

コミュニティ管理で、コミュニティを一元的に設定および管理できるようになりました。この設定の統合により、コミュニティのシステム管理者およびマネージャが、1か所で作業しやすくなりました。

コミュニティ管理設定の更新のために必須となったコミュニティメンバーシップ

コミュニティ管理でコミュニティの管理設定を更新する場合、「コミュニティの作成および設定」権限が必要であり、そのコミュニティのメンバーである必要もあります。

コミュニティ管理の動的ナビゲーションで関連するコミュニティ設定のみを表示

[コミュニティ管理] ページには、コミュニティテンプレート、権限、設定に基づいて、コミュニティに関連するカスタマイズオプションが動的に表示されます。そのため、表示されるのは必要な情報のみです。

コミュニティ管理でのコミュニティテンプレートの直接変更

コミュニティの要件が当初の設定から変化した場合は、コミュニティテンプレートを変更します。

[コミュニティ管理]でのフラグ付きファイルの直接モデレート

[コミュニティ管理]で、コミュニティメンバーが不適切とフラグ付けしたファイルを一覧表示する[フラグ付きファイル]リストを確認して、対応策を実行できます。APIの使用に限定されなくなりました。

コミュニティのトピックの管理

コミュニティのトピック数が増えるにつれ、使いやすいように効率的にまとめることが求められます。トピックを任意の1か所で作成およびマージできるようになりました。

コミュニティのトピック名の翻訳(ベータ)

ナビゲーショントピックや主要トピックに言語固有の一意の名前を指定して、コミュニティの国際バージョンの操作性をカスタマイズします。

簡略化されたログインおよびセルフ登録オプション

コミュニティのログイン、ログアウト、およびセルフ登録のオプションを簡単に設定できるようになりました。

セルフ登録ユーザの個人アカウントの作成

デフォルトでは、すべてのセルフ登録ユーザは連絡先として単一の企業アカウントに割り当てられます。個人との取引がほとんどでユーザを個人として追跡することが望ましい場合、各セルフ登録ユーザを個人アカウントに割り当てることができるようになりました。

[設定]からコミュニティ管理に移動した管理設定

コミュニティ管理で、コミュニティを一元的に設定および管理できるようになりました。この設定の統合により、コミュニティのシステム管理者およびマネージャが、1か所で作業しやすくなりました。

コミュニティ管理に移動した管理設定

コミュニティの管理設定オプションが、コミュニティ管理に移動しました。つまり、コミュニティの管理設定をカスタマイズする必要があるユーザは、[コミュニティのメンバーである必要があります](#)。以前は、[設定]の[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[すべてのコミュニティ]から、管理設定にアクセスしていました。

コミュニティ管理に、次のいずれかの方法でアクセスできるようになりました。

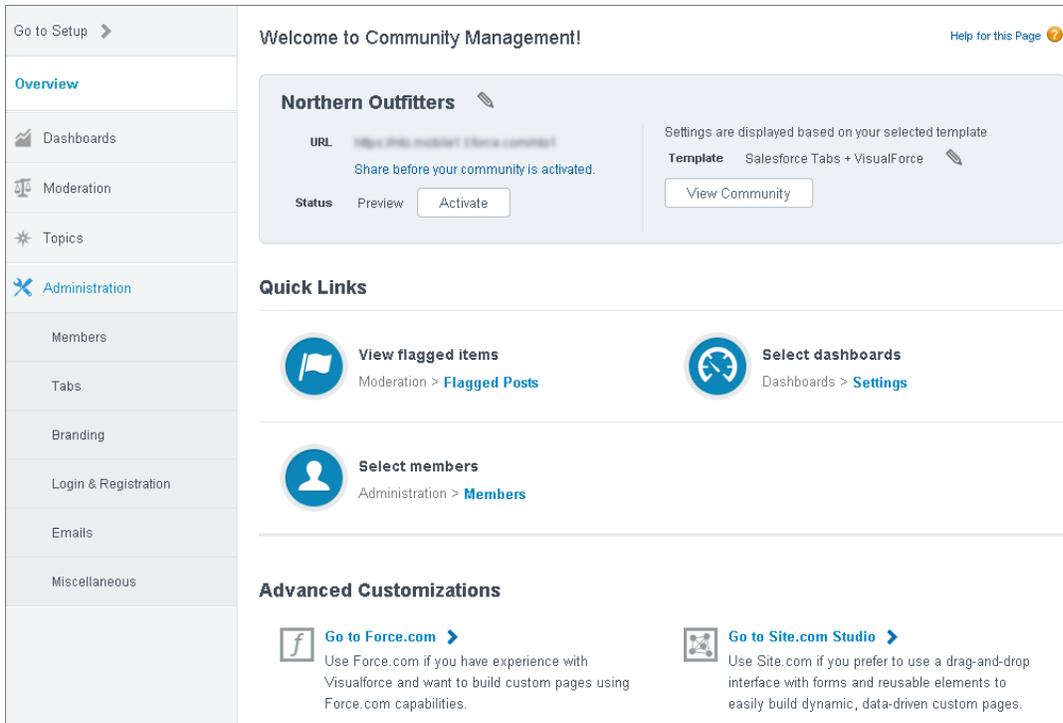
- コミュニティから、グローバルヘッダーの  をクリックします。
- [設定]から、[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[すべてのコミュニティ]をクリックし、コミュニティ名の横にある[管理]をクリックします。

新しい概要ページ

コミュニティ管理に、コミュニティの基本設定を更新するために使用できる概要ページが表示されるようになりました。また、以前は[設定]の[管理設定]で使用可能であった一部の設定も、概要ページに表示されるようになりました。概要ページを使用して、次のことができます。

- コミュニティの名前、説明、URLを編集する
- コミュニティの状況を管理する
- [コミュニティテンプレートを変更する](#)
- [クイックリンク]セクションから、フラグ設定された項目、ダッシュボード、メンバーの設定にアクセスする

- [高度なカスタマイズ] セクションから、コミュニティの Visualforce、Site.com、コミュニティビルダーのページにアクセスする
-  **メモ:** 概要ページには、コミュニティの設定および権限に基づいて、高度なカスタマイズとクイックリンクが表示されます。



The screenshot shows the 'Welcome to Community Management!' page for a community named 'Northern Outfitters'. The left sidebar contains navigation options: Overview, Dashboards, Moderation, Topics, Administration, Members, Tabs, Branding, Login & Registration, Emails, and Miscellaneous. The main content area includes:

- Community Overview:** Shows the URL, a note to 'Share before your community is activated.', and a status switch set to 'Preview' (with an 'Activate' button). A 'View Community' button is also present.
- Quick Links:** Three links with icons: 'View flagged items' (Moderation > Flagged Posts), 'Select dashboards' (Dashboards > Settings), and 'Select members' (Administration > Members).
- Advanced Customizations:** Two options: 'Go to Force.com' (for users with Visualforce experience) and 'Go to Site.com Studio' (for users preferring a drag-and-drop interface).

コミュニティ管理のその他の変更

コミュニティの状況の名前変更

以前のコミュニティの状況は、[プレビュー]、[公開済み]、[オフライン]でした。これらの状況が、[プレビュー]、[有効]、[無効]になりました。ボタンをクリックして、コミュニティを有効化または無効化できるようになりました。

コミュニティ管理設定の更新のために必須となったコミュニティメンバーシップ

コミュニティ管理でコミュニティの管理設定を更新する場合、「コミュニティの作成および設定」権限が必要であり、そのコミュニティのメンバーである必要もあります。

以前は [設定] にあった管理設定がコミュニティ管理に移動されたため、アクセスしようとする [コミュニティ管理] ページのコミュニティのメンバーである必要があります。この移動により、コミュニティの管理を1か所でできるようになりました。

「コミュニティの作成および設定」権限を持つユーザは、コミュニティのメンバーでなくても、API を使用してそのコミュニティの管理設定を引き続き変更できます。

- 📌 **メモ:** 「コミュニティの管理」権限を持つユーザは、コミュニティのメンバーでなくても、コミュニティ管理に引き続きアクセスできますが、管理設定は表示されません。

コミュニティ管理の動的ナビゲーションで関連するコミュニティ設定のみを表示

[コミュニティ管理] ページには、コミュニティテンプレート、権限、設定に基づいて、コミュニティに関連するカスタマイズオプションが動的に表示されます。そのため、表示されるのは必要な情報のみです。

つまり、コミュニティをカスタマイズするときに、左側のナビゲーションとそれらのページで使用できるオプションが動的に更新され、使用可能な関連するカスタマイズオプションのみが表示されます。たとえば、ID テンプレートを使用している場合は、トピック、おすすめ、評価、モデレーションの各ノードは表示されません。

動的ナビゲーションを上書きして、使用可能かどうかに関係なく、代わりにすべてのコミュニティ設定を表示するには、[管理] > [その他] > [コミュニティ管理のすべての設定を表示] を選択します。

コミュニティ管理でのコミュニティテンプレートの直接変更

コミュニティの要件が当初の設定から変化した場合は、コミュニティテンプレートを変更します。

- 💡 **ヒント:** テンプレートを変更してもデータが失われることはありませんが、以下の手順を実行する前に、『Salesforce Communities 実装ガイド』の「コミュニティテンプレートを変更する場合の考慮事項」を確認してください。

コミュニティがすでに有効である場合に、テンプレートを Salesforce タブ + Visualforce テンプレートからコミュニティビルダーベースのテンプレートに変更するか、コミュニティビルダーベースのテンプレートから別のコミュニティビルダーベースのテンプレートに変更すると、コミュニティビルダーでさらにカスタマイズ可能なドラフトバージョンで、テンプレートに加えた変更が保存されます。有効なコミュニティを更新する前に、コミュニティビルダーで変更を公開する必要があります。

コミュニティがすでに有効である場合に、テンプレートをコミュニティビルダーベースのテンプレートから Salesforce タブ + Visualforce テンプレートに変更すると、有効なコミュニティがすぐに更新されます。この場合は、まずコミュニティを無効にすることをお勧めします。すべての変更が完了してから、再度有効にすることができます。

テンプレートが [なし] と表示される場合は、定義済みのコミュニティビルダーベースのテンプレートを使用していないか、コミュニティビルダーベースのテンプレートを変更したことを示します。

コミュニティビルダーベースのテンプレートを使用している場合にテンプレートをカスタマイズすると、コミュニティビルダーでドラフトモードになっているテンプレートの名前が概要ページに表示されます。変更内容をコミュニティビルダーで公開する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。

1. 次のいずれかの方法で、コミュニティ管理にアクセスします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、有効化する

- 「コミュニティの作成および設定」

および

アクセスしようとする
 [コミュニティ管理]
 ページのコミュニティ
 メンバーである

- コミュニティから、グローバルヘッダーの  をクリックします。
 - [設定] から、[カスタマイズ]>[コミュニティ]>[すべてのコミュニティ]をクリックし、コミュニティ名の横にある [管理] をクリックします。
2. 現在選択されている [テンプレート] の横にある概要ページで、 をクリックしてテンプレートの選択を変更します。
 3. コミュニティのニーズに合わせてテンプレートを選択します。
Kokua、Koa、および Napili テンプレートの使用についての詳細は、[『Community Templates for Self-Service Implementation Guide』](#) を参照してください。
Aloha テンプレートの使用についての詳細は、[『Identity 実装ガイド』](#) を参照してください。
 4. プロンプトが表示されたら、[テンプレートを変更] を選択して変更を確認します。

[コミュニティ管理] でのフラグ付きファイルの直接モデレート

[コミュニティ管理] で、コミュニティメンバーが不適切とフラグ付けしたファイルを一覧表示する [フラグ付きファイル] リストを確認して、対応策を実行できます。API の使用に限定されなくなりました。

「コミュニティファイルのモデレート」権限を持つすべてのコミュニティマネージャが、[モデレーション]>[フラグ付きファイル] で [フラグ付きファイル] リストを参照し、フラグ付き項目に対応策を実行できるようになりました。コミュニティマネージャは、[コミュニティ管理] ページから直接フラグを削除したり、ファイルを削除したりできます。引き続き API を使用してフラグ付きファイルをモデレートすることも可能です。

コミュニティのトピックの管理

コミュニティのトピック数が増えるにつれ、使いやすいように効率的にまとめることが求められます。トピックを任意の1か所で作成およびマージできるようになりました。

[コミュニティ管理]で、[トピック]>[トピック管理]をクリックします。詳細は、[オンラインヘルプ](#)を参照してください (Spring '15 のリリース時に使用可能になります)。

- ☑ **メモ:** トピックのマージはベータ版で、既知の制限があります。フィード項目やレコードの割り当てはマージされますが、トピックのフォローや支持データはマージされません。[IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

コミュニティのトピック名の翻訳 (ベータ)

ナビゲーショントピックや主要トピックに言語固有の一意の名前を指定して、コミュニティの国際バージョンの操作性をカスタマイズします。

- ☑ **メモ:** トピック翻訳はベータ版で、既知の制限があります。[IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

1. [設定]で、[トランスレーションワークベンチ]>[翻訳]をクリックします。
2. 翻訳する [言語] を選択します。
3. [設定コンポーネント] の [管理トピック] を選択します。
4. [コミュニティ名] 列で、コミュニティを展開してその主トピック名を表示します。
5. [トピック名の翻訳] 列をダブルクリックして、ナビゲーショントピックや主要トピックの言語固有の名前を入力します (これらのトピック名のみが翻訳されます)。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

[コミュニティ管理] ページ
にアクセスする

- 「コミュニティの管理」

または

「コミュニティの作成
および設定」

トピックを作成または
マージする

- 「トピックの作成」

または

「トピックのマージ」

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

語句を翻訳する

- 「設定・定義を参照する」

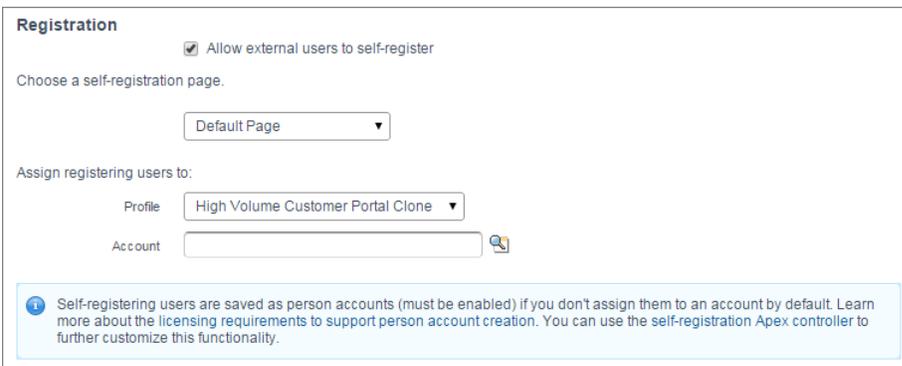
および

翻訳者として指定されていること

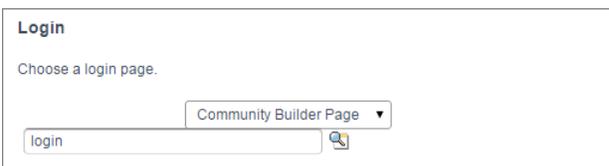
簡略化されたログインおよびセルフ登録オプション

コミュニティのログイン、ログアウト、およびセルフ登録のオプションを簡単に設定できるようになりました。

- セルフ登録ユーザを割り当てるデフォルトのプロファイルおよびアカウントを [コミュニティ管理] で直接指定します。この操作は、[ログイン&登録] ページの [管理] で実行できます。セルフ登録を設定するためにセルフ登録 Apex コントローラを更新する必要がなくなりましたが、このコントローラを使用してセルフ登録の操作をカスタマイズすることは可能です。ただし、過去にセルフ登録 Apex コントローラを設定している場合は、これらの設定によって、[コミュニティ管理] の UI を使用して指定した設定が上書きされます。



- コミュニティのログインページやセルフ登録ページを [コミュニティ管理] で直接検索して割り当てます。コミュニティに付随するデフォルトページ、カスタムのコミュニティビルダーページ、カスタムの Visualforce ページの中から選択できます。カスタムページの場合は、コミュニティで使用するページに選択する前にそのページを作成して公開する必要があります。



- セルフ登録ユーザの個人アカウントは自動的に作成できます。

セルフ登録ユーザの個人アカウントの作成

デフォルトでは、すべてのセルフ登録ユーザは連絡先として単一の企業アカウントに割り当てられます。個人との取引がほとんどでユーザを個人として追跡することが望ましい場合、各セルフ登録ユーザを個人アカウントに割り当てることができるようになりました。

そのためには、コミュニティの個人アカウントを有効にしておき、セルフ登録オプションの [アカウント] 項目を空白のままにします。Salesforce によってセルフ登録ユーザごとに個別の個人アカウントが作成されます。ユーザに割り当てるデフォルトのプロファイルを指定する必要があります。セルフ登録 Apex コントローラを使用してこの機能をさらにカスタマイズできますが、必須ではありません。

Assign registering users to:

Profile:

Account:

Self-registering users are saved as person accounts (must be enabled) if you don't assign them to an account by default. Learn more about the licensing requirements to support person account creation. You can use the self-registration Apex controller to further customize this functionality.

セルフ登録ユーザの個人アカウントの作成は、カスタマーコミュニティおよびカスタマーコミュニティプラスライセンスでのみサポートされています。

コミュニティビルダー

コミュニティのデザインを簡略化し、1つのインターフェースからページをさらにカスタマイズできるようにするため、コミュニティビルダーが拡張されました。

このセクションの内容:

高度なウィザードを使用したコミュニティ作成の合理化

コミュニティ作成用に強化されたウィザードを使用して、コミュニティのカスタマイズを促進します。5個のテンプレートから1つを選択してコミュニティに適用するように促す指示に従って、[設定]からコミュニティを作成します。テンプレートおよびコミュニティのプロパティを1か所で定義してから、新しく拡張されたコミュニティビルダーを使用して、コミュニティの設計と整理を完了します。Site.com Studioに戻る必要はありません。

コミュニティビルダーでのページの編集

コミュニティのブランド設定とデザインをすべて1か所でできるようになりました。コミュニティビルダーの新しいページエディタおよび関連するプロパティエディタを使用して、コミュニティのページを完全にカスタマイズできます。ページ要素の選択と編集をシームレスに行い、変更内容をプレビューしてから公開します。

ポップアウトプレビューを使用した設計変更のプレビュー

コミュニティビルダーの新しいプレビュー機能を使用して、設計したばかりのコミュニティを顧客の視点で確認します。コミュニティを編集途中のウィンドウでプレビューして、作業しながら変更を確認します。新しいポップアウトボタンを使用すると、別のタブに顧客に表示されるものと同じ形でコミュニティが表示されます。

コミュニティ内の任意のページへの移動

機能強化されたコミュニティビルダーツールバーからコミュニティ内の任意のページに直接ジャンプします。コミュニティビルダーの拡張されたナビゲーション機能では、コミュニティのどの領域も1か所からカスタマイズできるため、コミュニティのいずれかのページをスタイル設定やプレビューするためにコミュニティビルダーを離れる必要がありません。

機能強化されたブランド設定と使用した色とスタイルとの厳密な一致

コミュニティビルダーの機能強化されたブランドエディタを使用して、思い通りの配色やスタイルを効率的にコミュニティに適用します。新しいカラーパレットで配色を選択すると、一連の色がコミュニティにすぐさま適用されます。独自のロゴからカスタムカラーパレットを作成することも可能です。さらに、新しいフォントの太さやスタイルのオプションで、テキスト要素を区別できます。

コミュニティビルダーからのテンプレートの更新

コミュニティビルダーを使用して、コミュニティのテンプレートの新バージョンを確認して適用します。テンプレートを更新しても現在のブランド設定は維持され、旧バージョンのテンプレートを適用したコミュニティのコピーが保存されます。このため、コミュニティのスタイル設定や機能が最新のものになる一方で、以前のバージョンのテンプレートに戻すことが可能になります。

高度なウィザードを使用したコミュニティ作成の合理化

コミュニティ作成用に強化されたウィザードを使用して、コミュニティのカスタマイズを促進します。5個のテンプレートから1つを選択してコミュニティに適用するように促す指示に従って、[設定]からコミュニティを作成します。テンプレートおよびコミュニティのプロパティを1か所で定義してから、新しく拡張されたコミュニティビルダーを使用して、コミュニティの設計と整理を完了します。Site.com Studioに戻る必要はありません。

コミュニティビルダーは、3つの応答性の高いセルフサービステンプレートと1つのアプリケーションランチャーテンプレート、およびVisualforceを使用してカスタマイズするために標準化された1つの構造と連動します。

セルフサービステンプレート (Koa, Kokua, Napili) では、顧客がナレッジ記事に簡単にアクセスできるようにするセルフサービスコミュニティを作成できます。

アプリケーションランチャーテンプレート (Aloha) では、独自のアプリケーションランチャーなどの Salesforce ID 機能をコミュニティユーザに提供します。アプリケーションランチャーでは、1つのビューでSalesforceやその他のサービスプロバイダから便利なアプリケーションにシングルサインオンでアクセスできます。

Salesforce タブ + Visualforce オプションでは、Visualforce を使用して、Spring '15 より前のリリースと同じ要領で、標準化された構造をカスタマイズします。

[すべてのコミュニティ]リストの上にある[新規コミュニティ]をクリックして、[設定]からコミュニティを作成します。ウィザードでテンプレートの選択が求められ、テンプレートのプロパティの指定が順を追って指示されます(該当する場合)。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

[Site.com

Publisher ユーザ]

項目をユーザ詳細ページで有効化

および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者
またはデザイナーロール

Choose a Template

Template Type: [All](#) Service Identity

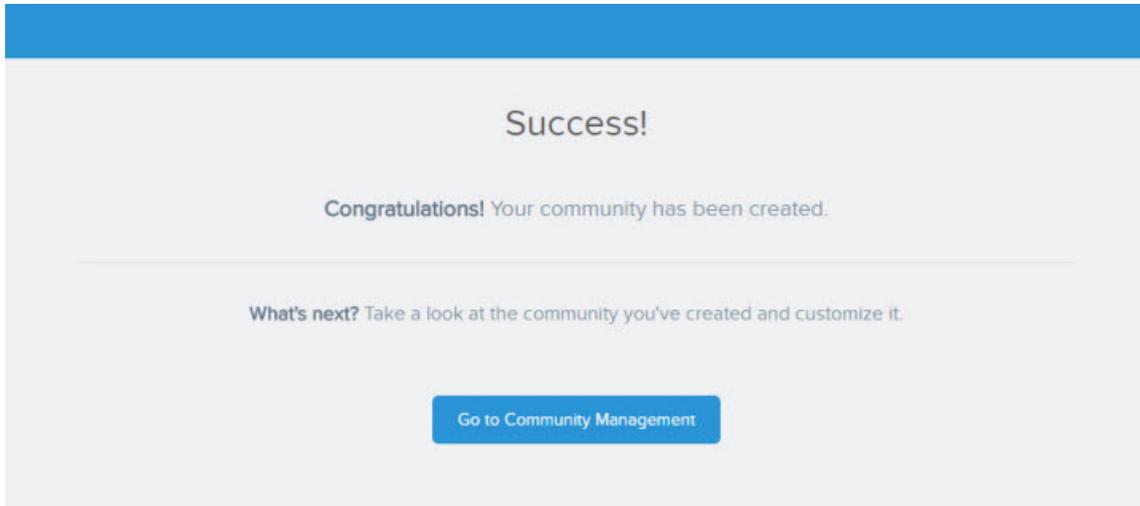
The screenshot displays six template options for a community page. The top row shows three templates: a full-width layout with a search bar and featured categories, a layout with a search bar and a list of items, and a layout with a search bar and a grid of featured categories. The bottom row shows three more templates: a layout with a search bar and a list of items, a layout with a search bar and a grid of featured categories, and a layout with a search bar and a grid of featured categories.

Name Your Community

Not sure what to enter? Don't worry—you can always change it later.

Name

URL



使用可能なテンプレートおよび、それを使用してコミュニティを最適化する方法についての詳細は、『[Community Templates for Self-Service Implementation Guide](#)』を参照してください。

コミュニティビルダーでのページの編集

コミュニティのブランド設定とデザインをすべて1か所でできるようになりました。コミュニティビルダーの新しいページエディタおよび関連するプロパティエディタを使用して、コミュニティのページを完全にカスタマイズできます。ページ要素の選択と編集をシームレスに行い、変更内容をプレビューしてから公開します。

ページエディタでは、コミュニティのデザインを1要素ずつ変更できます。コミュニティビルダーでコミュニティを開くと、参照のみの状態になります。左側(設定アイコンのすぐ上)のページエディタアイコンをクリックすると、ページ要素のリストが表示されます。ページ要素を編集するには、左側のリストからページ要素を選択するか、メインキャンバスで直接選択します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

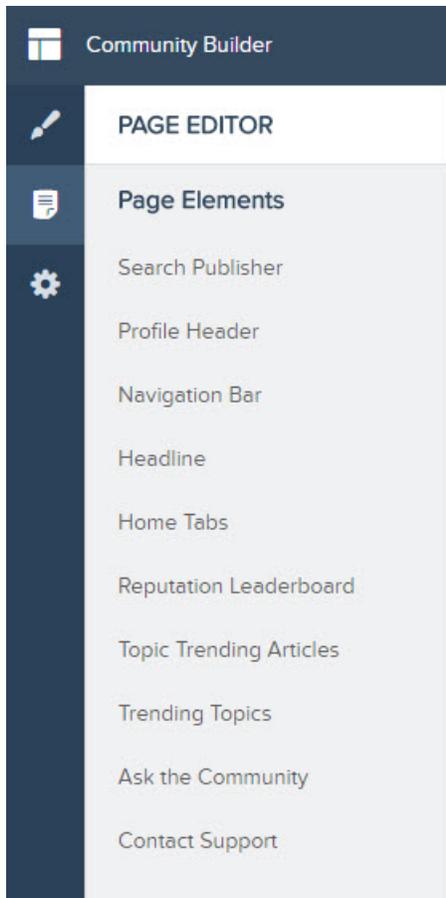
[Site.com

Publisher ユーザ]

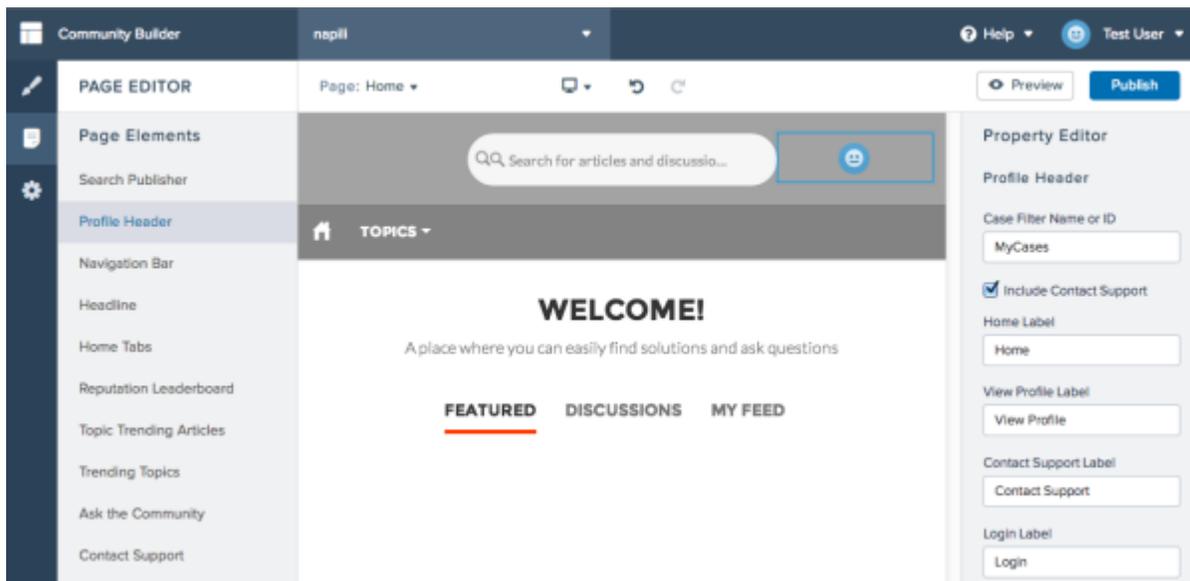
項目をユーザ詳細ページで有効化

および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナーロール



ページ要素を選択したら、右側のプロパティエディタを使用して変更します。



変更内容の公開前に表示するには、ツールバーの [プレビュー] ボタンを使用します。

 **メモ:** 引き続き Site.com Studio を使用して、ページ要素をドラッグアンドドロップしたり削除したりすることもできます。

ポップアウトプレビューを使用した設計変更のプレビュー

コミュニティビルダーの新しいプレビュー機能を使用して、設計したばかりのコミュニティを顧客の視点で確認します。コミュニティを編集途中のウィンドウでプレビューして、作業しながら変更を確認します。新しいポップアウトボタンを使用すると、別のタブに顧客に表示されるものと同じ形でコミュニティが表示されます。

コミュニティに変更を行ったら、[プレビュー]をクリックして、編集ツールが表示されていない状態で変更を確認します。



プレビューモードでも、ブラウザウィンドウにコミュニティビルダーのツールバーとメニューが表示されます。新しいポップアウトプレビュー機能を使用すると、視覚的な「ノイズ」が排除され、コミュニティが顧客にどのように表示されるかを確認できます。



コミュニティが別のタブに、コミュニティビルダーのツールのない状態で表示されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

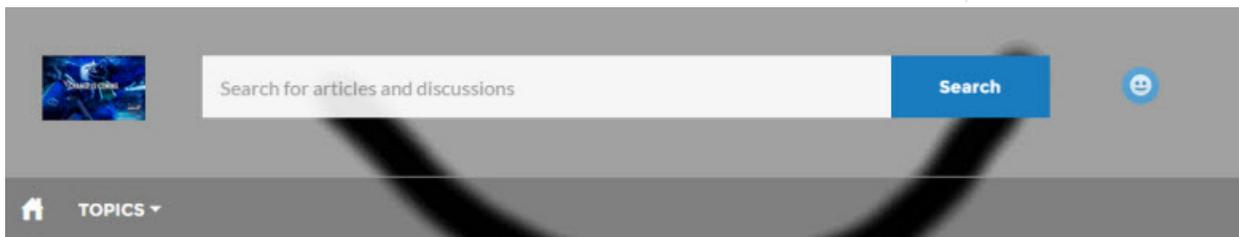
[Site.com

Publisher ユーザ]

項目をユーザ詳細ページで有効化

および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者
またはデザイナーロール



WELCOME!

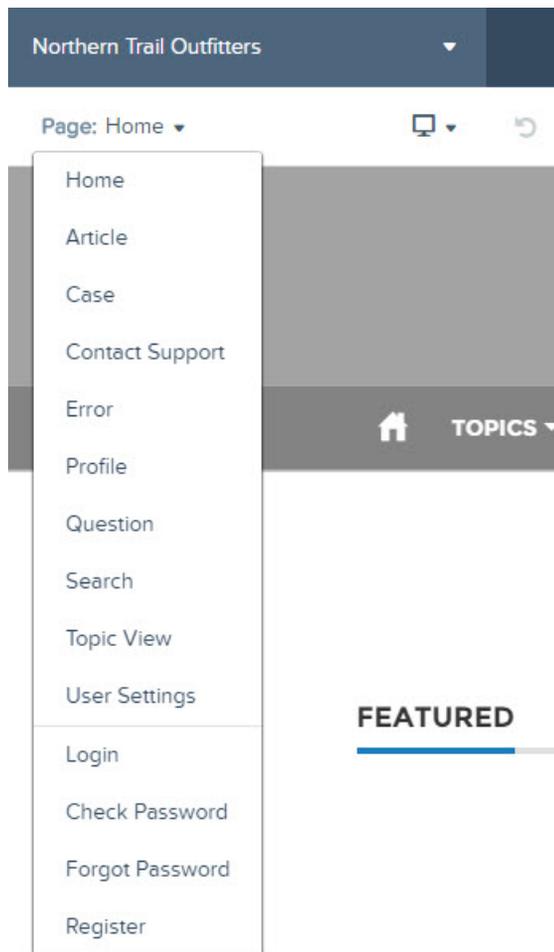
A place where you can easily find solutions and ask questions

FEATURED DISCUSSIONS MY FEED

コミュニティ内の任意のページへの移動

機能強化されたコミュニティビルダーツールバーからコミュニティ内の任意のページに直接ジャンプします。コミュニティビルダーの拡張されたナビゲーション機能では、コミュニティのどの領域も1か所からカスタマイズできるため、コミュニティのいずれかのページをスタイル設定やプレビューするためにコミュニティビルダーを離れる必要がありません。

コミュニティビルダーツールバーの[ページ]ドロップダウンリストを使用して、ログイン、登録、エラーページなどコミュニティの任意のページに移動します。ページの編集途中や変更した内容のプレビュー中に別のページに移動できます。



新しい [ページ] ドロップダウンリストのすぐ上にある [コミュニティ] メニューからも、[コミュニティ管理] や [設定]、Site.com Studio に戻ることができます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

[Site.com

Publisher ユーザ]

項目をユーザ詳細ページで有効化

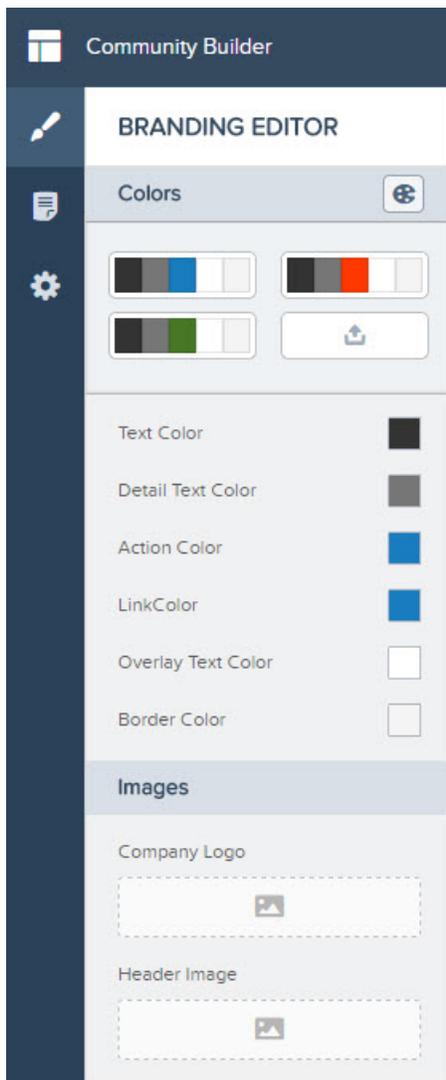
および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナーロール

機能強化されたブランド設定と使用した色とスタイルとの厳密な一致

コミュニティビルダーの機能強化されたブランドエディタを使用して、思い通りの配色やスタイルを効率的にコミュニティに適用します。新しいカラーパレットで配色を選択すると、一連の色がコミュニティにすぐさま適用されます。独自のロゴからカスタムカラーパレットを作成することも可能です。さらに、新しいフォントの太さやスタイルのオプションで、テキスト要素を区別できます。

コミュニティビルダーのブランドエディタを使用して、コミュニティの配色を自由にカスタマイズしてデザインできるようになりました。コミュニティを開くと、デフォルトでブランドエディタが表示されます。



次の操作を実行できるようになりました。

- カラーパレットを使用して、テンプレートに適した配色を一度に適用する。
- コミュニティの色を指定するときに、テキスト要素や境界線要素の色を選択する。
- 独自のロゴ画像をアップロードして、カスタムカラーパレットを作成する。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

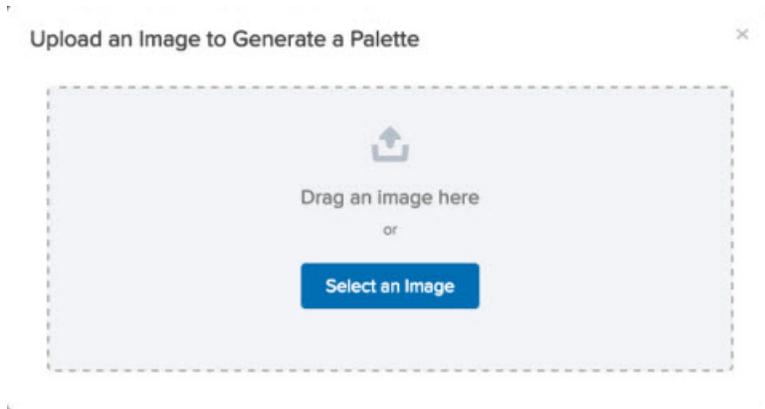
[Site.com

Publisher ユーザ]

項目をユーザ詳細ページで有効化

および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者
 またはデザイナーロール



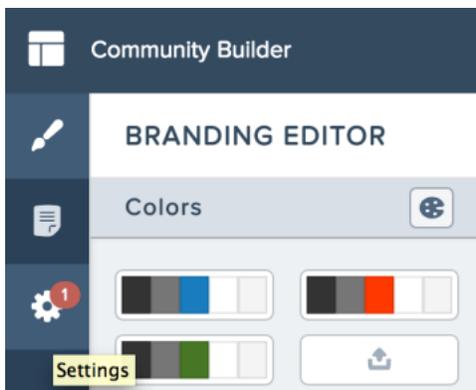
- 独自のカラーパレットを必要に応じて保存または削除して管理する。
- フォントファミリーだけでなく、フォントの太さやスタイルも指定する。
- 作業時の表示領域を広げるために、カラーパレットを展開したり折りたたんだりする。

コミュニティビルダーを使用したコミュニティのブランド設定についての詳細は、『*Community Templates for Self-Service Implementation Guide*』または Salesforce オンラインヘルプを参照してください。

コミュニティビルダーからのテンプレートの更新

コミュニティビルダーを使用して、コミュニティのテンプレートの新バージョンを確認して適用します。テンプレートを更新しても現在のブランド設定は維持され、旧バージョンのテンプレートを適用したコミュニティのコピーが保存されます。このため、コミュニティのスタイル設定や機能が最新のものになる一方で、以前のバージョンのテンプレートに戻すことが可能になります。

テンプレートの新バージョンを利用できるようになると、コミュニティビルダーの設定アイコンに赤い通知アイコンが表示されます。



テンプレートを更新するには、赤い通知をクリックしてから[更新]をクリックします。テンプレートの最新情報が表示されます。

ユーザ権限

コミュニティを作成、カスタマイズ、公開する

- 「コミュニティの作成および管理」

または

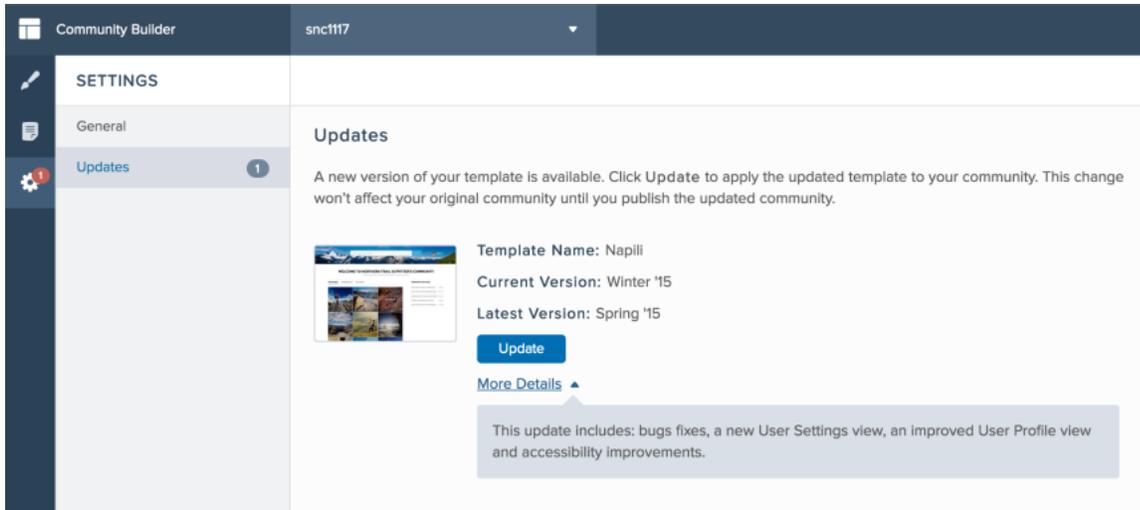
[Site.com

Publisher ユーザ]

項目をユーザ詳細ページで有効化

および

サイトレベルで割り当てられたサイト管理者またはデザイナーロール



[更新]をクリックすると、テンプレートが最新バージョンに更新されます。更新は、コミュニティを公開するまでライブになりません。公開する前に、すべてのページをチェックし、ブランド設定やスタイルが期待通りのものであることを確認できます。

メモ: Koa および Kokuia のセルフサービステンプレートについては、ブランド設定のほか一般設定も継承されます。それ以外は、ブランド設定のみが継承されます。どの場合も、その他のカスタマイズは自動的に継承されません。

コミュニティのテンプレートを更新すると、コミュニティのホームページの一意の URL が自動的に生成されます。コミュニティのテンプレートを以前のバージョンに戻すには、Site.com Studio の [サイトの設定] でホームページの URL を以前のものに戻します。

コミュニティテンプレート

セキュリティ用の reCAPTCHA、評価リーダーボード、ログインユーザが個人設定を更新できるユーザ設定ビューなどの新機能が追加され、コミュニティテンプレートが強化されました。

このセクションの内容:

スパム送信者によるケース作成の防止

ゲストユーザがケースを作成する前に入力する必要がある reCAPTCHA ウィジェットを追加することにより、スパム送信者からコミュニティを保護します。

Napili テンプレートに追加された [ユーザ設定] ビュー

セルフサービスコミュニティにログインしているユーザが自分の個人設定を参照できる新しいビューが導入されました。

Napili プロファイルビューの機能強化

Napili テンプレートのプロフィールビューがさらに改善されました。ユーザにとって特に重要なユーザの詳細と活動がすぐにわかるようにビューが再配置されています。また、[フォローする] ボタン、ユーザの統計、およびユーザのフィードを表示する [活動] タブが追加されました。

Napili コミュニティの質問へのファイル添付

Napili テンプレートで構築されたセルフサービスコミュニティのメンバーが、質問の投稿にファイルを添付できるようになりました。他のコミュニティメンバーとの情報や写真の共有がさらに容易になりました。

Napili 評価ランキング表で活発なメンバーを強調表示

[評価ランキング表] ページ要素には、コミュニティで評価ポイントが上位のユーザを 15 人まで記載したリストが表示されます。

Napili テンプレートのその他のトピック機能

Napili テンプレートに、トレンドトピックや関連トピックのページ要素が追加されました。また、ユーザがトピックページからトピックをフォローできるようになりました。

スパム送信者によるケース作成の防止

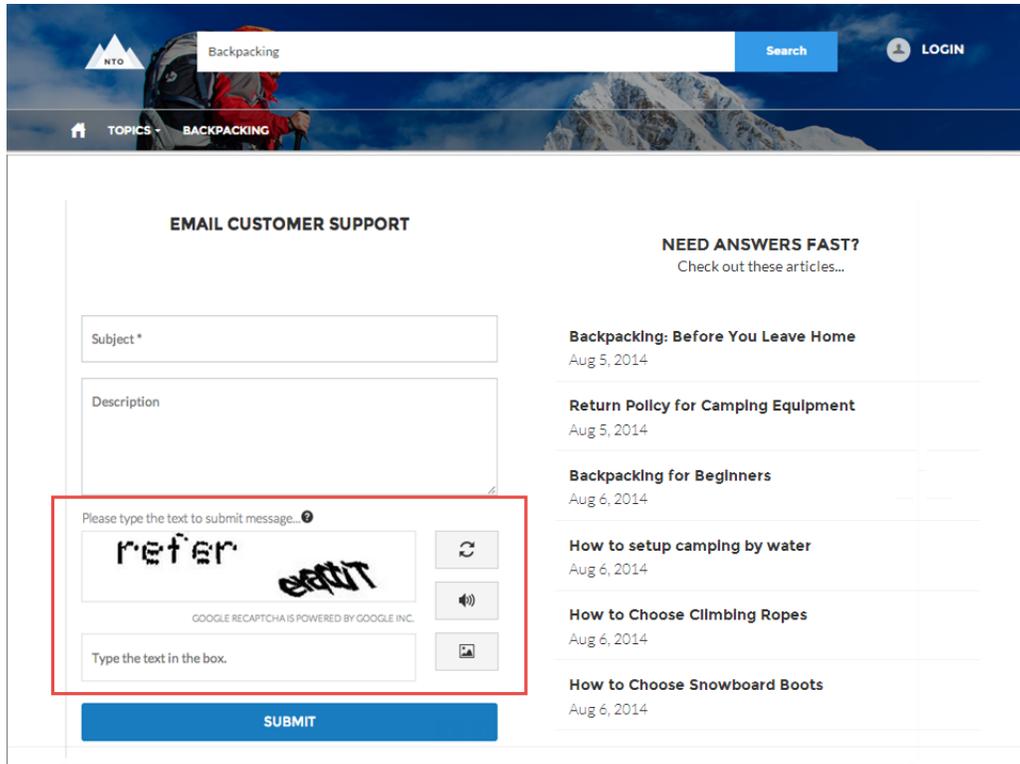
ゲストユーザがケースを作成する前に入力する必要がある reCAPTCHA ウィジェットを追加することにより、スパム送信者からコミュニティを保護します。

reCAPTCHA ウィジェットでは、ゲストユーザがケースを作成する前に、テキスト項目を正しく入力する必要があります。[ケースの作成] ページ要素でウィジェットを設定すると、スパムケースの送信からコミュニティが保護されます。

 **メモ:** Google の reCAPTCHA サービスを使用するには、「[Google reCAPTCHA](#)」の Web サイトにアクセスし、ドメインを登録して、秘密鍵と公開鍵のペアを取得します。ウィジェットでサポートされる言語についての詳細は、reCAPTCHA の Web サイトを参照してください。Google reCAPTCHA は、ユーザおよびパートナーをサポートするために Salesforce が提供するリソースですが、salesforce.com のマスターサブスクリプション契約に記載された「サービス」の一部とはみなされません。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



Napili テンプレートに追加された [ユーザ設定] ビュー

セルフサービスコミュニティにログインしているユーザが自分の個人設定を参照できる新しいビューが導入されました。

[ユーザ設定] メニューから、ユーザが自分の個人設定を Napili テンプレートで直接管理できます。[私の設定] メニューは、認証済みユーザのプロファイルヘッダーで使用できます。言語、ロケール、タイムゾーンの設定を使用してユーザがコミュニティをローカライズすると、すべてが各自の言語で表示されます。メール通知設定では、コミュニティでの活動に基づいてメールを受信するタイミングをユーザが制御できます。たとえば、ユーザは、誰かが自分をフォローしたときと自分の投稿にコメントしたときにメールを受信するが、自分の投稿にいいね! と言われた時には受信しないことを選択できます。ユーザがプロファイルヘッダーの [私の設定] をクリックすると、自分の設定を参照および変更できます。

[ユーザ設定] ビューを設定する場合は、[ユーザプロフィール] ビューに [ユーザ設定] ページ要素が表示されていることを確認します。[プロフィールヘッダー] ビューで [ユーザ設定] ビューの名前を設定できます。デフォルトは [私の設定] です。ビューの設定についての詳細は、『[Community Templates for Self-Service Implementation Guide](#)』を参照してください。

 例:

[ユーザ設定] ビュー:

MY SETTINGS

CANCEL **SAVE**

LOCATION

Language: English

Locale: English (United States)

Time Zone: (GMT-08:00) Pacific Standard Time

EMAIL NOTIFICATIONS

Choose to receive emails so that you don't miss important updates.

Receive emails

Email me when someone...

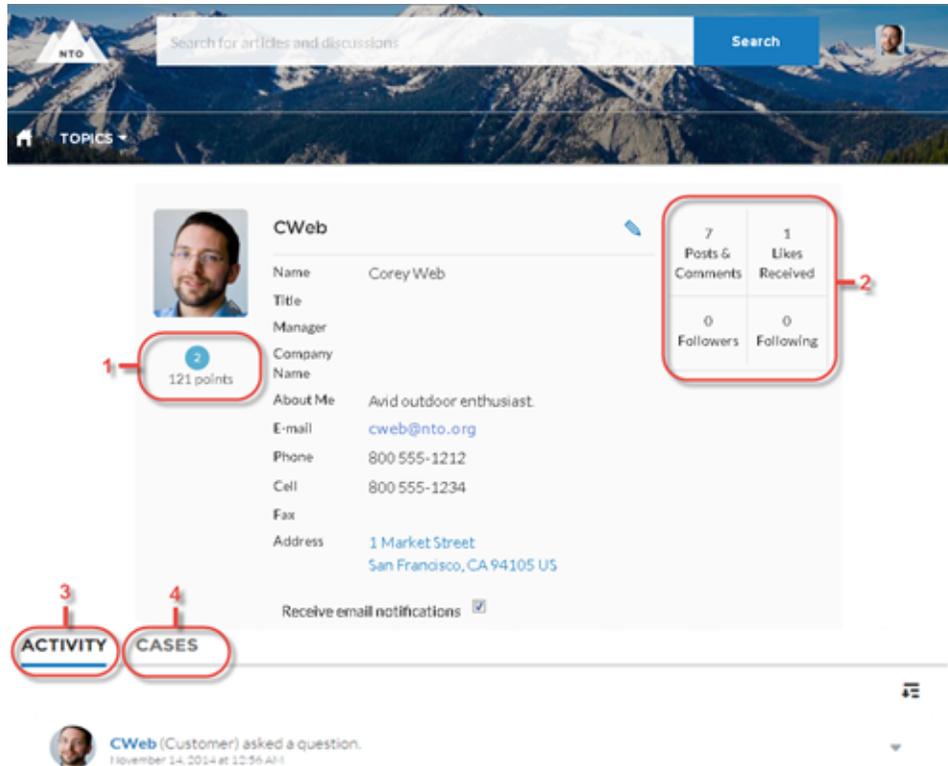
- Follows me
- Likes a post or a comment I made
- Comments on my status or a change I made
- Comments on a post on my profile
- Comments after me
- Comments on an item I bookmarked
- Comments on an item I like
- Mentions me in a post
- Mentions me in a comment

CANCEL **SAVE**

Napili プロファイルビューの機能強化

Napili テンプレートのプロフィールビューがさらに改善されました。ユーザにとって特に重要なユーザの詳細と活動がすぐにわかるようにビューが再配置されています。また、[フォローする]ボタン、ユーザの統計、およびユーザのフィードを表示する [活動] タブが追加されました。

プロフィールビューのレイアウト:



プロフィールビューの新しいレイアウト

ユーザが自身のプロフィールまたは他のユーザのプロフィールを参照する場合、最初に見たいと思うのはユーザの詳細です。プロフィールのレイアウトが再編され、プロフィールビューの一番上にユーザの詳細、統計、評価レベルが表示されるようになりました。また、自身のプロフィールを参照すると一番手前に[活動]タブが表示されるため、自身のフィードに簡単にアクセスできます。ケースを参照する場合は、[ケース]タブをクリックします。

ユーザの詳細に氏名ではなくニックネームを表示

ユーザのプライバシーを尊重して、ユーザの詳細から氏名を削除し、ユーザのニックネームに変更しました。ユーザが自身のプロフィールを参照するときは引き続き自分の氏名が表示されますが、別のユーザのプロフィールを参照するときはニックネームのみが表示されます。ニックネームの表示は、コミュニティの[管理設定]で有効にする必要があります。

評価ポイント (1)

自身や他のコミュニティメンバーがどの程度アクティブに活動しているかを確認することにより、モチベーションが高まります。プロフィール写真のすぐ下に、評価レベルのほか評価の合計ポイントも表示できるようになったため、各人の活動の度合いが一目でわかります。

ユーザ統計 (2)

コミュニティメンバーがアクティブに活動しているかどうかを確認するもう1つの方法は、コミュニティでメンバーが行った投稿およびコメントの数や、いいね!とされた数を調べることです。新しい[ユーザプロフィールの統計]ページ要素には、投稿およびコメント数、いいね!とされた数、フォロワー数、およびユーザがフォローしている人数が表示されます。

[活動] タブ (3)

ユーザが自身のコミュニティフィードに1か所からアクセスできることは重要です。ユーザのプロファイルにある [活動] タブには、コミュニティでの自身の活動がすべて表示されます。ユーザが別のユーザのプロファイルを参照しているときも、そのユーザのフィードが [活動] タブに表示されます。システム管理者は、[ユーザプロファイル] タブページ要素の [活動] タブの名前を変更できます。

[ケース] タブ (4)

[ケース] ページ要素を [ケース] タブで使用できるようになりました。ユーザが自身のプロファイルを参照すると、自身のすべてのケースを表示する [ケース] タブが表示されます。別のユーザのプロファイルを参照しているときは、[ケース] タブは表示されません。システム管理者は、[ユーザプロファイル] タブページ要素の [ケース] タブの名前を変更できます。

[フォローする] ボタン

ユーザのプロファイルにある [フォローする] ボタンをクリックして、ユーザが別のコミュニティメンバーを簡単にフォローできるようになりました。ユーザが自身のプロファイルを参照しているときは、[ユーザプロファイル] ビューの [フォローする] ボタンページ要素は非表示になります。

Napili コミュニティの質問へのファイル添付

Napili テンプレートで構築されたセルフサービスコミュニティのメンバーが、質問の投稿にファイルを添付できるようになりました。他のコミュニティメンバーとの情報や写真の共有がさらに容易になりました。

The screenshot shows a post creation interface for a community. At the top, it says "Post To **Camping**". Below that is a text input field containing the question: "Is my rain fly the right shape for my tent?". Underneath the text is a paragraph: "I bought the fly second-hand and haven't gone camping with it yet, but I'm concerned it's too small. I've attached a photo of the fly on the tent. Any advice is appreciated!". Below the text is a file attachment area showing a thumbnail of a file named "rain fly.jpg" with a size of "541KB" and format "JPG". At the bottom, there are tags for "CAMPING", "RAIN FLY", and "TENT", along with an "ADD TOPIC" link. On the right side, there is an "Attach" button with a paperclip icon and a blue "ASK" button.

質問の添付ファイルは、Spring '15 リリース以降に作成された新規コミュニティ、および Spring '15 でリリースされたテンプレートにアップグレードされているコミュニティに自動的に追加されます。

Napili 評価ランキング表で活発なメンバーを強調表示

[評価ランキング表] ページ要素には、コミュニティで評価ポイントが上位のユーザを15人まで記載したリストが表示されます。

ランキング表の上位のユーザがコミュニティホームページに強調表示されるため、コミュニティで最も活発で影響力のあるメンバーを識別できます。ランキング表に最大15人を表示するように設定できます。ユーザのリストは、コミュニティでメンバーが獲得した評価ポイントに基づいて自動的に入力されます。

LEADERBOARD		
	NTO Admin 3	194 Points
	ACharles 2	133 Points
	CWeb 2	121 Points
	SClark 2	76 Points
	CXee 2	63 Points
	JHemsley 1	8 Points

Napili テンプレートのその他のトピック機能

Napili テンプレートに、トレンドトピックや関連トピックのページ要素が追加されました。また、ユーザがトピックページからトピックをフォローできるようになりました。

- [トレンドトピック] ページ要素では、ユーザが、特に人気が高いトピックや活発なトピックを5つまでコミュニティのホームページに表示できます。

TRENDING TOPICS
GEAR TIPS
BACKPACKING
DENALI

- [関連トピック] ページ要素はトピック詳細ページに表示され、参照しているトピックと関連性が高いトピックを5つまでリストに示します。

RELATED TOPICS
CAMPING
BACKPACKING

- [フォローする] ボタンをクリックすると、ユーザがトピック詳細ページからトピックをフォローできます。

A blue rectangular button with the word "FOLLOW" in white capital letters.

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザ向けのダッシュボードの更新

Spring'15では、外部ユーザがコミュニティダッシュボードを操作しやすくするための改善が加えられました。

 **メモ:** スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザには、「パートナースーパーユーザアクセス」権限を持つパートナーユーザと、「ポータルスーパーユーザ」権限を持つカスタマーユーザが含まれます。

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザを「指定したユーザとして実行」で選択できる

コミュニティのダッシュボードを操作する場合、スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザを「指定したユーザとして実行」として選択できるようになりました。

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザを「指定したユーザとして実行」として指定することは、従来のカスタマーポータルまたはパートナーポータルではサポートされていませんでした。

「指定したユーザとして実行」の更新を利用するため、自分のパフォーマンスダッシュボードへのアクセス権限をパートナーマネージャに付与できます。これを行うには、1つのダッシュボードを作成してから、対応するダッシュボードフォルダへのアクセスを許可します。各パートナーマネージャには自分のデータのみが表示され、ダッシュボードを更新できるようになります。以前のリリースで同じ結果を得るには、「指定したユーザとして実行」オプションを使用してパートナーごとに1つのダッシュボードを作成し、各ダッシュボードでパートナー取引先別に検索条件を適用する必要がありました。

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザが、アクセス権を持つダッシュボードを更新できる

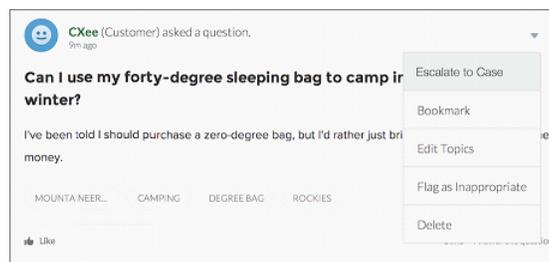
- 「ログインしたユーザとして実行」を使用して設定されたダッシュボードの場合、更新ボタンが使用可能になり、タイムスタンプに最終更新が表示されるようになりました。デフォルトでは、このようなダッシュボードは、アクセスするたびに自動的に更新されます。初回更新後、データは24時間キャッシュされます。
- 「指定したユーザとして実行」を使用して設定されたダッシュボードの場合、更新ボタンが使用可能になり、タイムスタンプに最終更新が表示されるようになりました。

スーパーユーザアクセス権限を持つ外部ユーザは、「指定したユーザとして実行」および「ログインしたユーザとして実行」を使用して設定されたダッシュボードを、組織ごとに1日100回まで更新できます。スケジュール設定された自動更新は、この制限にカウントされません。内部ユーザに対しては、更新制限はありません。

質問-to-ケースで回答をすばやく取得 (正式リリース)

コミュニティを構築する場合、ユーザの質問にスピーディに回答できるようにすることは重要です。質問-to-ケースにより、モデレータが簡単なプロセスに従って Chatter の質問からケースを作成でき、コミュニティの質問が効率的に解決されるようになりました。

質問-to-ケースは、Chatter の質問が有効化されている Salesforce 組織およびコミュニティのすべてで使用できます。モデレータは質問をフィードで直接ケースにエスカレーションできます。Lightning プロセスビルダーで(ワークフロールールに似ている)プロセスを設定し、指定された条件を満たす質問から自動的にケースを作成することもできます。



質問-to-ケースについての詳細は、[質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成 \(正式リリース\)](#)を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

コミュニティメンバーによる外部システムに対する独自の認証設定の管理の有効化

ユーザごとの認証に使用する外部データソースと指定ログイン情報にアクセスする場合、ユーザが独自の認証設定を管理できるようになったため、システム管理者が管理する必要はなくなりました。

以前は、改善された [設定] ユーザインターフェースを組織が有効化し、ユーザが Salesforce の個人設定にアクセスできる場合にのみ、ユーザが外部システムの各自の認証設定を管理できました。コミュニティライセンスを使用するユーザなどのその他のユーザの場合は、システム管理者が認証設定を管理する必要がありました。

この機能は、Salesforce タブと Visualforce テンプレートを併用するコミュニティでサポートされます。コミュニティビルダーテンプレートではサポートされません。

コミュニティ内から外部システムに対する認証設定を管理する手順は、次のとおりです。

- コミュニティライセンスを持つユーザは、[私の設定] > [外部システムの認証設定] をクリックします。
- コミュニティへのアクセス権がある内部組織のユーザは、あなたの名前 > [私の設定] をクリックして各自の個人設定にアクセスします。

コミュニティユーザが外部システムに対する認証設定を管理できるようにするために、権限セットまたはプロファイルを使用して、外部データソースと指定のログイン情報へのユーザアクセス権を付与します。外部デー

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

タソースにアクセスするユーザには、外部オブジェクトを参照できるようにするために、権限セットまたはプロファイルを介してオブジェクト権限も付与します。

外部データソースについての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce Files Connect の設定」および「Lightning Connect を使用した外部データアクセスの設定」を参照してください。

指定ログイン情報についての詳細は、Salesforce ヘルプの「指定ログイン情報の概要」を参照してください。

コミュニティのその他の変更

コミュニティに加えられたその他の重要な変更には、ユーザが評価ポイントを獲得する新しいアクション、コミュニティのお知らせメールの変更、投稿からトピックを追加および削除する機能などがあります。

支持の評価ポイントをユーザが獲得可能

トピックの知識に関して誰かを支持したり、支持されることによって、ユーザが評価ポイントを獲得できるようになりました。デフォルトでは、誰かを支持すると 5 ポイント獲得でき、支持されると 20 ポイント獲得できます。

コミュニティのお知らせメールのフッターへのユーザ名の追加を廃止

新しいコミュニティメンバーにお知らせメールが送信されるときに、ユーザ名がフッターに追加されなくなりました。この変更により、お知らせメールが合理化されます。既存のコミュニティでユーザ名を含める場合は、`{!Receiving_User.Username}` 差し込み項目をメールテンプレートに追加する必要があります。新しい組織でコミュニティを初めて有効にする場合は、`{!Receiving_User.Username}` 差し込み項目がデフォルトでのお知らせメールのテンプレートに含まれます。

パートナーユーザ向けに追加された [キャンペーン] タブのサポート

[キャンペーン] タブをコミュニティに含めるようにシステム管理者が選択した場合、このタブをパートナーユーザに表示できます。以前は、コミュニティのシステム管理者が Visualforce ページを作成して、キャンペーンへのアクセスをパートナーユーザに許可する必要がありました。

投稿からのトピックの追加または削除

ユーザは、既存の投稿の右上にある をクリックし、[トピックを編集] を選択して、割り当てを変更できます (コミュニティの操作性を確保するには、少なくとも 1 つのトピックを残す必要があります)。

Koa、Kokua、Napili テンプレートに加えられたアクセシビリティの改善

フォーカスインジケータが追加され、音声認識ソフトウェアや文字読み上げソフトウェアなど、支援デバイスを使用して作業するユーザに対してモバイルのアクセシビリティを改善するためのさまざまな変更が加えられました。

セールス: 重複管理、セールスパス、その他

Spring'15からは、重複レコードの管理が容易になり、また担当者がセールスプロセスを進めやすくなります。それだけではありません。新たに導入されたエンタープライズテリトリー管理では付随するオブジェクトを含めてテリトリーを追跡する点が特に強化され、コラボレーション売上予測では営業担当者が各自の調整を行えるようになりました。メール接続、Salesforce for Outlook、活動などにも画期的な新機能が搭載されています。

このセクションの内容:

重複管理 (正式リリース)

クリーンで正確なデータの保持は、組織で Salesforce を最大限に活用する上で最重要の処理の1つであるため、Data.com 重複管理が導入されました。Salesforce 内で重複レコードの作成をユーザに許可するかどうか、いつ許可するかを制御、重複レコードの特定に使用するロジックのカスタマイズ、ユーザに保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成ができるようになりました。

リード

評価済みリードを変換した結果、重複レコードとなることを営業チームが認識できるようになりました。

セールスパス

会社のセールスプロセスに従って商談を次のフェーズに進めるよう営業担当者を誘導して、商談を迅速にクローズできるようにします。

エンタープライズテリトリー管理

フル機能を装備したエンタープライズ CRM ソリューションを開発するという Salesforce の継続的なコミットメントを反映して、Territory Management 2.0 の名称が「エンタープライズテリトリー管理」に変更されました。最新の機能では、取引先責任者、テリトリー、および商談間のリレーションの割り当ておよび管理、リストビューやレコードにカスタム項目を使用したテリトリーの特性の的確な把握、特定のレポートのテリトリーの追加情報などで多くのオプションを利用できます。API とメタデータ API もいくつか更新されました。詳細は、リリースノートの該当セクションを参照してください。

商談とコラボレーション売上予測

商談を使用して、販売パイプラインのすべての案件を追跡します。コラボレーション売上予測を使用して、パイプラインから商談成立までの販売サイクルを予測および計画し、組織全体で販売予想を管理します。

商品

商品で項目履歴管理を使用できるようになりました。

メール接続 (ベータ)

新しい製品エリアとなるメール接続をご紹介します。このエリアには最新のメールインテグレーション機能である Exchange Sync (ベータ) が導入され、ユーザの取引先責任者や行動が Exchange ベースのメールシステムと Salesforce 間で同期されます。

Salesforce for Outlook

営業担当者が ToDo の管理や、Salesforce レコードに追加したメールの追跡をしやすくする機能を使用して、営業チームが生産性の向上を目指せるようになります。

活動

行動と ToDo は、営業の生産性に不可欠な要素です。パフォーマンスと使い勝手を向上する更新に加えて、競合他社に対する営業チームの競争力を高める機能強化を行いました。

Salesforce to Salesforce の新しいメールテンプレートおよびトーン

この春、Salesforce to Salesforce が一新されました。Spring '15 では、Salesforce to Salesforce のメールテンプレートや表示ラベル、ユーザインターフェースのさらなる斬新性や直観性を追求していくつかの点が更新されます。

Salesforce Console for Sales

Salesforce Console for Sales では、ダッシュボードでセールスインテリジェンスに簡単にアクセスできるため、より少ないクリックとスクロールでより多くのコンテキストデータの内容にアクセスできます。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上させるため、Sales Cloud では次の点も変更されています。

関連トピック:

[セールス機能が使用可能になる方法と状況](#)

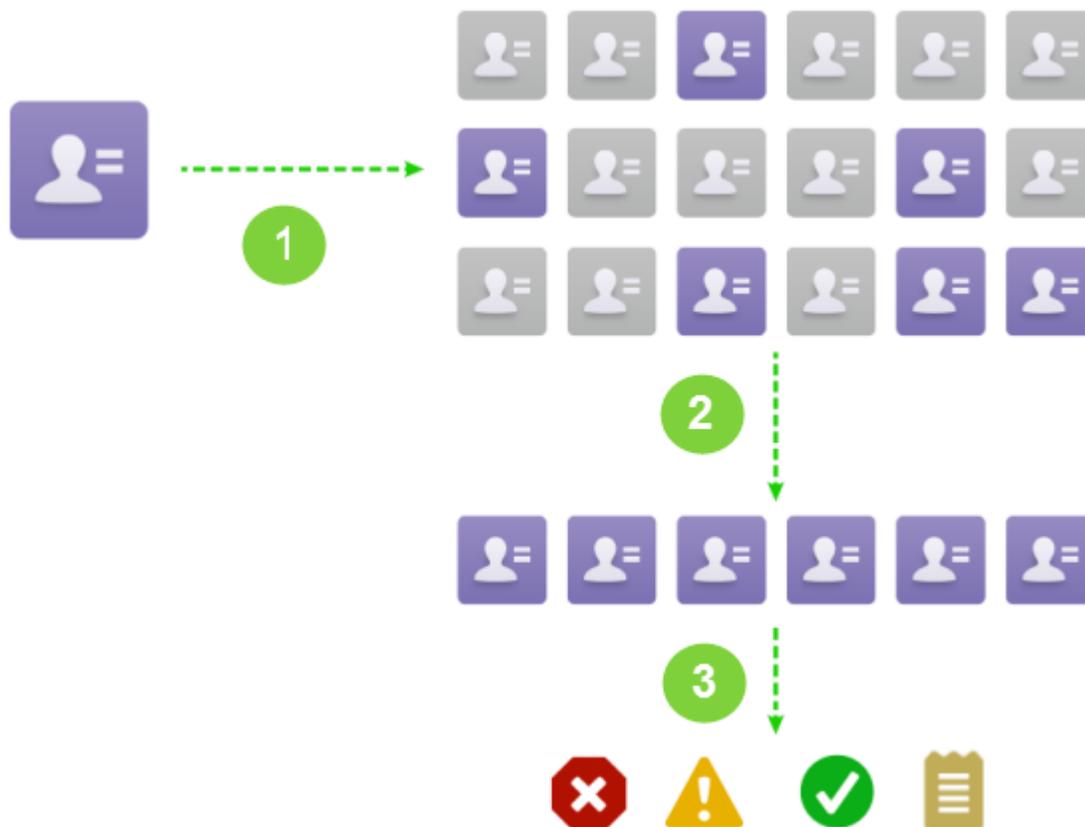
重複管理 (正式リリース)

クリーンで正確なデータの保持は、組織で Salesforce を最大限に活用する上で最も重要な処理の1つであるため、Data.com 重複管理が導入されました。Salesforce 内で重複レコードの作成をユーザに許可するかどうか、いつ許可するかの制御、重複レコードの特定に使用するロジックのカスタマイズ、ユーザに保存を許可する重複レコードに関するレポートの作成ができるようになりました。

 **メモ:** 重複管理では Data.com テクノロジーを使用していますが、Data.com ライセンスは必要ありません。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



一致ルールの説明をはじめとする Data.com 重複管理についての詳細は、[「Managing Duplicate Records in Salesforce」](#)

を参照してください。また、ビデオもご覧ください。  [一致ルールの理解](#) (4分 32秒)。

Winter '15 ベータリリースからの主な改良点

- カスタムオブジェクトが、重複ルールおよび一致ルールでサポートされます。
- クロスオブジェクト一致が、重複ルールでサポートされます。たとえば、ルールを設定して、ユーザが取引先責任者レコードを保存しようとしたときに、取引先責任者とリードが重複がしていると思われるレコードのリストが示されるようにします。
- 複数のオブジェクトにわたる一致を検出するように重複ルールを設定する場合は、一致ルール項目を相互に対応付ける方法を決定できます。たとえば、取引先責任者の「取引先名」項目を、リードの「会社」名と対応付けることが考えられます。
- 一致ルールにカスタム項目を含める場合は、項目同士をどのような対応付けるかを決定できます。たとえば、「会社のメール」というカスタム項目を、「メール」という標準項目に対応付けることができます。
- カスタム一致ルールに、選択リスト値を設定した項目を使用できます。
- リードの変換時の重複ルールのしくみが改善されました。組織に「Apex リード変換の使用」権限があり、ユーザがリードを新規または既存の取引先責任者や取引先に変換する場合、重複ルールに指定したアクションによってリードを変換可能かどうかが決まります。
- Data.com での重複ルールのしくみが改善されました。組織が Data.com を使用しており、Data.com の重複設定オプションで、Data.com からの重複レコードの追加が許可されている場合は、次のようになります。
 - 重複ルールに指定されたアクションによって、ユーザがレコードを追加できるかどうかが決まります。
 - ユーザがレコードを手動でクリーンアップするときに比較ページの「保存 (アラートを無視)」をクリックすると、重複アラートを無視してレコードを保存できます。
- 重複管理に新しい API や Apex クラスが多数追加されました。詳細は、リリースノートの [API](#) および [Apex](#) のセクションを参照してください。

重複管理の制限事項

- 重複管理は、取引先、取引先責任者、リード、およびカスタムオブジェクトに使用できます。商談や個人取引先などの他のすべてのオブジェクトは、現在サポートされていません。
- レコードが次の方法で作成された場合は、重複ルールが実行されません。
 - 簡易作成を使用してレコードを作成する場合
 - リードが取引先または取引先責任者に変換され、さらに組織に「Apex リード変換の使用」権限がない場合
 - 「復元」ボタンを使用してレコードを復元した場合
 - Exchange Sync を使用してレコードを追加した場合
 - レコードを手動でマージした場合
- 場合によっては、重複の可能性の検出時にアラートを表示するように重複ルールが設定されていると、レコードの保存は常にブロックされ、重複の可能性のリストは表示されません。たとえば、次のような場合があります。
 - データインポートツールを使用してレコードを追加した場合
 - 個人取引先を法人取引先に変換した場合 (さらに、新たに作成された法人取引先が既存の法人取引先と一致した場合)

– Salesforce API を使用してレコードを追加または編集した場合

- あいまい一致メソッドを使用する標準およびカスタムの一致ルールでは、ラテン文字のみがサポートされています。国際データを使用している場合は、一致ルールに完全一致メソッドを使用することをお勧めします。
- オブジェクトの項目を無効化または削除すると、その項目への対応付けを含む一致ルールが無視される可能性があります。これは重複の検出に影響する可能性があります。オブジェクトの項目を無効化または削除する場合は、そのオブジェクトのすべての重複ルール項目の対応付けを確認してください。
- トランスレーションワークベンチでは、重複ルールのカスタマイズ可能なアラートテキストはサポートされていません。

このセクションの内容:

[重複ルールの作成または編集](#)

重複ルールを使用して、ユーザが重複するレコードを保存しようとしたときの処理を定義します。

[カスタム一致ルールの作成または編集](#)

一致ルールを使用して、2件のレコードを比較して重複として識別する方法を決定します。

[重複レコードレポートのカスタムレポートタイプの作成](#)

レポートアクションとその重複ルールを使用すると、組織でレポートを実行してデータの品質を分析したり、重複ルールの効果を確認したりできます。こうすることで、必要に応じて重複ルールを微調整できます。最初に、適切なカスタムレポートタイプを設定する必要があります。

重複ルールの作成または編集

重複ルールを使用して、ユーザが重複するレコードを保存しようとしたときの処理を定義します。

1. [設定] で、[Data.com の管理] > [重複管理] > [重複ルール] をクリックします。
2. 既存のルールを編集するには、ルール名をクリックして、[編集] をクリックします。新しいルールを作成するには、[新規ルール] をクリックし、ルールを適用するオブジェクトを選択します。
3. ルールの名前、説明、レコードレベルのセキュリティ設定など、ルールの詳細を入力します。
4. ユーザが重複するレコードを保存しようとするすると実行されるアクションを選択します。

アクションにユーザへのアラートが含まれている場合は、デフォルトのテキストが用意されており、カスタマイズできます。許可アクションにのみ、レポートオプションが含まれています。

5. [一致ルール] セクションで、まず、レコードと比較するオブジェクトを選択します。次に、レコードをどのように重複と識別するかを決定する一致ルールを選択します。

ドロップダウンリストには、選択されたオブジェクトに関する使用可能な一致ルールがすべて含まれます。必要な一致ルールがリストにない場合は、マッチングルールを新規作成 を選択します。

 **ヒント:** 標準一致ルールは、最善の一致候補を返すように入念に設計されているため、これを使用することをお勧めします。使用する場合は、必ず有効化してください。

一方、新しい一致ルールを作成すると決定した場合は、最初に重複ルールを作成することをお勧めします。その後で、新しい一致ルールを作成して有効化します。重複ルールに戻ると、重複ルールに一致ルールがまだ関連付けられていなければ、新しく作成した一致ルールが自動的に関連付けられます。

6. 必要に応じて、一致ルールごとに項目の対応付けを選択したことを確認します。一致ルールで2つの異なるオブジェクトからレコードを比較するか、カスタム項目を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1つ目のオブジェクトの項目を2つ目のオブジェクトの項目とどのように比較するかを決定する必要があります。たとえば、[会社のメール] というカスタム項目を、[メール] という標準項目に対応付けることができます。
 - 2つのテキスト項目の最大長が異なる場合、比較の前にデータが切り捨てられる場合があります。
7. 特定の条件が満たされた場合にのみ重複ルールを実行する場合は、その条件を指定します。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

重複ルールを作成、編集、または削除する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

重複ルールを有効化および無効化する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

重複ルールを表示する

- 「設定・定義を参照する」

たとえば、特定のプロファイルまたはロールを持つユーザーによってレコードが入力された場合、またはレコードに特定の国または都道府県が含まれる場合にのみルールが実行されるように指示する条件を追加できます。

8. [保存] をクリックします。
ルールの概要が表示されます。
9. [有効化] をクリックします
有効化を正常に行うには、関連付けられたすべての一致ルールが有効である必要があります。
10. 特定のオブジェクトに対して有効な重複ルールが複数ある場合、ルールの処理順序を調整することもできます。ルールを並び替えるには、ルールの詳細ページから [並び替え] をクリックします。

 **ヒント:** 最初の重複ルールで特定のレコードの一致が検出された場合、そのレコードは後続の重複ルールでは評価されません。そのため、ブロックアクションを含むルールが許可アクションを含むルールよりも前に実行されるように重複ルールの順序を設定する必要があります。

カスタム一致ルールの作成または編集

一致ルールを使用して、2件のレコードを比較して重複として識別する方法を決定します。

1. [設定] から、[Data.com の管理] > [重複管理] > [一致ルール] をクリックします。
2. 既存の一致ルールを編集する場合は、ルールが無効であることを確認します。
3. [新規ルール] または編集する既存の一致ルールの横にある [編集] をクリックします。
4. この一致ルールを適用するオブジェクトを選択します。
5. ルールの名前と説明を入力します。
6. 一致条件を入力します。
一致条件には、どの項目をどのように比較するかを定義します。項目を (合計 10 個まで) 追加するには、[検索条件ロジックを追加...] をクリックし、[行を追加] をクリックします。
7. 一致等式を調整する必要がある場合は、[検索条件ロジックを追加...] をクリックします。たとえばここで、手動で AND 式を OR 式に変更できます。
8. [保存] をクリックします。
保存した一致ルールの概要が表示されます。
9. [有効化] をクリックします
有効化プロセスには時間がかかることがあるため、処理が完了して一致ルールが使用できる状態になるとメールが送信されます。

有効化された一致ルールは、他の Data.com 重複管理ツールと一緒に使用できます。たとえば、一致ルールを **重複ルール** と一緒に使用して、一致ルールで重複と識別されたレコードをユーザーが保存しようとしたら特定のアクションを実行するように Salesforce に指示できます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザー権限

一致ルールを作成、編集、または削除する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

一致ルールを有効化および無効化する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

一致ルールを表示する

- 「設定・定義を参照する」

重複レコードレポートのカスタムレポートタイプの作成

レポートアクションとその重複ルールを使用すると、組織でレポートを実行してデータの品質を分析したり、重複ルールの効果を確認したりできます。こうすることで、必要に応じて重複ルールを微調整できます。最初に、適切なカスタムレポートタイプを設定する必要があります。

これらのレポートに表示されるのは、次のレコードのみです。

- レポートアクションを含む重複ルールによって重複と識別されたレコード。
 - 重複レコードセットオブジェクトに手動で追加されたレコード。
1. 各カスタムレポートタイプおよびカスタムレポートタイプの作成と管理の一般的な手順を把握します。
 2. 適切なオブジェクトリレーションを持つカスタムレポートタイプを作成し、必要に応じて設定します。

開始にあたっての参考として、カスタムレポートタイプの例をいくつか示します。

レポートタイプ	使用例	A(主オブジェクト)	B	追加の手順
取引先の重複	重複ルールで検出された重複取引先のレポートを作成する。	取引先	重複レコード項目	
取引先責任者の重複	重複ルールで検出された重複取引先責任者のレポートを作成する。	取引先責任者	重複レコード項目	
リードの重複	重複ルールで検出された重複リードのレポートを作成する。	リード	重複レコード項目	
すべての重複	重複ルールの効果を確認するためのレポートを作成する。	重複レコードセット	重複レコード項目	[ルール名を複製] 参照項目を [重複レコードセット] ページレイアウトに追加する。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

カスタムレポートタイプを作成または更新する

- 「カスタムレポートタイプの管理」

カスタムレポートタイプを削除する

- 「すべてのデータの編集」

3. ユーザが使用できるようにするレポートタイプをリリースします。
4. ユーザがこれらのカスタムレポートタイプを使用してレポートを作成できることをユーザに知らせます。

リード

評価済みリードを変換した結果、重複レコードとなることを営業チームが認識できるようになりました。

リードの変換時の取引先責任者や取引先の重複の回避

重複管理ルールを活用して、営業チームの取引先責任者や取引先に重複がないようにします。

重複管理に設定した重複ルールに応じて、営業チームのメンバーが評価済みリードを変換するときに、重複する取引先や取引先責任者が作成されないようにすることができます。さらに、重複ルールにクロスオブジェクト一致を含めると、リードの変換によって、リードやカスタムオブジェクトなどの他のオブジェクトに属するレコードに重複が生じた場合に、営業チームにアラートが表示されます。

また、Salesforce1でもベータ機能として使用できるため、営業チームが外出先でリードを変換でき、重複する取引先責任者や取引先が作成されることもありません。Salesforceヘルプの「Salesforce1でサポートされるデータ:制限とSalesforceフルサイトとの違い」の「リード」セクションで、この機能の制限事項についてよく確認してください。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

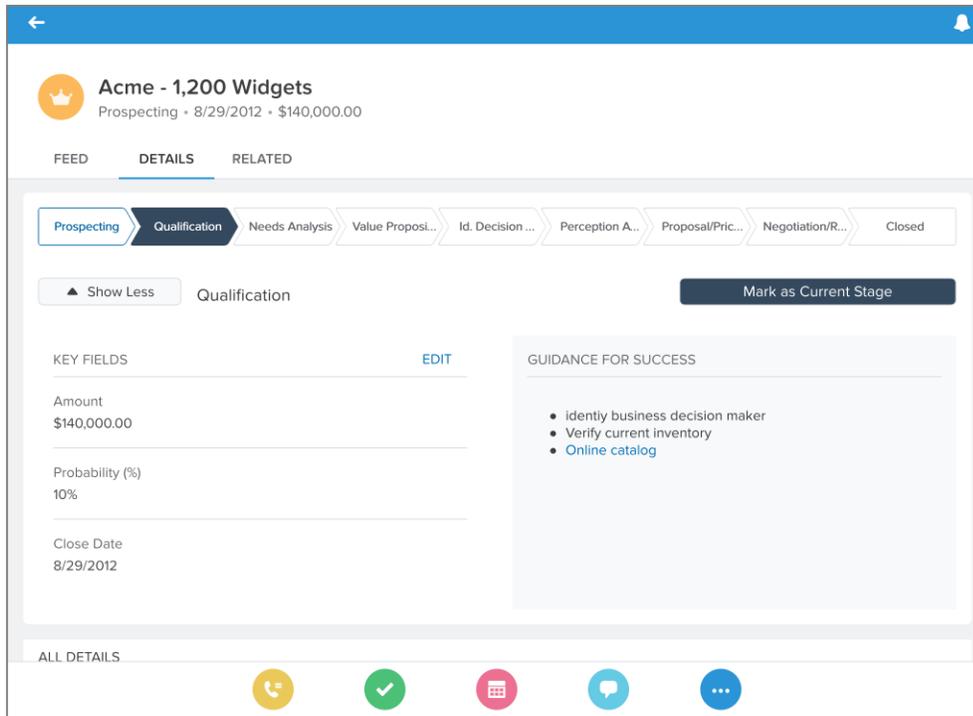
セールスパス

会社のセールスプロセスに従って商談を次のフェーズに進めるよう営業担当者を誘導して、商談を迅速にクローズできるようにします。

セールスパスで営業担当者の販売クローズを促進

外出中の営業担当者がどこにいても販売実績を挙げられるようにします。セールスパスは、会社のセールスプロセスの各フェーズを進めるよう担当者を誘導し、重要な営業ToDoに集中できるようにして、案件のクローズを促進します。

Salesforce1のセールスパスは、担当者が商談の各フェーズを進めるよう誘導します。セールスパスを設定するときは、Chatterの投稿のほか、ベストプラクティスや注意を要する落とし穴、あるいは励ましの言葉など案件クローズに向けて担当者が意欲を持続できるような役立つ情報のリンクを含めることをお勧めします。



セールスパスはSalesforceフルサイトで有効化して設定できます。セールスパスおよびその設定についての詳細は、[セールスパスの設定](#)を参照してください。

エンタープライズテリトリー管理

フル機能を装備したエンタープライズCRMソリューションを開発するというSalesforceの継続的なコミットメントを反映して、Territory Management 2.0の名称が「エンタープライズテリトリー管理」に変更されました。最新の機能では、取引先責任者、テリトリー、および商談間のリレーションの割り当ておよび管理、リストビューやレコードにカスタム項目を使用したテリトリーの特性の的確な把握、特定のレポートのテリトリーの追加情報などで多くのオプションを利用できます。APIとメタデータAPIもいくつか更新されました。詳細は、リリースノートの該当セクションを参照してください。

これらの新機能を含む、エンタープライズテリトリー管理の詳細な実装手順は、[Implementing Enterprise Territory Management](#)を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

[Implementing Enterprise Territory Management](#)

このセクションの内容:

リストビューおよびオブジェクトページでのテリトリー管理のカスタム項目の表示

情報を簡単に検索および分類できるリストビュー、関連リスト、および詳細ページにカスタム項目を追加して、組織の主要なテリトリー管理情報をすぐに確認できるようにします。

取引先に割り当てられたテリトリー内のユーザの識別

取引先とユーザはテリトリーに別々に割り当てられますが、取引先がテリトリーに割り当てられると、テリトリー内のユーザ(割り当てられている場合)がその取引先にアクセスできます。取引先レコードを調べれば、テリトリー内のユーザをすぐに確認できます。

商談へのテリトリーの手動割り当て

商談レコードでは、組織が、その商談を担当する営業担当者に割り当てられたテリトリーを追跡できます。割り当て可能なテリトリーは、商談に関連付けられた取引先レコードに割り当てられているテリトリーによって決まります。商談にテリトリーを割り当てると、テリトリーモデルの階層でそのテリトリーより上位のテリトリーに割り当てられているすべての Salesforce ユーザにその商談が共有されます。

特定の取引先レポートでのテリトリーの追加情報の表示

取引先レポートでテリトリー情報を参照する新しいユーザオプションが追加されました。

商談レポートおよびリストビューでのテリトリー情報の表示

取引先レポートでテリトリー情報を参照する新しいユーザオプションが追加されました。

リストビューおよびオブジェクトページでのテリトリー管理のカスタム項目の表示

情報を簡単に検索および分類できるリストビュー、関連リスト、および詳細ページにカスタム項目を追加して、組織の主要なテリトリー管理情報をすぐに確認できるようにします。

カスタム項目は次の要素に追加できます。

- テリトリー階層ページの並び替え済みリストビュー
- 取引先の詳細ページの [割り当てられたテリトリー] 関連リスト
- [テリトリーの手動割り当て] ページの [利用可能] リスト
- テリトリーの詳細ページの [下位テリトリー] 関連リスト
- ルールの詳細ページの [テリトリー] 関連リスト

 **例:** たとえば、業界カバー率、事業単位情報、営業戦略、営業担当者のテリトリー別目標などを追跡および表示するカスタム項目を作成することが考えられます。

取引先に割り当てられたテリトリー内のユーザの識別

取引先とユーザはテリトリーに別々に割り当てられますが、取引先がテリトリーに割り当てられると、テリトリー内のユーザ(割り当てられている場合)がその取引先にアクセスできます。取引先レコードを調べれば、テリトリー内のユーザをすぐに確認できます。

[割り当てられたテリトリー内のユーザ] 関連リストは、取引先ページレイアウトに追加できます。そのため、システム管理者およびユーザが、取引先に割り当てられたテリトリーに割り当てられているすべてのユーザを表示できます。「設定・定義を参照する」と「テリトリーの管理」の両方の権限を持つユーザは、取引先に割り当てられた有効、計画中、またはアーカイブ済みテリトリーモデルからテリトリー内のユーザを参照できます。「テリトリーの管理」権限のないユーザは、有効モデルからのみテリトリー内のユーザを参照できます。

関連リストを取引先ページレイアウトに追加し、システム管理者およびユーザが参照する必要のある標準項目およびカスタム項目(ある場合)を含めます。この機能を使用できることをユーザに連絡します。

 **メモ:** この関連リストの [更新日] 項目には、ユーザのテリトリー関連付けレコードが最後に変更された日付が表示されます。これはユーザがテリトリーに割り当てられた日付です。

 **例:** 6人の営業担当者が East Coast (東海岸) テリトリーに割り当てられているとします。XYZ Publishing も East Coast (東海岸) テリトリーに割り当てられているため、このテリトリー内の6人の営業担当者は XYZ Publishing 取引先にアクセスできます。

商談へのテリトリーの手動割り当て

商談レコードでは、組織が、その商談を担当する営業担当者に割り当てられたテリトリーを追跡できます。割り当て可能なテリトリーは、商談に関連付けられた取引先レコードに割り当てられているテリトリーによって決まります。商談にテリトリーを割り当てると、テリトリーモデルの階層でそのテリトリーより上位のテリトリーに割り当てられているすべての Salesforce ユーザにその商談が共有されます。

つまり、割り当てを行うと、ユーザがその割り当てを参照できます。商談ページレイアウトに「テリトリー」項目を追加していることを確認します。その後、この機能を使用できることをユーザに連絡します。

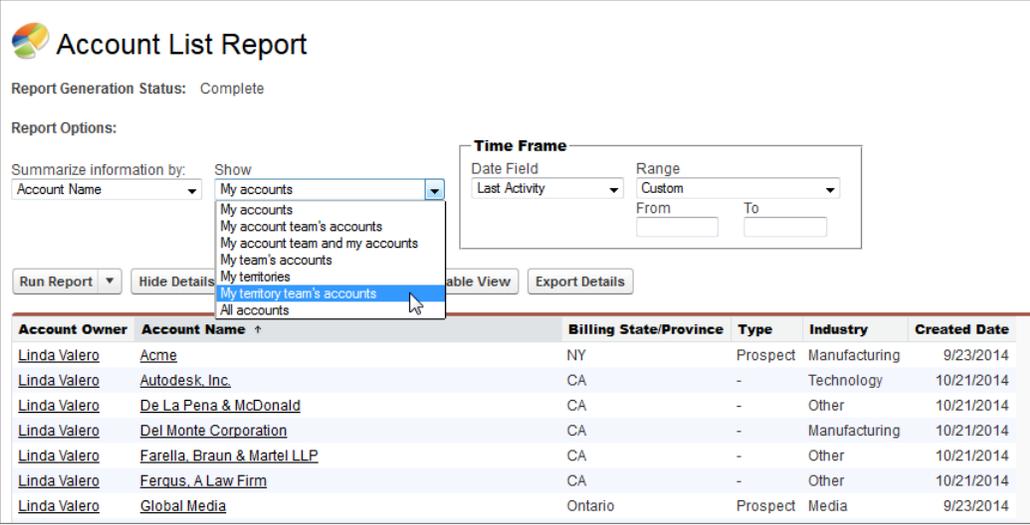
テリトリーモデルをアーカイブした場合や有効なモデルのテリトリーを削除した場合は、これらのテリトリーが割り当てられた商談レコードの「テリトリー」項目の値が空白にリセットされます。

 **例:** Unitel.com という取引先に6件の商談があり、East Coast (東海岸) と West Coast (西海岸) という2つのテリトリーが関連付けられている場合、この6件の商談のいずれかまたはすべてに、East Coast (東海岸) と West Coast (西海岸) のいずれかのテリトリーを割り当てることができます。

特定の取引先レポートでのテリトリーの追加情報の表示

取引先レポートでテリトリー情報を参照する新しいユーザオプションが追加されました。

いくつかの標準取引先レポートで、ユーザが自分のテリトリーとそのテリトリーチームの取引先を表示できます。これらのオプションは、カスタム取引先レポートでも使用できます。この機能について必ずユーザに連絡してください。



Account Owner	Account Name	Billing State/Province	Type	Industry	Created Date
Linda Valero	Acme	NY	Prospect	Manufacturing	9/23/2014
Linda Valero	Autodesk, Inc.	CA	-	Technology	10/21/2014
Linda Valero	De La Pena & McDonald	CA	-	Other	10/21/2014
Linda Valero	Del Monte Corporation	CA	-	Manufacturing	10/21/2014
Linda Valero	Farella, Braun & Martel LLP	CA	-	Other	10/21/2014
Linda Valero	Fergus, A Law Firm	CA	-	Other	10/21/2014
Linda Valero	Global Media	Ontario	Prospect	Media	9/23/2014

テリトリーを効果的に管理するために推奨される特定のカスタムレポートについての詳細は、Salesforce ヘルプ または『[Implementing Enterprise Territory Management](#)』を参照してください。

商談レポートおよびリストビューでのテリトリー情報の表示

テリトリーを商談に割り当てると、ユーザがその情報を商談レポートおよびリストビューで参照できるようになりました。

標準の商談レポートおよび商談リストビューで、ユーザはテリトリーが割り当てられている商談や割り当てられていない商談を表示できます。テリトリー名を表示する場合は、ユーザが「テリトリー名」項目および「テリトリーの説明」項目を追加できます。このオプションについて必ずユーザに連絡してください。

Owner Role	Opportunity Owner	Account Name	Opportunity Name	Territory Name	Fiscal Period	Probability (%)	Age	Close Date	Created Date	Next Step	Lead Source	Type	Amount
Stage: Prospecting (1 record)													
avg 76													
-	Linda Valero	Acme	Acme - 200 Widgets	New York State	Q4-2012	10%	76	11/9/2012	9/23/2014	Need estimate	Word of mouth	Existing Business	\$20,000.00
Stage: Needs Analysis (1 record)													
avg 76													
-	Linda Valero	Acme	Acme - 600 Widgets		Q3-2007	20%	76	9/6/2012	9/23/2014	Need estimate	Trade Show	New Business	\$70,000.00

テリトリーを効果的に管理するために推奨される特定のカスタムレポートについての詳細は、Salesforceヘルプまたは『[Implementing Enterprise Territory Management](#)』を参照してください。

商談とコラボレーション売上予測

商談を使用して、販売パイプラインのすべての案件を追跡します。コラボレーション売上予測を使用して、パイプラインから商談成立までの販売サイクルを予測および計画し、組織全体で販売予想を管理します。

このセクションの内容:

柔軟な売上予測調整を使用したすべての売上予測ユーザによる各自の売上予測の調整

コラボレーション売上予測は改良を重ねています。営業担当者が、商談の基本的な値を変更することなく、各自の売上予測を調整できるようになりました。また、営業マネージャは、各営業担当者の個別の売上予測金額ではなく、積み上げ集計された売上予測金額を調整することで時間を節約できます。

柔軟な売上予測調整を使用したすべての売上予測ユーザによる各自の売上予測の調整

コラボレーション売上予測は改良を重ねています。営業担当者が、商談の基本的な値を変更することなく、各自の売上予測を調整できるようになりました。また、営業マネージャは、各営業担当者の個別の売上予測金額ではなく、積み上げ集計された売上予測金額を調整することで時間を節約できます。

売上予測調整により、ユーザが売上予測の積み上げ集計金額を変更できるため、売上予測の柔軟性が増大します。ユーザは、収益や数量の変化が予想され、積み上げ集計にはまだ反映されていない場合に、各自の売上予測を対応させることができます。たとえば、売上予測マネージャの部下に商談の最終金額を決まって過小または過大評価して報告する営業担当者があるとします。こうした場合に売上予測マネージャは、部下の売上予測金額を調整して、予想されるギャップを是正できます。

Spring '15 では、システム管理者が、すべての売上予測ユーザ (営業担当者とマネージャの両方を含む) に各自の売上予測金額の調整を許可できるようになりました。この広範な調整機能により、ユーザがより多くの状況で売上予測を調整できます。たとえば、マネージャが最終収益金額は現在の売上予測を上回ると考えているが、どの部下の予測のずれによってこのギャップが生じるのかがはっきりしない場合、各部下の売上予測を調整するのではなく、マネージャ自身の「最善達成」売上予測金額を調整できます。同様に、営業担当者が達成予測金額の増加を見込んでいるが、どの商談から追加収益が得られるかがはっきりしない場合、自分の売上「達成予測」金額を調整できます。営業マネージャが調整できるのは、[私の商談]の小計ではなく、自分の売上予測合計のみです。

調整を行うによって、商談の基本的な総積み上げ集計が変更されることはありません。調整により詳細情報が追加されるだけで、後から変更または削除できます。

 **メモ:** 組織で商品ファミリの売上予測を使用している場合、ユーザが各自の商品ファミリの売上予測金額を調整することはできません。

このセクションの内容:

所有者の調整の有効化

システム管理者は、マネージャの調整とは別に、所有者の調整を有効にできます。この場合は、ビジネスプロセスで必要なもののみを有効にできます。この設定は組織のすべての売上予測種別に適用されますが、売上予測種別ごとに独自の調整データが維持されます。

所有者の調整の有効化

システム管理者は、マネージャの調整とは別に、所有者の調整を有効にできます。この場合は、ビジネスプロセスで必要なもののみを有効にできます。この設定は組織のすべての売上予測種別に適用されますが、売上予測種別ごとに独自の調整データが維持されます。

所有者の調整を有効化する前に、[売上予測階層が設定済み](#)であることを確認してください。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [売上予測] > [設定] をクリックします。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition (商談分割またはカスタム項目の売上予測を除く)、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

売上予測設定を参照する

- 「設定・定義を参照する」

売上予測設定を編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

- すべての売上予測ユーザに各自の売上予測金額の調整を許可するには、[売上予測調整を有効化]で[所有者による調整を有効化]を選択します。
以前存在していた[調整の有効化]というチェックボックスは[マネージャによる調整を有効化]に変更されました。
- [保存]をクリックします。
- [設定]で、[ユーザの管理]>[プロファイル]をクリックします。
- 調整を有効化するプロファイルを検索します。
- 拡張プロファイルユーザインターフェースを使用している場合、[アプリケーション権限]、[編集]の順にクリックします。
- [売上予測の上書き]を選択して、[保存]をクリックします。

商品

商品で項目履歴管理を使用できるようになりました。

このセクションの内容:

商品に項目履歴管理を搭載

商品で項目履歴管理を使用できます。

商品に項目履歴管理を搭載

商品で項目履歴管理を使用できます。

このリリースで新たに、商品に項目履歴管理が追加されました。追跡する特定の商品項目を選択すると、この項目で行われた変更が[履歴]関連リストに表示されます。履歴のエントリごとに、変更の日付、時刻、変更内容、変更者が示されます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Performance Edition

メール接続 (ベータ)

新しい製品エリアとなるメール接続をご紹介します。このエリアには最新のメールインテグレーション機能である Exchange Sync (ベータ) が導入され、ユーザの取引先責任者や行動が Exchange ベースのメールシステムと Salesforce 間で同期されます。

Exchange Sync (ベータ)

ユーザの Exchange ベースのメールシステム内の取引先責任者や行動が、Salesforce 内の取引先責任者や行動と同期した状態で維持されます。ユーザが各自のワークステーションにソフトウェアをインストールして保守する必要がありません。

-  **メモ:** Exchange Sync は現在ベータプログラムとして使用可能で、機能の品質は高いですが、既知の制限があります。ユーザの Exchange Sync を有効にする場合は、[設定]から [Email Connect]>[Exchange Sync の設定]をクリックして、[Exchange Sync の有効化]を選択します。

このセクションの内容:

クラウドでのユーザの取引先責任者や行動の同期

ユーザに Exchange Sync を設定すると管理業務が容易になります。Exchange Sync は、Microsoft® Exchange サーバと Salesforce 間で取引先責任者や行動を同期する最も新しく簡単な方法です。Exchange Sync を使用すれば、ソフトウェアリリースを更新して最新の状態にしておくようユーザにしつこく言い続ける必要がなくなるため、ユーザ管理が楽になります。さらに、Exchange Sync は、Microsoft® Exchange に接続されたアプリケーションやデバイスとも互換性があります。

Exchange Sync 機能に Salesforce サイドパネルを補完

ユーザを Salesforce for Outlook から移行している場合、ユーザは引き続きサイドパネルを活用できます。整然とした状態で設定を行い、競合を避けるために、Outlook 設定の Salesforce for Outlook 同期機能を無効化してください。

クラウドでのユーザの取引先責任者や行動の同期

ユーザに Exchange Sync を設定すると管理業務が容易になります。Exchange Sync は、Microsoft® Exchange サーバと Salesforce 間で取引先責任者や行動を同期する最も新しく簡単な方法です。Exchange Sync を使用すれば、ソフトウェアリリースを更新して最新の状態にしておくようユーザにしつこく言い続ける必要がなくなるため、ユーザ管理が楽になります。さらに、Exchange Sync は、Microsoft® Exchange に接続されたアプリケーションやデバイスとも互換性があります。

-  **メモ:** Exchange Sync は現在ベータプログラムとして使用可能で、機能の品質は高いですが、既知の制限があります。ユーザの Exchange Sync を有効にする場合は、[設定] から [Email Connect] > [Exchange Sync の設定] をクリックして、[Exchange Sync の有効化] を選択します。

Exchange Sync により、Salesforce とユーザの Exchange ベースのメールシステムのどちらか一方で取引先責任者や行動を更新または作成できるため、ユーザの生産性が向上します。



ユーザが取引先責任者と行動の両方を同期するかどうかは、Salesforce の同期設定で定義します。また、ユーザのレコードを Exchange サーバと Salesforce 間の双方向で同期するか、一方向で同期するかも定義できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Salesforce for Outlook と比較して、Exchange Sync は次の点でご自身にも営業チームにもメリットがあります。

- すべてのユーザの設定を一元的に実行して管理する。ご自身もユーザもシステムにソフトウェアをインストールする必要がありません。
- Exchange Sync は、Outlook® for Mac やモバイルデバイスなど、Exchange がサポートする数種のメールシステムと互換性がある。Outlook 以外のメールシステムを利用しているユーザもレコードを同期できます。
- レコードが数分おきに同期され、Salesforce for Outlook よりも頻度が多い。
- レコードが定期的に同期され、ユーザのデバイスやメールシステムがオフでも実行される。

Exchange Sync を実装するには、Exchange サーバと Salesforce を通信させるためにいくつかの手順を実行します。設定についての詳細は、『[Exchange Sync Implementation Guide](#)』を参照してください。

Exchange Sync の制限事項

Exchange Sync には、取引先責任者や行動を即座に同期する多数のメリットがあります。すべての最新機能と同様に、この機能にもいくつかの制限があります。

現時点で、Exchange Sync は次のことを実行しません。

- 終日行動または定期的な行動の同期
- 行動に含まれる招待者の同期
- ユーザが1つのアクションで両システムからレコードを削除

ただし、ユーザは今までどおり手動で終日行動および定期的な行動を更新したり、行動の招待者を追加したり、両システムからレコードを削除したりすることができます。

Exchange Sync 機能に Salesforce サイドパネルを補完

ユーザを Salesforce for Outlook から移行している場合、ユーザは引き続きサイドパネルを活用できます。整然とした状態で設定を行い、競合を避けるために、Outlook 設定の Salesforce for Outlook 同期機能を無効化してください。

- ☑ **メモ:** Exchange Sync は現在ベータプログラムとして使用可能で、機能の品質は高いですが、既知の制限があります。ユーザの Exchange Sync を有効にする場合は、[設定] から [Email Connect] > [Exchange Sync の設定] をクリックして、[Exchange Sync の有効化] を選択します。

Outlook 設定と Exchange Sync 設定が競合し、その両方で同一のレコードを同期するようにユーザを割り当てた場合、Salesforce では、Exchange Sync 設定でその種のレコードに定義した設定が自動的に優先されます。

こうした競合は Salesforce によって対処されますが、Exchange Sync ユーザの Salesforce for Outlook 同期設定を無効化することをお勧めします。

無効にしても心配いりません。Salesforce サイドパネルは Salesforce for Outlook の機能ですが、Exchange Sync ユーザは引き続き使用できます。

Exchange Sync で取引先責任者や行動を同期しながら、サイドパネルを使用し続ける場合の推奨の設定方法を次に示します。

- Outlook 設定のすべての同期設定で [同期しない] を選択し、[サイドパネル] オプションを選択していることを確認します。
- 次に、Exchange Sync 設定の同期設定を表示します。

このような方法で設定を管理することで、どちらの機能も整然とした状態で設定され、将来問題を引き起こすおそれのある競合が回避されます。

Salesforce for Outlook

営業担当者が ToDo の管理や、Salesforce レコードに追加したメールの追跡をしやすくする機能を使用して、営業チームが生産性の向上を目指せるようになります。

最新の機能強化について説明する前に、依然として Connect for Outlook を使用しているチームメンバーがいる場合は、早めに Salesforce for Outlook にアップグレードすることを強くお勧めします。現時点で変更しておけば、2015 年 10 月に仮予定されているサポート終了日の直前に慌ててチームを移行させることがなくなります。

このアップグレードを早めに行うもう 1 つの理由は、Connect for Outlook と比較して、Salesforce for Outlook のほうが使い勝手や機能が優れているためです。具体的には、Salesforce for Outlook にアップグレードすることで営業チームに次のメリットがあります。

- Salesforce サイドパネル (営業担当者が Salesforce のコンテンツや機能を Microsoft® Outlook® で直接使用できます)
- Office 365™ と連携する、Microsoft がホストするサービスである Microsoft Exchange Online のサポート。
- クイック実行 (Microsoft Office のストリーミングインストーラ) を使用してインストールされた Microsoft Outlook 2013 のサポート
- 一部またはすべての取引先責任者、行動、および ToDo を同期するオプション
- 自動的にスケジュールされた同期サイクル

この後、Salesforce for Outlook およびサイドパネルの機能強化について確認していきます。

このセクションの内容:

Salesforce の定期的な ToDo と Microsoft® Outlook® の同期

営業チームが Salesforce の定期的な ToDo を Outlook で追跡できるようにします。これにより、営業チームが Outlook を長時間使用する場合に、定期的に完了する必要がある Salesforce の ToDo を忘れることがなくなります。

チームのサイドパネルに関連する取引先責任者やリードが表示される可能性の向上

Outlook のメールアドレスと Salesforce の取引先責任者やリードのすべてのメール項目のメールアドレス間で一致するものを営業チームに表示する機能が向上しました。

営業チームの意向に基づいて個人取引先にメールを追加可能

個人取引先に追加するメールについて、取引先責任者と取引先のどちらとして追加するかを営業チームが選択できます。営業チームにとって好ましい方法で個人取引先に追加するため、メールを追跡しやすくなります。

ToDo を受け入れる複数の Salesforce レコードへのメールの追加

営業チームが、取引先責任者だけでなく、取引先、商談、ケースなどの ToDo を受け入れる複数の Salesforce レコードにメールを追加できるようにします。つまり、これからは、営業チームがメールを追加するレコードが、ToDo を受け入れる 1 つのレコードに限定されません。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

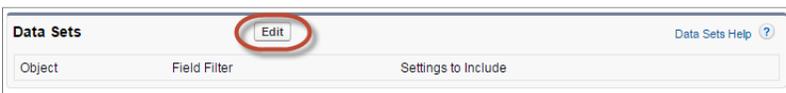
Salesforce の定期的な ToDo と Microsoft® Outlook® の同期

営業チームが Salesforce の定期的な ToDo を Outlook で追跡できるようにします。これにより、営業チームが Outlook を長時間使用する場合に、定期的に完了する必要がある Salesforce の ToDo を忘れることがなくなります。

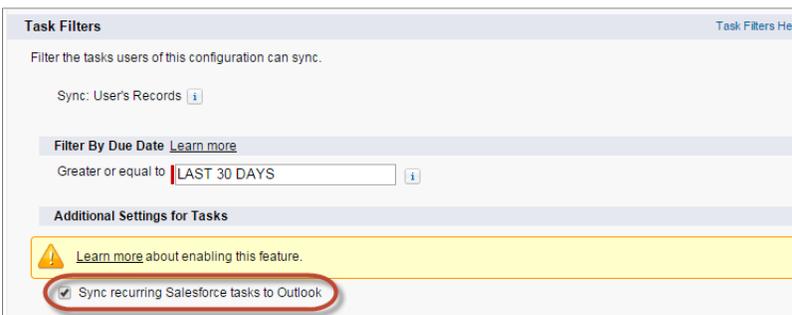
Salesforce for Outlook で、Salesforce の定期的な ToDo を Salesforce から Outlook に一方向に同期できるようになりました。Outlook 設定で定期的な ToDo を同期するようにデータセットを設定すると、定期的な ToDo のうち現在未完了の ToDo と、変更された ToDo のみがユーザーに表示されます。ユーザーが現在未完了の ToDo を完了すると、定期的な ToDo の次の ToDo が表示されます。

営業チームが Salesforce の ToDo と Outlook を同期できるようになりました。

1. Salesforce の [設定] で、[デスクトップ管理者] > [Outlook 設定] をクリックします。
2. Salesforce の定期的な ToDo の同期を設定する Outlook 設定を選択します。
3. Outlook 設定の詳細ページのデータセットで、[編集] をクリックします。



4. [Salesforce の定期的な ToDo を Outlook に対して同期] オプションを選択します。



新しい Outlook 設定およびデータセットは、デフォルトで、Salesforce の定期的な ToDo と Outlook が同期するように設定されています。

チームのサイドパネルに関連する取引先責任者やリードが表示される可能性の向上

Outlook のメールアドレスと Salesforce の取引先責任者やリードのすべてのメール項目のメールアドレス間で一致するものを営業チームに表示する機能が向上しました。

サイドパネルに、Outlook のメールアドレスと、Salesforce の取引先責任者やリードのカスタム項目を含むすべてのメールアドレス項目の間で一致するアドレスが表示されるようになりました。つまり、サイドパネルで、営業チームにとって重要性の高いメールと関連のある取引先責任者やリードが表示される可能性が高くなります。

営業チームの意向に基づいて個人取引先にメールを追加可能

個人取引先に追加するメールについて、取引先責任者と取引先のどちらとして追加するかを営業チームが選択できます。営業チームにとって好ましい方法で個人取引先に追加するため、メールを追跡しやすくなります。

デフォルトでは、サイドパネルで個人取引先を取引先責任者としてメールが追加されます。ただし、サイドパネルで個人取引先を取引先としてメールが追加されるように Outlook を簡単に設定できます。

1. Salesforce の [設定] で、[デスクトップ管理者] > [Outlook 設定] をクリックします。
2. チームが個人取引先を取引先としてメールを追加する Outlook 設定を編集します。
3. [メールを取引先として個人取引先に追加する] オプションを選択します。

ToDo を受け入れる複数の Salesforce レコードへのメールの追加

営業チームが、取引先責任者だけでなく、取引先、商談、ケースなどの ToDo を受け入れる複数の Salesforce レコードにメールを追加できるようにします。つまり、これからは、営業チームがメールを追加するレコードが、ToDo を受け入れる 1 つのレコードに限定されません。

Salesforce では、ユーザがメールを追加するレコードごとに個別の ToDo が作成されます。この機能を実装するには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

活動

行動と ToDo は、営業の生産性に不可欠な要素です。パフォーマンスと使い勝手を向上する更新に加えて、競合他社に対する営業チームの競争力を高める機能強化を行いました。

行動のリンク

行動がさらに改善されています。Winter '16 リリースまでに、以前に外部ユーザにスケジュールした行動へのリンクが機能しなくなる可能性があります。Winter '16 リリースまでに行動を更新することをお勧めします。行動を更新すると、更新済みのリンクを記載した新しいメール通知が送信されます。

自分に割り当てた ToDo では通知が生成されない

ToDo を作成して自分に割り当てた場合、本人には通知が送信されません。

1 つの ToDo に対する定期的な ToDo 所有者の再割り当て

定期的な ToDo のうちの 1 つの ToDo に所有者を再割り当てできるようになりました。再割り当てされた ToDo は、定期的な ToDo から削除されます。

Salesforce to Salesforce の新しいメールテンプレートおよびトーン

この春、Salesforce to Salesforce が一新されました。Spring '15 では、Salesforce to Salesforce のメールテンプレートや表示ラベル、ユーザインターフェースのさらなる斬新性や直観性を追求していくつかの点が更新されます。

いくつかの表示ラベルがより直観的な名称に更新されました。

- ユーザがオブジェクトを登録するページの[オブジェクトの対応付け]列が[組織のオブジェクト]という列に変更されました。
- ユーザが項目を登録するページの[項目の対応付け]列が[自分の項目]という列に変更されました。
- [新規招待] ページの [接続テンプレート] セクションが [接続機能] というセクションに変更されました。

[接続] ページに [接続種別] 列が追加されました。標準 Salesforce to Salesforce と組織同期の両方を使用する組織は、この列によって接続を追跡しやすくなります。

会社の Salesforce to Salesforce でデフォルトのメールテンプレートを使用している場合、Salesforce to Salesforce の更新を通知するメールが簡潔な会話調になりました。今までと同様に役立つ情報ですが、堅苦しさを排除した気軽なトーンになりました。

最後に、ヘルプドキュメントに組織同期という新機能の説明が記載されています。組織同期とは、Salesforce to Salesforce のフレームワーク上に構築されたビジネス継続性に関わる機能です。ビジネスに欠かせないデータをセカンダリ Salesforce 組織に同期する複製接続を使用して、プライマリ組織が使用不能になってもユーザが作業を継続できるようにします。組織同期についての詳細は、[組織同期によるビジネス継続性の向上 \(正式リリース\)](#)を参照してください。

Salesforce Console for Sales

Salesforce Console for Sales では、ダッシュボードでセールスインテリジェンスに簡単にアクセスできるため、より少ないクリックとスクロールでより多くのコンテキストデータの内容にアクセスできます。

Salesforce コンソールの機能強化

Salesforce Console for Sales および Salesforce Console for Service に、コンソールの機能を高め、操作を簡単にする共通の新機能が追加されました。詳細は、[Salesforce Console for Service](#)を参照してください。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上させるため、Sales Cloud では次の点も変更されています。

共有ルールを使用した注文へのユーザのアクセス制御

注文に独自の共有モデルが追加されました。これまで注文には、一般に広く共有されている取引先の共有モデルが継承されていました。この独自の共有モデルにより、注文へのユーザのアクセス制御が強化されます。たとえば、

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション:
Performance Edition および
Developer Edition (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション:
Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales Cloud の有料オプション)

注文により厳しい組織全体のデフォルト値を設定したうえで、必要に応じて注文共有を使用してアクセス権を拡張することができます。注文に対する組織全体のデフォルト値は「親レコードに連動」のため、組織全体のデフォルトを変更しない限り、ユーザがこの変更気づくことはありません。詳細は、Salesforce ヘルプの「注文共有」を参照してください。

テリトリー種別のレコードに追加された Priority 項目

テリトリー種別のレコードに Priority という新しい項目が追加されました。この項目は、作成または編集したテリトリーに適切なテリトリー種別を選択するのに役立ちます。この項目はまた、SOAP API (バージョン 33) の Territory2Type オブジェクトおよびメタデータ API (バージョン 33) の Territory2Type メタデータ型で公開されています。

感謝およびスキルの無料使用

カスタムバッジを使用した同僚の表彰や専門知識の共有を無料で行うことができます。すべての SalesCloud ユーザが Work.com の感謝バッジやスキルを利用できるようになりました。詳細は、「[感謝およびスキルの無料使用](#)」を参照してください。

Work.com: 無料の機能、シングルアドオン

Spring'15では、感謝やスキルの機能を無料で使用することや、コーチング環境をカスタマイズすること、そして目標(パイロット)のより多くの機能を使用することができます。

Work.comでは、目標、リアルタイムコーチング、報奨、パフォーマンスレビューなど、パフォーマンスの向上に役立つ、カスタマイズ可能で簡便な機能を備えた販売管理およびサービス管理ツールのスイートをマネージャやチームが短期間で習得して、これを活用してパフォーマンスを向上させられるようになります。

このセクションの内容:

[感謝およびスキルの無料使用](#)

カスタムバッジを使用した同僚の表彰や専門知識の共有を無料で行うことができます。すべての SalesCloud ユーザが Work.com の感謝バッジやスキルを利用できるようになりました。

[新しいアドオンを使用したすべての Work.com 機能へのアクセス](#)

Work.com の3つの機能アドオン (Motivate、Align、Perform) が1つのアドオンに統合され、報奨、フィードバック、目標、コーチング、調整、パフォーマンスサマリーなどが集約されました。

[組織に合わせたコーチングのカスタマイズ](#)

コーチングの項目、ページレイアウト、リストビューのカスタマイズや、チームに応じたその他の変更が行えるようになりました。

[拡張目標\(パイロット\)の活用](#)

目標(パイロット)にサインアップしている場合は、チームが、総計値の加重、目標の進行状況の積み上げ集計、総計値の Salesforce データへのリンクなどの追加機能を使用できます。

[Work.com のその他の変更](#)

Work.com では、他にも重要な変更が行われています。

関連トピック:

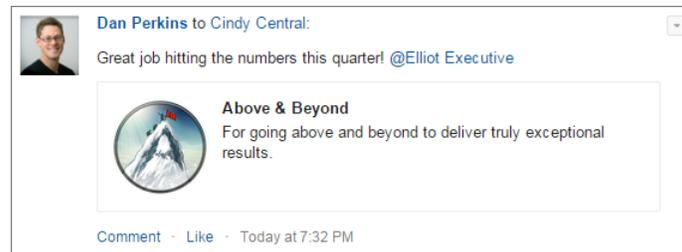
[Work.com 機能が使用可能になる方法と状況](#)

感謝およびスキルの無料使用

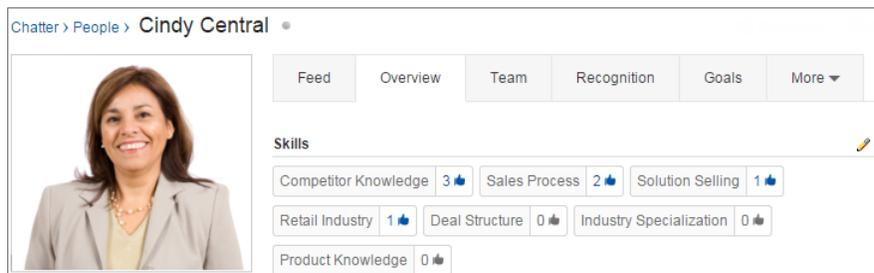
カスタムバッジを使用した同僚の表彰や専門知識の共有を無料で行うことができます。すべてのSalesCloudユーザーがWork.comの感謝バッジやスキルを利用できるようになりました。

 **メモ:** 無料の感謝およびスキル機能は、Spring '15 リリース後 24 時間以内に使用可能になります。

ユーザーがすべての感謝機能(報奨を除く)に無料でアクセスできるようになりました。Work.com ライセンスがなくても、感謝バッジを作成、編集、共有、および付与できます。ただし、報奨付きのバッジの付与、作成、および受領には、引き続きユーザーに Work.com ライセンスが必要です。



ユーザーがすべてのスキル機能にもアクセスできるようになりました。ユーザーが組織内で、個別のスキルを宣言したり、他のユーザーのスキルを支持したり、特定のスキルを持つエキスパートを検索したりすることができます。



これらの機能を有効にするには、[設定] から [カスタマイズ] > [Work.com] > [設定] をクリックします。[感謝設定] および [スキル設定] に、関連する設定があります。詳細は、Salesforce ヘルプの「Work.com 設定の有効化または無効化」を参照してください。

[バッジ] タブを追加すると、ユーザーが感謝バッジをより簡単に作成および編集できます。新しいタブの追加についての詳細は、Salesforce ヘルプの「アプリケーションプロパティの編集」を参照してください。

次の制限に注意してください。

- 感謝およびスキル機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition に限定されています。
- ユーザーライセンスに共有が含まれていないユーザーは、12 個のデフォルトバッジと会社全体のバッジのみ付与できます。
- コミュニティ組織では、デフォルトのバッジおよびスキル機能を使用できません。
- 感謝およびスキル機能は、特定のユーザーライセンスに限定されています。詳細は、Salesforce ヘルプのナレッジ記事「感謝およびスキルのユーザーライセンス」を参照してください。

新しいアドオンを使用したすべての Work.com 機能へのアクセス

Work.com の3つの機能アドオン (Motivate、Align、Perform) が1つのアドオンに統合され、報奨、フィードバック、目標、コーチング、調整、パフォーマンスサマリーなどが集約されました。

 **メモ:** この新しいアドオンは、Spring '15 のリリース直後に使用可能になります。価格およびリリースについての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

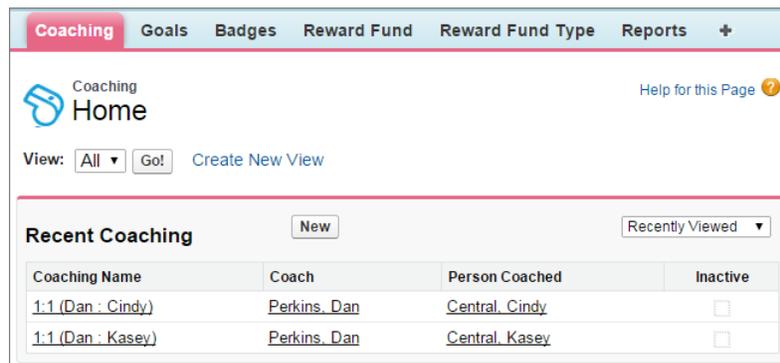
Spring '15 リリースでは、ユーザがスキルおよび感謝機能 (報奨を除く) に無料でアクセスでき、Work.com の他の機能が1つの機能アドオンに統合されます。

新規顧客は新しい Work.com アドオンのみを購入できます。現在のユーザは現行のバージョンを使い続けることも、新しいバージョンにアップグレードすることもできます。

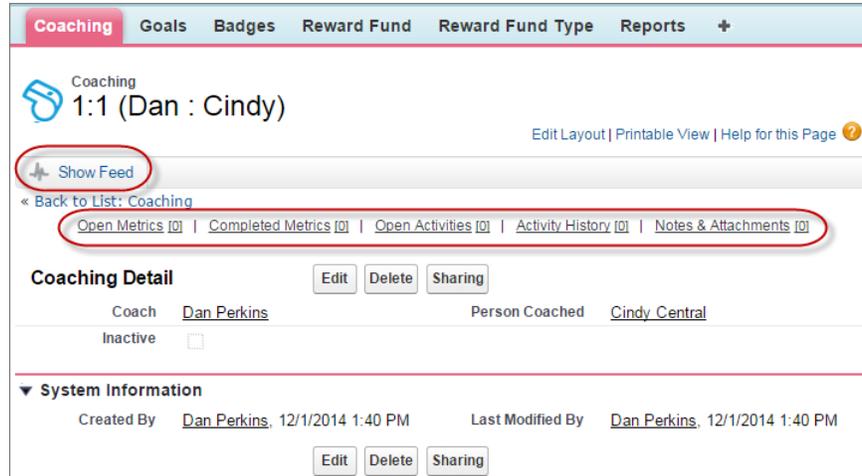
組織に合わせたコーチングのカスタマイズ

コーチングの項目、ページレイアウト、リストビューのカスタマイズや、チームに応じたその他の変更が行えるようになりました。

コーチングに、Salesforce の他のオブジェクトと同じように動作する、新しいユーザインターフェースが追加されました。個々のコーチングスペースには、Chatter プロファイルの [コーチング] タブまたは [コーチング] サブタブからアクセスします。新しいコーチングスペースは、[コーチング] タブから作成します。



コーチングの詳細ページには、特定のコーチングスペースに関連する目標、総計値、活動、メモ、および添付ファイルが表示されます。このページには、コーチングを受けているユーザが所有する目標が示されます。ただし、コミットされた目標は標準では表示されなくなります。[フィードを表示] をクリックすると、コーチングスペースに関連するフィードが表示されます。



コーチングに関連する項目、レイアウト、リストビュー、アクションをカスタマイズできるようになりました。この機能は、標準の Salesforce 共有もサポートし、Salesforce1 もサポートします。

次の制限に注意してください。

- デフォルトのリストビューは定義されません。組織に適した独自の検索条件(私のコーチ、私がコーチングするユーザなど)を作成します。
- コーチングリレーションが無効に設定されたときに参加者には自動的に通知されませんが、[無効]項目の Chatter フィード追跡でこの変更を追跡するように設定できます。

拡張目標 (パイロット) の活用

目標 (パイロット) にサインアップしている場合は、チームが、総計値の加重、目標の進行状況の積み上げ集計、総計値の Salesforce データへのリンクなどの追加機能を使用できます。

- 📌 **メモ:** 拡張目標機能は現在、パイロットプログラムで使用可能です。拡張目標の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

目標の達成度を的確に追跡するために、ユーザはさまざまな総計値に加重を割り当てることができます。さらに、ユーザに関連付けられた目標に対する個別の総計値の積み上げ集計で進行状況を追跡できます。

Metric	Weight
Achieve Ramped Quota	60
Build Pipeline	30
Complete Product Certification	10
Total	100%

ユーザはまた、総計値をさまざまなレポートのSalesforceデータにリンクできるほか、総計値の所有者だけでなく、総計値にアクセスできるユーザも総計値を更新できるようになりました。共有も、Salesforceの他のオブジェクトと同様に機能します。目標および総計値が、コーチングおよびパフォーマンスサマリーでサポートされるようになりました。

Work.com のその他の変更

Work.com では、他にも重要な変更が行われています。

パフォーマンスサイクルのリリースの詳細なエラーメッセージの受信

パフォーマンスサマリーサイクルの管理者に、パフォーマンスサマリーサイクルのリリース時に発生したエラーに関する詳細が送信されるようになりました。各エラーには、ユーザまたはマネージャが無効かどうかや、適切なオブジェクト権限の有無が記載されます。

感謝オブジェクトのページレイアウトのカスタマイズ

システム管理者が、すべての感謝オブジェクトのページレイアウトをカスタマイズできるようになりました。

Salesforce1 をさらに活用

Salesforce1 でより多くのコーチング機能にアクセスできます。詳細は、「[Salesforce1 のその他の変更](#)」を参照してください。

Data.com

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタ と Data.com クリーンアップのほかに、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。

 **メモ:** Data.com データベースには、Salesforce を使用するすべての国のデータが含まれているとは限りません。Data.com ドキュメントは、Data.com データベースにデータがない国で使用される言語に翻訳されている場合があります。

このセクションの内容:

[Data.com API: 改善](#)

Data.com API の機能が強化され、新しい機能が追加されました。

Data.com API: 改善

Data.com API の機能が強化され、新しい機能が追加されました。

Data.com は、Salesforce 内に主要なビジネスデータを提供するソリューションです。Data.com 製品スイートには、Data.com プロスペクタ と Data.com クリーンアップのほかに、関連する Data.com 機能である Social Key、Data.com レポート、および Data.com データ評価が含まれています。

Spring '15 では、Data.com API が機能強化され、API ドキュメントに他の詳細が追加されました。

どのDatacloudオブジェクトでも `queryMore()` を使用して大きな結果セット全体をスクロールできるようになりました。また、DatacloudDandBオブジェクトの `Name` および `LocationStatus` 項目が絞り込み可能になりました。これらの変更についての詳細は、[Data.com API](#) を参照してください。

Data.com API についての詳細は、『[Data.com API Developer's Guide](#)』を参照してください。

サービス: 投稿をケースにしてサポートへの期待を管理

Spring'15では、メールやソーシャルメディア投稿をすばやくケースにする手段も提供されています。また、顧客が締結したサポート契約や所有する商品を追跡することや、より多くのナレッジ記事を提供すること、さらに新しい[コンソール]タブでエージェントをサポートすることができます。

このセクションの内容:

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりをChatterのようなフィードで行えます。

作業を効率化するためのケースフィードでのマクロの使用

ケースフィードを使用するサポートエージェントは、マクロを実行して、反復作業(メールテンプレートの選択、顧客へのメールの送信、ケース状況の更新など)をすべて1回のクリックで自動的に完了できるようになりました。マクロにより、時間が節約され、エージェントの作業をサポートするうえで一貫性が確保されます。

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。

Assets オブジェクトの標準オブジェクトとしての再設計

Assets オブジェクトは、顧客が所有する商品を追跡します。Assets (納入商品)には、自社や競合他社の商品などがあります。Spring'15では、Assetsオブジェクトの機能が強化されて、ユーザはより強力な方法で納入商品を管理できます。

ナレッジ

Salesforce ナレッジは、ナレッジセンターサポート (KCS) 認定済みの知識ベースです。

Salesforce CTI Toolkit

SalesforceCTIToolkitは、コールセンターユーザがマシンにインストールしてSalesforceをコンピュータテレフォニーインテグレーションシステムと統合するために使用するアダプタプログラムをパートナーが開発するうえで役立ちます。

Open CTI

OpenCTIにより、パートナーが、コールセンターユーザのマシンにアダプタプログラムをインストールしなくても、Salesforceをコンピュータテレフォニーインテグレーション(CTI)システムに統合できます。

Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。

[コンソール] タブ (エージェントコンソール)

[コンソール] タブは、第1世代のエージェント向けカスタマーサービスコンソールです。

サービスコミュニティ

Chatter の質問、Chatter アンサー、およびアイデアは、顧客のセルフサービスコミュニティで、顧客が質問を投稿して他の顧客やサポートエージェントから回答を受け取ったり、革新的なアイデアに対して投稿や投票、コメントを行ったりする場所です。質問-to-ケースにより、モデレータがChatterの質問をケースにエスカレーションし、顧客の問題をより簡単に追跡および解決できるようになります。

ソーシャルカスタマーサービス

ソーシャルカスタマーサービスは、Radian6 と Salesforce Service Cloud 間の次世代のインテグレーションです。カスタマーサービスエージェントは、Twitter や Facebook などの主要なソーシャルネットワークから作成されたケースに対応することで、顧客との関係を構築できます。Salesforce システム管理者は、Apex クラスを使用して受信ソーシャルコンテンツの処理方法をカスタマイズすることや、組織内のどのユーザがソーシャル取引先を使用して応答する権限を持つようにするかを設定することができます。

ビジネス継続性

メンテナンス中や計画的なアップグレード時に、ユーザがSalesforceにアクセスできる方法が登場しました。組織同期により、プライマリ組織が使用不能のときにユーザが作業できる、同期済みのセカンダリ Salesforce 組織を設定できます。

関連トピック:

[サービス機能が使用可能になる方法と状況](#)

ケースフィード

ケースフィードは、ケースの作成、管理、および表示をより合理的に行う方法をサポートエージェントに提供します。ケースフィードにはパブリッシャーが含まれています。パブリッシャーでは、エージェントがケースメモの作成、活動の記録、ケースの状況の変更、および顧客とのやりとりを Chatter のようなフィードで行えます。

このセクションの内容:

[Apex を使用したデフォルトメールアクションのデフォルトの設定](#)

メールアクションのデフォルトハンドラを使用すると、サポートエージェントは顧客への返信の迅速さ、正確さ、一貫性を容易に高めることができます。メールパブリッシャー項目が事前に読み込まれるため、エージェントはメールの作成にかかる時間を短縮できます。Apex クラスでカスタムロジックを使用してビジネスコンテキストに沿ったメール項目を指定できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Apex を使用したデフォルトメールアクションのデフォルトの設定

メールアクションのデフォルトハンドラを使用すると、サポートエージェントは顧客への返信の迅速さ、正確さ、一貫性を容易に高めることができます。メールパブリッシャー項目が事前に読み込まれるため、エージェントはメールの作成にかかる時間を短縮できます。Apex クラスでカスタムロジックを使用してビジネスコンテキストに沿ったメール項目を指定できます。

たとえば、サポートセンターで複数の国の複数の商品に関連する問題を処理するとします。商品ごとに特定のテンプレート、国ごとに特定の組織の共有メールアドレスを作成しておく、ケースの発生元、件名、またはその他の条件に基づいて適切なテンプレートと [送信者] アドレスを自動的に読み込みます。

メールアクションのデフォルトハンドラを有効化する前に、事前に入力されるメールパブリッシャー項目のロジックが含まれる Apex クラスを作成する必要があります。このクラスは、

`QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` インターフェースを実装する必要があります。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

作業を効率化するためのケースフィードでのマクロの使用

ケースフィードを使用するサポートエージェントは、マクロを実行して、反復作業(メールテンプレートの選択、顧客へのメールの送信、ケース状況の更新など)をすべて1回のクリックで自動的に完了できるようになりました。マクロにより、時間が節約され、エージェントの作業をサポートするうえで一貫性が確保されます。

マクロを作成して、ケースフィードで複数のアクションを実行できます。たとえば、メールの件名行を入力したり、ケース状況を更新したりするマクロを作成できます。ケースフィードの異なる部分で、1つのマクロで複数のアクションを同時に実行できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)

 **メモ:** マクロがサポートされるのは、取引先、取引先責任者、リード、ケースオブジェクトのフィードベースのレイアウトのみです。

このセクションの内容:

マクロのショートカットの使用

ショートカットを使用して、マクロでの作業を効率化することもできます。

マクロの表示および実行

サポートエージェントは、マクロウィジェットを使用して、マクロの検索、マクロの選択、マクロの説明の表示、操作内容をマクロに指示する手順の確認、マクロの実行を行うことができます。これにより、エージェントは、顧客への応答やケースでの作業をより効率的に行うことができます。

マクロの作成および編集

サポートエージェントが反復作業を自動化するのに役立つマクロを作成および編集できます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザ権限を持つマクロを作成および編集できます。

マクロの共有

マクロでは、Salesforce の他のオブジェクトと同じ共有モデルが使用されます。公開グループや他のユーザーとマクロを共有すると、他のサポートエージェントがマクロの効率を向上することができます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザー権限を持つマクロを共有できます。

マクロの削除

不要になったマクロは削除できます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザー権限を持つマクロを削除できます。

マクロのショートカットの使用

ショートカットを使用して、マクロでの作業を効率化することもできます。

表 1: マクロのショートカット

キー	目的
M	マクロウィジェットを開く。
S	カーソルを検索バーに置く。
E	選択したマクロを編集する。
V	マクロの詳細ページを表示する。
Enter	選択したマクロを実行する。
スペースバー	選択したマクロの手順を展開するか折りたたむ。
上矢印	マクロリストを上スクロールする。
下矢印	マクロリストを下スクロールする。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)

マクロの表示および実行

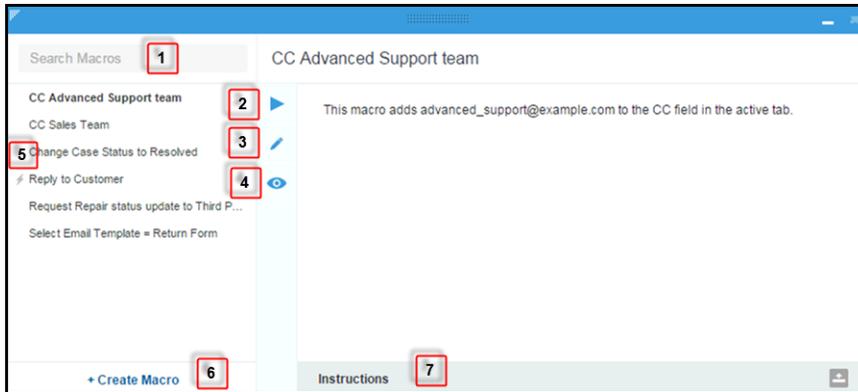
サポートエージェントは、マクロウィジェットを使用して、マクロの検索、マクロの選択、マクロの説明の表示、操作内容をマクロに指示する手順の確認、マクロの実行を行うことができます。これにより、エージェントは、顧客への応答やケースでの作業をより効率的に行うことができます。

サービスコンソールで、画面の右下隅にある [マクロ] をクリックするか M キーを押してマクロウィジェットを開きます。

マクロリストをスクロールして使用可能なマクロを表示するか、上矢印および下矢印を押してリスト内を移動します。マクロの名前をクリックして選択すると、説明が表示されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)



1. マクロを検索するには、マクロ名の一部の文字を入力します。
2. マクロを開始するには、[実行] (▶) をクリックします。マクロが正常に実行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。また、正常に実行された各手順の横には緑色のドットが表示されます。実行できなかった各手順の横には赤色のドットが表示されるため、問題がどこで発生したかを確認できます。
3. マクロ名の変更、マクロの説明の編集、手順の変更を行うには、[編集] (✎) をクリックします。
4. マクロの作成者や、作成、編集、コピー、共有、削除された日付を表示するには、[詳細を参照] (🔍) をクリックします。
5. 稲妻アイコン (⚡) は、元に戻すことができないアクション (メールの送信など) がマクロで実行されることを示します。
6. 新しいマクロを作成するには、[+ マクロを作成] をクリックします。
7. マクロで実行される手順を表示するには、[説明] バーをクリックします。マクロに操作内容が指示されます。

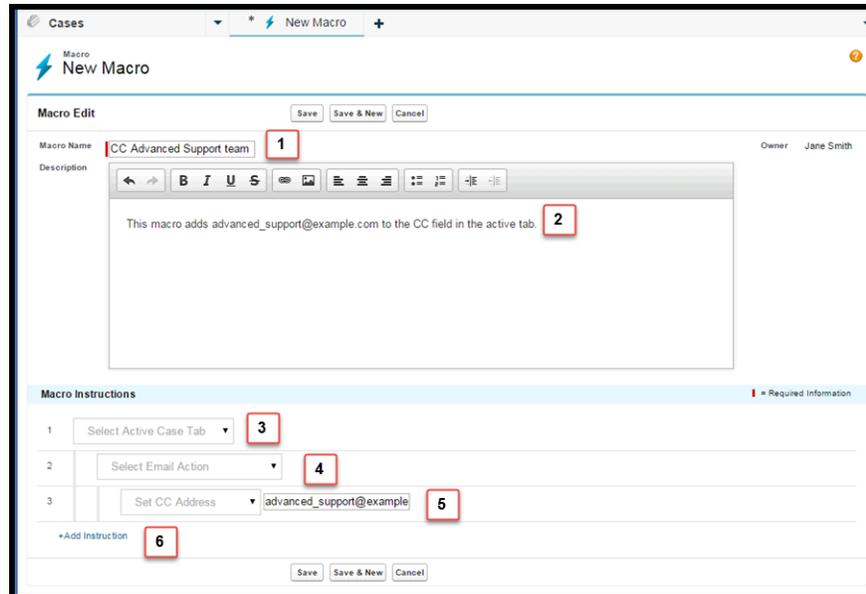
マクロの作成および編集

サポートエージェントが反復作業を自動化するのに役立つマクロを作成および編集できます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザ権限を持つマクロを作成および編集できます。

サービスコンソールで、画面の右下隅にある [マクロ] をクリックするか M キーを押してマクロウィジェットを開きます。[+ マクロを作成] をクリックします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)



1. [マクロ名] は、使用するマクロをサポートエージェントが識別するのに役立ちます。
2. [説明] は省略可能ですが、サポートエージェントがマクロの内容を把握するのに便利です。
3. 最初のマクロ手順は、マクロが動作するケースタブを指定します。
4. 次のマクロ手順は、マクロが機能するテキストまたはケースフィードの部分を指定します。たとえば、[メール]アクションのテキストでは、マクロで項目を設定し、メールパブリッシャー内でアクションを実行できます。
5. 3つ目のマクロ手順は、マクロで実行するアクションを指定します。たとえば、*advanced_support@example.com*宛のメールのCCアドレスをマクロで変更します。
6. 同じテキストまたは異なるテキストで他の手順を追加できます。

マクロの共有

マクロでは、Salesforce の他のオブジェクトと同じ共有モデルが使用されます。公開グループや他のユーザとマクロを共有すると、他のサポートエージェントがマクロの効率を向上することができます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザ権限を持つマクロを共有できます。

Salesforce コンソールのホームページで、[マクロ]またはMをクリックしてマクロウィジェットを開きます。マクロには[マクロ]タブからもアクセスできます。共有するマクロを選択します。マクロウィジェットを使用している場合は、[詳細を表示]アイコン(🔍)をクリックします([マクロ]タブを使用している場合は、この手順は不要です)。

[共有]をクリックし、マクロを共有する公開グループまたはユーザを検索します。[選択可]リストからグループまたはユーザを選択し、[追加]をクリックします。マクロの共有を停止するには、[共有先]リストからグループまたはユーザを選択し、[削除]をクリックします。

マクロを共有している場合は、[アクセス権]を[参照のみ]または[参照・更新]のいずれかに設定します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service Cloud ライセンス付属)

- [参照のみ]では、グループメンバーまたはユーザが、マクロを参照および実行できます。
- [参照・更新]では、グループメンバーまたはユーザが、マクロを編集、参照、および実行できます。完了したら、[保存]をクリックします。

マクロの削除

不要になったマクロは削除できます。システム管理者とサポートエージェントは、適切なユーザ権限を持つマクロを削除できます。

Salesforce コンソールのホームページで、[マクロ]または M をクリックしてマクロウィジェットを開きます。マクロには[マクロ]タブからもアクセスできます。

削除するマクロを選択します。マクロウィジェットを使用している場合は、[詳細を表示]アイコン(🔍)をクリックします([マクロ]タブを使用している場合は、この手順は不要です)。

[削除]をクリックし、確認ウィンドウで [OK] をクリックします。

エンタイトルメント管理

エンタイトルメント管理を使用して、ユーザおよびサポートエージェントは顧客のサポート契約を確認および実行できます。

このセクションの内容:

マイルストーンカウントダウンタイマーの再設計

ケースフィードのマイルストーンカウントダウンタイマーが再設計され、より直感的になりました。そのため、マイルストーンを達成する必要がある時間までの残りの時間をサポートエージェントが簡単に確認できます。

マイルストーンカウントダウンタイマーの再設計

ケースフィードのマイルストーンカウントダウンタイマーが再設計され、より直感的になりました。そのため、マイルストーンを達成する必要がある時間までの残りの時間をサポートエージェントが簡単に確認できます。

タイマーには残り時間、分、秒が表示されるようになりました。

マイルストーンが進行中の場合、そのマイルストーンは緑の円で表されます。この円は、時間の経過に従い時計回りに減っていきます。残り時間、分、秒は円の中心に表示されます。

エディション

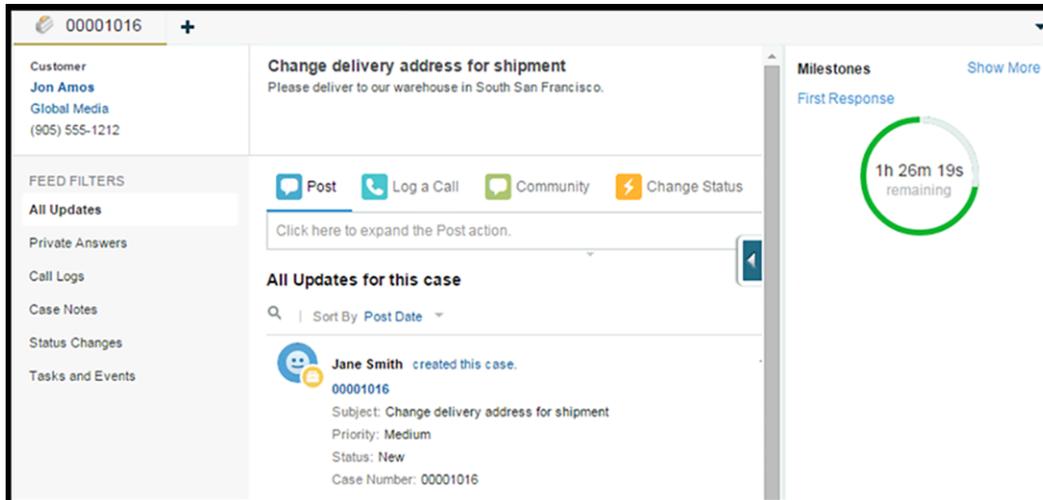
使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud ライセンス付属)

エディション

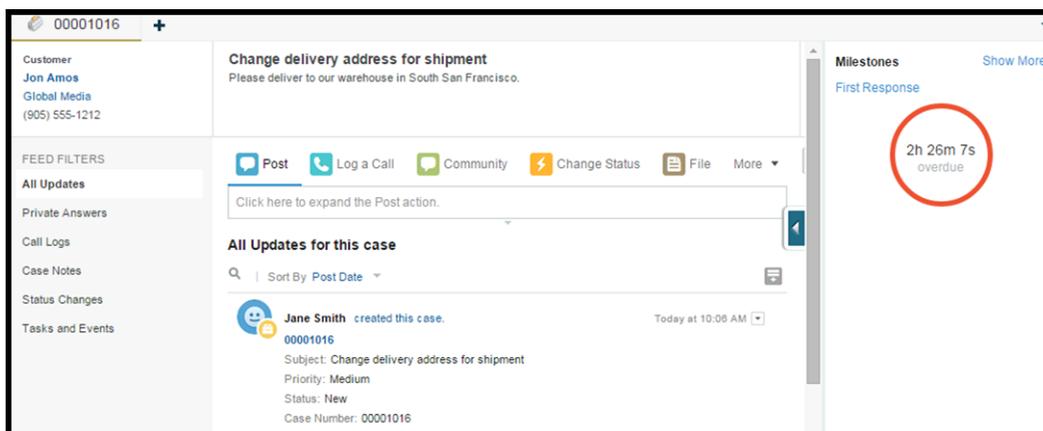
使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud 付属)

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud 付属)



マイルストンの完了期限が切れると、円は赤になります。マイルストンの期限切れ後の経過時間が円の中心に表示されます。



 **メモ:** マイルストンの円とカウントダウンアニメーションは、Internet Explorer 8 以前では固定表示になります。

Assets オブジェクトの標準オブジェクトとしての再設計

Assets オブジェクトは、顧客が所有する商品を追跡します。Assets (納入商品) には、自社や競合他社の商品などがあります。Spring '15 では、Assets オブジェクトの機能が強化されて、ユーザはより強力な方法で納入商品を管理できます。

これまで、Assets オブジェクトは Accounts オブジェクトの子オブジェクトでした。Spring '15 では、Assets オブジェクトは標準オブジェクトとして再設計され、タブ、共有設定、レコードタイプなど、標準オブジェクトと同じ機能を持つようになりました。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition

このセクションの内容:

ホームページへの [納入商品] タブの追加

Assets オブジェクト専用の最上位タブをホームページに追加してすばやくアクセスできるようになりました。

Assets オブジェクトへの共有ルールの追加

共有ルールを使用して、Assets オブジェクトの納入商品レコードへのアクセスを制御できます。共有ルールでは、定義されたユーザセットについて、組織全体の共有設定に自動的な例外を設けることができます。

納入商品レコードへの [納入商品所有者] 項目の追加

納入商品レコードに [納入商品所有者] 項目が追加されました。この項目は、階層および共有ベースのアクセス制御を設定するために使用されます。デフォルトでは、納入商品所有者は、納入商品レコードを作成したユーザです。

納入商品レコードでの項目履歴管理のサポート

納入商品レコード項目への変更を追跡できるようになりました。これまで、納入商品レコードで項目履歴管理はサポートされていませんでした。

納入商品レコードへのレコードタイプの追加

選択リストなどのレコードタイプを定義できるようになり、ユーザが顧客の納入商品を追跡しやすくなりました。レコードタイプを使用すると、さまざまなビジネスプロセス、選択リストの値、およびページレイアウトを、さまざまなユーザに提供できます。これまで、Assets オブジェクトでは納入商品のレコードタイプはサポートされていませんでした。

ホームページへの [納入商品] タブの追加

Assets オブジェクト専用の最上位タブをホームページに追加してすばやくアクセスできるようになりました。

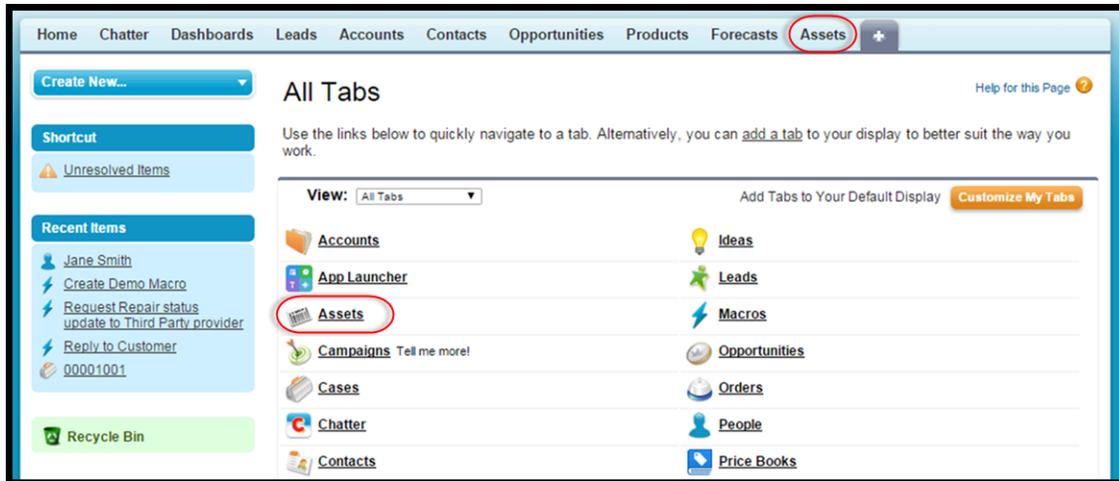
- ☑ **メモ:** [納入商品] タブは、Spring '15 より前に作成された組織ではデフォルトで非表示になっています。[納入商品] タブをユーザに表示するには、ユーザプロファイルを変更する必要があります。

ホームページに [納入商品] タブを追加するには、タブの右側にあるプラス ([+]) アイコンをクリックし、[納入商品] を [選択されたタブ] リストに追加します。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition



Assets オブジェクトへの共有ルールへの追加

共有ルールを使用して、Assets オブジェクトの納入商品レコードへのアクセスを制御できます。共有ルールでは、定義されたユーザーセットについて、組織全体の共有設定に自動的な例外を設けることができます。

これまで、納入商品の表示は、納入商品の親取引先の設定に基づいていました。Spring '15 では、Assets オブジェクトは個別の標準オブジェクトになり、納入商品の表示は Assets オブジェクトの設定に基づくようになりました。

メモ: Spring '15 以降に作成される組織では、デフォルトで納入商品の共有設定が有効化されます。Spring '15 より前に作成された組織では、デフォルトで納入商品の共有設定が無効化されます。共有を有効化するには、[設定] で [カスタマイズ] > [納入商品] > [設定] をクリックし、[納入商品共有モデルの有効化] の横にあるチェックボックスをオンにします。

納入商品の共有ルールを設定するには、[設定] で [セキュリティのコントロール] > [共有設定] をクリックし、[納入商品共有ルール] 関連リストをクリックします。Assets オブジェクトの共有は、次のように設定できます。

- 親レコードに連動 (デフォルト)
- 非公開
- 公開/参照のみ
- 公開/参照・更新可能

条件に基づく共有ルールを適用することもできます。

メモ: ごみ箱に納入商品があるときに Assets オブジェクトの共有設定を [非公開]、[参照のみ]、または [参照・更新] から [親レコードに連動] に変更すると、取引先または取引先責任者に関連付けられていない納入商品レコードは完全に削除されます。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition

納入商品レコードへの「納入商品所有者」項目の追加

納入商品レコードに「納入商品所有者」項目が追加されました。この項目は、階層および共有ベースのアクセス制御を設定するために使用されます。デフォルトでは、納入商品所有者は、納入商品レコードを作成したユーザです。

これまで、納入商品レコードへのアクセス権は、納入商品の親取引先の設定に基づいていたため、納入商品には所有者項目がありませんでした。このたび、Assets オブジェクトの共有設定が「非公開」、「公開/参照のみ」、または「公開/参照・更新可能」である場合は、「納入商品所有者」項目がアクセス制御に使用されるようになりました。Assets オブジェクトの共有設定が「親レコードに連動」の場合、親取引先の設定によって納入商品へのアクセスが制御されるため、納入商品所有者項目はアクセス制御に影響を与えません。

デフォルトでは、「納入商品所有者」項目はページレイアウトに表示されません。ページレイアウトに「納入商品所有者」項目を追加するには、「設定」で「カスタマイズ」>「納入商品」>「ページレイアウト」をクリックします。

Spring '15 より前に作成された組織では、Assets オブジェクトの共有設定を有効にすると、納入商品レコードの納入商品所有者項目を自動的に更新することができます。共有設定では、納入商品所有者項目の値が次のいずれかに設定されます。

- 納入商品の作成者
- 親取引先の所有者

所有者項目を更新するには、「設定」で「カスタマイズ」>「納入商品」>「設定」をクリックします。「納入商品設定」ページで、「納入商品共有モデルの有効化」の横にあるチェックボックスをオンにして設定を有効化します。チェックボックスをオンにすると、2つのオプションが表示されます。次のいずれかを選択できます。

- 「納入商品所有者を納入商品作成者に設定する」または
- 納入商品所有者を親取引先の所有者に再設定する

納入商品レコードの納入商品所有者を変更するには、「納入商品」タブをクリックして納入商品レコードを選択するか、「取引先」または「取引先責任者」タブで「納入商品」関連リストから納入商品レコードを開きます。「納入商品の詳細」セクションで、「納入商品所有者」項目の横にある「変更」をクリックし、ルックアップメニューから別のユーザを選択します。

納入商品レコードでの項目履歴管理のサポート

納入商品レコード項目への変更を追跡できるようになりました。これまで、納入商品レコードで項目履歴管理はサポートされていませんでした。

項目履歴管理を使用して、次の情報を表示できます。

- 項目の変更日時
- 変更内容
- 変更実施者

納入商品項目の履歴管理を有効化するには、「設定」で「カスタマイズ」>「納入商品」>「項目」>「項目履歴管理の設定」をクリックします。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition

納入商品レコードへのレコードタイプの追加

選択リストなどのレコードタイプを定義できるようになり、ユーザが顧客の納入商品を追跡しやすくなりました。レコードタイプを使用すると、さまざまなビジネスプロセス、選択リストの値、およびページレイアウトを、さまざまなユーザに提供できます。これまで、Assets オブジェクトでは納入商品のレコードタイプはサポートされていませんでした。

納入商品レコードタイプを定義するには、[設定]で[カスタマイズ]>[納入商品]>[レコードタイプ]をクリックします。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition

ナレッジ

Salesforce ナレッジは、ナレッジセンターサポート (KCS) 認定済みの知識ベースです。

このセクションの内容:

記事の [リンク済みケース] 関連リスト

エージェントおよびSalesforce ナレッジマネージャは、記事が添付されているケースのリストを表示できるようになりました。これは、記事がケースに適した解決策かどうかを確認し、レポートを実行せずに最も使用される記事を表示するのに役立ちます。

内部ユーザ向けに更新された記事のプレビューページ

記事を編集できる内部ユーザは、[編集]をクリックしなくても記事のプロパティを表示できるようになりました。すべてのプロパティ情報は、デフォルトで新しい記事のプレビューページのデザインに表示されるようになりました。

公開記事のドラフトのキャンセルによる新しいバージョンの保存の廃止

以前は、公開記事を編集しても保存しなかった場合は、変更がキャンセルされ、新しいバージョンがドラフト状態で保存されていました。そのため、ドラフトバージョンを削除するには、記事マネージャが[記事の管理]タブから削除する必要がありました。公開記事のドラフトが保存されていない場合にキャンセルすると、ドラフトバージョンが削除されるようになりました。

メールによる記事の内容の送信 (ベータ)

エージェントは Knowledge One を使用して、記事の内容が本文に埋め込まれたメールを送信できます。

Salesforce ナレッジのその他の変更

Salesforce ナレッジユーザに影響するその他の変更について説明します。

エディション

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション:
Performance Edition および
Developer Edition
 有料オプションで
 Salesforce ナレッジを使用可能なエディション:
Enterprise Edition および
Unlimited Edition

記事の [リンク済みケース] 関連リスト

エージェントおよびSalesforce ナレッジマネージャは、記事が添付されているケースのリストを表示できるようになりました。これは、記事がケースに適した解決策かどうかを確認し、レポートを実行せずに最も使用される記事を表示するのに役立ちます。

[リンク済みケース] 関連リストを有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[カスタマイズ] > [ナレッジ] > [設定] に移動します。
2. [編集] をクリックします。
3. [ケース設定] で、[記事にリンクされたケースのリストを有効化] をオンにします。

Case Settings

Allow users to create an article from a case

Use the simple editor when closing a case
 Use the standard editor any time a user creates an article

Default article type: Support
 Assign new article to: Admin User
 Use APEX customization:

Use a profile to create customer-ready article PDFs on cases

Profile: Partner Portal Knowledge Profile

Enable list of cases linked to an article

4. [保存] をクリックします。

[リンク済みケース] 関連リストは、少なくとも 1 回公開されている記事の詳細ページまたはプレビューページに表示されます。

Case Number	Account Name	Date/Time Opened	Date/Time Closed	Status	Language	Version Number
00001045	KB	Tue Oct 14 18:21:45 GMT 2014		New	English	4
00001053		Fri Nov 14 21:30:35 GMT 2014		Escalated	English	3
00001006	Acme	Fri Mar 08 18:26:03 GMT 2013	Mon May 13 17:40:51 GMT 2013	Closed	English	3
00001015		Tue May 14 20:54:32 GMT 2013		New	English	3
00001001	Acme	Wed Oct 03 21:41:21 GMT 2012	Sat May 11 00:25:35 GMT 2013	Closed	English	3
00001002	Acme	Wed Oct 03 21:41:21 GMT 2012	Sat May 11 00:27:18 GMT 2013	Closed	English	3

[リンク済みケース] 関連リストの表示内容は、次のようになります。

- 最大 200 件のケースが表示される。
- 記事がケースにリンクされた日付で降順に並び替えられる。並び替え順は変更できません。
- アーカイブ済み記事または翻訳の編集ページと詳細ページには表示されない。
- ポータルユーザやコミュニティユーザなどの外部ユーザ、または Salesforce1 では表示されない。

内部ユーザ向けに更新された記事のプレビューページ

記事を編集できる内部ユーザは、[編集] をクリックしなくても記事のプロパティを表示できるようになりました。すべてのプロパティ情報は、デフォルトで新しい記事のプレビューページのデザインに表示されるようになりました。

記事のプロパティは、デフォルトで記事の内容の右側に表示されます。

Why is My User Account Locked? Printable View | Help for this Page

Rate This Article ☆☆☆☆☆ (Average Rating: No Rating) Language English

Skill Group	Feature Activations
Description	Why are my login attempts failing upon each attempt. I've attempt to reset my password and still I get the same error that my attempts have failed.
Resolution	When a User attempts to login to their User Account with invalid passwords, after several attempts based on their organizations Password Policies User Accounts are locked as a security measure. When this happens, it's always best to contact your System Administrator first. They can quickly Unlock your User Account. You will receive an email advising you that your User Account has been re-enabled. As a suggestion after your User Account has been unlocked your Admin should reset your password just to be certain this cycle doesn't start over. If your System Administrator is unable to assist contact Support for further assistance.

Properties	
Article Number	000001365
Version	Version 1 (outdated)
Publishing Status	Online
Type	FAQ
Language	English
Channels	Internal App Customer Partner Public Knowledge Base
Validation Status	Not Validated
First Published	11/13/2014 2:16 PM
Last Modified	11/13/2014 2:16 PM
Last Published	12/5/2014 11:36 AM
Created By	Paul Dolan
Last Modified By	Amy Smith 12/5/2014 11:36 AM

Article Assignment	
Assigned To	Admin User
Assigned By	Admin User
Assignment Due Date	
Instructions	

- ☑ **メモ:** 記事のプロパティを表示するには、ユーザに「ナレッジユーザ」権限が必要であり、記事を編集できる必要があります。

公開記事のドラフトのキャンセルによる新しいバージョンの保存の廃止

以前は、公開記事を編集しても保存しなかった場合は、変更がキャンセルされ、新しいバージョンがドラフト状態で保存されていました。そのため、ドラフトバージョンを削除するには、記事マネージャが[記事の管理]タブから削除する必要がありました。公開記事のドラフトが保存されていない場合にキャンセルすると、ドラフトバージョンが削除されるようになりました。

Article Edit Help for this Page

Support for chatter answers

Save & Close Save **Cancel** Assign... Publish... Submit For Translation... Preview

Article Assignment	
Assigned To	Admin User
Assigned By	Admin User
Instructions	--
Assignment Due Date	--

Article Properties	
Publishing Status	Draft
Type	Support
Article Number	000001004
Created By	Admin User
Last Modified By	Admin User, 12/17/2014 10:43 AM
Language	English
Translations	Chinese (Simplified), French

Article Number: 000001004

Title: Support for chatter answers

URL Name: Support-for-chatter-answers

Summary: Summary of Support for Chatter Answers

Validation Status: Validated

Section1

RTA field

Source [Rich Text Editor]

- ☑ **メモ:** 公開済みバージョンが存在し、ドラフトが保存されていない場合は、ドラフトが削除されるだけです。これは、アーカイブ済み記事および翻訳には適用されません。

メールによる記事の内容の送信 (ベータ)

エージェントは Knowledge One を使用して、記事の内容が本文に埋め込まれたメールを送信できます。

エージェントは、URL のみを送信するのではなく、メールに記事の内容を含めて送信できるため、顧客は Web サイトにアクセスしなくても情報を取得でき、エージェントは内部記事を書き換え、コピー、貼り付けせずに未公開の記事を送信できます。システム管理者は、外部利用者にとって好ましい内容を判断できるエージェントに対してのみ権限を割り当てることができます。

 **メモ:** メールによる記事の内容の送信は、外部チャネル(公開知識ベース、ポータル、またはコミュニティ)で公開された記事に対してベータプログラムで使用できますが、Internet Explorer 7 ではサポートされていません。新しい組織の場合、システム管理者プロファイルを除くすべての標準プロファイルで、ユーザ権限がオフになります。既存の組織の場合、標準のシステム管理者プロファイルで権限を有効にするには、Salesforce の担当者までお問い合わせください。

記事タイプごとにメールに含める記事項目を有効にして設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で [カスタマイズ] > [ケース] > [ページレイアウト] にアクセスします。
2. [ケースフィードユーザのページレイアウト] で、記事内容のメール送信を有効にするレイアウトの横にある [アクション] 列のドロップダウンメニューをクリックします。
3. [フィードビューを編集] を選択します。
4. [記事ツールの設定] で、[記事のインライン添付を有効化] をオンにします。
5. [保存] をクリックします。
6. [設定] で [カスタマイズ] > [ナレッジ] > [記事タイプ] にアクセスします。
7. メールで共有する記事タイプの表示ラベルまたは名前をクリックします。
8. [コミュニケーションチャネルの対応付け] で、[新規] または [編集] をクリックします。

New Communication Channel Layout

The screenshot shows the 'New Communication Channel Layout' configuration interface. It includes a 'Save' and 'Cancel' button at the top. The 'Enter Communication Channel Layout Information' section has input fields for 'Label' (Email Article Content) and 'Name' (Email_Article_Content). The 'Select Communication Channels' section has two lists: 'Available Channels' (currently empty) and 'Selected Channels' (containing 'Email'). The 'Select Communication Channel Layout Fields' section has two lists: 'Available Fields' (containing fields like Version Number, Is Latest Version, etc.) and 'Selected Fields' (containing Title, Summary, Article Number, and Last Published Date).

9. [表示ラベル]と[名前]を入力します。
10. [メール]を選択し、[選択済みのチャンネル]リストに追加します。
11. メールの記事に含める項目を選択し、追加します。

 **メモ:** メールにスマートリンクを含めることはできず、次の項目はサポートされていません。

- ArticleType
- isDeleted
- 言語
- 複数選択リスト
- 選択リスト
- 公開状況
- ソース
- 検証状況

12. [保存]をクリックします。

これで、顧客ケースを解決するときに、権限を持つエージェントが記事の内容をメール本文に挿入できるようになりました。Salesforce コンソールの Knowledge One サイドバー、ケースフィードの記事リスト、記事ウィジェット、KnowledgeOne検索の推奨記事など、エージェントが記事をケースに添付できるすべての場所で、アクションドロップダウンの [記事をメール送信 (HTML 形式)] を選択することによって、そのタイプの任意の記事をメールの本文に含めて送信できます。記事の内容は、メールスレッドの先頭またはエージェントがカーソルを離れた場所に挿入されます。ケースに関する記事をメール送信すると、封筒アイコンがタイトルの左側に

表示されます。10 MB の制限を超えるファイルが記事に添付されている場合は、エージェントによって、添付するファイルを選択してメール送信を再試行するよう求められます。

 **メモ:** 記事タイプのケースフィールドレイアウトでリッチテキストが有効になっていない場合は、記事テキストのみがメールに埋め込まれ、アクションが [記事をメール送信 (テキストのみ)] に変わります。

Salesforce ナレッジのその他の変更

Salesforce ナレッジユーザに影響するその他の変更について説明します。

記事の最大制限の緩和

組織あたりの最大記事数が 10,000 から 50,000 に増えました。

[記事] 詳細項目リストでインデックス付き列を使用可能

項目がデータベースによってインデックス化されていることを示す新しい **インデックス付き列** をレポートや SOQL クエリに使用すると、パフォーマンスが向上します。

ケースの記事ウィジェットアクションを記事権限と同期

使用可能な記事アクションのみが、ケースの記事ウィジェットにリストされるようになりました。たとえば、記事が公開チャンネルに公開されていない場合は、ケースの記事ウィジェットに、記事を PDF として添付するというアクションが表示されません。

Salesforce CTI Toolkit

Salesforce CTI Toolkit は、コールセンターユーザがマシンにインストールして Salesforce をコンピュータテレフォニーインテグレーションシステムと統合するために使用するアダプタプログラムをパートナーが開発するうえで役立ちます。

このセクションの内容:

[Salesforce CTI Toolkit のサポートの終了](#)

Summer '15 リリース以降、Salesforce は Salesforce CTI Toolkit のすべてのバージョンに対するサポートを終了します。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Salesforce CTI Toolkit のサポートの終了

Summer '15 リリース以降、Salesforce は Salesforce CTI Toolkit のすべてのバージョンに対するサポートを終了します。

このツールキットは、コールセンターのユーザがマシンにインストールして、Salesforce とコンピュータテレフォニーインテグレーションシステムを統合するために使用するアダプタプログラムを、パートナーが作成する際に役立ちます。この機能に対するサポートを終了することにより、パートナー様に混乱が生じてしまう可能性があることをお詫びいたします。顧客と Salesforce コミュニティに対してより多くの価値を提供できるように、パートナー様には可能な限り早急に Open CTI に移行されることを強くお勧めします。

Open CTI

OpenCTIにより、パートナーが、コールセンターユーザのマシンにアダプタプログラムをインストールしなくても、Salesforceをコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムに統合できます。

開発者や上級システム管理者がユーザのソフトフォンをカスタマイズするために役立つ、いくつかの新しいメソッドや更新されたメソッドを使用できます。詳細は、[Open CTI API](#) (ページ 338)を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Salesforce Console for Service

Salesforce Console for Service は、顧客をサポートするためにレコードの検索、更新、作成をすばやく行う必要のある、変化の速い環境にあるユーザ向けに設計されているアプリケーションです。

このセクションの内容:

[コンソールインテグレーションツールキットの新しいメソッド](#)

API メソッドにアクセスして、プログラムでコンソールをカスタマイズできます。

[コンソールをスマートかつシンプルにするためのSalesforceコンソールのその他の変更](#)

コンソールユーザが情報を簡単に検索および更新できるようになりました。

コンソールインテグレーションツールキットの新しいメソッド

API メソッドにアクセスして、プログラムでコンソールをカスタマイズできます。

開発者や上級システム管理者がコンソールのサイドバーを表示または非表示にするために役立つメソッドが新規追加および更新されました。詳細は、「[Salesforce コンソール API \(インテグレーションツールキット\)](#)」(ページ 338)を参照してください。

コンソールをスマートかつシンプルにするためのSalesforceコンソールのその他の変更

コンソールユーザが情報を簡単に検索および更新できるようになりました。

新しいキーボードショートカットによる生産性の向上

コンソールユーザは、次のショートカットを使用して作業時間を短縮できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service Cloud 付属)

使用可能なエディション:
Performance Edition および
Developer Edition (Sales Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション:
Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales Cloud の有料オプション)

アクション	キーコマンド
カーソルをフッターコンポーネントに移動し、特定のコンポーネントを選択する。	F/右矢印または左矢印/1～9 Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7、8、および右から左へ記述される言語ではサポートされていません。[マクロ]または[プレゼンス]コンポーネントを選択する場合は、ESC を押してカーソルを他のコンポーネントに移動します。
現在の作業にフォーカスを置いたままでタブの項目を開く。	Ctrl+ クリック
固定表示リストの表示/非表示を切り替える。	SHIFT+ N
サイドバーおよびそのコンポーネントの表示/非表示を切り替える。	SHIFT+ 矢印キー
ヘッダー、フッター、および固定表示リストの非表示/表示を切り替えて主タブをズームイン/ズームアウトする。	Z

キーボードショートカットを使用またはカスタマイズするには、ユーザに対してそれらを有効化する必要があります。

新しいシステム推奨事項に従うことによるコンソールパフォーマンスの改善

Salesforce によるコンソールの厳格なシステムテストの結果、時間を節約できる高速なコンソールでの作業には Google Chrome™ ブラウザと RAM が 8 GB のマシンを使用することが推奨されています。

コンソールアプリケーションのコピー

既存のコンソールアプリケーションをコピーできるようになったため、コンソールを最初から作成する必要がなくなりました。コンソールの詳細ページで新しい [コピー] ボタンをクリックすることで、ナビゲーションタブやレコード表示設定などのアプリケーションの項目をコピーできます。コピーした転送通知およびキーボードショートカット設定を更新するには、コピーしたコンソールを保存する必要があります。コンソールをコピーまたは作成するには、Salesforce ヘルプの「Salesforce コンソールアプリケーションの作成」を参照してください。

いくつかのコンソール機能への自動的なアクセス

キーボードショートカットおよびマルチモニターコンポーネントにアクセスできるようになりました。ユーザのセッションは自動的に保存されるため、ログアウト前のコンソールの状態にすばやく戻ることができます。以前は、これらのコンソール機能をそれぞれ有効化する必要がありました。現在はすべてのコンソールでこれらの機能が有効になっています。これらの機能を無効にするには、Salesforce ヘルプを参照してください。

積み上げコンポーネントの高さと幅の自動サイズ変更

ページレイアウトで「コンポーネントの自動サイズ調整」を選択すると、Salesforce によってコンポーネントが自動的にサイズ変更され、ユーザがブラウザのサイズを変更したときにサイドバーに適切に表示されます。ブラウザがコンポーネントの最小サイズ要件を満たしていない場合、コンポーネントを表示させるにはサイドバーの上にマウスを置く必要があります。自動サイズ変更の値は変更できません。自動サイズ変

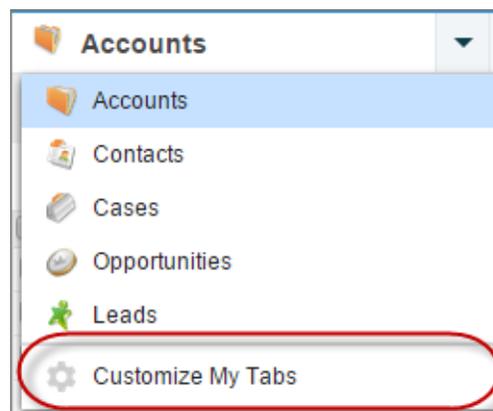
更オプションは、Visualforce ページ、キャンバスアプリケーション、Knowledge One コンポーネント、および Internet Explorer® 7 では使用できません。

コンソールタブの再配置

主タブまたはサブタブをクリックし、タブバーの別の位置にドラッグしてワークスペースをカスタマイズできるようになりました。タブの主タブまたはサブタブの状況は維持されます。つまり、主タブをサブタブバーに移動したり、その逆の移動を行うことはできません。詳細タブも、サブタブでのその位置が維持されます。タブの再配置は Internet Explorer® 7 では使用できません。

ユーザによるナビゲーションタブのカスタマイズ

ナビゲーションタブに表示される項目をユーザにカスタマイズさせることが可能になりました。コンソールアプリケーションで [ナビゲーションタブに [タブのカスタマイズ] を表示] をクリックすると、ユーザが [タブのカスタマイズ] にアクセスし、最も重要な項目の非表示、表示、整理を行えるようになります。



[コンソール] タブ (エージェントコンソール)

[コンソール] タブは、第 1 世代のエージェント向けカスタマーサービスコンソールです。

このセクションの内容:

新しい組織からの [コンソール] タブの削除

[コンソール] タブ (エージェントコンソールとも呼ばれる) は、新しい組織の [設定] では使用できなくなります。

新しい組織からの [コンソール] タブの削除

[コンソール] タブ (エージェントコンソールとも呼ばれる) は、新しい組織の [設定] では使用できなくなります。

ユーザに最適な操作性のコンソールを提供するために、新しい組織では [コンソール] タブが使用できなくなります。[コンソール] タブは、第 1 世代のカスタマーサービスコンソールですが、Salesforce コンソールの方が機能性が高く、エージェントは多くの生産性ツールを利用できます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

サービスコミュニティ

Chatter の質問、Chatter アンサー、およびアイデアは、顧客のセルフサービスコミュニティで、顧客が質問を投稿して他の顧客やサポートエージェントから回答を受け取ったり、革新的なアイデアに対して投稿や投票、コメントを行ったりする場所です。質問-to-ケースにより、モデレータがChatterの質問をケースにエスカレーションし、顧客の問題をより簡単に追跡および解決できるようになります。

このセクションの内容:

質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成 (正式リリース)

Chatter の質問では、顧客がコミュニティや Salesforce 組織のフィードで質問することができます。質問-to-ケースにより、モデレータがChatterの質問をケースにエスカレーションして、顧客の問題を簡単に追跡および解決できるようになりました。

質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成 (正式リリース)

Chatter の質問では、顧客がコミュニティや Salesforce 組織のフィードで質問することができます。質問-to-ケースにより、モデレータがChatterの質問をケースにエスカレーションして、顧客の問題を簡単に追跡および解決できるようになりました。

質問-to-ケースは、Salesforce フルサイトおよびSalesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのほか、Chatter の質問が有効になっているコミュニティでも使用できます。Salesforce 組織、コミュニティ、あるいはその両方にこの機能を追加できます。

エディション

Chatter の質問を使用可能なエディション: **Personal** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Developer** Edition、**Performance** Edition、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

質問-to-ケースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Chatter アンサーを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Developer** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

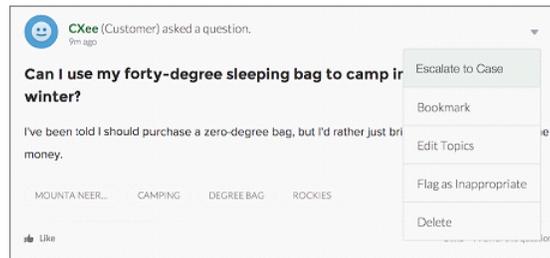
アイデアを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Developer** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Professional** Edition

エディション

質問-to-ケースを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

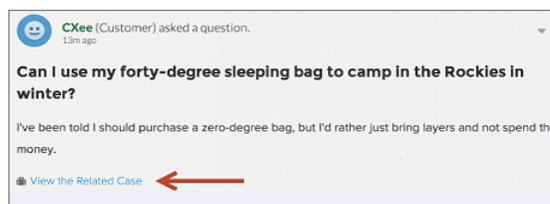
操作手順

Chatter の質問が解決されない場合、モデレータは質問をフィード内で直接ケースにエスカレーションできます。Lightning プロセスビルダーで (ワークフロールールに似ている) プロセスを設定し、指定された条件を満たす質問から自動的にケースを作成することもできます。質問から作成されたケースは、組織のケースルーティングルールに従って、対応するサポートエージェントが要求するキューに追加されます。

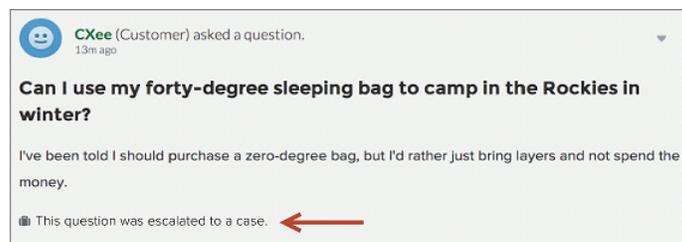


顧客の質問がケースになると、顧客はケース番号とケースへのリンクが記載されたメールを受信します。また、顧客本人のみに表示される質問へのリンクを使用してケースを参照することもできます。モデレータには、ケースが作成されたことを示すメモが質問に表示されます。

顧客のフラグ

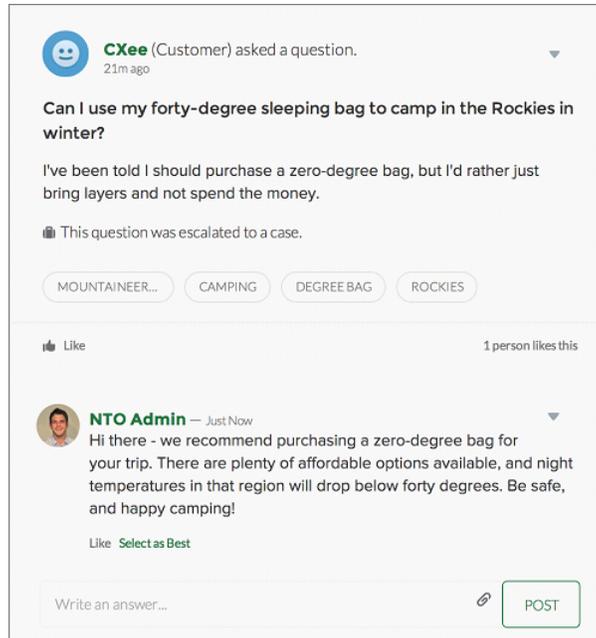


モデレータのフラグ



メモ: Salesforce (コミュニティではなく) 内でエスカレーションされた質問については、モデレータだけでなく、すべてのユーザに通知が表示されます。

エージェントが解決策を見つけたら、ケースから直接質問に回答できます。顧客は質問上または[私のケース]ビューでエージェントの回答を確認します。エージェントは、返信をコミュニティに表示するか、質問した顧客のみに表示するかを選択します。



質問-to-ケースの設定では、いくつかの順序を実行します。開始する場合は、Salesforce ヘルプを参照してください。

ソーシャルカスタマーサービス

ソーシャルカスタマーサービスは、Radian6 と Salesforce Service Cloud 間の次世代のインテグレーションです。カスタマーサービスエージェントは、Twitter や Facebook などの主要なソーシャルネットワークから作成されたケースに対応することで、顧客との関係を構築できます。Salesforce システム管理者は、Apex クラスを使用して受信ソーシャルコンテンツの処理方法をカスタマイズすることや、組織内のどのユーザがソーシャル取引先を使用して応答する権限を持つようにするかを設定することができます。

このセクションの内容:

ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack

ソーシャルカスタマーサービスをすばやく簡単に開始できます。Facebook や Twitter の取引先に Salesforce から直接連絡し、別途の Radian6 契約を使用せずにソーシャルカスタマーケアを提供します。

管理の改善

ソーシャルカスタマーサービスの設定ナビゲーションが4つのタブにまとめられ、より詳細になり、機能が向上しました。

新しいケースフィードアクションによるソーシャル投稿の操作

エージェントが、ツイートのお気に入り登録、投稿へのいいね!、ソーシャル投稿のソースコンテンツの参照などをすべてケースフィード内から行えるようになりました。

エディション

ソーシャルカスタマーサービスを使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

ソーシャルアクションによるリードフィード内のリードへの応答

営業エージェントは、リードフィードでソーシャルカスタマーとやりとりし、顧客のいる場所で都合のいい日時に見込み案件を生み出すことができるようになりました。

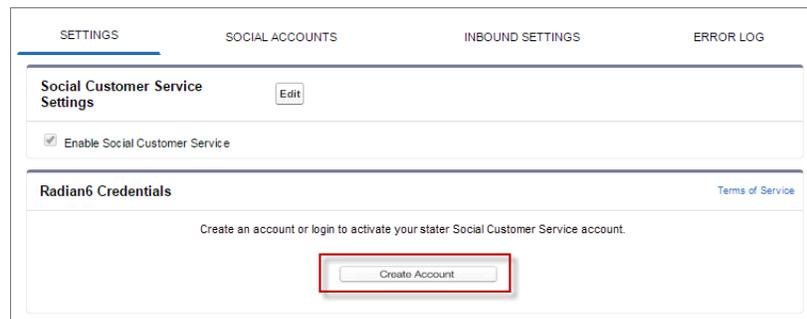
ブログやフォーラム、サイトのコンテンツのブロードリスニング

Radian6 でソースのブロードリスニングが設定されている場合に、顧客がソーシャル Web 全体から顧客の問題をインポートおよび追跡できるようになりました。

ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack

ソーシャルカスタマーサービスをすばやく簡単に開始できます。Facebook や Twitter の取引先に Salesforce から直接連絡し、別途の Radian6 契約を使用せずにソーシャルカスタマーケアを提供します。

Starter Pack を使用する場合は、[ソーシャルカスタマーサービスの設定] ページで直接ソーシャルカスタマーサービスと最大 2 件のソーシャル取引先を有効にできます ([設定] から [カスタマイズ] > [ソーシャルアプリケーションのインテグレーション] > [ソーシャルカスタマー管理] > [設定])。2 件のソーシャル取引先は、Facebook と Twitter のどちらか一方の取引先 2 件にすることも、両方の取引先 1 件ずつにすることもできます。



- 📌 **メモ:** ソーシャルカスタマーサービス Starter Pack では、モデレーション機能がサポートされていないため、すべての投稿がケースになります。Radian6 アカウントから Starter Pack にダウングレードすることはできません。また、デフォルトの Apex コードはカスタマイズできません。

ソーシャル取引先が 3 件以上必要になったときや、受信したソーシャル投稿のどれをケースにするかモデレートしたいときなど、Starter Pack では物足りなくなった場合は、Radian6 アカウントにすばやく簡単にアップグレードできます。

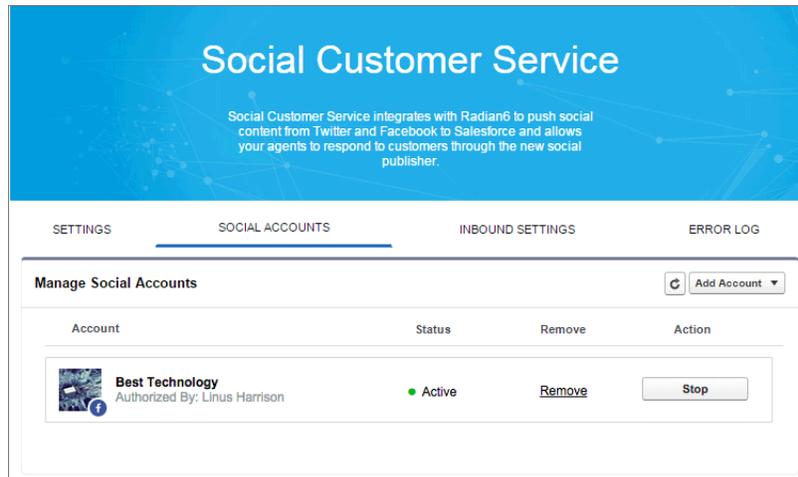
管理の改善

ソーシャルカスタマーサービスの設定ナビゲーションが 4 つのタブにまとめられ、より詳細になり、機能が向上しました。

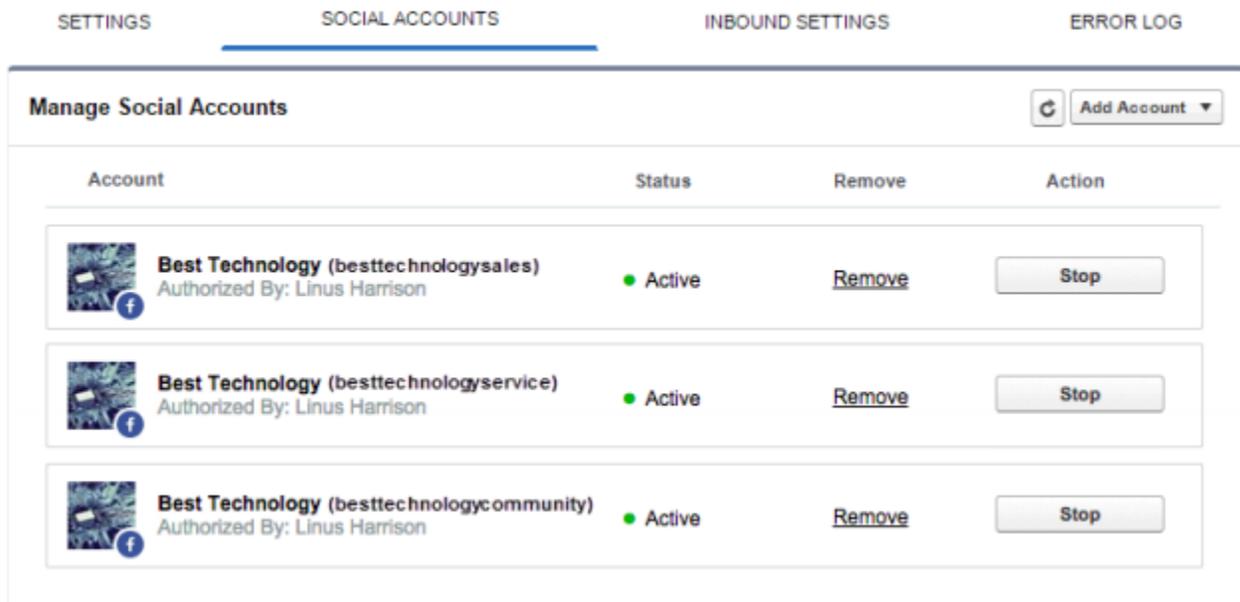
設定ページには次の 4 つのタブがあります。

- 設定:** ソーシャルカスタマーサービスの有効化や、Radian6 アカウントの作成 (Starter Pack を使用) またはログインを行います。
- ソーシャル取引先:** すべてのソーシャルネットワークからの取引先の追加、取引先の更新、Salesforce 内で取引先の開始または停止を行います。

- 受信設定: Apex クラスを実行するようにユーザを変更したり、Starter Pack を使用していない場合に Apex クラスの変更を行います。
- エラーログ: 最大 100 件の投稿エラーの詳細の表示や、投稿の再処理を行います。



また、名前が重複している Facebook ページの表示ラベルに値を追加して、ページを区別できるようにします。Facebook ページに一意の URL を設定して、それぞれが識別されるようにします。



新しいケースフィードアクションによるソーシャル投稿の操作

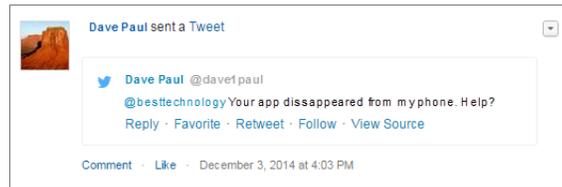
エージェントが、ツイートのお気に入り登録、投稿へのいいね!、ソーシャル投稿のソースコンテンツの参照などをすべてケースフィード内から行えるようになりました。

エージェントがケースフィードを離れることなく、Facebook の投稿にいいね! と言ったり、Twitter のツイートを気に入りに登録したりできるため、安全に作業できるほか、時間も節約されます。このため、Twitter や

Facebookの処理に安全なログイン情報を共有する理由がなくなり、エージェントが複数のシステムで作業することもなくなります。

ケースフィードから Twitter のツイートのお気に入り登録または登録解除

エージェントは、ケースフィードを離れることなく、Twitter のツイートをお気に入りに登録したり、お気に入りから登録解除したりすることができます。



ケースフィードから Facebook へのいいね! およびいいね! の取り消し

エージェントは、ケースフィードを離れることなく、Facebookの投稿にいいね!と言ったり、いいね!を取り消したりすることができます。



ケースフィードから元の投稿に移動

エージェントは、[ソースを表示] リンクをクリックして、ソーシャルネットワーク内の元の投稿に移動できます。

ケースフィードですべてのソーシャルネットワークの URL がクリック可能なリンクになる

今後は、ソーシャルケースフィードの投稿に入力した URL がすべてクリック可能なリンクになります。以前は、Twitter の投稿の URL しかハイパーリンクになりませんでした。

返信不能なソースからのコンテンツをケースフィードで使用可能

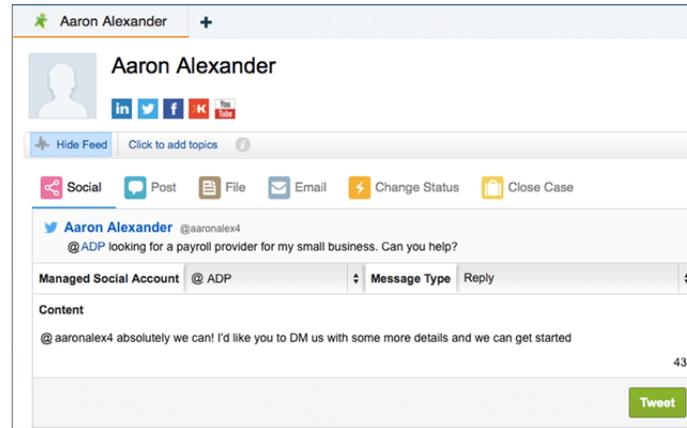
ケースに添付されたコンテンツがソーシャルネットワークのスレッドに投稿された場合、エージェントがそのコンテンツに回答不能でも、ケースフィードに表示されます。たとえば、顧客が問題を説明するために Flickr の動画を投稿した場合、エージェントはこの特定の投稿には回答できなくても、投稿を参照できます。

ソーシャルアクションによるリードフィード内のリードへの応答

営業エージェントは、リードフィードでソーシャルカスタマーとやりとりし、顧客のいる場所で都合のいい日時に見込み案件を生み出すことができるようになりました。

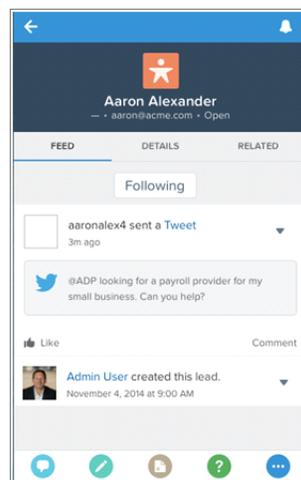
ソーシャル投稿がSalesforceのリードと関連付けられている場合、営業担当者がリードオブジェクトのフィードから応答できるようになりました。

メモ: リードが取引先または取引先責任者に変換されるときに、フィード内のソーシャル項目は削除されます。



ソーシャルアクションをリードオブジェクトのフィードに表示するには、ソーシャル投稿が Who 項目経由でリードと関連付けられている必要があります。また、リードのページレイアウトにフィードベースのレイアウトが必要で ([設定] から [カスタマイズ] > [リード] > [ページレイアウト] に移動)、リードのフィード追跡を有効にする必要があります ([設定] から [カスタマイズ] > [Chatter] > [フィード追跡] に移動して、[フィード追跡の有効化] および [すべての関連オブジェクト] のチェックボックスがオンであることを確認)。

リードのサポートは Salesforce1 でも機能します。



ブログやフォーラム、サイトのコンテンツのブロードリスニング

Radian6 でソースのブロードリスニングが設定されている場合に、顧客がソーシャル Web 全体から顧客の問題をインポートおよび追跡できるようになりました。

ブログやフォーラム、サイトのコンテンツを投稿物として Salesforce にインポートし、ソーシャルメディアで会社や商品、業界がどのように語られているかを把握します。サービスチームは、ソーシャルカスタマーケアで顧客を驚かせたり喜ばせたりすることができます。また、営業チームは、ソーシャルリードを生成して新規顧客をすばやく見つけて接触できます。

メモ: ソースのブロードリスニングは、Radian6 のトピックプロファイルで設定し、ソーシャルハブか Social Studio を経由してソーシャルカスタマーサービスに転送する必要があります。

ブロードリスニングにより、顧客は、ソーシャルサービスのフットプリントを大局的にとらえ、要求がどこから来ているのか、どのサイトやフォーラムに注意を払う必要があるのかを特定できます。また、すべてのデータソースに対するエージェントのアクションを1か所で追跡できます。エージェントは、活動、ケースコメント、活動の記録、Chatterコメントなどを使用して、処理を追跡することや、ソースとなるブログやフォーラムから得たブロードリスニングの投稿をケースにするかどうかを選別することができます。

Action	Name	Radiant6 Media Type	Radiant6 Media Pro...	Social Network	Social Persona
<input type="checkbox"/> Edit Del	Eva	Images	Flickr	Other Media Type	VictoriaG*
<input type="checkbox"/> Edit Del	High elf w. Crimson...	Images	Flickr	Other Media Type	Crixous
<input type="checkbox"/> Edit Del	High elf w. Crimson...	Images	Flickr	Other Media Type	Crixous
<input type="checkbox"/> Edit Del	Horror Games Aren...	Blogs	Generic Blogs	Other Media Type	Nathan Grayson
<input type="checkbox"/> Edit Del	Les mods de la se...	Blogs	Generic Blogs	Other Media Type	
<input type="checkbox"/> Edit Del	Metroplex on Nigh...	Comments	Generic Blogs Com...	Other Media Type	Metroplex
<input type="checkbox"/> Edit Del	New York's Tack V...	Blogs	Generic Blogs	Other Media Type	Haberler
<input type="checkbox"/> Edit Del	Những người vô gi...	Blogs	Generic Blogs	Other Media Type	
<input type="checkbox"/> Edit Del	Private Squad V02	Images	Flickr	Other Media Type	rokuDanAshi
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	JesusOden
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	JavierCC
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	JavierCC
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	Kakas104
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	JesusOden
<input type="checkbox"/> Edit Del	Skyrim	Images	Flickr	Other Media Type	JesusOden
<input type="checkbox"/> Edit Del	SR Geek Picks: "Av...	Blogs	Generic Blogs	Other Media Type	Justin_Vector

ビジネス継続性

メンテナンス中や計画的なアップグレード時に、ユーザが Salesforce にアクセスできる方法が登場しました。組織同期により、プライマリ組織が使用不能のときにユーザが作業できる、同期済みのセカンダリ Salesforce 組織を設定できます。

このセクションの内容:

組織同期によるビジネス継続性の向上 (正式リリース)

Salesforce では、Salesforce がメンテナンスのために停止中であっても、ユーザが各自のデータに即刻アクセスする必要があることを認識しています。組織同期を使用して、同期した状態のセカンダリ Salesforce 組織を設定すれば、プライマリ組織がダウンタイム中またはメンテナンス中でもユーザがビジネスに欠かせないプロセスやデータを処理できます。

組織同期によるビジネス継続性の向上 (正式リリース)

Salesforce では、Salesforce がメンテナンスのために停止中であっても、ユーザが各自のデータに即刻アクセスする必要があることを認識しています。組織同期を使用して、同期した状態のセカンダリ Salesforce 組織を設定すれば、プライマリ組織がダウンタイム中またはメンテナンス中でもユーザがビジネスに欠かせないプロセスやデータを処理できます。

組織同期は、ユーザが常時 Salesforce にアクセスする必要がある企業に最も適しています。たとえば、年中無休のコールセンターの担当者が、メンテナンス期間中も最小限の中断で顧客に対応できます。

組織同期では Salesforce to Salesforce のフレームワークを使用します。これは、顧客がレコードを Salesforce を使用する他の企業と共有できるようにする機能です。組織同期を設定するには、同

エディション

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

エディション

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

一のメタデータを有するセカンダリ Salesforce 組織を設定し、プライマリ組織とセカンダリ組織間にデータ複製接続を作成します。公開および登録プロセスを使用して不可欠なオブジェクトや項目をセカンダリ組織に対応付け、セカンダリ組織にコピーするデータの種類を指定します。この後、同期された状態のレコードがセカンダリ組織にコピーされます。

プライマリ組織が使用不能になると、メンテナンスが終了するまでユーザがセカンダリ組織にリダイレクトされます。ユーザが1つの組織で実行するほぼすべてのアクション(ケースの作成、添付ファイルの削除など)が、自動的に別の組織に適用されます。

組織での組織同期の有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

Chatter: レポート作成、質問-to-ケース、グループ内のレコード

Spring '15 では、組織の Chatter 活動に関するレポート作成、グループへのレコード追加、Chatter の質問からのケースの作成が可能になりました。ファイル、フィード、およびリストに記載しないグループ機能にもいくつかの改善が加えられました。

このセクションの内容:

Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージを使用した Chatter 利用状況のレポート

Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージは、Chatter 活動を監視するために不可欠な一連のダッシュボードおよびレポートをシステム管理者に提供します。システム管理者は、最新の総計値から洞察を得て、速やかにトレンドを把握できます。

Chatter グループのコラボレーションオプションの追加

Chatter グループに、レコードに関するコラボレーション、グループメールの送信、リストに記載しないグループの変更を容易にする機能が追加されました。

ファイル

ファイルの同期、共有、およびコラボレーションで、ユーザのファイル管理を簡素化します。

Chatter フィードのその他のコミュニケーションオプション

Chatter フィードで、ユーザが投稿から ToDo を作成したり、顔文字を使用したりできるようになりました。

質問-to-ケースを使用した Chatter の質問の管理 (正式リリース)

Chatter の質問では、ユーザが Salesforce 組織およびコミュニティのフィードで質問することができます。質問-to-ケースでは、未解決の質問をケースにエスカレーションできるため、ユーザの問題がすばやく解決されやすくなります。

Apex トリガを使用した Chatter 非公開メッセージのモデレーション

ChatterMessage オブジェクトでトリガがサポートされるようになりました。トリガを使用すると、組織またはコミュニティで非公開メッセージのモデレーションを自動化できます。たとえば、トリガを使用して、メッセージが会社のメッセージングポリシーに準拠していること、およびメッセージにブラックリストに登録された語が含まれていないことを保証できます。

Chatter のその他の変更

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更がありました。

関連トピック:

[Chatter 機能が使用可能になる方法と状況](#)

Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージを使用した Chatter 利用状況のレポート

Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージは、Chatter 活動を監視するために不可欠な一連のダッシュボードおよびレポートをシステム管理者に提供します。システム管理者は、最新の総計値から洞察を得て、速やかにトレンドを把握できます。

 **メモ:** Salesforce Chatter ダッシュボードパッケージは、Spring '15 の直後に AppExchange から入手できるようになります。

ダッシュボード	説明
概要	Chatter の全体的な状況を一目で確認できます。
コンテンツ	コンテンツの更新、ダウンロード、エンゲージメント、およびコンテンツ作成者を追跡します。
グループ	グループ内のメンバーシップ、投稿およびコメント活動を監視します。
モデレーション	未回答の質問と投稿、グループの成長率、およびグループの全体的な健全度を追跡します。
Q&A	グループで投稿された質問、回答、および最良の回答に関する総計値を表示します。
トピック	ナビゲーショントピックと主要トピックに関する総計値を表示します。
ユーザプロフィール	ユーザプロフィール内の投稿およびコメント活動を監視します。

Chatter グループのコラボレーションオプションの追加

Chatter グループに、レコードに関するコラボレーション、グループメールの送信、リストに記載しないグループの変更を容易にする機能が追加されました。

このセクションの内容:

ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加の許可

グループにレコードを追加すると、ユーザはグループ内のチームとしてレコードに関するコラボレーションや議論ができます。

メールによるグループへの投稿での一意ではないメールアドレスのサポート

Spring '15 以降、Chatter グループでは、グループレベルで一意であれば、組織内で一意でないメールアドレスからのメールによる投稿がサポートされます。

リストに記載しないグループの機能強化

リストに記載しないグループをより幅広い利用者に公開する場合、公開または非公開グループに変換できるようにになりました。一部のユーザに対するアクセス制限も変更されました。

ユーザによる Chatter グループへのレコードの追加の許可

グループにレコードを追加すると、ユーザはグループ内のチームとしてレコードに関するコラボレーションや議論ができます。

グループにレコードを追加する機能はデフォルトで有効化されますが、この機能を使用する前にグループパブリッシャーを設定する必要があります。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [Chatter] > [設定] をクリックします。[グループ] セクションで、[グループ内のレコードを許可] が選択されていることを確認します。
2. グループレイアウトをカスタマイズして [レコードの追加] アクションをグループパブリッシャーに追加します。
3. オブジェクトレイアウトをカスタマイズしてレコード詳細ページに [グループ] 関連リストを追加することをお勧めします。グループとレコード間のリレーションをサポートする組織のすべての標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに対してこの操作を実行します。
[グループ] リストでは、レコードが関連付けられているグループのリストをユーザが表示できます。

グループにレコードを追加する場合、次の注意事項があります。

- 顧客を許可するグループとコミュニティ内のグループではグループ内のレコードはサポートされません。
- ユーザがグループに追加できるのは、取引先、取引先責任者、リード、商談、契約、キャンペーン、ケース、およびカスタムオブジェクトレコードです。その他のオブジェクトはサポートされていません。
- ユーザには、グループとレコードへのアクセス権が必要です。
- ユーザは、任意の数のレコードをグループに追加できます。
- グループにレコードを追加しても、グループフィード、レコードフィード、レコードの表示 (共有) には影響を与えません。フィード項目は作成されず、確認メッセージのみが表示されます。グループがこのレコードをフォローすることも、その逆もありません。
- 必要な権限を (ライセンス、プロファイル、権限セット、または共有によって) 持つユーザのみがグループ内のレコードを表示できます。

たとえば、ChatterFree ユーザにはグループ内のレコードは表示されません。また、取引先と取引先責任者の参照権限を持つユーザには、グループ内のケースレコードは表示されません。このため、ユーザに表示されるレコードの件数が、グループレコードリストに表示される実際の件数よりも少なくなる場合があります。

エディション

使用可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact Manager Edition**、および
Developer Edition

ユーザ権限

Chatter グループでレコードを有効化する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

- レコードは、Salesforce SOAP API または Chatter REST API を使用してグループに追加できます。グループとレコード間のリレーションは、CollaborationGroupRecord オブジェクトに保存されます。

グループレコードは、SOAP API と Chatter Rest API の両方でサポートされます。

メールによるグループへの投稿での一意ではないメールアドレスのサポート

Spring '15 以降、Chatter グループでは、グループレベルで一意であれば、組織内で一意でないメールアドレスからのメールによる投稿がサポートされます。

これまで、複数のユーザーレコードで共有されるメールアドレスからグループへの投稿はブロックされていました。今後、このようなメールアドレスからの投稿はブロックされません。1つのメールアドレスが関連付けられている複数のユーザーレコードの場合、グループフィードへの投稿は、グループのメンバーでもあるユーザーレコードによる投稿として表示されます。メールアドレスを共有する複数のユーザーレコードが同じグループのメンバーになっている場合、そのメールアドレスからそのグループへの投稿はブロックされます。

リストに記載しないグループの機能強化

リストに記載しないグループをより幅広い利用者に公開する場合、公開または非公開グループに変換できるようになりました。一部のユーザに対するアクセス制限も変更されました。

- 「リストに記載しないグループの管理」権限を持つユーザは、「すべてのデータの編集」権限がなくてもフィードコンテンツを削除できるようになりました。
- 「すべてのデータの編集」権限を持つユーザは、グループマネージャでない限り、リストに記載しないグループからフィードコンテンツを削除できません。

ファイル

ファイルの同期、共有、およびコラボレーションで、ユーザのファイル管理を簡素化します。

このセクションの内容:

ファイルおよびコンテンツ用の新しい Salesforce Files 設定ノード

[設定] にファイルおよびコンテンツの新しいホームができました。すべてのファイルおよびコンテンツ設定を1つの Salesforce Files ノードで管理できるようになりました。これまで、これらの設定ページは [設定] 内の広範囲に分散していました。

Files でのレコードタイプとページレイアウトのサポート

Salesforce Files でレコードタイプとページレイアウトがサポートされるようになりました。従来、ほとんどのカスタマイズ可能なオブジェクトでレコードタイプとページレイアウトがサポートされていましたが、Files ではサポートされていませんでした。システム管理者は、新しい Salesforce Files ノードの [レコードタイプ] および [ページレイアウト] 設定ページを使用して、Files にこの両方を設定できるようになりました。

Salesforce Files Sync での新しい OS のサポートと制限の緩和

Salesforce Files Sync で Windows 8 および 8.1 と Mac OS X Yosemite がサポートされるようになりました。同期対象ファイル数も 10,000 個までサポートされます。2,000 ファイル/500 フォルダを組み合わせた従来の制限はもう適用されません。数を気にせずに同期できます。

共有ファイルの同期

ユーザが他のユーザと共有するファイルを、Chatter フィード投稿、ファイルリスト、ファイル詳細ページから直接同期できるようになりました。これまで、ユーザが同期できるのは自分自身のファイルのみでした。

OneDrive for Business のコンテンツへの接続

Salesforce ユーザは、Microsoft が提供する最新のクラウドベースのコンテンツシステムのファイルにアクセスして共有できます。外部コンテンツは、Salesforce のグローバル検索に追加することで完全に統合できます。

セキュアエージェントの機能強化

Files Connect を SharePoint 2010 または 2013 のような社内のデータソースとともに使用する場合、Salesforce とセキュアに通信するためにセキュアエージェントが必要です。Spring '15 での改良により、セキュアエージェントのインストールと更新、およびそのアクティビティの追跡が容易になりました。

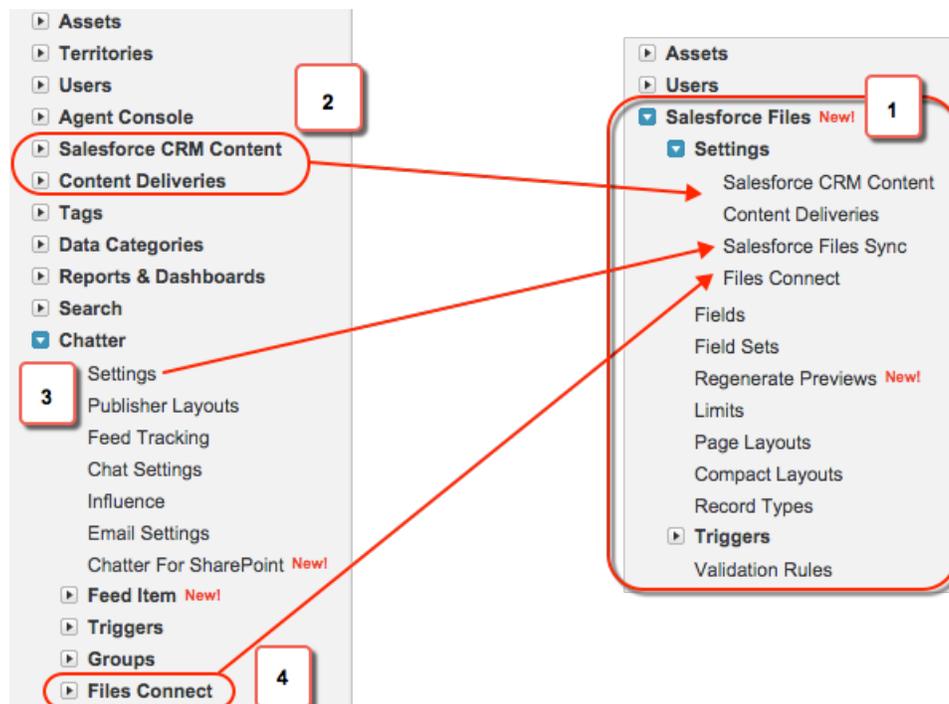
ファイルおよびコンテンツ用の新しい Salesforce Files 設定ノード

[設定] にファイルおよびコンテンツの新しいホームができました。すべてのファイルおよびコンテンツ設定を 1 つの Salesforce Files ノードで管理できるようになりました。これまで、これらの設定ページは [設定] 内の広範囲に分散していました。

[ビルド] > [カスタマイズ] > [Salesforce ファイル] で、ファイルおよびコンテンツの設定を定義できます。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション



ファイルおよびコンテンツ設定が次のように変更されて見つけやすくなりました。

- [設定] に新しい Salesforce Files ノード (1) が追加されました。
- [Salesforce CRM Content] と [コンテンツ配信] (2) が新しい Salesforce Files ノードに移動しました。

- [Salesforce Files Sync] (3) が [Chatter 設定] から Salesforce Files ノード内の独自の設定ページに移動しました。
- [Files Connect] (4) が新しい Salesforce Files ノードに移動しました。

Files でのレコードタイプとページレイアウトのサポート

Salesforce Files でレコードタイプとページレイアウトがサポートされるようになりました。従来、ほとんどのカスタマイズ可能なオブジェクトでレコードタイプとページレイアウトがサポートされていましたが、Files ではサポートされていませんでした。システム管理者は、新しい Salesforce Files ノードの [レコードタイプ] および [ページレイアウト] 設定ページを使用して、Files にこの両方を設定できるようになりました。

Salesforce Files Sync での新しい OS のサポートと制限の緩和

Salesforce Files Sync で Windows 8 および 8.1 と Mac OS X Yosemite がサポートされるようになりました。同期対象ファイル数も 10,000 個までサポートされます。2,000 ファイル/500 フォルダを組み合わせた従来の制限はもう適用されません。数を気にせずに同期できます。

共有ファイルの同期

ユーザが他のユーザと共有するファイルを、Chatter フィード投稿、ファイルリスト、ファイル詳細ページから直接同期できるようになりました。これまで、ユーザが同期できるのは自分自身のファイルのみでした。

自分のファイルだけでなく、他のユーザと共有するファイルも、デスクトップと Salesforce 間で同期できるようになりました。同期対象ファイルに対する「コラボレータ」権限がある場合、ファイルの同期、変更、および保存ができます。

それ以外の処理は Salesforce Files Sync で行われるため、同僚はいつも最新バージョンを使用できます。ファイルに対する「閲覧者」権限がある場合、ファイルを同期できます。ファイルが常に最新であるとわかっているため安心できます。

ユーザ権限

共有ファイルを同期する

- 「ファイルの同期」

- 📌 **メモ:** この機能は、Salesforce Files Sync バージョン 1.3.0 でリリースされました。共有ファイルの同期についての詳細は、Salesforce Files Sync ヘルプの「[共有ファイルの同期](#)」を参照してください。

OneDrive for Business のコンテンツへの接続

Salesforce ユーザは、Microsoft が提供する最新のクラウドベースのコンテンツシステムのファイルにアクセスして共有できます。外部コンテンツは、Salesforce のグローバル検索に追加することで完全に統合できます。

次のオンラインヘルプトピックで設定プロセスの概要が説明されています(Spring '15 がリリースされると、これらは OneDrive for Business の設定詳細に追加されます)。

1. [組織](#)で [Files Connect](#) を有効にします。
2. [ユーザ](#)が OneDrive for Business にアクセスできるようにします。
3. [OneDrive for Business](#) の認証プロバイダを作成します。
4. [OneDrive for Business](#) の外部データソースを定義します。
5. ユーザが Salesforce のグローバル検索で外部データにアクセスできるようにするには、[外部オブジェクト](#)を作成して、その項目へのアクセス権をユーザに付与します。この手順は省略可能ですが、外部データを Salesforce と適切に統合するために強くお勧めします。
6. ユーザにそれぞれのデータソースログイン情報を提供するように依頼します。これでユーザは、[ファイル]タブやフィードで外部ファイルのダウンロードや共有を行ったり、Salesforce コンテンツと一緒に外部ファイルを検索したりできます。

セキュアエージェントの機能強化

Files Connect を SharePoint 2010 または 2013 のような社内のデータソースとともに使用する場合、Salesforce とセキュアに通信するためにセキュアエージェントが必要です。Spring '15 での改良により、セキュアエージェントのインストールと更新、およびそのアクティビティの追跡が容易になりました。

- 📌 **メモ:** SharePoint 2010 または 2013 への接続には、有料の権限セットライセンス「社内の外部データソース用 Files Connect」が必要です。詳細は、[オンラインヘルプ](#)を参照してください。

使いやすいインターフェースによる Windows エージェントのインストール
[設定]から、[開発]>[セキュアエージェント]をクリックします。エージェントの詳細ページに移動して、[インストーラをダウンロード]>[Windows エージェント]をクリックして新しい標準の Windows インストーラをダウンロードし、インストーラに従ってステップごとにプロセスを進めます。

ログファイルによるエージェントアクティビティの追跡
エージェントの詳細ページで、[ログをダウンロード]をクリックしてテキストログが含まれる .zip ファイルをダウンロードし、監視やトラブルシューティングに使用できます。

自動更新通知の受信

パフォーマンスを最適化するために、Salesforce では定期的にセキュアエージェントのプラグインを改良しています。いつ現在のバージョンが更新されるかは、自動電子メールでシステム管理者に通知されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

Files Connect を有効化する、外部データソースを作成する、およびそのソースをグローバル検索に追加する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

エディション

有料オプションで使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

セキュアエージェントを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Chatter フィードのその他のコミュニケーションオプション

Chatter フィードで、ユーザが投稿から ToDo を作成したり、顔文字を使用したりできるようになりました。

このセクションの内容:

新規 ToDo アクションによるフィードの機能拡張

[新規 ToDo 作成] アクションでは、ユーザがフィードの投稿から直接 ToDo を作成できます。

アクションリンクを使用した投稿からのアクションの実行 (正式リリース)

アクションリンクは、投稿上のボタンで、クリックすると Salesforce またはサードパーティの API コール、ファイルのダウンロード、Web ページの表示を実行できます。開発者がアクションリンクを作成して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。開発者は、組織内のアクションリンクを作成して、パッケージで配布できます。

フィードへの顔文字の追加

ユーザが文字の組み合わせを入力することにより、顔文字を投稿やコメントに追加できるようになりました。

新規 ToDo アクションによるフィードの機能拡張

[新規 ToDo 作成] アクションでは、ユーザがフィードの投稿から直接 ToDo を作成できます。

Chatter およびパブリッシャーのアクションは、[Chatter 設定] で有効にしておく必要があります。

[フィード項目レイアウト] で、[新規 ToDo 作成] アクションをパブリッシャーに追加して、アクションが投稿のドロップダウンメニューに表示されるようにします。

1. [設定] で、[カスタマイズ] > [Chatter] > [フィード項目] > [レイアウト] をクリックします。
2. フィード項目レイアウトの横にある [編集] をクリックします。
3. フィード項目レイアウトで、[アクション] をクリックします。
4. [ToDo を新規作成] アクションを選択して、[パブリッシャー] セクションの [アクション] にドラッグします。

エディション

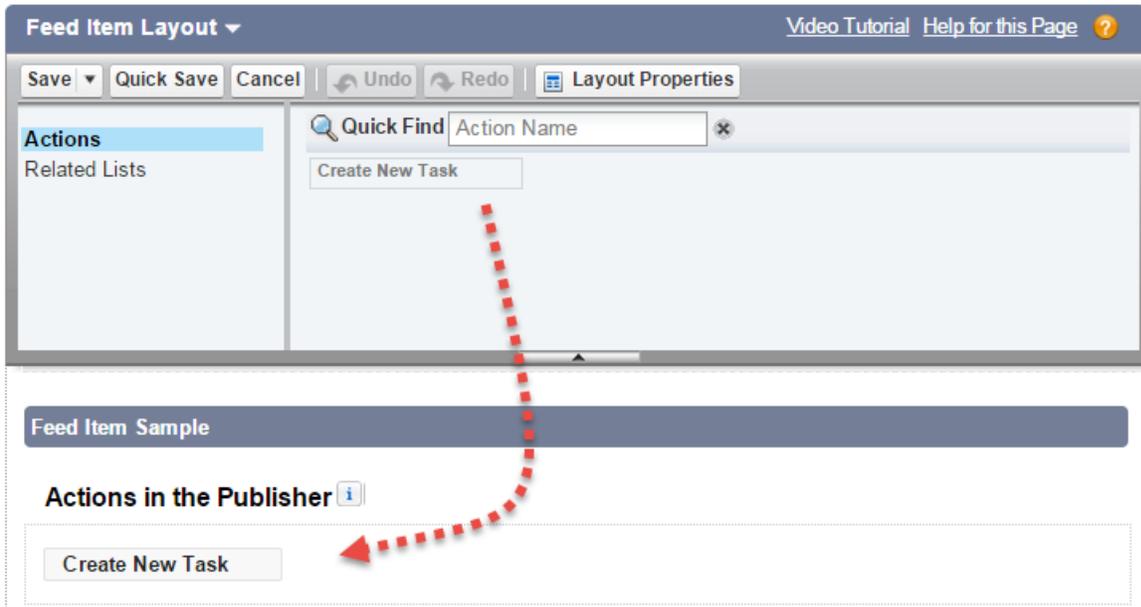
使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、**Contact Manager Edition**、および
Developer Edition

ユーザ権限

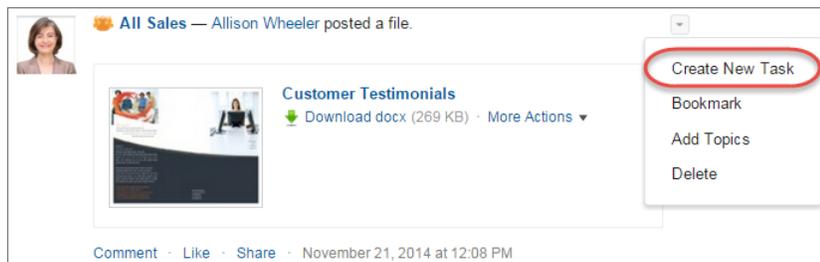
Chatter フィード項目レイアウトをカスタマイズする

- 「アプリケーションのカスタマイズ」



5. [保存]をクリックします。

[新規 ToDo 作成] アクションが有効化されると、Salesforce と Salesforce1 で、テキスト、コンテンツ、またはリンク添付ファイルを含む投稿のドロップダウンメニューにアクションが表示されます。



ユーザが投稿から ToDo を作成すると、ToDo はユーザのホームページにある [私の ToDo] リストにも表示されません。[新規 ToDo 作成] アクションには、次の制限と追加機能があります。

- テキスト、コンテンツ、およびリンク投稿で使用可能ですが、レコード更新のようなシステムが生成した投稿上では使用できません。
- カスタマイズできません。つまり、項目は変更できません。
- ユーザのフィードに表示される更新を生成します。

アクションリンクを使用した投稿からのアクションの実行 (正式リリース)

アクションリンクは、投稿上のボタンで、クリックすると Salesforce またはサードパーティの API コール、ファイルのダウンロード、Web ページの表示を実行できます。開発者がアクションリンクを作成して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。開発者は、組織内のアクションリンクを作成して、パッケージで配布できます。

たとえば、架空の 3D プリントショップ「BuildIt」が、アクションリンクを使用して Salesforce に統合される AppExchange アプリケーションを作成したとします。BuildIt の顧客は、このアプリケーションをインストールすると、BuildIt の Web サイトへのアクセス、アカウントの作成、BuildIt に部品を注文できるように特定のユーザーを招待する Salesforce へのアクションリンクを含む投稿の送信を行えます。このサンプルフィード要素は、BuildIt の顧客である Pam Jones からその部下の Jin Chang に投稿されたものです。[ダウンロード]アクションリンクをクリックすると、BuildIt Web サイトから部品情報を含むファイルがダウンロードされます。[注文]アクションリンクをクリックすると、Jin Chang に BuildIt Web サイトのページが表示されて部品を注文できます。



Apex でアクションリンクを作成する方法についての詳細は、[Chatter in Apex の全般的な更新](#) (ページ 278) を参照してください。Chatter REST API でアクションリンクを作成する方法についての詳細は、[Chatter REST API の全般的な更新](#) (ページ 315) を参照してください。

フィードへの顔文字の追加

ユーザーが文字の組み合わせを入力することにより、顔文字を投稿やコメントに追加できるようになりました。次の文字の組み合わせがサポートされています。

文字の組み合わせ	顔文字
<ul style="list-style-type: none"> • :) • :-) 	😊 (笑顔)
<ul style="list-style-type: none"> • :P • :-P • :p • :-p 	😜 (舌を出す)
<ul style="list-style-type: none"> • :(😞 (しかめ面)

文字の組み合わせ	顔文字
<ul style="list-style-type: none"> • :-) 	
<ul style="list-style-type: none"> • >:(• >:-) 	😡 (怒り)
<ul style="list-style-type: none"> • :((• >:((• :-((😭 (泣き顔)

顔文字をユーザが使用できるようにするには、[設定]に移動し、[カスタマイズ]>[Chatter]>[設定]をクリックします。[フィード内の顔文字]セクションで、[絵文字を許可]の選択を解除します。

顔文字は Salesforce1 ではサポートされていません。

質問-to-ケースを使用した Chatter の質問の管理 (正式リリース)

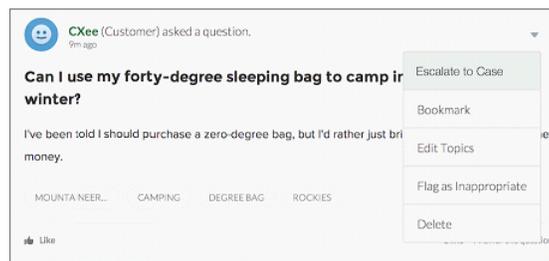
Chatter の質問では、ユーザが Salesforce 組織およびコミュニティのフィードで質問することができます。質問-to-ケースでは、未解決の質問をケースにエスカラーションできるため、ユーザの問題がすばやく解決されやすくなります。

質問-to-ケースは、Chatter の質問が有効化されている Salesforce 組織およびコミュニティのすべてで使用できます。モデレータは質問をフィードで直接ケースにエスカラーションできます。Lightning プロセスビルダーで(ワークフロールールに似ている)プロセスを設定し、指定された条件を満たす質問から自動的にケースを作成することもできます。

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition



質問-to-ケースについての詳細は、[質問-to-ケースによる Chatter の質問からのケースの作成 \(正式リリース\)](#)を参照してください。

Apex トリガを使用した Chatter 非公開メッセージのモデレーション

ChatterMessage オブジェクトでトリガがサポートされるようになりました。トリガを使用すると、組織またはコミュニティで非公開メッセージのモデレーションを自動化できます。たとえば、トリガを使用して、メッセージが会社のメッセージングポリシーに準拠していること、およびメッセージにブラックリストに登録された語が含まれていないことを保証できます。

非公開メッセージのトリガを作成するには、[設定]から[カスタマイズ]>[Chatter]>[トリガ]>[ChatterMessageのトリガ]をクリックします。または、開発者コンソールで[ファイル]>[新規]>[Apex トリガ]をクリックし、[sObject] ドロップダウンリストから ChatterMessage を選択してもトリガを作成できます。

非公開メッセージの本文と送信者に関する情報を確認するには、*Apex before insert* トリガを記述します。検証メッセージをレコードまたは本文項目に追加することにより、メッセージが失敗し、エラーがユーザーに返されます。

after insert トリガを作成することはできますが、ChatterMessage は更新することができないため、ChatterMessage を変更する *after insert* トリガは実行時に失敗して該当するエラーメッセージが表示されます。

次の表は、ChatterMessage で公開される項目のリストです。

表 2: ChatterMessage で使用可能な項目

項目	Apex データ型	説明
Id	ID	Chatter メッセージの一意の識別子
Body	String	送信者によって投稿された Chatter メッセージの本文
SenderId	ID	送信者のユーザ ID
SentDate	DateTime	メッセージの送信日時
SendingNetworkId	ID	メッセージの送信元のネットワーク(コミュニティ)。この項目は、コミュニティが有効で、非公開メッセージが少なくとも1つのコミュニティで有効な場合にのみ表示されます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

ChatterMessage の Apex トリガを保存する

- 「Apex 開発」

および

「Chatter メッセージの管理」

 **例:** 次の例は、それぞれの新規メッセージを確認するために使用される ChatterMessage の *before insert* トリガを示します。

```
trigger PrivateMessageModerationTrigger on ChatterMessage (before insert) {
    ChatterMessage[] messages = Trigger.new;

    for (ChatterMessage currentMessage : messages) {
        // Review current message
    }
}
```

メッセージがポリシー違反の場合(メッセージ本文にブラックリストに登録された語が含まれる場合など)、Apex `addError` メソッドをコールすることで、メッセージの送信を防ぐことができます。`addError` をコールして、項目またはメッセージ全体にカスタムエラーメッセージを追加できます。次のコードスニペットは、エラーをメッセージの本文項目に追加する方法を示します。

```
if (moderator.isMessageUnacceptable(currentMessage)) {
    currentMessage.Body.addError('This message violates the acceptable use policy.');
```

Chatter のその他の変更

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更がありました。

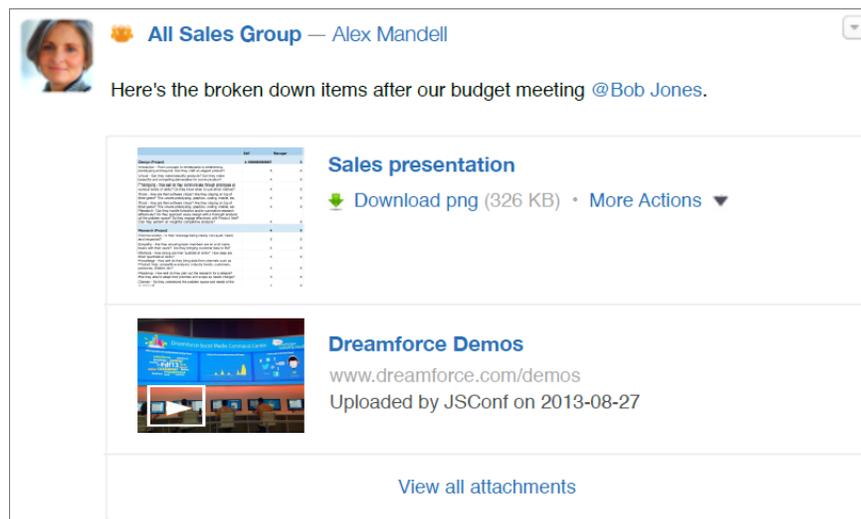
プレビューリンクの追加

Salesforce は、さまざまな URL のリッチメディアサポートを提供してユーザエクスペリエンスをさらに向上させています。プレビューは Embed.ly によって動作するサードパーティサービスで、動画へのリンクのサムネール、説明、動画プレーヤーが含まれます。このリリースでは、次のサポートが追加されました。

- allego.com
- amazon.com、amazon.cn、amazon.in、amazon.co.jp、amazon.fr、amazon.de、amazon.es、amazon.it、amazon.co.uk、amazon.ca、amazon.com.au、amazon.com.mx、amazon.com.br
- espn.go.com
- etsy.com
- facebook.com、fb.com
- kaltura.com
- maps.google.com、google.com/maps

投稿での複数添付ファイルの表示

複数リンクとファイルなど、投稿に複数の添付ファイルの追加が可能になり、簡単により多くの情報をユーザに提供できるようになりました。



[すべて表示] をクリックすると、投稿のすべての添付ファイルを表示できます。可能な場合はプレビューも参照できます。

Salesforce では投稿の複数の添付ファイルを表示できますが、現在、複数の添付ファイルを追加できるのは、モバイルデバイスで Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションを使用している場合のみです。モバイルデバイスを使用して複数の添付ファイルを追加する方法についての詳細は、[投稿への複数の添付の追加](#)を参照してください。

Salesforce1 レポート: レポート通知

レポートの機能強化により、主要な総計値をより多くの方法で把握できます。

このセクションの内容:

[レポート通知の受信登録 \(正式リリース\)](#)

ユーザがレポート通知にサインアップして、特に関心が高い総計値の最新情報を常時把握できるようになりました。レポートを登録して、通知をトリガする条件を設定します。たとえば、未解決の問題のレポートを登録し、未解決の問題が20件を超えた朝に、常に通知を受信するようにします。通知は、Salesforce1 通知、Chatter、メールのいずれかで登録者に直接配信されます。ユーザが、Apex を使用して定義されたカスタムアクションをトリガするように指定することもできます。

[レポートのエクスポートおよび印刷に必要なセッションセキュリティレベルの強化](#)

レポートのエクスポートおよび印刷の際に、高保証セッションをユーザに要求するセキュリティポリシーを設定できるようになりました。このポリシーを設定すると、これらのタスクを実行可能なユーザにアクセスが制限されます。

[Salesforce1 レポートのその他の変更](#)

レポートへの追加更新によってデータを追跡できます。

関連トピック:

[Salesforce1 レポート機能が使用可能になる方法と状況](#)

レポート通知の受信登録 (正式リリース)

ユーザがレポート通知にサインアップして、特に関心が高い総計値の最新情報を常時把握できるようになりました。レポートを登録して、通知をトリガする条件を設定します。たとえば、未解決の問題のレポートを登録し、未解決の問題が20件を超えた朝に、常に通知を受信するようにします。通知は、Salesforce1通知、Chatter、メールのいずれかで登録者に直接配信されます。ユーザが、Apexを使用して定義されたカスタムアクションをトリガするように指定することもできます。

レポート通知登録は自動的に有効化されています。この機能を無効にする場合は、[設定]から[カスタマイズ]>[レポート&ダッシュボード]>[レポート通知]をクリックします。

[レポート実行]ページに、新しい[登録]オプションがユーザに表示されます。各ユーザはレポートを5つまで登録できます。



これらのスケジュール済みの通知は、[レポート実行]ページから実行をスケジュールする([レポート実行]>[実行のスケジュール...])既存の機能とは異なります。今後の実行のスケジュールは、ユーザが指定した時間にレポートがメール送信されるようスケジュールするもので、条件は指定しません。

新しい[レポートの登録]ページで通知を設定する方法を次に示します。

 A screenshot of the 'Report Subscription' configuration page in Salesforce. The page title is 'Oppty by Amount'. It has buttons for 'Save', 'Save & Run Now', and 'Cancel'. Below the title is a descriptive text: 'When you subscribe to a report, you can define the set of conditions to meet before sending a notification, and choose how and when to be notified. Make sure to save any changes to your report before subscribing.' The configuration is divided into sections:

- Type:** 'Notify me:' with radio buttons for 'Every time conditions are met' (selected) and 'Only the first time conditions are met'.
- Conditions:** A table with columns 'Aggregate', 'Operator', and 'Value'. The first row shows 'Sum of Amount', 'Less Than', and '1000000'. There is an 'AND' icon to the right.
- Schedule:** 'Frequency' with radio buttons for 'Every Weekday' (selected), 'Daily', and 'Weekly'. Below it is a 'Time' dropdown set to '7:00 AM'.
- Actions:** A list of checkboxes: 'Send Salesforce1 Notification' (checked), 'Post to Chatter Feed' (checked), 'Send Email Notification' (unchecked), and 'Execute a Custom Action' (set to '-- None --').
- Preview:** A yellow box containing a sample alert: 'Alert: The conditions in 'Oppty by Amount' have been met. https://na1-blitz04.soma.salesforce.com/000D0000001g1Mr. 'Average Session Minutes' is 23 and is greater than 20. 'Active Concurrent Users' is equal to 500.'
- Active:** A checkbox that is checked.

 At the bottom, there are buttons for 'Save', 'Save & Run Now', and 'Cancel'.

エディション

使用可能なエディション:
Database.com Editionを除くすべてのエディション

ユーザ権限

レポートを登録する

- 「レポート実行」

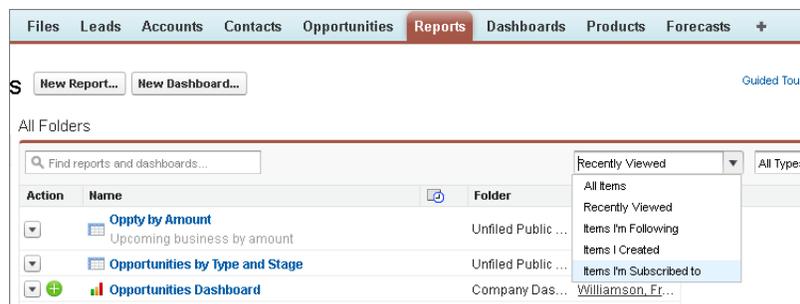
レポート通知登録を有効化または無効化する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

1. 各条件の集計、演算子、値の3つを指定します。たとえば、合計金額が100万ドル未満の場合に通知がトリガされるようにします。
レポートの実行時に条件が評価され、すべての条件に合致すると通知が送信されます(レポートあたり最大5つの条件)。
2. 条件を評価する頻度(平日、毎日、毎週)と時間をスケジュールします。たとえば、平日の午前7時にレポートを実行します。
3. 通知種別を1つ以上選択します。

 **メモ:** レポート通知に関連付けられている Reports 名前空間に、新しい Apex クラスやメソッドがあります。詳細は、「[新規および変更された Apex クラス](#)」を参照してください。

さらに、[レポート] タブで、ユーザが [私が登録している項目] によってリストビューを絞り込めるようになりました。



レポートのエキスポートおよび印刷に必要なセッションセキュリティレベルの強化

レポートのエキスポートおよび印刷の際に、高保証セッションをユーザに要求するセキュリティポリシーを設定できるようになりました。このポリシーを設定すると、これらのタスクを実行可能なユーザにアクセスが制限されます。

これまで、レポート、ダッシュボード、接続アプリケーションなどのリソースへのアクセスの際に、高保証セッションを要求することができました。今回、アクセスをより厳密に制御するために、レポートのエキスポートおよび印刷にも高保証セッションを要求し、これらの操作へのアクセスを制限できるようになりました。

この機能が有効の場合、セッションセキュリティレベルが標準のユーザがレポートをエキスポートまたは印刷しようすると、ユーザは高保証セキュリティレベルに関連付けられているログイン方法に基づいて再度ログインするよう求められます。ユーザがログインフローを正常に完了した場合は、レポートをエキスポートまたは印刷できます。

この機能を有効にする場合は、[設定] から [ビルド] > [カスタマイズ] > [レポート & ダッシュボード] > [アクセスポリシー] をクリックします。[アクセスポリシー] ページで、[高保証セッションが必要です] > [[レポートのエキスポート] および [印刷用に表示] では、段階的に増大する認証を使用してセッションレベルを上げる] を選択します。この機能はデフォルトで無効になっています。

エディション

使用可能なエディション:
Database.com Edition を除くすべてのエディション

ユーザ権限

高保証セキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Salesforce1 レポートのその他の変更

レポートへの追加更新によってデータを追跡できます。

[レポート] および [ダッシュボード] タブをクリックジャックから保護

セキュリティを強化するため、Salesforce1 レポートでクリックジャック保護が有効化されるようになりました。したがって、[レポート] および [ダッシュボード] タブを iframe 内に埋め込むことはできません。以前は、クリックジャック保護を有効化または無効化できました。今回のリリースでは、クリックジャック保護は常に有効です。詳細は、[Salesforce1 レポートのクリックジャック保護の有効化](#)を参照してください。

Force.com のカスタマイズ: クリックとコードによる Salesforce の適合化

カスタマイズ機能を使用すると、オブジェクト、データ、項目の機能強化、組織の外観のカスタマイズ、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張できます。しかもすべてポイント&クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

このセクションの内容:

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

データ

Force.com プラットフォームを使用すると、データの管理や追跡を簡単に行えます。ユーザ、アプリケーション、およびプロセスは、すべての関連データ (外部システムに保存されているデータを含む) をシームレスに操作できます。

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

プロセスビルダーおよび Visual Workflow には、複雑なビジネスプロセスを自動化および簡略化するためのポイント&クリックツールが備わっています。

セキュリティと ID

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。これらの機能では、ユーザ ID やアクセス管理も提供されます。

共有

共有により、どのユーザに何が表示されるかについて、さらに詳細に制御できます。

グローバリゼーション

グローバリゼーションツールは、システム管理者が、多言語、マルチ通貨、翻訳されたコンテンツなど、国ごとに異なるリソースを管理するのに役立ちます。

重要な更新

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

Force.com カスタマイズのその他の変更

軽微なカスタマイズによる機能強化ではありますが、Salesforce がさらに使いやすくなりました。

関連トピック:

[Force.com のカスタマイズ機能が使用可能になる方法と状況](#)

全般的な管理

システム管理によって、組織をビジネスニーズに合わせて管理できます。

このセクションの内容:

アクション用語の変更

ドキュメントおよび Salesforce ユーザインターフェースでのいくつかのアクション種別の名前は、その実際のアクションを説明する用語に変更されました。

代理管理者による公開グループの管理が可能

代理管理者が公開グループを作成できるようになりました。また、指定のロールとすべての下位ロールのユーザを代理管理者が追加および削除可能な公開グループを指定できるようになりました。これにより、代理管理者が管理できる公開グループを厳密に制御しながら公開グループの管理タスクを委任できます。

カスタム権限を管理する権限の変更

カスタム権限の作成、編集、削除に必要な権限が「カスタム権限の管理」に変更されました。これにより、システム管理者のユーザ管理権限をより正確に制御する必要がある組織は、「アプリケーションのカスタマイズ」の代わりにこの権限を付与できます。

無効ユーザが所有するレコードの作成または編集

無効ユーザが所有する特定のレコードを更新する場合、ユーザを再有効化する必要はありません。

[設定]における他の項目の検索(ベータ)

メニューやページリンク(特定のカスタムリンクなど)を繰り返しクリックすることなく、すばやく項目を検索するには、[高度な設定の検索]を使用します。Spring'15では、[設定]から名前を検索できる個々の設定項目リストが拡張されました。割り当てルール、カスタムボタン、およびカスタムリンクを検索できるようになりました。

数式関数で使用できる複合項目の変更

以前はすべての数式で複合項目を使用できましたが、多くの場合未対応の例外が発生していました。複合項目は ISNULL、ISBLANK、および ISCHANGED 関数では有効化され、その他いくつかの関数ではこうしたエラーが発生しないようにブロックされました。

標準住所項目での Google マップの表示

標準住所項目があるレコードでは、その住所の Google マップ画像が表示されるようになりました。これにより、取引先責任者や取引先の住所を個別のブラウザタブで検索する代わりに、その場所をマップ上で確認できるため、時間を節約できます。

地理位置情報項目の制限事項の変更 (正式リリース)

以前はベータリリースのみで使用可能であった地理位置情報項目が正式リリースされました。制限事項が減り、機能が強化されたため、地理位置情報を最大限に活用できるようになりました。たとえば、Visual Workflow、ワークフローの更新と承認、Apex、検索ツールなどが改善されています。

[設定]の項目リストへのインデックス付き列の追加

[設定]の項目リストに、データベースで項目にインデックスが付けられたことを示す新しいインデックス付き列が追加されました。レポート、リストビュー、およびSOQLクエリの検索条件は、応答時間を短縮するためにインデックス付き項目を対象とすることを勧めます。

アクション用語の変更

ドキュメントおよびSalesforceユーザインターフェースでのいくつかのアクション種別の名前は、その実際のアクションを説明する用語に変更されました。

「パブリッシャーアクション」から「クイックアクション」への変更

SalesforceとSalesforce1のユーザインターフェースおよびドキュメント全体で、「パブリッシャーアクション」という名前が「クイックアクション」に変更されました。アクションはChatterとそのパブリッシャーに依存しないように最近変更されたため、「パブリッシャーアクション」という用語はこのアクション種別を正確に説明していません。Salesforce APIでは当初から「クイックアクション」と呼ばれていたため、その他のすべての場所でもこの用語で統一することになりました。

ページレイアウトエディタの[パブリッシャーアクション]セクションの[パブリッシャーのアクション]への変更

パブリッシャーアクションの用語変更を受けて、高度なページレイアウトエディタおよびすべてのグローバルパブリッシャーレイアウトのアクションセクション名も変更されました。

[パブリッシャーアクションを有効化] Chatter組織設定を [パブリッシャーのアクションを有効化] に変更
パブリッシャーのアクションのChatter組織設定の名前が変更されました。この設定は、[設定]の[カスタマイズ]>[Chatter]>[設定]にあります。

「レコードアクション」の「生産性アクション」への変更

SalesforceとSalesforce1のユーザインターフェースおよびドキュメント全体で、「レコードアクション」という名前が「生産性アクション」に変更されました。

Salesforce1のみに表示されるこれらのアクションには、メールを送信(✉)、活動の記録(📞)、地図(📍)、Webサイトを表示(🌐)、ニュースを閲覧(📰)などがあります。生産性アクションは、Salesforce Todayの取引先、取引先責任者、リード、商談、個人取引先、およびモバイルカレンダーの行動で使用できます。

代理管理者による公開グループの管理が可能

代理管理者が公開グループを作成できるようになりました。また、指定のロールとすべての下位ロールのユーザを代理管理者が追加および削除可能な公開グループを指定できるようになりました。これにより、代理管理者が管理できる公開グループを厳密に制御しながら公開グループの管理タスクを委任できます。詳細は、Salesforceヘルプの「公開グループの管理の委任」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

カスタム権限を管理する権限の変更

カスタム権限の作成、編集、削除に必要な権限が「カスタム権限の管理」に変更されました。これにより、システム管理者のユーザ管理権限をより正確に制御する必要がある組織は、「アプリケーションのカスタマイズ」の代わりにこの権限を付与できます。

以前のリリースでは、カスタム権限の管理には「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必須でした。「アプリケーションのカスタマイズ」権限はそのまま存在し、今までのリリースと同じアクセス権を提供します。「アプリケーションのカスタマイズ」を有効にした場合、「カスタム権限の管理」も自動的に有効になります。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

無効ユーザが所有するレコードの作成または編集

無効ユーザが所有する特定のレコードを更新する場合、ユーザを再有効化する必要はありません。

以前は、無効ユーザが所有する取引先、商談、およびカスタムオブジェクトレコードを編集できるのはシステム管理者のみでした。Spring '15では、システム管理者と作成または編集権限のあるすべてのユーザが、無効ユーザが所有する取引先、商談、およびカスタムオブジェクトレコードを作成または編集できます。たとえば、取引先を作成し、レコード所有者として無効ユーザを割り当てることができます。または、無効ユーザが所有する商談レコードの「取引先名」項目を編集し、その親取引先を変更できます。

エディション

使用可能なエディション:
 すべてのエディション

[設定]における他の項目の検索 (ベータ)

メニューやページリンク (特定のカスタムリンクなど) を繰り返しクリックすることなく、すばやく項目を検索するには、[高度な設定の検索]を使用します。Spring '15では、[設定]から名前を検索できる個々の設定項目リストが拡張されました。割り当てルール、カスタムボタン、およびカスタムリンクを検索できるようになりました。

メモ:

- 高度な設定の検索はベータ版です。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。

エディション

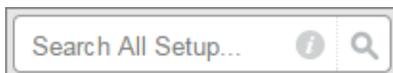
使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

- Spring '15 以降に組織で使用できますが、組織の設定データがインデックス付けされて検索可能になるまでに数週間かかる可能性があります。この期間中は、すべての可能な結果が検索から返されないことがあります。

高度な設定の検索で検索可能な項目

- 承認投稿テンプレート
- 承認プロセス
- 割り当てルール — Spring '15 の新機能
- コンパクトレイアウト
- カスタムボタンまたはリンク — Spring '15 の新機能
- カスタム項目
- カスタムホームページ
- カスタムオブジェクト
- 重複ルール
- メールテンプレート
- グループ
- ホームページのコンポーネント
- 権限セット
- プロファイル
- キュー (グループおよびキューカテゴリ内の結果付き)
- ロール
- 静的リソース
- ユーザ
- ワークフローメールアラート
- ワークフロー項目自動更新
- ワークフローアウトバウンドメッセージ
- ワークフロールール
- ワークフロー ToDo

[高度な設定の検索]には、[設定]で適切なメニュー項目をすばやく検索するために使用する検索ボックスと同じ検索ボックスを使用します。



設定項目を検索するには、設定検索ボックスに目的の項目の2文字以上連続する文字列を入力し、 をクリックするか、Enterキーを押します。表示された[設定の検索結果]ページで、項目をリストから選択します。

数式関数で利用できる複合項目の変更

以前はすべての数式で複合項目を使用できましたが、多くの場合未対応の例外が発生していました。複合項目は ISNULL、ISBLANK、および ISCHANGED 関数では有効化され、その他いくつかの関数ではこうしたエラーが発生しないようにブロックされました。

次の関数では、複合項目の使用がブロックされました。

- BLANKVALUE
- CASE
- NULLVALUE
- PRIORVALUE
- 比較演算子と等価演算子: = および == (等号)、<> および != (不等号)、< (より小さい)、> (より大きい)、<= (以下)、>= (以上)、&& (AND)、|| (OR)

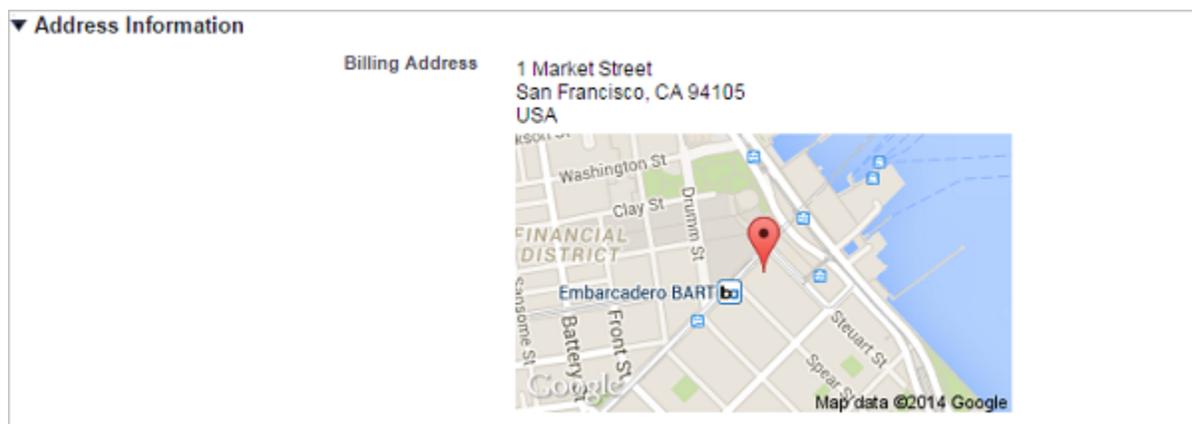
エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

標準住所項目での Google マップの表示

標準住所項目があるレコードでは、その住所の Google マップ画像が表示されるようになりました。これにより、取引先責任者や取引先の住所を個別のブラウザタブで検索する代わりに、その場所をマップ上で確認できるため、時間を節約できます。

レコードの詳細ページに移動すると、その住所項目の Google マップ画像が表示されます。マップ画像を生成するには、住所に町名・番地および市区郡項目に加え、都道府県、郵便番号、または国のいずれかが含まれている必要があります。住所項目に必須情報のいずれかが欠けている場合、マップは表示されません。



住所のマップ画像は静的ですが、マップ画像をクリックすると、新しいブラウザタブで Google マップが開きます。

標準住所項目でのマップは、デフォルトで有効化されています。組織でマップを無効にするには、Salesforce フルサイトの [設定] で [カスタマイズ] > [地図およびロケーション] > [設定] をクリックし、[マップおよび場所のサービスを有効化] のチェックを外します。

地理位置情報項目の制限事項の変更 (正式リリース)

以前はベータリリースのみで使用可能であった地理位置情報項目が正式リリースされました。制限事項が減り、機能が強化されたため、地理位置情報を最大限に活用できるようになりました。たとえば、Visual Workflow、ワークフローの更新と承認、Apex、検索ツールなどが改善されています。

Spring '15 では、地理位置情報項目の制限事項に次の変更が加えられています。

- 地理位置情報項目は Visual Workflow、およびワークフロールールと承認プロセスの数式ベースの条件で使用できますが、ワークフロールールと承認プロセスの検索条件ベースの条件では使用できません。
- 地理位置情報項目は、SOQL と SOSL で検索できます。
- DISTANCE 数式は次でサポートされています。
 - ワークフロールールと承認プロセスの開始条件
 - ワークフロールールと承認プロセスでの項目自動更新アクション
 - カスタム入力規則
- 複合項目を使用できる数式関数は、ISBLANK、ISCHANGED、および ISNULL のみです。BLANKVALUE、CASE、NULLVALUE、PRIORVALUE、または等価演算子および比較演算子では、複合項目を使用できません。等価演算子と比較演算子には、= および == (等号)、<> および != (不等号)、< (より小さい)、> (より大きい)、<= (以下)、>= (以上)、&& (AND)、|| (OR) があります。
- 地理位置情報項目が Apex でクエリできるようになりました。ただし、その場所は複合項目のコンポーネントとしてのみ Apex で編集できます。地理位置情報項目コンポーネントの参照と設定を行うには、通常の「__c」の代わりに「__latitude__s」または「__longitude__s」を項目名に追加します。たとえば、次のように指定します。

```
Double theLatitude = myObject__c.aLocation__latitude__s;
myObject__c.aLocation__longitude__s = theLongitude;
```

制限事項の一覧は、Salesforce ヘルプの「Geolocation Custom Field Overview」を参照してください。

[設定] の項目リストへのインデックス付き列の追加

[設定] の項目リストに、データベースで項目にインデックスが付けられたことを示す新しいインデックス付き列が追加されました。レポート、リストビュー、および SOQL クエリの検索条件は、応答時間を短縮するためにインデックス付き項目を対象とすることをお勧めします。

この新しい列は標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに表示され、標準項目とカスタム項目のインデックス付けを示します。

Action	Field Label	Field Name	Data Type	Controlling Field	Indexed
	Account Name	Name	Name		✓
Edit	Account Number	AccountNumber	Text(40)		
Edit	Account Owner	Owner	Lookup(User)		✓
Edit	Account Site	Site	Text(80)		

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

あらゆるデータベースシステムと同様、検索条件と SQL クエリのパフォーマンスの最適化には、理論だけでなく技術も重要です。カスタムインデックスの使用を開始する前に、次の点に留意してください。

- インデックスは多い方が良いとは限りません。
- すべてのインデックスがパフォーマンスを改善するとは限りません。
- 通常、クエリするレコードが 100,000 件未満の場合はインデックスは不要です。

より具体的な詳細とヒントは、「[Query and Search Optimization Cheat Sheet \(クエリおよび検索最適化のための早見表\)](#)」を参照してください。カスタムインデックスでレポートまたは SQL クエリのパフォーマンスが改善される可能性がある場合は、Salesforce ナレッジ記事「[カスタムインデックス](#)」で開始方法の詳細を確認してください。

データ

Force.com プラットフォームを使用すると、データの管理や追跡を簡単に行えます。ユーザ、アプリケーション、およびプロセスは、すべての関連データ(外部システムに保存されているデータを含む)をシームレスに操作できます。

このセクションの内容:

[ユーザによる外部システムの各自の認証設定管理の有効化](#)

ユーザごとの認証に使用する外部データソースと指定ログイン情報にアクセスする場合、ユーザが独自の認証設定を管理できるようになったため、システム管理者が管理する必要はなくなりました。

[外部システムの認証設定に関する用語の変更](#)

外部データソースの認証設定の名称は、混乱が生じるのを避けるために Salesforce 全体で一貫した表記を使用するようになりました。これらの認証設定は、Spring '15 で新しく追加された指定ログイン情報にも適用されます。

[「Lightning Connect: OData 2.0」の外部データソースでの要求と応答の圧縮](#)

外部データソースを定義するときに、圧縮された HTTP 要求を外部サーバに送信する設定を選択できるようになりました。これにより、低帯域幅接続のパフォーマンスを改善できます。gzip 圧縮データを受信するように外部サーバが設定されていることを確認してください。gzip 圧縮データを Salesforce に送信するように外部サーバを設定することもできます。外部データソースからの gzip 圧縮応答は自動的に受け入れられます。

[項目監査履歴を使用した項目履歴の保持\(正式リリース\)](#)

項目監査履歴では、項目履歴管理とは関係なく、最長 10 年間までのアーカイブ済み項目履歴データを保持するポリシーを定義できます。これにより、監査機能とデータ保持に関する業界の規制に準拠できます。

[データパイプラインを使用した顧客データの管理\(パイロット\)](#)

すべての顧客データを活用してインテリジェンスと実用的な情報を獲得する、データパイプラインという新機能のパイロットプログラムが継続されています。データパイプラインは、顧客との交流やデータ駆動型アプリケーションの構築に役立ちます。データパイプラインでは、Hadoop のカスタム Apache Pig スクリプトの機能を使用して、Salesforce に保存されている大規模なデータを処理できます。

[外部データインテグレーションのその他の変更](#)

外部データインテグレーションに加えられたその他の変更について説明します。

ユーザによる外部システムの各自の認証設定管理の有効化

ユーザごとの認証に使用する外部データソースと指定ログイン情報にアクセスする場合、ユーザが独自の認証設定を管理できるようになったため、システム管理者が管理する必要はなくなりました。

ユーザが外部システムの認証設定を管理できるようにするには、権限セットまたはプロファイルを介してユーザに外部データソースおよび指定ログイン情報へのアクセス権を付与します。外部データソースにアクセスするユーザには、外部オブジェクトを参照できるようにするために、権限セットまたはプロファイルを介してオブジェクト権限も付与します。

以前は、改善された[設定]ユーザインターフェースを組織が有効化し、ユーザがSalesforceの個人設定にアクセスできる場合にのみ、ユーザが外部システムの各自の認証設定を管理できました。コミュニティライセンスを使用するユーザなどのその他のユーザの場合は、システム管理者が認証設定を管理する必要がありました。

外部データソースについての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce Files Connect の設定」および「Lightning Connect を使用した外部データアクセスの設定」を参照してください。

指定ログイン情報についての詳細は、Salesforce ヘルプの「指定ログイン情報の概要」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

外部システムの認証設定に関する用語の変更

外部データソースの認証設定の名称は、混乱が生じるのを避けるためにSalesforce全体で一貫した表記を使用するようになりました。これらの認証設定は、Spring '15で新しく追加された指定ログイン情報にも適用されます。

設定は「外部システムの認証設定」と呼ばれるようになりました。以前は、組織の設定に応じて次のいずれかの名前が認証設定に使用されていました。

- 外部認証設定
- 外部データユーザ認証
- 外部ユーザ認証設定
- 私の外部認証設定

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

「Lightning Connect: OData 2.0」の外部データソースでの要求と応答の圧縮

外部データソースを定義するとき、圧縮されたHTTP要求を外部サーバに送信する設定を選択できるようになりました。これにより、低帯域幅接続のパフォーマンスを改善できます。gzip圧縮データを受信するように外部サーバが設定されていることを確認してください。gzip圧縮データをSalesforceに送信するように外部サーバを設定することもできます。外部データソースからのgzip圧縮応答は自動的に受け入れられます。

このスクリーンショットには、外部データソースの新しい[圧縮要求]項目の位置が示されています。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

項目監査履歴を使用した項目履歴の保持 (正式リリース)

項目監査履歴では、項目履歴管理とは関係なく、最長10年間までのアーカイブ済み項目履歴データを保持するポリシーを定義できます。これにより、監査機能とデータ保持に関する業界の規制に準拠できます。

コンプライアンスに不可欠な要素に対応した、より大きなイニシアチブの一環として、Salesforce は項目監査履歴を正式 (GA) リリースします。

- 📌 **メモ:** この機能を使用するには、追加サービスまたはサブスクリプションの購入が必要な場合があります。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

Salesforce メタデータ API を使用して、項目履歴の保持ポリシーを定義します。次に、REST API、SOAP API、および Tooling API を使用して、アーカイブデータを処理します。

項目履歴は [履歴] 関連リストから `FieldHistoryArchive` オブジェクトにコピーされた後に、[履歴] 関連リストから削除されます。関連履歴リストに1つの `HistoryRetentionPolicy` オブジェクト (取引先履歴など) を定義し、アーカイブするオブジェクトのさまざまな項目監査履歴保持ポリシーを指定してから、メタデータ API (ワークベンチまたは Force.com 移行ツール) を使用することによって、オブジェクトをリリースします。項目監査履歴が有効になっている本番組織では、デフォルトでデータが18か月後にアーカイブされます。Sandbox 組織は、デフォルトが1か月です。保持ポリシーは必要な頻度で更新できます。

項目監査履歴ポリシーを定義およびリリースすると、本番データが関連履歴リスト (取引先履歴など) から `FieldHistoryArchive` オブジェクトに移行されます。最初のコピーは、ポリシーで定義された項目履歴をアーカイブストレージに書き込みます。これには時間がかかる場合があります。その後のコピーは前回のコピー以降の変更のみが転送されるため、高速に処理されます。アーカイブデータのクエリには、限られた SQL のセットを使用できます。

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

- ☑ **メモ:** 最初の GA リリース後の一定期間は、データが [履歴] 関連リストから自動的に削除されず、FieldHistoryArchive オブジェクトと [履歴] 関連リストの両方に表示される場合があります。Salesforce は、今後のリリースにおいて顧客が定義したポリシーに従って [履歴] 関連リストからアーカイブデータを削除する権利を留保します。

詳細は、『[Field History Retention Implementation Guide](#)』を参照してください。

データパイプラインを使用した顧客データの管理 (パイロット)

すべての顧客データを活用してインテリジェンスと実用的な情報を獲得する、データパイプラインという新機能のパイロットプログラムが継続されています。データパイプラインは、顧客との交流やデータ駆動型アプリケーションの構築に役立ちます。データパイプラインでは、Hadoop のカスタム Apache Pig スクリプトの機能を使用して、Salesforce に保存されている大規模なデータを処理できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

- ☑ **メモ:** この機能は現在、パイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用できます。このパイロットプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムへの参加には、追加の契約条件が適用される場合があります。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、このパイロットプログラムへの参加や、特定の期間この機能を有効にできることが保証されるわけではありません。プレスリリースや公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

それぞれの顧客に繋がることによって、データの規模はますます増大しています。このようなデータの増加を背景に新しいツールセットが求められています。データパイプライン(パイロット)では、顧客データの拡張性の高い一括処理、変換、および把握が可能になります。

Apex では、開発者がフローおよびトランザクションコントロールを制御して実行できますが、データパイプラインでは、データフローコントロールの補完的なツールセットが提供されます。このツールセットは、データフロー制御を表現するために幅広く使用されている高レベル言語の Apache Pig をベースとし、データの評価に役立つ一連の機能も装備しています。Pig により、Salesforce Hadoop インフラストラクチャが抽象化され、確立された Salesforce マルチテナントアーキテクチャのコンテキスト内で MapReduce の処理を実行できます。

データパイプラインジョブは、Salesforce 開発者コミュニティにはなじみのあるメカニズム(メタデータ API および Tooling API) を使用して組織にリリースされる Pig Latin スクリプトとして表されます。データパイプラインでは、Apache Pig 0.13 ディストリビューションおよび Apache DataFu 1.2.0 がサポートされ、ホワイトリストに登録された Apache DataFu および PiggyBank UDF ライブラリセットが提供されます。これにより、一連の包括的なユースケースをコンピュータで広範に表現できるようになります。

このリリースのパイロットでは、データパイプラインに次のものが追加されました。

- パフォーマンス向上
- 拡張されたジョブの状況情報
- 開発者コンソールからのジョブの作成および送信機能

パイロットについての詳細は、『[Data Pipelines Implementation Guide](#)』を参照してください。

パイロットへの参加についての詳細は、営業担当者またはSalesforceカスタマーサポートまでお問い合わせください。

外部データインテグレーションのその他の変更

外部データインテグレーションに加えられたその他の変更について説明します。

外部オブジェクトのタブと表示ラベルの名称変更

表示ラベルをより適切なものにするために、すべてのユーザページに表示される外部オブジェクトの表示ラベルを変更できるようになりました。

まれな例外を除いて、[設定] エリアのすべてのページで、デフォルトのオリジナル表示ラベルが使用されます。手順は、Salesforce オンラインヘルプの「[タブと項目の表示ラベルの名称変更](#)」を参照してください。

外部データソースに関するテキストの明確化

外部データソースを参照および定義するページに表示される一部のテキストが明確になり、理解しやすくなりました。

- [サーバ URL] 項目は URL に変更されました。
- [認証プロトコル] 項目の「OAuth」オプションは「OAuth2.0」に変更されました。外部データソースは常に OAuth 2.0 でのみサポートされていたため、オプションのテキストがより具体的になりました。
- ページの説明テキストや、項目のヘルプアイコンの上にマウスを置くと表示される一部の項目レベルのヘルプも整理されました。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

有料オプションで使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

ビジネスロジックおよびプロセスの自動化

プロセスビルダーおよび Visual Workflow には、複雑なビジネスプロセスを自動化および簡略化するためのポイント & クリックツールが備わっています。

このセクションの内容:

[視覚的表示によるビジネスプロセスの自動化 \(正式リリース\)](#)

正式にリリースされた Lightning プロセスビルダーは、フォローアップメールのような日常業務から、注文の更新や新入社員研修などのより複雑なプロセスまで、あらゆるプロセスを簡単に自動化できるワークフローツールです。数回クリックするだけでビジネスプロセスを自動化できるため、組織の業務がより効率的になります。

[プロセスビルダー — ベータ以降の変更](#)

すでに Lightning プロセスビルダーに精通している場合は、Spring '15 で追加された新機能を確認してください。プロセスのバージョンの作成、Apex のコール、条件ロジックのカスタマイズなどが可能になっています。

Visual Workflow

Spring '15 では、フロー管理者およびユーザ向けの多数の機能が使用可能になりました。たとえば、ユーザがフローインタビューを一時停止したり、決定要素と待機要素で使用される条件ロジックをカスタマイズしたりできるようになりました。さらに、以前の「トリガ対応」フローという名称は「自動起動」フローに変更されました。

視覚的表示によるビジネスプロセスの自動化 (正式リリース)

正式にリリースされた Lightning プロセスビルダーは、フォローアップメールのような日常業務から、注文の更新や新入社員研修などのより複雑なプロセスまで、あらゆるプロセスを簡単に自動化できるワークフローツールです。数回クリックするだけでビジネスプロセスを自動化できるため、組織の業務がより効率的になります。

 **メモ:** プロセスビルダーは、Spring'15 プレリリースプログラムでは使用できません。

プロセスビルダーのシンプルかつ強力な設計により、次のことが可能になります。

- 便利なビジュアルレイアウトを使用してポイント & クリックで効率的にプロセスを作成する。
- 複数のワークフロールールを使用する代わりに、1か所でプロセス全体を作成する。
- 組織内の他のチームとコラボレーションしてプロセスを作成する。
- Apex コードを使用せずに単純なタスクを自動化する。

より強力で柔軟になったプロセスビルダーを使用して、ワークフローと同じアクションを実行できます。プロセスビルダーには特定のアウトバウンドメッセージアクションはありませんが、プロセスビルダーの新しい「Apexをコール」アクションを使用してアウトバウンドメッセージを作成し、完全にカスタマイズできます。プロセスビルダーでは、次のことができます。

- レコードを作成する。
- レコードとその親のみでなく、あらゆる関連レコードを更新する。
- **クイックアクション**を使用して、レコードの作成、レコードの更新、または活動の記録を行う。
- ルール適用時のアクションだけでなく、スケジュール済みアクションからも自動起動フローをトリガする。
- メールを送信する。
- Chatter に投稿する。
- 承認を受けるレコードを送信する。

これらのアクション以上のことをプロセスで実行する必要がある場合も問題はありません。プロセスから Apex をコールすることもできます。

プロセスビルダーでは、自動化されたビジネスプロセスを簡単に作成できます。たとえば、次の自動化プロセスを作成できます。

- 取引先の請求先住所が変更された場合に、すべての子取引先責任者のすべての郵送先住所を更新する。
- 承認を受けるレコードを送信する (ユーザが手動で送信する必要はない)。
- 商談のフェーズに基づいてレコードと通知を作成し、レコードへの変更に基づいて実行するフォローアップ ToDo をスケジュール設定する。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

- 商談フェーズが商談成立に変更されたときに、その商談および関連取引先のデータを使用して注文レコードを作成する。
- 指定された完了予定日の10日前になってもまだ重要商談が進行中の場合、取引先チームにメールアラートを送信する。

プロセスビルダー — ベータ以降の変更

すでに Lightning プロセスビルダーに精通している場合は、Spring '15 で追加された新機能を確認してください。プロセスのバージョンの作成、Apex のコール、条件ロジックのカスタマイズなどが可能になっています。

- ☑ **メモ:** プロセスビルダーは、Spring '15 プレリリースプログラムでは使用できません。

このセクションの内容:

プロセスのバージョンの作成

プロセスビルダーの新しいバージョン設定機能を使用すると、プロセス全体を最初から再作成することなく、ビジネスプロセスを簡単に追跡、管理、最適化できます。

プロセスからの Apex メソッドのコール

その他のプロセスアクションでは処理できない場合は、Apex メソッドをコールして Salesforce プロセスにカスタマイズした機能を追加します。

1回のトランザクションでの複数回のプロセスのトリガ

1回のトランザクションでレコードを複数回再評価することで、自動化プロセスをさらに効率化できます。

特定の項目が変更されたかどうかの判断

プロセスの条件で、レコードの特定の項目が変更されたかどうかを簡単に判断できるようになりました。*ISCHANGED* 数式関数は廃止され、[変更済み] 演算子に置き換えられます。この演算子は検索条件で使用できます。

プロセスビルダーの条件ロジックのカスタマイズ

プロセスビルダーの特定の条件に対するすべての条件に、同じロジックを使用する必要がなくなりました。レポートやワークフロー条件と同様に、ロジックをカスタマイズできるようになりました。

より効率的なプロセスの作成と管理

プロセスビルダーが更新され、さらに使いやすくなりました。プロセスの参照と並び替え、アクションの展開と折りたたみなどが可能になっています。

プロセスビルダーのその他の変更

プロセスビルダーのその他の機能強化について説明します。

プロセスのバージョンの作成

プロセスビルダーの新しいバージョン設定機能を使用すると、プロセス全体を最初から再作成することなく、ビジネスプロセスを簡単に追跡、管理、最適化できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

コピーするだけで、既存のプロセスを変更できるようになりました。コピーは、独自のバージョン履歴を持つ新規プロセス、または現在のプロセスの新バージョンとして保存できます。1つのプロセスはバージョンを最大50個まで保持できますが、有効化できるバージョンは1つのみです。

コピーを元のプロセスと同時に実行する場合は、コピーを使用して完全に新しいプロセスを作成します。コピーを有効にするために最初のプロセスを無効にする必要はありません。

コピーに変更を加えて元のプロセスと置き換える場合は、そのコピーを元のプロセスの新バージョンとして保存します。新バージョンを有効にすると、以前に有効化されたバージョンは自動的に無効になります。

プロセスからの Apex メソッドのコール

その他のプロセスアクションでは処理できない場合は、Apex メソッドをコールして Salesforce プロセスにカスタマイズした機能を追加します。

Apex メソッドをコールするには、プロセスに [Apex をコール] アクションを追加し、**呼び出し可能メソッド**を使用して Apex クラスを選択します。これだけで完了です。

クラスに1つ以上の呼び出し可能な変数が含まれている場合は、手動で値を入力するか、関連レコードの項目値を参照します。各値は変数のデータ型と一致する必要があります。

1回のトランザクションでの複数回のプロセスのトリガ

1回のトランザクションでレコードを複数回再評価することで、自動化プロセスをさらに効率化できます。

以前は、レコードが変更されると、プロセスによってそのレコードが常に特定の条件で評価され、アクショングループが1回のみ実行されていました。つまり、別のプロセス、ワークフロールール、またはフローでレコードが変更された場合、プロセスで条件がすぐに再評価されることはなく、別のプロセスによる変更は適用されませんでした。

今回のリリースでは、別のプロセス、ワークフロールール、またはフローで同じトランザクションのレコードが更新された場合、必要に応じてプロセスで同じレコードを最大5回まで追加評価できるようになりました。

オブジェクトを選択してプロセスの開始時間を指定すると、[1回のトランザクションでプロセスにレコードの複数回の評価を許可しますか?]と質問されます。プロセスにレコードの複数回の再評価を許可する場合は、[はい]を選択します。

Allow process to evaluate a record multiple times in a single transaction? ⓘ

Yes

特定の項目が変更されたかどうかの判断

プロセスの条件で、レコードの特定の項目が変更されたかどうかを簡単に判断できるようになりました。

`ISCHANGED` 数式関数は廃止され、[変更済み] 演算子に置き換えられます。この演算子は検索条件で使用できません。

既存の有効なプロセスでは引き続き *ISCHANGED* 数式関数が機能しますが、そのプロセスをコピーすることはできません。同様に、*ISCHANGED* 数式関数を使用する既存の無効なプロセスに変更を加えることはできません。代わりに、検索条件で [変更済み] 演算子を使用してください。

プロセスビルダーの条件ロジックのカスタマイズ

プロセスビルダーの特定の条件に対するすべての条件に、同じロジックを使用する必要がなくなりました。レポートやワークフロー条件と同様に、ロジックをカスタマイズできるようになりました。

プロセスの条件ノードに対する条件ロジックをカスタマイズするには、[検索条件ロジックをカスタマイズ]を選択します。

 **例:** 商談プロセスで、価値の高い商談が成立した場合にアクションを実行するとします。この条件は、商談フェーズが成立したかどうかを確認します。さらに、商談が \$1,000,000 より大きいかどうか、または新興市場であるかどうかを確認します。3つの条件を使用して、条件ロジックを「1 AND (2 OR 3)」とカスタマイズできます。

より効率的なプロセスの作成と管理

プロセスビルダーが更新され、さらに使いやすくなりました。プロセスの参照と並び替え、アクションの展開と折りたたみなどが可能になっています。

プロセスのリストの並び替え

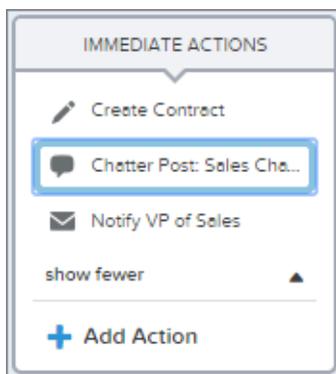
更新されたプロセス管理ページから、名前、説明、オブジェクト、最終更新日、状況別にプロセスを並び替えることができます。

キャンバスでのアクションの展開と折りたたみ

プロセスのすべての詳細は表示する必要がない場合があります。今回のリリースで、新しい [すべて展開] ボタンと [すべて折りたたむ] ボタンを使用して、プロセスビルダーのキャンバスでアクションを展開または折りたたむことができるようになりました。

キャンバスでの編集内容の表示

キャンバスでノードを開くと、そのノードが青の境界線で強調表示されるため、常に作業内容を確認できます。



プロセス状況の簡略化

プロセスの「ドラフト」、「不用」、「無効なドラフト」の3つの状況が廃止されました。代わりに、プロセスは「有効」または「無効」のいずれかになります。既存のプロセスが「ドラフト」、「不用」、または「無効なドラフト」に設定されている場合、その状況は「無効」に更新されます。

より簡単な値の検索と入力

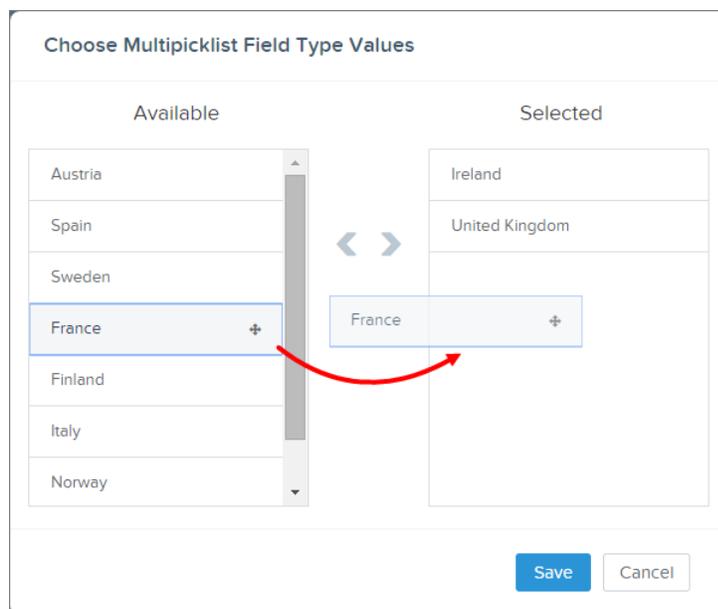
以前は、値の入力時にすべての使用可能なオプションのリストを参照することはできませんでした。今回のリリースで、値の入力時に次のいずれかを行うことが可能になりました。

- 特定の値を入力して検索
- 項目の横にある  をクリックしてすべての使用可能なオプションを参照

値の名前は、一意の API 名の代わりに項目表示ラベルとして表示されるようになりました。

複数選択リスト項目の使用

以前は、どの項目でも複数の値を選択することはできませんでした。今回のリリースで、複数の値を受け入れる項目で複数選択が可能になりました。たとえば、アクションによってレコードが作成され、そのレコードに複数選択項目がある場合、その項目で複数の値を選択できます。



使用開始時の詳細情報の取得

プロセスビルダーの使用を開始してまだプロセスがないときに、プロセス管理ページにいくつかの役立つリンクが表示されるようになりました。

プロセスビルダーのその他の変更

プロセスビルダーのその他の機能強化について説明します。

数式関数のスペース不要

以前は、関数の括弧と括弧内の内容の間に、「`TEXT([Account].LastModifiedDate)`」のようにスペースを挿入する必要がありました。これらのスペースを挿入する必要はなくなりました。

より多くのアクションの作成

1つの条件ノードに対する10件のルール適用時のアクションと10件のスケジュール済みアクションという制限はなくなりました。

名前空間のある組織のサポート

プロセスは登録済み名前空間のある組織でサポートされるため、プロセスを管理パッケージに保存および追加できるようになりました。

項目のツールチップによる簡単な操作

以前は、の上にカーソルを置いたときにのみ項目のツールチップが表示されました。今回のリリースで、キーボードを使用してプロセスビルダーをナビゲーションするときに、ツールチップのある入力項目にフォーカスを移動するたびにツールチップが表示されるようになりました。

Visual Workflow

Spring '15 では、フロー管理者およびユーザ向けの多数の機能が使用可能になりました。たとえば、ユーザがフローインタビューを一時停止したり、決定要素と待機要素で使用される条件ロジックをカスタマイズしたりできるようになりました。さらに、以前の「トリガ対応」フローという名称は「自動起動」フローに変更されました。

このセクションの内容:

フローインタビューの一時停止をユーザに許可

簡単な設定で、フローの一時停止をユーザに許可できます。ユーザは、通話が切れた場合や顧客が取引先番号を探してからコールバックする場合などに、フローを一時停止できます。続行できるようになったときにインタビューを再開できます。インタビューは、フローの実行中のインスタンスです。

フローの条件ロジックのカスタマイズ

フローの特定の結果や待機イベントに対するすべての条件に同じロジックを使用する必要がなくなりました。レポートやワークフロー条件と同様に、ロジックをカスタマイズできるようになりました。

フローインタビューの動的表示ラベルの作成

ユーザが特定のフローを開始する頻度によっては、同じフローで同時に複数のインタビューを実行可能です。新しいフロープロパティの「インタビュー表示ラベル」をカスタマイズすることで、システム管理者もユーザも同様にそれらのインタビューを簡単に区別できます。

フローから Apex クラスへのアクセスの簡略化

標準のフロー要素では処理できない操作を行うには、Apex クラスをフローから使用できるように設定します。以前は、煩雑な `Process.Plugin` インターフェースを使用する必要がありました。今回のリリースで、より簡単に優れた `@InvocableMethod` アノテーションを使用できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

Cloud Flow Designer でフローを開く、編集または作成する

- 「Force.com Flow の管理」

「トリガ対応フロー」から「自動起動フロー」への名前変更

ドキュメントおよび Salesforce ユーザーインターフェースで使用されていた「トリガ対応フロー」は、その機能をより正確に表す名前に変更されました。

フロー種別の指定

フロー管理または詳細ページで [実行制限] 列を復号化する代わりに、作成するフローの種別を保存時に指定できるようになりました。

待機中のインタビューに関する詳細情報の取得

前回のリリースで、フロー管理ページにリストが追加され、イベントを待機中のインタビューを監視できるようになりました。今回のリリースでは、リストビューおよびインタビューレコード詳細ページが更新され、インタビューに関する詳細が表示されるようになりました。

フローで作成された Chatter 投稿の ID の参照

フローで Chatter 投稿を作成した場合、作成されたフィード項目の ID を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、ユーザに新しいフィード項目へのリンクを提供するとします。「Chatter への投稿」要素を設定するときに、[フィード項目 ID] をフロー変数に割り当てます。

フローで送信された承認申請の情報の参照

フローで承認申請を送信した場合、承認申請の情報を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、決定要素で承認申請の状況を使用するとします。承認申請要素を設定するときに、承認申請の出力をフロー変数に割り当てます。

フロー変数へのイベント出力の割り当て

時間ベースのフローを作成した場合、フローが待機したイベントの情報を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、イベントが発生した実際の時間などです。

Visual Workflow のその他の変更

重要な機能強化に加えて、フローの作業を簡略化する次のような機能強化もいくつか追加されています。これらの機能強化には、デフォルトコネクタの定義済みの名前、トラブルシューティングフローの新しいイベントなどが含まれています。

フローインタビューの一時停止をユーザに許可

簡単な設定で、フローの一時停止をユーザに許可できます。ユーザは、通話が切れた場合や顧客が取引先番号を探してからコールバックする場合などに、フローを一時停止できます。続行できるようになったときにインタビューを再開できます。インタビューは、フローの実行中のインスタンスです。

ユーザがインタビューを一時停止したときに画面に部分的に入力している場合、その情報はインタビューと共に保存されます。したがって、後で再開したときに、値が有効であればその情報を再度入力する必要はありません。無効な値がある場合は、インタビューと共に値は保存されません。

ユーザ権限

Cloud Flow Designer でフローの画面を設定する

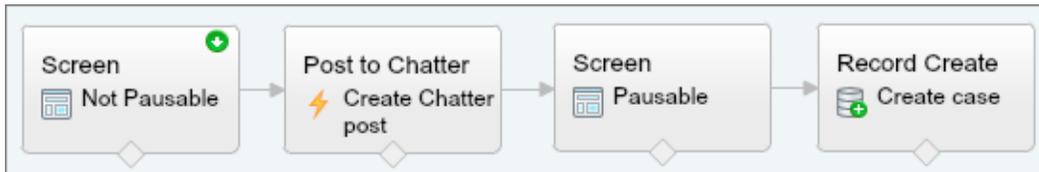
- 「Force.com Flow の管理」

ワークフローおよび承認設定の編集、ホームページレイアウトの作成や変更、または Salesforce1 ナビゲーションのカスタマイズを行う

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

- メモ:** 一時停止可能な画面の前にフローが要素を実行する場合、それらの要素と一時停止可能な画面後の要素間で遅延が発生しても問題ないことを確認してください。新しいトランザクションは各画面で開始されます。前のトランザクションが終了するときに、フローのパス内でその画面の前に含まれているすべてのアクションが実行されます。

たとえば、次のフローは画面要素、Chatterへの投稿要素、一時停止可能な画面要素、レコード作成要素の順に実行します。



ユーザが2番目の画面で一時停止すると、Chatterへの投稿は2番目の画面がユーザに表示される前に作成されます。ユーザがインタビューを再開し、[完了]をクリックした後にレコードが作成されます。このフローでは、一部のアクションは延期されずに行われ、一部はフロー完了時に実行されます。ユーザが再開するまでの間隔によっては、レコードがChatterへの投稿のかなり後に作成される場合があります。

1. ユーザに一時停止を許可する各フロー画面を設定します。
 - a. [[一時停止] ボタンを表示] を選択します。
 - b. 一時停止メッセージに、インタビューが正常に一時停止されたことをユーザに知らせる確認メッセージを入力します。
 推奨メッセージ: このインタビューは一時停止されました。続行する準備が整ったときに、[ホーム] タブまたは Salesforce1 の [一時停止中のフローインタビュー] からインタビューを再開してください。
2. そのフローのプロパティで、**インタビュー表示ラベル**をカスタマイズします。
3. ワークフローおよび承認設定で、[フローの一時停止をユーザに許可]を選択します。
この設定が無効な場合、[一時停止] ボタンはどのフローにも表示されません。
4. 一時停止中のインタビューをユーザが簡単に再開できるようにします。
 - a. ユーザの [ホーム] タブのページレイアウトに [一時停止中のフローインタビュー] を追加します。
 - b. 組織の Salesforce1 ナビゲーションメニューに [フローインタビュー] を追加します。
 詳細は、Salesforce ヘルプの「[ホーム] タブのページレイアウトの設計」および「Salesforce1 ナビゲーションメニューのカスタマイズ」を参照してください。

フローを一時停止したユーザまたはシステム管理者のみが一時停止中のインタビューを再開または削除できます。

このセクションの内容:

フローを一時停止可能なユーザの制御

Visualforce ページにフローを埋め込んだら、ユーザにそのページからフローの一時停止を許可するかどうかを検討します。これは、一部のユーザに特定のフローの一時停止を許可し、他のユーザには許可しない場合に便利な方法です。ユーザが一時停止できないようにするには、`<flow:interview>` の `allowShowPause` 属性を `false` に設定します。

一時停止および再開されたインタビューのデバッグ

新しいデバッグログメッセージが追加されて、ユーザが一時停止または再開したフローインタビューをトラブルシューティングしやすくなりました。

フローを一時停止可能なユーザの制御

Visualforce ページにフローを埋め込んだら、ユーザにそのページからフローの一時停止を許可するかどうかを検討します。これは、一部のユーザに特定のフローの一時停止を許可し、他のユーザには許可しない場合に便利な方法です。ユーザが一時停止できないようにするには、`<flow:interview>` の `allowShowPause` 属性を `false` に設定します。

 **例:** 組織でユーザによる一時停止を許可し、「PausableFlow」フローの画面に[一時停止]ボタンを表示するように設定するとします。多くのユーザにこのフローへのアクセス権を付与しますが、「アカウントマネージャ」プロファイルのユーザのみがフローを一時停止できるようにする必要があります。

アカウントマネージャには、フローの一時停止を許可するように設定された、次の Visualforce ページへのアクセス権を付与します。

```
<apex:page>
  <flow:interview name="PausableFlow" allowShowPause="true" />
</apex:page>
```

その他すべてのユーザには、フローの一時停止を許可しないように設定された、次の Visualforce ページへのアクセス権を付与します。

```
<apex:page>
  <flow:interview name="PausableFlow" allowShowPause="false" />
</apex:page>
```

詳細は、『*Visualforce 開発者ガイド*』の「Visualforce ページからユーザがフローを一時停止できるかどうかの制御」を参照してください。

属性名	属性型	説明	必須項目	デフォルト値
<code>allowShowPause</code>	Boolean	フローでの一時停止ボタンの表示を許可する Boolean 値。	いいえ	true

`allowShowPause` 属性は、API バージョン 33.0 以降で使用できます。

一時停止および再開されたインタビューのデバッグ

新しいデバッグログメッセージが追加されて、ユーザが一時停止または再開したフローインタビューをトラブルシューティングしやすくなりました。

新しいデバッグメッセージは、ユーザによるフローインタビューの一時停止とその後の再開を許可している場合に使用できます。記録されるレベルが INFO 以上に設定されている場合、ユーザがフローを一時停止および再開したときに発生する内容を追跡しやすくするために、デバッグログのワークフローカテゴリで次のイベントを使用できます。

- FLOW_INTERVIEW_PAUSED
- FLOW_INTERVIEW_RESUMED

フローの条件ロジックのカスタマイズ

フローの特定の結果や待機イベントに対するすべての条件に同じロジックを使用する必要がなくなりました。レポートやワークフロー条件と同様に、ロジックをカスタマイズできるようになりました。

待機イベントまたは決定の結果に対する条件ロジックをカスタマイズするには、[高度なロジック (AND と OR の組み合わせ)] を選択します。

 **例:** 従業員向けの調査で、画面でのユーザの選択に応じて特定のパスがフローに適用されるとします。このユーザは自転車通勤を選択しています。さらに、部署としてテクノロジーまたはカスタマーサポートを選択しています。

複数の決定を使用してこの2つの要件を評価する代わりに、1つの決定を使用して結果の条件ロジックを「1 AND (2 OR 3)」とカスタマイズできます。

ユーザ権限

「待機」または「決定」要素での条件ロジックをカスタマイズする

- 「Force.com Flow の管理」

	Resource	Operator	Value	
1.	{!BikeToWork}	equals	{!\$GlobalConstant.True}	
2.	{!Department}	equals	{!Technology}	
3.	{!Department}	equals	{!CustomerSupport}	
Add Condition		Advanced logic (Combination of ANDs and ORs)		
Logic *	1 AND (2 OR 3)			

フローインタビューの動的表示ラベルの作成

ユーザが特定のフローを開始する頻度によっては、同じフローで同時に複数のインタビューを実行可能です。新しいフロープロパティの「インタビュー表示ラベル」をカスタマイズすることで、システム管理者もユーザも同様にそれらのインタビューを簡単に区別できます。

システム管理者の場合、フロー管理ページの「一時停止中および待機中のインタビュー」のリストに「インタビュー表示ラベル」が表示されます。エンドユーザの場合、「ホーム」タブの「一時停止中のフローインタビュー」コンポーネントと Salesforce1 の「一時停止中のフローインタビュー」項目に「インタビュー表示ラベル」が表示されます。

新しいフローのインタビュー表示ラベルには、`FlowName - {!$Flow.CurrentDateTime}` があらかじめ入力されています。既存のフローを開いて「説明」または「インタビュー表示ラベル」項目にカーソルを置くと、同じ値が「インタビュー表示ラベル」に自動的に入力されます。インタビュー表示ラベルをカスタマイズするには、新しいフローを開いて「保存」をクリックするか、既存のフローを開いて  をクリックします。

 **ヒント:** フローインタビューに関連付けられた取引先責任者などの追加情報を参照するには、テキストテンプレートを使用します。

 **例:** このフローの「インタビュー表示ラベル」は、「`Customer Satisfaction Survey 2014 - {!Account.Name} - {!$Flow.CurrentDateTime}`」が含まれる `{!myCustomInterviewLabel}` というテキストテンプレートに設定されています。

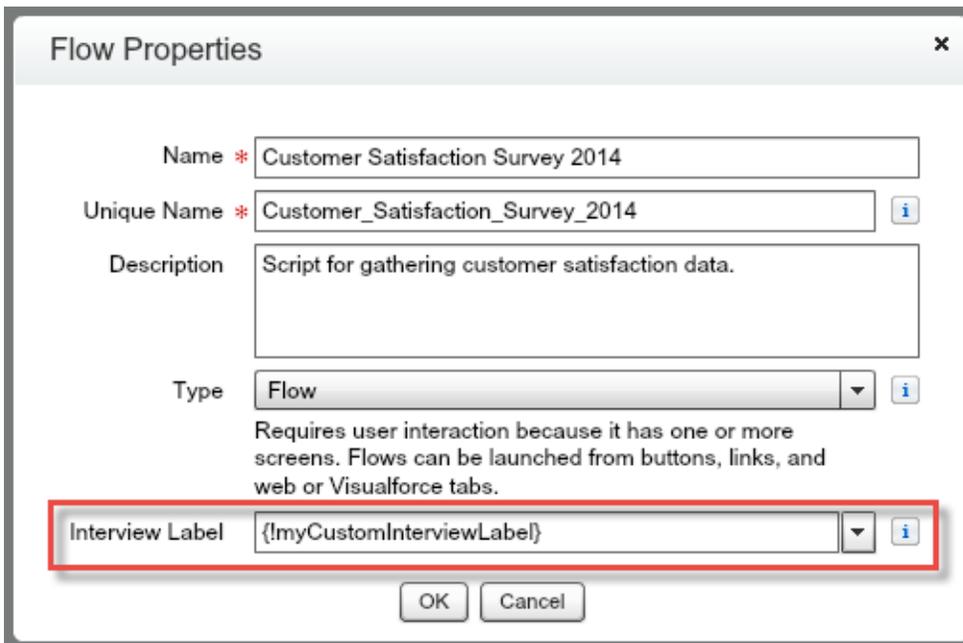
エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

フローのインタビュー表示ラベルを編集する

- 「Force.com Flow の管理」



The screenshot shows the 'Flow Properties' dialog box with the following fields:

- Name ***: Customer Satisfaction Survey 2014
- Unique Name ***: Customer_Satisfaction_Survey_2014
- Description**: Script for gathering customer satisfaction data.
- Type**: Flow
- Interview Label**: `{!myCustomInterviewLabel}` (highlighted with a red box)

Buttons: OK, Cancel

ユーザが、取引先 Acme Wireless, Inc. に対してこのフローを実行し、一時停止すると、インタビュー表示レベルは次のようになります。

Customer Satisfaction Survey 2014 - Acme Wireless, Inc. - 11/25/2014 01:03 PM

フローから Apex クラスへのアクセスの簡略化

標準のフロー要素では処理できない操作を行うには、Apex クラスをフローから使用できるように設定します。以前は、煩雑な Process.Plugin インターフェースを使用する必要がありました。今回のリリースで、より簡単で優れた @InvocableMethod アノテーションを使用できるようになりました。

フローからクラスを使用できるようにするこの2つの方法の簡単な比較を次に示します。

	Process.Plugin インターフェース	@InvocableMethod アノテーション
Apex データ型のサポート	未サポート: <ul style="list-style-type: none"> • Blob • コレクション • sObject • Time 	すべてのデータ型をサポート
一括処理	未サポート	サポート
再利用性	このインターフェースを実装するクラスは、以下で使用可能: <ul style="list-style-type: none"> • フロー 	このアノテーションを実装するクラスは、以下で使用可能: <ul style="list-style-type: none"> • フロー • プロセス • REST API

ユーザ権限

「Apex をコール」要素を設定する

- 「Force.com Flow の管理」

Apex メソッドを呼び出し可能にすると、[Apex をコール] セクションにある Cloud Flow Designer のパレットにそのメソッドのクラスが表示されます。フローからこのいずれかのクラスをコールするには、クラスをキャンバスにドラッグし、表示される要素を設定します。

 **例:** この2つの実装方法の違いを説明するために、フローから取引先名を取得してその取引先の ID を返すという同じ動作を行う 2 つのクラスを次に示します。

このクラスは @InvocableMethod アノテーションを実装しています。

```
global class lookUpAccountAnnotation {
    @InvocableMethod
    public static List<String> getAccountIds(List<String> names) {
        List<Id> accountIds = new List<Id>();
        List<Account> accounts = [SELECT Id FROM Account WHERE Name in :names];
        for (Account account : accounts) {
```

```

        accountIds.add(account.Id);
    }
    return accountIds;
}
}

```

このクラスは `Process.Plugin` インターフェースを実装しています。

```

global class lookupAccountPlugin implements Process.Plugin {

    global Process.PluginResult invoke(Process.PluginRequest request) {
        String name = (String) request.inputParameters.get('name');
        Account account = [SELECT Id FROM Account WHERE Name = :name LIMIT 1][0];

        Map<String, Object> result = new Map<String, Object>();
        result.put('accountId', account.Id);
        return new Process.PluginResult(result);
    }

    global Process.PluginDescribeResult describe() {
        Process.PluginDescribeResult result = new Process.PluginDescribeResult();
        result.Name = 'Look Up Account ID By Name';
        result.Tag = 'Account Classes';
        result.inputParameters = new
            List<Process.PluginDescribeResult.InputParameter>{
                new Process.PluginDescribeResult.InputParameter('name',
                    Process.PluginDescribeResult.ParameterType.STRING, true)
            };
        result.outputParameters = new
            List<Process.PluginDescribeResult.OutputParameter>{
                new Process.PluginDescribeResult.OutputParameter('accountId',
                    Process.PluginDescribeResult.ParameterType.STRING)
            };
        return result;
    }
}

```

`lookupAccountAnnotation` (11行) は `lookupAccountPlugin` (28行) の半分より短い長さになっています。さらに、アノテーションは一括処理をサポートしているため、`lookupAccountAnnotation` はインタビューのバッチごとに1つのクエリを実行します。`lookupAccountPlugin` はインタビューごとに1つのクエリを実行します。

「トリガ対応フロー」から「自動起動フロー」への名前変更

ドキュメントおよびSalesforceユーザインターフェースで使用されていた「トリガ対応フロー」は、その機能をより正確に表す名前に変更されました。

Spring'15より前では、ユーザ操作が不要なフローは、その主な起動方法がフロートリガであったことから「トリガ対応フロー」と呼ばれていました。現在では、他の方法でもユーザ操作が不要なフローを起動できるようになっています。そのため、トリガ対応フローは「自動起動フロー」と呼ばれるようになりました。

フロー種別の指定

フロー管理または詳細ページで [実行制限] 列を復号化する代わりに、作成するフローの種別を保存時に指定できるようになりました。

種別をカスタマイズするには、新しいフローを開いて [保存] をクリックするか、既存のフローを開いて  をクリックします。特定のフローに含めるバージョンは、すべて同じ種別にする必要はありません。1つのフローに複数のフローバージョンと複数の自動起動フローバージョンを含めることができます。

ユーザ権限

フロー種別をカスタマイズする

- 「Force.com Flow の管理」

待機中のインタビューに関する詳細情報の取得

前回のリリースで、フロー管理ページにリストが追加され、イベントを待機中のインタビューを監視できるようになりました。今回のリリースでは、リストビューおよびインタビューレコード詳細ページが更新され、インタビューに関する詳細が表示されるようになりました。

リストビューへの変更

フロー管理ページのリストビューに次の変更が加えられました。リストビューを表示するには、[設定] から [作成] > [ワークフローと承認申請] > [フロー] をクリックします。

リストビューの名前変更

リストビューのタイトルが「一時停止中および待機中のインタビュー」に変更されました。以前は「待機中のインタビュー」でした。このリストには、エンドユーザが一時停止したインタビューが表示されるようになりました。

列の削除

新しいカスタムリストビューで、次の列は使用できなくなりました。Spring '15 より前にこれらの列の1つ以上をカスタムリストビューに追加している場合、それらの列は既存のリストビューで使用できます。

- 相互関係定義バージョン ID
- 定義

列の追加

次の列が追加されました。

- 種別: 実行されたフローの種別。フローにサブフローが含まれる場合、これがマスタフローです。詳細は、Salesforce ヘルプの「フロー種別」を参照してください。
- 現在のフロー種別: インタビューが一時停止されたフローの種別。
- インタビュー表示ラベル: フロー作成者によって同じフローの複数のインタビューを区別するために設定された動的テキスト。詳細は、[フローインタビューの動的表示ラベルの作成](#) (ページ 222) を参照してください。
- 一時停止した理由: エンドユーザがフローインタビューを一時停止するときに入力したテキスト。
- 現在のフローバージョン: インタビューが一時停止されたフローのバージョン。「現在のフロー」は、フローがサブフローを参照している場合は「フロー」とは異なる場合があります。

列の変更

次の列が変更されました。

- フロー名:Spring'15では、「フロー名」という名前の列が2つありました。リストビューの、現在のフローに対応するこの列の名前は「現在のフロー名」になりました。
- バージョン:「現在のフローバージョン」と区別するために「フローバージョン」に変更されました。
- 作成日:この日付/時間値はフローインタビューが待機中になったときを反映するため、「一時停止日付」に変更されました。
- 定義バージョン:Winter'15では、「定義バージョン」という名前の列が2つありました。実行されたフローに対応するこの列の名前は「フローバージョン表示ラベル」になりました。インタビューが一時停止されたフローに対応するこの列の名前は、「現在のフローバージョン表示ラベル」になりました。

レコード詳細ページへの変更

インタビューレコード詳細ページに次の変更が加えられました。インタビューレコード詳細ページを表示するには、フロー管理ページの[一時停止中および待機中のインタビュー]リストを開き、[名前]の下にあるリンクをクリックします。リスト内にインタビューがない場合は、待機要素を含むフローを実行します。

オブジェクトの名前変更

インタビューレコードのオブジェクト名が「フローインタビュー」になりました。以前は「相互関係インタビュー」でした。

項目の削除

[定義バージョン] 項目はインタビューレコードで使用できなくなりました。

項目の追加

インタビューレコードで次の項目を使用できるようになりました。

- インタビュー表示ラベル
- 一時停止した理由
- 一時停止日付

セクションの追加

次のセクションが追加されました。

- 現在のフロー情報 — インタビューが一時停止されたフローに関連する項目が含まれます。この情報が [フロー情報] の内容と異なる場合、インタビューはサブフローで一時停止されています。
- フロー情報 — 実行されたフローに関連する項目が含まれます。この情報が [現在のフロー情報] の内容と異なる場合、これがマスタフローです。
- システム情報

[現在のフロー情報] への項目の追加

次の項目が [現在のフロー情報] セクションに追加されました。

- フロー名
- バージョン
- 種別
- 現在の要素

[フロー情報] への項目の追加

次の項目が [フロー情報] セクションに追加されました。

- フロー名
- バージョン
- 種別

フローで作成された Chatter 投稿の ID の参照

フローで Chatter 投稿を作成した場合、作成されたフィード項目の ID を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、ユーザに新しいフィード項目へのリンクを提供するとします。「Chatter への投稿」要素を設定するときに、[フィード項目 ID] をフロー変数に割り当てます。

フローで送信された承認申請の情報の参照

フローで承認申請を送信した場合、承認申請の情報を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、決定要素で承認申請の状況を使用するとします。承認申請要素を設定するときに、承認申請の出力をフロー変数に割り当てます。

省略可能な出力パラメータ

インスタンス ID	承認を得るために送信された承認プロセスの ID。
インスタンス状況	現在の承認プロセスの状況。有効値は、「Approved」、「Rejected」、「Removed」、または「Pending」です。
新しい作業項目 ID	承認プロセスに送信された新しい項目の ID です。0 件または 1 件の承認プロセスがあります。
次の承認者 ID	次の承認者として割り当てられたユーザの ID。
カスタムオブジェクト ID	承認を得るためにフローで送信されたレコードの ID。

フロー変数へのイベント出力の割り当て

時間ベースのフローを作成した場合、フローが待機したイベントの情報を後からそのフローで使用できるようになりました。たとえば、イベントが発生した実際の時間などです。

次のいずれかの出力パラメータをフロー変数に割り当てた場合、イベントが発生してフローが再開されたときに変数に値が入力されます。

ユーザ権限

「Chatter への投稿」要素を設定する

- 「Force.com Flow の管理」

ユーザ権限

「承認申請」要素を設定する

- 「Force.com Flow の管理」

ユーザ権限

「待機」要素を設定する

- 「Force.com Flow の管理」

パラメータ	説明	例
基準時刻	イベントが発生してフローインタビューが再開された実際の時間。	11/26/2014 10:12 AM
イベントの送信状況	<p>フローインタビューが再開されたときのイベントの状況。イベントの発生後、フローが再開されるようにするため、Salesforce からイベントを待機中のフローにそのイベントが送信されます。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信済み: イベントが正常に送信されました。 無効: 送信中にエラーが発生しましたが、フローは正常に再開されました。 	Delivered

Visual Workflow のその他の変更

重要な機能強化に加えて、フローの作業を簡略化する次のような機能強化もいくつか追加されています。これらの機能強化には、デフォルトコネクタの定義済みの名前、トラブルシューティングフローの新しいイベントなどが含まれています。

デフォルトコネクタの設定なしでのフローへの決定要素と待機要素の追加

フローをより迅速に作成して配布できるように、デフォルトの結果またはパスの名前を指定する必要がなくなりました。デフォルトの結果は決定要素で設定され、デフォルトパスは待機要素で設定されます。Cloud Flow Designerによって自動的に名前が付けられますが、定義済みの名前がフローに適さない場合は、その値を変更できます。

実行時に延期されたフロー要素のデバッグ

Salesforce は、レコード作成要素などの一括要素を、トランザクション内のすべてのフローインタビューが終了するか一括要素に到達するまで延期します。新しい `FLOW_ELEMENT_DEFERRED` Apex デバッグログには、延期されたイベントの詳細が記録されます。

追加オブジェクトの日付/時間項目を使用した時間ベースのフローの作成

待機要素で相対アラームイベントを使用することで、レコードに保存されている日付/時間値まで待機するようにフローを設定できます。次のオブジェクトの日付/時間項目を使用するように、相対アラームイベントを設定できるようになりました。

- FeedItem
- MacroInstruction
- MetricDataLink
- UserProvAccount
- UserProvAccountStaging
- UserProvMockTarget
- UserProvisioningLog
- WorkFeedbackTemplate

[実行制限] の代わりにフローの [種別] を監視

フロー管理およびフロー詳細ページの [実行制限] 列が [種別] 列に置き換えられました。[実行制限] 列は、デフォルトフローリストビューまたは新規カスタムフローリストビューでは使用できなくなりました。Spring '15 より前に [実行制限] 列を使用するリストビューを作成していた場合、その列は引き続きサポートされます。

各種別は、異なる要素とリソース、およびフローの実装方法をサポートしています。各フロー種別での制限についての詳細は、Salesforce ヘルプの「フロー種別」を参照してください。

ナビゲーションオプションのユーザインターフェーステキストの更新

Winter'15 以前では、[ナビゲーションオプション] 選択リストを介して、画面に表示されるボタンを設定していました。特定の画面で一時停止をユーザに許可できるようになったため、ナビゲーションオプションでこの新機能がサポートされるように次の変更が加えられました。

- 選択リストは [ナビゲーションオプション] セクション内に表示されるようになりました。
- デフォルト値が [ナビゲーション制限なし] から [[完了] および [前へ] ボタンを表示] に変更されました。

セキュリティと ID

セキュリティを使用して、データとアプリケーションの両方を保護します。これらの機能では、ユーザ ID やアクセス管理も提供されます。

このセクションの内容:

[Google 認証プロバイダの設定](#)

Google アカウントを使用して、ユーザが Salesforce 組織にログインできるようにします。

[Salesforce 管理値を使用した認証プロバイダの設定](#)

Facebook、Salesforce、LinkedIn、Twitter、または Google 認証プロバイダを設定するときに、Salesforce によるキー値の自動作成を選択できます。以前は、認証プロバイダを設定するには、独自のサードパーティアプリケーションまたは接続アプリケーションの値を指定する必要がありました。この変更によって独自のサードパーティアプリケーションの作成の手順をスキップできるようになりました。

[Apex クラスによる SAML ジャストインタイムユーザプロビジョニングのカスタマイズ](#)

Apex クラスを使用して、SAML シングルサインオン中のジャストインタイムユーザプロビジョニングを制御およびカスタマイズできます。以前は、アサーションの属性に基づく自動的なユーザプロビジョニングのみが可能でした。今回のリリースでは、ユーザプロビジョニングにいずれかの方法を選択できるようになりました。

[接続アプリケーションでの複数のコールバック URL の使用](#)

接続アプリケーションに複数の [コールバック URL] を設定できるようになりました。以前は、設定できる [コールバック URL] は 1 つのみでした。

[セッションドメインロックのセキュリティの強化](#)

ドメイン間の不正アクセスを強固に防止するには、[セッションの設定] の [セッションを最初に使用したドメインにセッションをロックする] オプションを使用します。

Facebook 認証プロバイダの承認、トークン、およびユーザ情報エンドポイントの編集

Facebook 認証プロバイダを設定するときに、[認証]、[トークン]、および [ユーザ情報] エンドポイント URL を編集できるようになりました。

URL からのカスタムドメインまたはコミュニティの認証設定の取得

認証設定エンドポイントは、シングルサインオンおよび認証プロバイダ設定での組織の SAML に関する情報をクエリするために使用できる静的ページです。セッションは不要です。Salesforce のコミュニティまたはカスタムドメインでのみ使用できます。オンデマンドでこうした情報を必要とするアプリケーションを開発するときに、この URL を使用します。

コールアウトエンドポイントおよびその認証設定を定義する指定ログイン情報の作成

指定ログイン情報では、1つの定義にコールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを指定します。コールアウトエンドポイントとして指定ログイン情報を指定することで、認証済みの Apex コールアウトの設定を簡略化できます。これにより、Salesforce がすべての認証を安全に処理できるため、コードでの処理は不要になります。外部サイトへの Apex コールアウトに必要なリモートサイト設定もスキップできます。

セッションコンテキストによる ID 別のログイン履歴の追跡

ログイン履歴 ID は、ログインイベントごとのセッションに関連付けられるようになりました。この追加により、1つのログインイベントで複数のセッションに関連付けられたアクティビティを追跡するレポートを開発者が作成できます。1つのセッションで、ブラウザ種別、オペレーティングシステムなどの異なるログインイベント情報を追跡することもできます。

ログイン履歴によるデータローダログインの追跡

[ログイン履歴] ページまたは LoginHistory オブジェクトからデータローダログインを追跡できるようになりました。この追加により、組織のログイン試行をより正確に監視できます。

ユーザのログインおよびログアウトアクティビティの監視 (正式リリース)

イベント監視を使用して、ユーザが組織にログインおよび組織からログアウトした頻度と時間を検出できるようになりました。この機能では、有効なログイン要求と無効なログイン要求を区別し、今後の参照のためにユーザのログインパターンを追跡できます。

ログインフォレンジックを使用したユーザ活動の正当化 (パイロット)

ログインフォレンジックを使用して、組織内の異常な動作を特定し、なりすまし詐欺やその他のセキュリティ上の懸念を阻止します。

RSA-SHA256 による SAML シングルサインオン要求の署名

RSA-SHA256 アルゴリズムを使用して、シングルサインオンの ID プロバイダに対する送信 SAML 要求アサーションに署名できます。この機能強化により、セキュリティが RSA-SHA1 よりも強化され、Active Directory フェデレーションサービス (ADFS) などの ID プロバイダとの相互運用性を確保できます。

ソーシャルサインオンユーザのログアウトページの選択

Facebook や LinkedIn などのプロバイダからソーシャルサインオンを使用してログインするユーザを、独自のブランド設定を維持する特定のログアウト先や、特定の認証プロバイダページに移動させることが可能になりました。

ログの ID プロバイダイベントの最大 180 日間の監視

ID プロバイダイベントログには、180 日間のイベントが保持されるようになりました。以前は、90 日間のイベントのみが保持されていました。

OAuth 2.0 Web サーバフローのコード確認および検証値の指定

nonce ベースの OAuth 2.0 Web サーバフローでは、任意のコード確認値および対応するコード検証を指定し、認証コードの傍受攻撃を防ぐことができます。この機能は、OAuth 2.0 Web サーバ認証フローでのみサポートされています。

OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフローのエラーメッセージの変更

OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフローで、無効なパスワード、存在しないユーザ名、その他の無効なログイン情報に対するエラーメッセージが `invalid_grant - authentication failure` に変更されました。

Salesforce 組織への個々の API クライアントアクセスの制御

API クライアントホワイトリストでは、データローダなどのすべての API クライアントアプリケーションを制限し、ユーザのプロファイルまたは権限セットに「任意の API クライアントを使用」権限がない場合はシステム管理者の承認を必須にすることができます。

接続アプリケーションを使用したサードパーティアプリケーションのユーザのプロビジョニング (ベータ)

Salesforce 組織のユーザに基づいてサードパーティアプリケーションのユーザアカウントを作成、更新、および削除するユーザプロビジョニングを接続アプリケーションに設定します。Salesforce ユーザに対して、Google Apps や Box などのサービスの自動アカウント作成、更新、および無効化を設定できます。また、サードパーティシステムの既存のユーザアカウントや、そのアカウントがすでに Salesforce ユーザアカウントにリンクされているかどうかを検出できます。

[セッションの設定] のクリックジャック表示ラベルの変更

[セッションの設定] で、クリックジャック保護表示ラベルが更新され、より明確になりました。

Salesforce1 レポートのクリックジャック保護の有効化

セキュリティ強化の目的で、[レポート] タブや [ダッシュボード] タブを備える Salesforce1 レポートのクリックジャック保護がデフォルトで有効になりました。クリックジャック保護が有効になったため、[レポート] タブおよび [ダッシュボード] タブを `iframe` 内に埋め込めなくなりました。

Google 認証プロバイダの設定

Google アカウントを使用して、ユーザが Salesforce 組織にログインできるようにします。

Google を認証プロバイダとして使用する手順は、次のとおりです。

1. Google アプリケーションを **設定** し、Salesforce をアプリケーションのドメインにします。
2. Salesforce 組織の Google 認証プロバイダを **定義** します。
3. Salesforce によって生成される [コールバック URL] を Google の [Web サイトの URL] として使用するよう、Google アプリケーションを **更新** します。
4. 接続を **テスト** します。

Google アプリケーションの設定

Salesforce 組織で Google を設定するには、次の手順で Google でアプリケーションを設定する必要があります。

 **メモ:** Salesforce に Google 独自のデフォルトアプリケーションの使用を許可すると、この手順を省略できます。詳細は、「Using Salesforce-Managed Values in Auth. Provider Setup」を参照してください。

1. Google の **Web サイト** に移動して、新しいアプリケーションを作成します。
2. アプリケーション設定を変更し、アプリケーションドメインを Salesforce に設定します。
3. アプリケーション ID とアプリケーションシークレットを確認します。

Salesforce 組織での Google プロバイダの定義

Salesforce 組織で Google プロバイダを設定するには Google のアプリケーション ID とアプリケーションシークレットが必要です。

 **メモ:** Salesforce に値の管理を許可すると、プロバイダ設定の主要な値の指定を省略できます。詳細は、「Using Salesforce-Managed Values in Auth. Provider Setup」を参照してください。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール] > [認証プロバイダ] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. [プロバイダタイプ] には Google を選択します。
4. プロバイダの [名前] を入力します。
5. [URL 接尾辞] を入力します。これは、クライアント設定 URL で使用されます。たとえば、プロバイダの URL 接尾辞が「MyGoogleProvider」の場合、シングルサインオン URL は `https://login.salesforce.com/auth/sso/00Dx000000000001/MyGoogleProvider` のようになります。
6. [コンシューマ鍵] 項目には、Google のアプリケーション ID を使用します。
7. [コンシューマの秘密] 項目には、Google のアプリケーションシークレットを使用します。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

設定を参照する

- 「設定・定義を参照する」

設定を編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」
 および
 「認証プロバイダの管理」

8. 必要に応じて、次の項目を設定します。

- a. 認証エンドポイントへの要求と共に送信する [デフォルトの範囲]。送信しない場合は、プロバイダタイプのハードコード化されたデフォルトが使用されます (デフォルトについては [Google の開発者用ドキュメント](#) を参照)。

詳細は、「[Scope パラメータの使用](#)」を参照してください。

- b. エラーのレポートに使用するプロバイダの [カスタムエラー URL]。
- c. ユーザがシングルサインオンフローを使用して認証された場合に、ログアウト後の特定の移動先を指定する [カスタムログアウト URL]。この項目を使用して、ユーザをブランド設定されたログアウトページか、またはデフォルトの Salesforce ログアウトページ以外の場所のいずれかに移動します。URL は、http または https プレフィックスで完全修飾する必要があります (<https://acme.my.salesforce.com> など)。
- d. 既存の Apex クラスを [登録ハンドラ] クラスとして選択するか、[登録ハンドラテンプレートを自動作成] をクリックして、登録ハンドラの Apex クラステンプレートを作成します。このクラスを編集してデフォルトのコンテンツを変更してから使用する必要があります。

 **メモ:** Salesforce の登録ハンドラクラスを指定して、[シングルサインオン初期化 URL] を生成する必要があります。

- e. [他のアカウントで登録を実行] で Apex ハンドラクラスを実行するユーザを選択します。このユーザは「ユーザの管理」権限を持っている必要があります。登録ハンドラを選択した場合、または登録ハンドラを自動作成する場合にはユーザが必要です。
- f. プロバイダでポータルを使用するには、[ポータル] ドロップダウンリストからポータルを選択します。
- g. [アイコン URL] 項目を使用して、コミュニティのログインページのボタンとして表示するアイコンのパスを追加します。このアイコンは、コミュニティにのみ適用され、Salesforce 組織のログインページや、[私のドメイン] で作成されたカスタムドメインのログインページには表示されません。ユーザは、このボタンをクリックし、コミュニティに関連付けられた認証プロバイダを使用してログインします。独自の画像へのパスを指定することも、いずれかのサンプルアイコンの URL を項目にコピーすることもできます。

 **メモ:** Google のデフォルトエンドポイントを変更する場合は、OpenID Connect 認証プロバイダを作成して、これらの項目に値を入力できます。詳細は、「[OpenIDConnect 認証プロバイダの設定](#)」を参照してください。

9. [保存] をクリックします。

生成された [認証プロバイダ ID] の値を確認しておいてください。この値は、Auth.AuthToken Apex クラスと共に使用する必要があります。

認証プロバイダを定義した後、複数のクライアント設定 URL が生成されます。

- テスト専用初期化 URL: システム管理者は、この URL を使用して、サードパーティプロバイダが正しく設定されていることを確認します。システム管理者がこの URL をブラウザで開き、サードパーティにサインインすると、属性の対応付けと共に Salesforce にリダイレクトされます。
- シングルサインオン初期化 URL: この URL を使用して、サードパーティから Salesforce にシングルサインオンを実行します (サードパーティの認証情報が使用されます)。エンドユーザは、この URL をブラウザで開き、

サードパーティにサインインします。エンドユーザの新規ユーザを作成するか、既存のユーザを更新してから、そのユーザとして Salesforce にサインインします。

- 既存ユーザをリンクする URL: この URL を使用して、既存の Salesforce ユーザをサードパーティアカウントにリンクします。エンドユーザは、この URL をブラウザで開き、サードパーティにサインインして Salesforce にサインインし、リンクを承認します。
- OAuth 専用初期化 URL: この URL を使用して、サードパーティの OAuth アクセストークンを取得します。サードパーティサービスでトークンを取得するには、ユーザは Salesforce の認証を受ける必要があります。このフローでは、以降のシングルサインオン機能は提供されません。
- コールバック URL: 認証プロバイダが設定のためにコールバックするエンドポイントに、コールバック URL を使用します。認証プロバイダは、前述の各クライアント設定 URL の情報と共に、[コールバック URL] にリダイレクトする必要があります。

クライアント設定 URL では、ユーザの特定サイトへのログイン、サードパーティからのカスタマイズされた権限の取得、認証後の特定の場所への移動を行うための、追加の要求パラメータをサポートしています。

Google アプリケーションの更新

Google 認証プロバイダを Salesforce 組織に定義したら、Google に戻り、[コールバック URL] を Google の [Web サイトの URL] として使用するようアプリケーションを更新します。

シングルサインオン接続のテスト

ブラウザの認証プロバイダの詳細ページで [テスト専用初期化 URL] を開きます。このページによりユーザは Google にリダイレクトされ、サインインするよう求められます。サインイン時に、アプリケーションを認証する求められます。認証後、ユーザは Salesforce にリダイレクトされます。

Salesforce 管理値を使用した認証プロバイダの設定

Facebook、Salesforce、LinkedIn、Twitter、または Google 認証プロバイダを設定するときに、Salesforce によるキー値の自動作成を選択できます。以前は、認証プロバイダを設定するには、独自のサードパーティアプリケーションまたは接続アプリケーションの値を指定する必要がありました。この変更によって独自のサードパーティアプリケーションの作成の手順をスキップできるようになりました。

Salesforce に認証プロバイダの値の作成および管理を許可するには、次のすべての項目 (認証プロバイダ設定に表示される場合) を空白のままにします。このいずれかの項目に値を指定する場合、[コンシューマ鍵] と [コンシューマの秘密] の値も指定する必要があります。

- コンシューマキー
- コンシューマの秘密
- 承認エンドポイント URL
- トークンエンドポイント URL
- ユーザ情報エンドポイント URL
- デフォルトの範囲

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

 **メモ:** この変更は、2015 年 3 月まで使用できません。

Apex クラスによる SAML ジャストインタイムユーザプロビジョニングのカスタマイズ

Apex クラスを使用して、SAML シングルサインオン中のジャストインタイムユーザプロビジョニングを制御およびカスタマイズできます。以前は、アサーションの属性に基づく自動的なユーザプロビジョニングのみが可能でした。今回のリリースでは、ユーザプロビジョニングにいずれかの方法を選択できるようになりました。

Apex クラスを使用したプロビジョニングを実装するには、SamlJitHandler インターフェースを実装する独自の Apex クラスを使用するか、カスタマイズするための基本的なエンドツーエンドフローが含まれる Apex を Salesforce によって生成します。詳細は、Salesforce ヘルプの「[シングルサインオン用の SAML 設定](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションでの複数のコールバック URL の使用

ユーザ権限

参照する	「アプリケーションのカスタマイズ」
作成、更新または削除する	「アプリケーションのカスタマイズ」および 「すべてのデータの編集」または「接続アプリケーションの管理」のいずれか
プロファイル、権限セット、およびサードパーティプロバイダの SAML 属性以外のすべての項目を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」
プロファイル、権限セット、およびサードパーティプロバイダの SAML 属性を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」
アンインストールする	「AppExchange パッケージのダウンロード」

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション:
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションをインストール可能なエディション: すべてのエディション

接続アプリケーションに複数の [コールバック URL] を設定できるようになりました。以前は、設定できる [コールバック URL] は 1 つのみでした。

[コールバック URL] は、OAuth 中に Salesforce がアプリケーションにコールバックする URL (OAuth redirect_uri) です。複数の [コールバック URL] がある場合、アプリケーションの実行時に redirect_uri として任意の URL を指定できます。詳細は、Salesforce ヘルプの「[接続アプリケーションの作成](#)」を参照してください。

セッションドメインロックのセキュリティの強化

ドメイン間の不正アクセスを強固に防止するには、[セッションの設定]の[セッションを最初に使用したドメインにセッションをロックする]オプションを使用します。

1. [設定]で、[セキュリティのコントロール]>[セッションの設定]をクリックします。
2. [セッションを最初に使用したドメインにセッションをロックする]を選択します

このオプションは、コミュニティユーザなどのユーザの現在のUIセッションを特定のドメインに関連付け、別のドメインのセッションIDの不正使用を防止します。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Facebook 認証プロバイダの承認、トークン、およびユーザ情報エンドポイントの編集

Facebook 認証プロバイダを設定するときに、[認証]、[トークン]、および [ユーザ情報] エンドポイント URL を編集できるようになりました。

Facebook が提供するデフォルトバージョンではなく、Facebook API の異なるバージョンを反映するようにエンドポイント URL を編集すると、ユーザの異なる範囲や値にアクセスできます。エンドポイントを空白のままにした場合は、Salesforce で Facebook アプリケーションが使用する Facebook API の同じバージョンが使用されます。エンドポイント URL を入力するには、[設定] から [セキュリティのコントロール]>[認証プロバイダ]をクリックして、Facebook 認証プロバイダを作成します。

-  **例:** Facebook アプリケーションでは Facebook API バージョン 1.0 を使用しているが、Salesforce との通信には Facebook API バージョン 2.2 を使用するとします。この場合は、Facebook 認証プロバイダ設定で、[承認エンドポイント URL] に <https://www.facebook.com/v2.2/dialog/oauth> を指定します。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

URL からのカスタムドメインまたはコミュニティの認証設定の取得

認証設定エンドポイントは、シングルサインオンおよび認証プロバイダ設定での組織の SAML に関する情報をクエリするために使用できる静的ページです。

セッションは不要です。Salesforce のコミュニティまたはカスタムドメインでのみ使用できます。オンデマンドでこうした情報を必要とするアプリケーションを開発するときに、この URL を使用します。

認証設定エンドポイントへの要求に対して、Salesforce は JSON 形式で基本情報を返します。この情報には、コミュニティまたはカスタムドメインのユーザの認証および登録設定、ブランドアセット、シングルサインオンサポートに関連するその他の値が含まれます。

URL の形式は [https://\[コミュニティまたはカスタム URL\]/.well-known/auth-configuration](https://[コミュニティまたはカスタム URL]/.well-known/auth-configuration) です。たとえば、<https://acme.my.salesforce.com/.well-known/auth-configuration> のようになります。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

認証設定エンドポイントの応答

認証設定エンドポイントは、JSON 形式でのみ情報を返します。

応答のサンプルを次に示します。

 **メモ:** UseNativeBrowserForAuthentication の値は、コミュニティの場合は常に false です。

次の値はコミュニティでのみ使用可能で、[私のドメイン]で作成されたカスタムドメインの場合は false または Null です。

- SelfRegistrationEnabled
- SelfRegistrationUrl
- DefaultProfileForRegistration
- FooterText
- UsernamePasswordEnabled

```
{
  "OrgId": "00DD00#####",
  "Url": "https://acme.force.com/partners",
  "LoginPage": {
    "LoginPageUrl": "https://acme.force.com/partners/CommunitiesLogin",
    "LogoUrl": "https://acme.force.com/partners/img/logol90.png",
    "BackgroundColor": "#B1BAC1",
    "SelfRegistrationEnabled": true,
    "FooterText": "acme.com",
    "UsernamePasswordEnabled": false
  },
  "SamlProviders": [{
    "name": "ADFS",
    "SsoUrl": "https://adfs.my.salesforce.com?so=00DB00#####"
  }],
  [
    {
      "name": "SF Identity",
      "SsoUrl": "https://sfid.my.salesforce.com?so=00DB00#####"
    }
  ],
  "AuthProviders": [{
    "name": "LinkedIn",
    "IconUrl": "https://www.linkedin.com/logos/img/logo.png",
    "SsoUrl": "https://login.salesforce.com/services/auth/sso/00DB00000#####/LinkedIn"
  }],
  [
    {
      "name": "Facebook",
      "IconUrl": "https://www.facebook.com/logos/img/logo.png",
      "SsoUrl": "https://login.salesforce.com/services/auth/sso/00DB00000#####/Facebook"
    }
  ]
}
```

コールアウトエンドポイントおよびその認証設定を定義する指定ログイン情報の作成

指定ログイン情報では、1つの定義にコールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを指定します。コールアウトエンドポイントとして指定ログイン情報を指定することで、認証済みの Apex コールアウトの設定を簡略化できます。これにより、Salesforce がすべての認証を安全に処理できるため、コードでの処理は不要になります。外部サイトへの Apex コールアウトに必要なリモートサイト設定もスキップできます。

代わりに、URL をコールアウトエンドポイントとして指定し、その URL を組織のリモートサイト設定に登録できます。ただし、その場合はコードで認証を処理します。この処理ではセキュリティが低下し、OAuth 認証の場合は特に複雑になる可能性があります。

エンドポイント URL と認証を Apex コードから切り離すことで、指定ログイン情報でコールアウトを簡単に管理できます。たとえば、エンドポイント URL が変更された場合も、指定ログイン情報を更新するだけです。その指定ログイン情報を参照するすべてのコールアウトは、コードを変更しなくても引き続き機能します。

複数の組織がある場合、各組織に同じ名前の指定ログイン情報を作成できます。それぞれの指定ログイン情報には、異なるエンドポイント URL を含めることができるので、たとえば開発環境と本番環境の違いにも対応できます。コードは指定ログイン情報の名前のみを参照するため、コードのプログラムで環境を確認することなく、同じ Apex クラスをパッケージ化してすべての組織にリリースできます。

指定ログイン情報は、基本パスワード認証と OAuth 2.0 をサポートします。各指定ログイン情報は、組織の指定ユーザを使用するように設定することも、ユーザが各自のログイン情報を管理できるようにユーザごとの認証を使用するように設定することもできます。

[エンドポイントとしての指定ログイン情報の指定による認証済み Apex コールアウトの簡略化](#) (ページ 269) の例を参照してください。設定情報は、Salesforce ヘルプの「[指定ログイン情報の定義](#)」を参照してください。

セッションコンテキストによる ID 別のログイン履歴の追跡

ログイン履歴 ID は、ログインイベントごとのセッションに関連付けられるようになりました。この追加により、1つのログインイベントで複数のセッションに関連付けられたアクティビティを追跡するレポートを開発者が作成できます。1つのセッションで、ブラウザ種別、オペレーティングシステムなどの異なるログインイベント情報を追跡することもできます。

この値は Apex メソッド `Auth.AuthManagement.getCurrentSession()` に対して返され、`AuthSession` 標準オブジェクトの項目として含まれます。

詳細は、[新規および変更された Apex クラス](#) および [変更されたオブジェクト](#) を参照してください。

 **メモ:** セッションを再び使用すると、Salesforce が `LoginHistoryId` を最新ログインの値で更新します。

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ログイン履歴によるデータローダログインの追跡

[ログイン履歴] ページまたは LoginHistory オブジェクトからデータローダログインを追跡できるようになりました。この追加により、組織のログイン試行をより正確に監視できます。

ユーザがデータローダを介して Salesforce へのログインを試みると、そのログイン試行に関するアプリケーション情報がログイン履歴レコードの Application 項目に記録されるようになりました。次のいずれかの値が表示されます。

- DataLoaderPartnerUI/ — データローダ UI から試行されたログイン
- DataLoaderPartnerBatch/ — データローダコマンドラインインターフェースから試行されたログイン
- DataLoaderBulkUI/ — [Bulk API を使用] オプションが有効化されたデータローダ UI から試行されたログイン
- DataLoaderBulkBatch/ — [Bulk API を使用] オプションが有効化されたデータローダコマンドラインインターフェースから試行されたログイン

Login Time +	Source IP	Login Type	Status	Browser	Platform	Application	Client Version	API Type	API Version
12/3/2014 1:25:44 PM PST	Salesforce.com IP	Application	Success	Chrome 39	Windows 7	Browser	N/A	N/A	N/A
12/1/2014 4:21:15 PM PST	Salesforce.com IP	Other Apex API	Success	Java (Salesforce.com)	Unknown	DataLoaderBulkUI/	31.0	SOAP Partner	31.0
12/1/2014 4:18:21 PM PST	Salesforce.com IP	Other Apex API	Success	Java (Salesforce.com)	Unknown	DataLoaderPartnerUI/	31.0	SOAP Partner	31.0

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Performance Edition

ユーザのログインおよびログアウトアクティビティの監視 (正式リリース)

イベント監視を使用して、ユーザが組織にログインおよび組織からログアウトした頻度と時間を検出できるようになりました。この機能では、有効なログイン要求と無効なログイン要求を区別し、今後の参照のためにユーザのログインパターンを追跡できます。

ユーザが Salesforce アカウントにログインすると、そのアクティビティによって LOGIN_EVENT イベントログファイルが生成されます。同様に、ユーザのセッションが終了すると LOGOUT_EVENT イベントログファイルが生成されます。セッションは、ユーザの無操作状態による期限切れ、またはユーザの Salesforce からのログアウトによって終了します。

この両方のイベントログファイルは、イベントの発生後 24 時間 EventLogFile sObject からアクセス可能で、生成後 24 時間使用可能な状態になります。詳細は、『Salesforce REST API ガイド』を参照してください。

ログインおよびログアウトイベントログファイルは、すべての Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition 組織で自由に使用できます。28 種類すべてのイベントログファイルを購入するには、Salesforce にお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、
Performance Edition、および
Developer Edition

ログインフォレンジックを使用したユーザ活動の正当化 (パイロット)

ログインフォレンジックを使用して、組織内の異常な動作を特定し、なりすまし詐欺やその他のセキュリティ上の懸念を阻止します。

- 📌 **メモ:** ログインフォレンジックは現在、パイロットプログラムで使用できます。ログインフォレンジックの有効化についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

ログインフォレンジックを使用すると、システム管理者がどのユーザの動作が正当かをよりの確に判断できます。この機能では、次のような主要なユーザアクセスデータが提供されます。

- 指定した期間のユーザあたりの平均ログイン数
- 平均ログイン数を超えるユーザ
- 営業時間外にログインしたユーザ
- 不審な IP 範囲を使用してログインしたユーザ

システム管理者は上記のイベントを追跡するために、ログインフォレンジック (パイロット) で、LoginEvent と PlatformEventMetrics の 2 つのオブジェクトを利用できます。ログインフォレンジック (パイロット) は Salesforce アプリケーションにログインイベントや総計値データを管理するユーザインターフェースがありませんが、API を使用してこれらのイベントにアクセスできます。cURL ユーティリティで Force.com SOAP API および REST API を使用できるいくつかのツールやプログラミング言語が存在します。たとえば、[Force.com IDE](#)、[ワークベンチ](#)、その他の[開発ツール](#)を使用できます。

RSA-SHA256 による SAML シングルサインオン要求の署名

RSA-SHA256 アルゴリズムを使用して、シングルサインオンの ID プロバイダに対する送信 SAML 要求アサーションに署名できます。この機能強化により、セキュリティが RSA-SHA1 よりも強化され、Active Directory フェデレーションサービス (ADFS) などの ID プロバイダとの相互運用性を確保できます。

ID プロバイダは、ユーザがシングルサインオンを使用して他の Web サイトにアクセスできるようにする信頼済みプロバイダです。新しい ID プロバイダを設定するときに、SAML アサーションを使用して ID プロバイダとの通信用の値を指定します。RSA-SHA256 アルゴリズムを使用してこれらのアサーションに署名することで、ID プロバイダに送信される情報を保護できます。

[セキュリティのコントロール]>[シングルサインオン設定]で、シングルサインオンの SAML を設定します。この機能強化の一環として、[証明書の署名] 項目が [証明書の署名要求] 項目に変更されています。証明書を選択したら、[署名要求メソッド] 項目で署名アルゴリズムを設定します。デフォルト値は RSA-SHA1 です。既存の設定は、システム管理者が変更しない限りこの値が引き続き使用されます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

設定を参照する

- 「設定・定義を参照する」

設定を編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

および

「すべてのデータの編集」

ソーシャルサインオンユーザのログアウトページの選択

Facebook や LinkedIn などのプロバイダからソーシャルサインオンを使用してログインするユーザを、独自のブランド設定を維持する特定のログアウト先や、特定の認証プロバイダページに移動させることが可能になりました。

デフォルトでは、シングルサインオン環境を提供するサードパーティ認証プロバイダを使用するユーザは、Salesforce ログアウトページに移動されます。今回のリリースで、[認証プロバイダ] 設定で [カスタムログアウト URL] を指定することで、独自のブランド設定を維持してユーザのログアウト環境をより効率的に制御できるオプションが追加されました。たとえば、LinkedIn アカウントで Salesforce 組織にログインしたユーザを、Salesforce 組織からログアウトしたときに LinkedIn ログインページに移動させることができます。

1. [設定] で、[セキュリティのコントロール]>[認証プロバイダ] をクリックします。
2. [新規] をクリックします。
3. [プロバイダタイプ] をクリックします。
4. [認証プロバイダ] 設定で、[カスタムログアウト URL] を入力します。URL は、`https://acme.my.salesforce.com` や `http://www.google.com` などのように、http または https プレフィックスのある完全修飾名にする必要があります。

ログの ID プロバイダイベントの最大 180 日間の監視

ID プロバイダイベントログには、180 日間のイベントが保持されるようになりました。以前は、90 日間のイベントのみが保持されていました。

ID プロバイダイベントログは、他のアプリケーションプロバイダからの着信 SAML 認証要求の問題および成功と、Salesforce が ID プロバイダとして機能する場合の発信 SAML 応答の問題および成功を記録します。イベントログについての詳細は、Salesforce ヘルプの「[ID プロバイダイベントログの使用](#)」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション:

Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

設定を参照する

- 「設定・定義を参照する」

設定を編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

および

「認証プロバイダの管理」

エディション

使用可能なエディション:

Developer Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Database.com Edition

ユーザ権限

ID プロバイダとサービス
プロバイダの定義と変更

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

OAuth 2.0 Web サーバフローのコード確認および検証値の指定

nonce ベースの OAuth 2.0 Web サーバフローでは、任意のコード確認値および対応するコード検証を指定し、認証コードの傍受攻撃を防ぐことができます。この機能は、OAuth 2.0 Web サーバ認証フローでのみサポートされています。

Web サーバフローでは、クライアントがパラメータとして追加の `code_challenge` 値と `code_verifier` 値をそれぞれ認証エンドポイントとトークンエンドポイントに渡すことができます。`code_verifier` は、base64url エンコードされた任意の値です。`code_challenge` は、base64url エンコードされた `code_verifier` の SHA256 ハッシュです。フロー実行中にクライアントが `code_challenge` を認証エンドポイントに渡した場合、Salesforce はトークンエンドポイントの `code_verifier` を検証し、認証エンドポイントの `code_challenge` と比較します。値が一致しない場合、ログインはエラーで失敗します。

値を作成して Web サーバフローで使用するには、次の手順を実行します。

1. クライアントで 128 バイトのランダムなデータを生成し、ここで定義されているように base64url エンコードします:<https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5>。これは `code_verifier` 値です。
2. クライアントで `code_verifier` の SHA256 ハッシュを生成し、ここで定義されているように base64url エンコードします:<https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5>。これは `code_challenge` 値です。
3. クライアントから認証エンドポイントへの要求に、パラメータとして `code_challenge` を含めます。
4. クライアントからトークンエンドポイントへの要求に、パラメータとして `code_verifier` を含めます。

要求 URL のサンプルを含む、Web サーバフローについての詳細は、Salesforce ヘルプの「[OAuth 2.0 Web サーバ認証フロー](#)」を参照してください。

 **メモ:** この変更は、2015 年 3 月まで使用できません。

OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフローのエラーメッセージの変更

OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフローで、無効なパスワード、存在しないユーザ名、その他の無効なログイン情報に対するエラーメッセージが `invalid_grant - authentication failure` に変更されました。

次のメッセージがこのメッセージに置き換えられます。

- `authentication_failure - invalid password`
- `expired_access - refresh token`
- `invalid_grant - invalid user credentials`

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

ユーザ権限

OAuth アプリケーションを
管理、作成、編集、および削除する

- 「[接続アプリケーションの管理](#)」

ユーザ権限

OAuth アプリケーションを
管理、作成、編集、および削除する

- 「[接続アプリケーションの管理](#)」

Salesforce 組織への個々の API クライアントアクセスの制御

API クライアントホワイトリストでは、データローダなどのすべての API クライアントアプリケーションを制限し、ユーザのプロファイルまたは権限セットに「任意の API クライアントを使用」権限がない場合はシステム管理者の承認を必須にすることができます。

システム管理者は、「API の有効化」権限を使用して一部のユーザに API アクセス権を付与できます。この権限が付与されたユーザは、あらゆるクライアント (データローダ、Salesforce1、Salesforce for Outlook、Force.com 移行ツールなど) から API にアクセスできます。ユーザが API アクセスに使用できるアプリケーションをより詳細に制御するには、API クライアントホワイトリストを実装します。この機能は、接続アプリケーションの既存の認証機能を利用します。API クライアントホワイトリストでは、関連付けられた各接続アプリケーションへの個々のクライアントアプリケーションアクセスをシステム管理者が承認またはブロックできます。接続アプリケーションとして設定されていないすべてのクライアントアプリケーションは、アクセスを拒否されます。接続アプリケーションを使用していない場合は、個々のユーザに「任意の API クライアントを使用」が有効化されたプロファイルまたは権限セットを割り当てることで、そのユーザに対してこの制限を緩和できます。

 **メモ:** API クライアントホワイトリストを有効にするには、Salesforce に連絡してください。ホワイトリストの有効化後、システム管理者が明示的に許可するまで、すべてのクライアントアクセスは制限されます。この制限により、ユーザがすでに使用しているアプリケーションへのアクセスがブロックされる可能性があります。この機能を有効にする前に、ユーザに継続使用を許可するクライアントアプリケーション用の接続アプリケーションを設定および承認するか、ユーザに「任意の API クライアントを使用」が有効化されたプロファイルまたは権限セットを割り当てる必要があります。

よく使用されるアプリケーションの一部のコンポーネントは、接続アプリケーションとして組織に自動的にインストールされます。これらのコンポーネントでは、データローダ、Salesforce1、ワークベンチなどのアプリケーションがサポートされます。この機能を選択すると、ユーザに「任意の API クライアントを使用」が有効化されたプロファイルまたは権限セットが割り当てられていない場合、これらのコンポーネントでも承認が必要になります。これらのコンポーネントについての詳細は、「[接続アプリケーションの管理](#)」を参照してください。

この機能のパイロットユーザは、[ヘルプ&トレーニング]ポータル、AppExchange、Salesforce Success コミュニティサイトなどの一部の Salesforce アプリケーションへの承認済みアクセスの取得に問題が発生する場合があります。Spring '15 リリースでは、この問題は解決されています。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションを使用したサードパーティアプリケーションのユーザのプロビジョニング (ベータ)

ユーザ権限

参照する	「アプリケーションのカスタマイズ」
作成、更新または削除する	「アプリケーションのカスタマイズ」 および 「すべてのデータの編集」または「接続アプリケーションの管理」のいずれか
プロフィール、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性以外のすべての項目を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」
プロフィール、権限セット、およびサービスプロバイダの SAML 属性を更新する	「アプリケーションのカスタマイズ」 および「すべてのデータの編集」
アンインストールする	「AppExchange パッケージのダウンロード」

エディション

接続アプリケーションを作成可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

接続アプリケーションをインストール可能なエディション: すべてのエディション

Salesforce 組織のユーザに基づいてサードパーティアプリケーションのユーザアカウントを作成、更新、および削除するユーザプロビジョニングを接続アプリケーションに設定します。Salesforce ユーザに対して、Google Apps や Box などのサービスの自動アカウント作成、更新、および無効化を設定できます。また、サードパーティシステムの既存のユーザアカウントや、そのアカウントがすでに Salesforce ユーザアカウントにリンクされているかどうかを検出できます。

 **メモ:** このリリースには、接続アプリケーションのユーザプロビジョニングのベータバージョンが含まれています。本番品質ではありませんが、既知の制限があります。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

接続アプリケーションは、ユーザをサードパーティサービスおよびアプリケーションにリンクします。接続アプリケーションのユーザプロビジョニングでは、それらのサービスおよびアプリケーションのユーザアカウントを作成、更新、および管理できます。これにより、Google Apps などのサービスのアカウント作成が簡略化され、Salesforce ユーザのアカウントがサードパーティアカウントにリンクされます。

ユーザプロビジョニングは、設定された接続アプリケーションへのアクセス権を付与するプロフィールまたは権限セットに割り当てられたユーザのみに適用されます。たとえば、組織の Google Apps 接続アプリケーションのユーザプロビジョニングを設定できます。次に、その接続アプリケーションに「従業員」プロフィールを割り当てます。組織で新規ユーザが作成されて「従業員」プロフィールが割り当てられると、そのユーザは自動的に Google Apps でプロビジョニングされます。さらに、このユーザが無効化された場合やプロフィールの割り当てが変更された場合、このユーザの Google Apps でのプロビジョニングは自動的に解除されます。

ユーザプロビジョニングの利点

セキュリティ

ユーザが退職した場合、サードパーティアプリケーションのアカウントが自動的に無効化されます。

監査と準拠

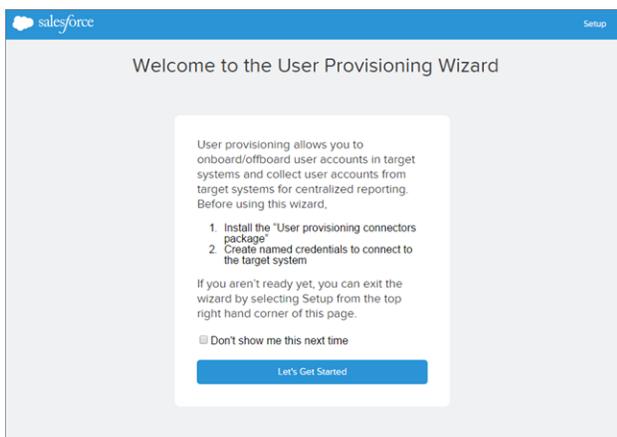
ユーザが使用するアプリケーションを検出および管理します。すべての接続アプリケーションでユーザが所有するすべてのアカウントを一元的に表示できます。レポートを実行してアラートを設定できます。

IT 効率

ユーザアカウントのメンテナンス時間が削減され、アプリケーションのユーザプロビジョニングにかかる時間が節約されます。

ユーザプロビジョニングの設定方法

この機能が有効化された後、Salesforce のステップバイステップウィザードに従って各接続アプリケーションのユーザプロビジョニングを設定します。



このウィザードを使用する前に、次を用意する必要があります。

- サードパーティサービスの接続アプリケーション。接続アプリケーションでは、「ブックマーク」接続アプリケーションなどのユーザプロビジョニングをサポートできます。接続アプリケーションの作成手順は、Salesforce ヘルプの「[接続アプリケーションの作成](#)」を参照してください。
- サードパーティシステムとその認証設定を識別する指定ログイン情報。アカウントの作成、編集、または削除などのサードパーティシステムへのコールは、指定ログイン情報のサードパーティ認証設定を使用します。指定ログイン情報では指定ユーザを指定します。これは、サードパーティシステムのアカウントまたは組織の既存の認証プロバイダの OAuth 認証です。ユーザプロビジョニングウィザードで指定ログイン情報の入力が求められます。詳細は、[コールアウトエンドポイントおよびその認証設定を定義する指定ログイン情報の作成](#)を参照してください。
- サードパーティシステムへのプロビジョニング要求を管理するフロー。Salesforce には、設定プロセスを簡略化する標準のフローが含まれた、いくつかの事前設定済みのパッケージが用意されています。ユーザプロビジョニングウィザードを使用して、いずれかのフローを接続アプリケーションに関連付けます。フローについては、「[Flow Designer の概要](#)」を参照してください。

接続アプリケーションのカスタムフローを作成することもできます。詳細は、Salesforce ヘルプの「[接続アプリケーションのユーザプロビジョニング](#)」を参照してください。

組織でユーザプロビジョニングが有効化されている場合、次の手順に従って既存の接続アプリケーションのユーザプロビジョニングウィザードを開始します。

1. [設定] で、[アプリケーションを管理する] > [接続アプリケーション] をクリックします。
2. 接続アプリケーションの名前をクリックします。
3. 接続アプリケーションの詳細ページで [編集] をクリックします。
4. [ユーザプロビジョニング設定] セクションで、[ユーザプロビジョニングを有効化] を選択します。
5. [保存] をクリックします。
6. [ユーザプロビジョニング設定] セクションで、[ユーザプロビジョニングウィザードを起動する] ボタンをクリックします。

現在の制限事項

- エンタイトルメント — サービスプロバイダのルールと権限は、Salesforce 組織で管理または保存することはできません。したがって、サービスプロバイダのリソースに対する特定のエンタイトルメントは、ユーザプロビジョニングが有効化されたサードパーティアプリケーションへのアクセスをユーザが要求するときには含まれていません。サービスプロバイダのユーザアカウントは作成できますが、そのユーザアカウントの追加ルールまたは権限はサービスプロバイダ経由で管理する必要があります。
- 定期的なアカウント調整 — サードパーティシステムのユーザを収集および分析するたびに、ユーザプロビジョニングウィザードを実行します。自動的な収集および分析の間隔を設定することはできません。
- アクセスの再認証 — ユーザのアカウントが作成された後、サービスプロバイダのリソースへのユーザアクセスの検証はサービスプロバイダで実行する必要があります。

[セッションの設定] のクリックジャック表示ラベルの変更

[セッションの設定] で、クリックジャック保護表示ラベルが更新され、より明確になりました。

[設定] から、[セキュリティのコントロール] > [セッションの設定] をクリックします。[クリックジャック保護] の表示ラベル名が [設定以外のカスタマー Visualforce ページ (ヘッダーあり) でクリックジャック保護を有効化] に変更されました。以前は [設定以外のカスタム Visualforce ページでクリックジャック保護を有効化] でした。

Salesforce1 レポートのクリックジャック保護の有効化

セキュリティ強化の目的で、[レポート] タブや [ダッシュボード] タブを備える Salesforce1 レポートのクリックジャック保護がデフォルトで有効になりました。クリックジャック保護が有効になったため、[レポート] タブおよび [ダッシュボード] タブを iframe 内に埋め込めなくなりました。

[設定] から [セキュリティのコントロール] > [セッションの設定] をクリックして、組織のクリックジャック保護設定を確認します。Salesforce1 レポートのクリックジャック保護が、[設定以外のカスタム Salesforce ページのクリックジャック保護を有効化] 設定で制御されるようになりました。この設定はデフォルトで有効になって

エディション

使用可能なエディション:
Personal Edition、**Contact Manager Edition**、**Group Edition**、**Professional Edition**、**Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition**、および **Database.com Edition**

ユーザ権限

セッションセキュリティを設定する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

おり、無効にする場合はSalesforceに連絡する必要があります。これまで、Salesforce1 レポートのクリックジャック保護は[設定以外のカスタマー Visualforce ページ(ヘッダーあり)でクリックジャック保護を有効化]設定で制御され、ユーザがオンまたはオフを設定できました。

共有

共有により、どのユーザに何が表示されるかについて、さらに詳細に制御できます。

このセクションの内容:

すべての組織で使用可能なマネージャグループ

共有ルールまたは共有の直接設定を使用して、管理チェーンの上位または下位に移動するレコードを共有します。

無効な共有の非同期削除(パイロット)

共有操作に対する共有の直接設定およびチーム共有を、ピーク時以外に削除し、待機時間を最小限に抑えます。

すべての組織で使用可能なマネージャグループ

共有ルールまたは共有の直接設定を使用して、管理チェーンの上位または下位に移動するレコードを共有します。

マネージャグループは、以前は組織で自動的に有効化されませんでした。Spring '15では、[共有設定] ページでこの機能を有効にし、同一ロール内のすべてのマネージャの代わりに、ユーザに管理チェーンとレコードの共有を許可できます。マネージャグループは、共有の直接設定または共有ルールなど、他のグループが使用されているすべての場所で使用できます。ただし、他のグループに追加することはできず、ポータルユーザを含むことはできません。マネージャグループには、標準ユーザおよび Chatter 限定ユーザのみを含めることができます。

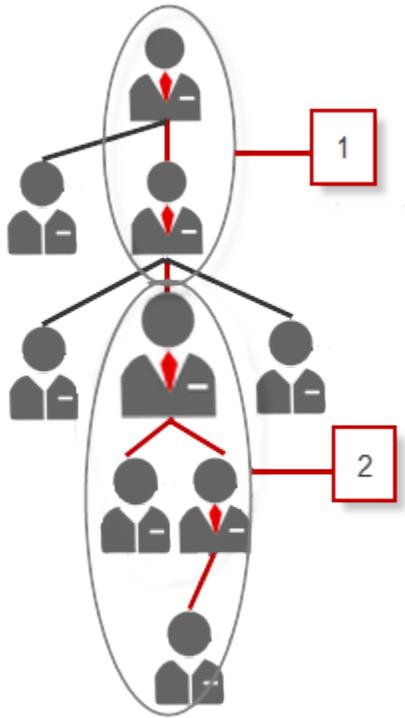
エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

ユーザ権限

マネージャグループを有効または無効にする

- 「共有の管理」



すべてのユーザは、「マネージャのグループ」(1)と「マネージャの下位グループ」(2)の2つのマネージャグループを持ちます。(1)にはユーザの直属マネージャと間接マネージャが含まれ、(2)にはユーザ自身とユーザの直屬部下および間接部下が含まれます。共有ルールの設定ページの[共有]ドロップダウンリストでこれらのグループを選択できます。

ユーザのマネージャが誰であるかを確認するには、[設定]から[ユーザの管理]>[ユーザ]をクリックします。ユーザの名前をクリックします。ユーザ詳細ページの[マネージャ]項目にそのユーザのマネージャが表示されます。

ユーザがマネージャグループとレコードを共有できるようにする手順は、次のとおりです。

1. [設定]で、[セキュリティのコントロール]>[共有設定]をクリックします。
2. [共有設定]ページで[編集]をクリックします。
3. [その他の設定]で、[マネージャのグループ]を選択してから[保存]をクリックします。

マネージャグループでは、共有の直接設定、共有ルール、Apexによる共有管理を介してこれらのグループとレコードを共有できます。Apex共有の理由はサポートされていません。Apexによる共有管理では、共有理由ID、レコードID、およびマネージャIDを含めます。詳細は、[『Force.com Apex コード開発者ガイド』](#)を参照してください。

無効ユーザはそのユーザが属するグループ内にそのまま残りますが、関連するすべての共有ルールと共有の直接設定はグループ内で保持されます。

- ☑ **メモ:** 組織でユーザ共有が有効化されている場合、自分がアクセスできないユーザは表示されません。また、別のユーザへのアクセス権がないクエリ実行ユーザは、そのユーザのグループをクエリできません。

 **例:** 組織の共有設定が「非公開」に設定されたパフォーマンスレビューのカスタムオブジェクトがあるとして、[階層を使用したアクセス許可] チェックボックスをオフにすると、レビューレコードを所有する従業員のみがそのオブジェクトを表示および編集できます。管理チェーンの上位のレビューを共有するには、管理者がユーザのマネージャグループと共有する共有ルールを作成します。または、その従業員が共有の直接設定を使用してユーザのマネージャグループとレビューレコードを共有します。

無効な共有の非同期削除 (パイロット)

共有操作に対する共有の直接設定およびチーム共有を、ピーク時以外に削除し、待機時間を最小限に抑えます。

 **メモ:** この機能は現在、パイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用できます。このパイロットプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムへの参加には、追加の契約条件が適用される場合があります。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、このパイロットプログラムへの参加や、特定の期間この機能を有効にできることが保証されるわけではありません。プレスリリースや公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

多くの共有操作は、システム内のレコードの表示に直ちに影響します。たとえば、グループを削除すると、共有ルールまたは共有の直接設定でそのグループに付与されたアクセス権は直ちに取消されます。ただし、グループ自体が削除されメンバーがいなかった場合、このようなグループに対して残された共有はアクセスを許可しません。この新機能によって、このような無効な共有を非同期で削除でき、システム管理者はこれらの共有が削除されるのを待たずに他の操作を続行できるようになりました。

グループを削除すると、対象グループの無効な共有はピーク時以外に削除されるので、削除操作中の待ち時間が最小限になります。対象のグループは次のとおりです。

- 公開グループ
- テリトリー
- ロール
- キュー

削除されたグループのメンバーは、グループが存在しなくなったため、共有されていたレコードに直ちにアクセスできなくなります。ロール階層でこれらのメンバーよりも上位のユーザも、これらのレコードにアクセスできなくなります。

無効化されたユーザは、共有レコードに直ちにアクセスできなくなります。ロール階層で上位のユーザは、アクセス権が非同期で削除されるまで引き続きアクセスできます。このレコード表示に懸念がある場合は、無効化されるユーザに付与されたすべてのレコードアクセス権を無効化前に削除します。

共有の直接設定およびチーム共有の非同期削除は、組織のデフォルトのタイムゾーンに基づき、通常は午後6時～午前4時のピーク時以外に実行されます。取引先レコードの場合、共有の直接設定およびチーム共有はユーザの無効化直後に削除されます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

グローバル化

グローバル化ツールは、システム管理者が、多言語、マルチ通貨、翻訳されたコンテンツなど、国ごとに異なるリソースを管理するのに役立ちます。

このセクションの内容:

サポート対象言語の変更および追加

クロアチア語とスロベニア語がエンドユーザ言語になり、46個の新しいプラットフォーム専用言語が追加されました。すべてのユーザが今までよりも多くの言語で Salesforce とカスタムアプリケーションにアクセスできるようになりました。さらに、地域市場の要件に合わせてカスタム表示ラベル、カスタムオブジェクト、および項目表示ラベルをカスタマイズできます。

サポート対象言語の変更および追加

クロアチア語とスロベニア語がエンドユーザ言語になり、46個の新しいプラットフォーム専用言語が追加されました。すべてのユーザが今までよりも多くの言語で Salesforce とカスタムアプリケーションにアクセスできるようになりました。さらに、地域市場の要件に合わせてカスタム表示ラベル、カスタムオブジェクト、および項目表示ラベルをカスタマイズできます。

次の2つの言語がプラットフォーム専用言語からエンドユーザ言語に昇格されました。

- クロアチア語 (hr)
- スロベニア語 (sl)

エンドユーザ言語の場合、Salesforce では、設定とヘルプを除くすべての標準オブジェクトとページに翻訳済み表示ラベルが示されます。エンドユーザ言語を指定すると、翻訳されていない表示ラベルとヘルプは、代わりに英語で表示されます。

Salesforce でデフォルトの翻訳が提供されない場合、プラットフォーム専用言語を使用して、Salesforce1 プラットフォームで作成したアプリケーションおよびカスタム機能(カスタム表示ラベル、カスタムオブジェクト、項目名など)をローカライズし、ほとんどの標準オブジェクト、表示ラベル、項目の名前を変更できます。情報テキストと項目以外の表示ラベルのテキストは翻訳できません。

46個もの新しいプラットフォーム専用言語が追加されました。

- アラビア語 (アルジェリア) (ar_DZ)
- アラビア語 (バーレーン) (ar_BH)
- アラビア語 (エジプト) (ar_EG)
- アラビア語 (イラク) (ar_IQ)
- アラビア語 (ヨルダン) (ar_JO)
- アラビア語 (クウェート) (ar_KW)
- アラビア語 (レバノン) (ar_LB)
- アラビア語 (リビア) (ar_LY)
- アラビア語 (モロッコ) (ar_MA)

エディション

使用可能なエディション:
すべてのエディション

- アラビア語 (オマーン) (ar_OM)
- アラビア語 (カタール) (ar_QA)
- アラビア語 (サウジアラビア) (ar_SA)
- アラビア語 (スーダン) (ar_SD)
- アラビア語 (シリア) (ar_SY)
- アラビア語 (チュニジア) (ar_TN)
- アラビア語 (アラブ首長国連邦) (ar_AE)
- アラビア語 (イエメン) (ar_YE)
- 中国語 (簡体字 — シンガポール) (zh_SG)
- 中国語 (繁体字 — 香港) (zh_HK)
- 英語 (香港) (en_HK)
- 英語 (アイルランド) (en_IE)
- 英語 (シンガポール) (en_SG)
- 英語 (南アフリカ) (en_ZA)
- フランス語 (ベルギー) (fr_BE)
- フランス語 (ルクセンブルグ) (fr_LU)
- フランス語 (スイス) (fr_CH)
- ドイツ語 (ルクセンブルグ) (de_LU)
- イタリア語 (スイス) (it_CH)
- スペイン語 (アルゼンチン) (es_AR)
- スペイン語 (ボリビア) (es_BO)
- スペイン語 (チリ) (es_CL)
- スペイン語 (コロンビア) (es_CO)
- スペイン語 (コスタリカ) (es_CR)
- スペイン語 (ドミニカ共和国) (es_DO)
- スペイン語 (エクアドル) (es_EC)
- スペイン語 (エルサルバドル) (es_SV)
- スペイン語 (グアテマラ) (es_GT)
- スペイン語 (ホンジュラス) (es_HN)
- スペイン語 (ニカラグア) (es_NI)
- スペイン語 (パナマ) (es_PA)
- スペイン語 (パラグアイ) (es_PY)
- スペイン語 (ペルー) (es_PE)
- スペイン語 (プエルトリコ) (es_PR)
- スペイン語 (アメリカ) (es_US)
- スペイン語 (ウルグアイ) (es_UY)
- スペイン語 (ベネズエラ) (es_VE)

各レベルでサポートされている言語についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Salesforce がサポートする言語は?」を参照してください。

重要な更新

このリリースに含まれている更新は、パフォーマンス、ロジック、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定]の[重要な更新]ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って、組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は自動的に有効になります。詳細は、Salesforce ヘルプの「重要な更新の概要」を参照してください。

Apex Flex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加 (正式リリース)

最大 100 件の一括処理ジョブを同時に送信し、キュー内にあるジョブの順序を有効に管理してどの一括処理ジョブを最初に処理するかを制御できます。この機能強化によって、一括処理ジョブをより柔軟に管理できます。

追加の文字をエスケープするために修正された String メソッド

この更新を有効化すると、ApexString メソッドの `escapeHtml3`、`escapeHtml4`、および `escapeEcmaScript` によって追加の文字がエスケープされます。

重要な更新「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」の有効化日の変更

Salesforce は、Winter '15 リリースで重要な更新を発行しました。この更新は、重要な更新コンソール (CRUC) の「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」というタイトルで提供されています。この重要な更新は本来 2014 年 12 月 10 日の自動有効化日付が設定されていました。顧客やパートナーがこの変更によって生じた問題の検証と解決により多くの時間を費やせるようにするため、自動有効化日付は Summer '15 リリースに延期されました。

Force.com カスタマイズのその他の変更

軽微なカスタマイズによる機能強化ではありますが、Salesforce がさらに使いやすくなりました。

Lightning ページへのフレキシブルページの名称変更

Salesforce ドキュメントとユーザインターフェース全体で、フレキシブルページの名前が「Lightning ページ」に変更されました。ただし、API では引き続き FlexiPage が使用されます。

クイックアクションの定義済み項目値におけるクロスオブジェクト参照の増加

アクション項目の定義済みの値を作成するときに、アクションのソースオブジェクトだけでなく、ソースオブジェクトの関連オブジェクトの項目も参照できるようになりました。これにより、データ入力、エラー、および手動ルックアップが削減されます。

ユーザ権限

重要な更新を参照する

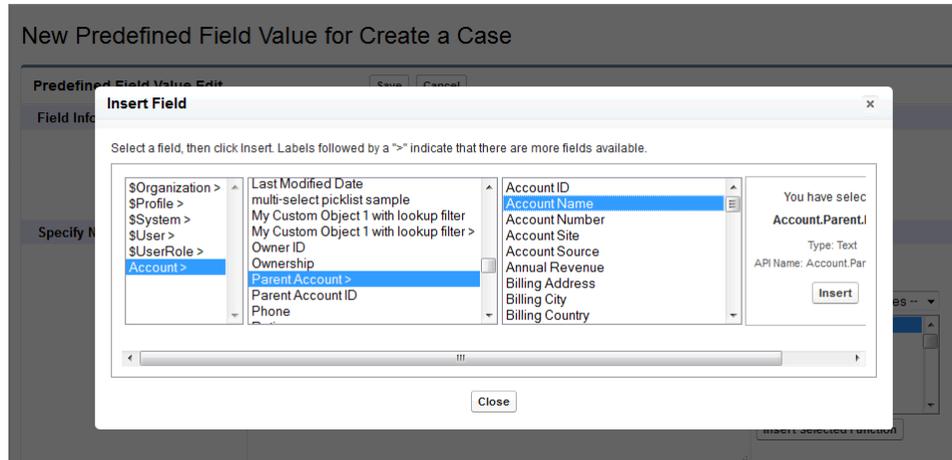
- 「設定・定義を参照する」

重要な更新を有効化する

- 「すべてのデータの編集」

および

「アプリケーションのカスタマイズ」



一部のクイックアクション表示ラベルの変更

一部のクイックアクションのボタンは、以前は [登録] という表示ラベルでした。これらのボタンの表示ラベルは [保存] に変更されました。

Force.com 開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Force.com は、組織で役立たせたり、別の組織に再販したりするための新しいアプリケーションおよびインテグレーションの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

変更セットとリリース

システム管理者と開発者は、新しい方法でリリースに変更セットと外部ツールを使用することができます。

Visualforce

Visualforce と JavaScript を組み合わせた、Salesforce1 やその他のモバイルアプリケーションなどのアプリケーションを開発します。

Apex コード

Java に似た、データベースのストアドプロシージャのように動作する構文を使用する Apex により、開発者は、ボタンクリック、関連レコードの更新、および Visualforce ページなどのほとんどのシステムイベントにビジネスロジックを追加できます。Apex コードの実行は、Web サービス要求、およびオブジェクトのトリガから開始できます。

Lightning コンポーネント (ベータ)

Lightning コンポーネントフレームワークは、Salesforce1 を強化します。このフレームワークを使用して独自の Lightning コンポーネントを作成し、Salesforce1 ユーザに提供することができます。

API

Salesforce と統合されるアプリケーションを作成するには、API を使用します。

ISVforce

Spring '15 には、環境ハブとパッケージ化の機能拡張が含まれています。

Force.com 開発のその他の変更

ユーザエクスペリエンスを向上させるために Force.com 開発ツールを追加しました。

関連トピック:

[Force.com の開発機能が使用可能になる方法と状況](#)

変更セットとリリース

システム管理者と開発者は、新しい方法でリリースに変更セットと外部ツールを使用することができます。

Force.com 移行ツールまたは Force.com IDE を使用している場合は、「[メタデータ型とメタデータ項目](#)」(ページ 334)の変更も参照してください。

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。次のコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

アクションリンクグループテンプレート

アクションリンクグループテンプレートを表します。アクションリンクテンプレートを使用すると、アクションリンク定義を再利用し、アクションリンクをパッケージ化して配布できます。アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、外部サーバまたは Salesforce への API コールを呼び出したりできます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合できます。すべてのアクションリンクはアクションリンクグループに属しており、グループ内のアクションリンクは相互排他的です。

一致ルール

重複レコードを識別するために使用される一致ルールを表します。

指定ログイン情報

指定ログイン情報では、1つの定義にコールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを指定します。指定ログイン情報は、エンドポイントとして指定できるため、認証コールアウトの設定が簡略化されます。

このセクションの内容:

[短時間でのコンポーネントのリリース \(正式リリース\)](#)

過去 4 日間に検証されたコンポーネントに対してすべての Apex テストを実行せずに、コンポーネントを本番組織にリリースできるようになりました。クイックリリースでは、すべてのテストの実行を待たなくても本番組織でリリースを完了できるようになったため、リリースが 30 分以内に完了することもあります。

[より多くのコンポーネントのリリースと取得](#)

リリースまたは取得できるファイル数が 2 倍になりました。この制限の増加によって、5,000 件を超えるファイルがある大規模な組織のコンポーネントでも、小さいコンポーネントセットに分割してリリースすることなく移行できます。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Database.com Edition

コンポーネントの更新前後でのコンポーネントの削除

リリースでコンポーネントが削除されるタイミングを制御できます。マニフェストを使用して更新前のコンポーネント削除を指定し、別のマニフェストを使用して更新後のコンポーネント削除を指定します。コンポーネントの更新に関連する削除の処理順序の指定によって柔軟性が増し、連動関係のあるコンポーネントを削除できます。

短時間でのコンポーネントのリリース (正式リリース)

過去4日間に検証されたコンポーネントに対してすべての Apex テストを実行せずに、コンポーネントを本番組織にリリースできるようになりました。クイックリリースでは、すべてのテストの実行を待たなくても本番組織でリリースを完了できるようになったため、リリースが30分以内に完了することもあります。

本番環境へのリリースでは、すべての Apex テストが実行されます。本番組織に多数の Apex テストがある場合、すべてのテストの実行に時間がかかり、リリースが遅延することがあります。本番環境へのリリース時間を短縮するため、すべてのテストを実行せずにリリースするクイックリリースを行うことができるようになりました。クイックリリースは、次の要件を満たす場合に変更セットおよびメタデータ API コンポーネントに対して使用できます。

- コンポーネントが対象の環境で過去4日 (96時間) 以内に正常に検証されている。
- 検証の一部として、対象組織でのすべての Apex テストに合格している。
- 組織の全体的なコードカバレッジが75%以上で、Apex トリガのカバレッジも同じである。

検証は、リリースされるコンポーネントの結果をチェックするためだけに使用されるリリースであり、検証によってコンポーネントが組織に保存されることはありません。検証により、実際のリリースで受信する可能性のある成功または失敗のメッセージを確認できます。変更セットまたはメタデータコンポーネントは、API または Force.com 移行ツールを使用して検証できます。

変更セットを検証する方法についての詳細は、Salesforce ヘルプの「[変更セットの確認](#)」を参照してください。

Force.com 移行ツールでコンポーネントを検証するには、リリース先の `checkOnly` オプションを `true` に設定します。『[Force.com Migration Tool Guide](#)』の「[Deploying Changes to a Salesforce Organization](#)」を参照してください。

ユーザインターフェースまたは API を使用したクイックリリースの実行

クイックリリースを実行するには、まず検証のみのリリースで、リリースする必要があるコンポーネントセットに Apex テストを実行します。検証に成功し、クイックリリースの必要条件を満たした場合は、クイックリリースを開始できます。

検証された変更セットおよびメタデータ API コンポーネントは、ユーザインターフェースでクイックリリースできます。[リリース状況] ページで、検証の横または検証の詳細ページにある [クイックリリース] をクリックして、最近の検証をリリースします。このボタンは、必要条件を満たしている検証に対してのみ表示されません。

Deployment Details

[← Back to Deployment Status](#)

[Help for this Page](#)

Validation Succeeded

Name: 0AfD00000004PvI
 Type: API
 Deployed By: [Test User](#)
 Start Time: 7/29/2014 11:23 AM
 End Time: 7/29/2014 11:23 AM

1 Deploy Components

7/7

2 Run Apex Tests

5/5

Ready for Quick Deployment Expires in 3d 23h

Enables the quick deployment of recently validated components by skipping Apex tests as part of the deployment.

[Quick Deploy](#)

また、メタデータ API を使用する場合は、`deployRecentValidation()` をコールし、検証 ID を渡して、クイックリリースを開始することもできます。メタデータ API コンポーネントをリリースする場合は、この API コールを使用します。このコールは、変更セットには適用されません。

メモ: クイックリリースは、すべての Apex テストの実行に成功し、コードカバレッジ要件を満たした最近の検証に対して有効になります。次の点に注意してください。

- Apex テストは本番環境で実行する必要があるため、条件を満たした検証に対して、クイックリリースが本番環境でサポートされます。変更セットおよびメタデータ API コンポーネント (Force.com 移行ツールを使用して検証したコンポーネントを含む) の最近の検証をリリースできます。
- 本番以外の環境 (Sandbox) にリリースするときは、Apex テストが不要で、自動的に実行されません。メタデータ API (Force.com 移行ツールを含む) を使用する場合は、テストの実行を明示的に有効にする検証 (移行ツールで `runAllTests` パラメータを使用する場合など) に対してのみ、クイックリリースが Sandbox でサポートされます。変更セットについては、Sandbox に変更セットのテスト実行を有効にするオプションがないため、Sandbox ではクイックリリースがサポートされません。
- クイックリリースまたは通常のリリースのどちらを使用するかに関係なく、検証後にリリースを実行した場合は、すべての検証がクイックリリースの対象外になります。クイックリリースを行う必要がある場合は、対象のコンポーネントセットを再度検証します。

より多くのコンポーネントのリリースと取得

リリースまたは取得できるファイル数が2倍になりました。この制限の増加によって、5,000件を超えるファイルがある大規模な組織のコンポーネントでも、小さいコンポーネントセットに分割してリリースすることなく移行できます。

次の表に、メタデータコンポーネントの以前のファイル制限と新しいファイル制限の比較を示します。

表 3: メタデータコンポーネントのファイル制限の増加

説明	以前の制限	新しい制限
一度にリリースまたは取得できる最大ファイル数	5,000 ファイル	10,000 ファイル

このファイル制限はメタデータ API に適用され、変更セットの一部として含まれるファイル数にも適用されません。この制限の増加は、リリースまたは取得されるファイルの合計サイズには影響せず、400MBのままとなります。

コンポーネントの更新前後でのコンポーネントの削除

リリースでコンポーネントが削除されるタイミングを制御できます。マニフェストを使用して更新前のコンポーネント削除を指定し、別のマニフェストを使用して更新後のコンポーネント削除を指定します。コンポーネントの更新に関連する削除の処理順序の指定によって柔軟性が増し、連動関係のあるコンポーネントを削除できます。

コンポーネントを削除するには、コンポーネントのリリースと同じ手順を実行します。ただし、適切な削除マニフェストファイルも含めてください。削除マニフェストの形式は `package.xml` と同じですが、ワイルドカードはサポートされていません。

- 他のコンポーネントを追加または更新する前にコンポーネントを削除するには、`destructiveChangesPre.xml` という名前のマニフェストファイルを作成し、削除するコンポーネントを含めます。
- 他のコンポーネントを追加または更新した後にコンポーネントを削除するには、`destructiveChangesPost.xml` という名前のマニフェストファイルを作成し、削除するコンポーネントを含めます。

この機能は、メタデータ API `deploy()` コールまたはメタデータ API ベースのツール (Force.com 移行ツールなど) に適用されます。

削除が処理されるタイミングの指定は、連動関係のあるコンポーネントを削除する場合に役立ちます。たとえば、カスタムオブジェクトが Apex クラスで参照されている場合、そのカスタムオブジェクトを削除する前に、Apex クラスを変更してそのオブジェクトの連動関係を削除する必要があります。この場合、Apex クラスを更新して連動関係をクリアする 1 つのリリースを実行してから、`destructiveChangesPost.xml` を使用してカスタムオブジェクトを削除します。この例に使用される `package.xml` および `destructiveChangesPost.xml` マニフェストのサンプルを次に示します。

更新するクラスを指定するサンプル `package.xml`

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Package xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <types>
    <members>SampleClass</members>
    <name>ApexClass</name>
  </types>
  <version>33.0</version>
</Package>
```

クラス更新後に削除するカスタムオブジェクトを指定するサンプル destructiveChangesPost.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Package xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <types>
    <members>MyCustomObject__c</members>
    <name>CustomObject</name>
  </types>
</Package>
```

メモ:

- リリースで使用する API バージョンは、package.xml で指定された API バージョンです。
- destructiveChangesPre.xml および destructiveChangesPost.xml マニフェストは、API バージョン 33.0 以降でサポートされています。それより前のバージョンでは、destructiveChanges.xml のみがサポートされています。API バージョン 33.0 以降で削除と追加の処理順序が重要でない場合は、destructiveChanges.xml を引き続き使用できます。
- destructiveChanges.xml を使用する場合、デフォルトで削除が最初に処理されます。

Visualforce

Visualforce と JavaScript を組み合わせた、Salesforce1 やその他のモバイルアプリケーションなどのアプリケーションを開発します。

Visualforce の言語および機能の改善により、アプリケーション開発がさらに容易になりました。このリリースでの機能強化は、Visualforce と JavaScript とロケーションベースのデータを組み合わせたアプリケーション開発の操作性の改善に焦点をあてています。以下のリリースノートでは、このリリースの新機能について説明し、これらの機能の使い方を示す簡潔なサンプルコードを示します。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

場所データをより明確に表示するための Visualforce 地図コンポーネントの使用

Visualforce 地図コンポーネントを使用すると、サードパーティの地図サービスを使用する地図の作成が簡単になります。Visualforce 地図は、対話型で JavaScript ベースの地図であり、ズームやスクロールの操作ができるだけでなく、Salesforce または他のデータに基づいてマーカーを表示する機能もあります。スタンドアロンの地図ページ、ページレイアウトに挿入できる地図、Salesforce1 向けのモバイル地図を作成できます。

<flow:interview> の新しい属性

API バージョン 33.0 以降で使用可能な <flow:interview> コンポーネントは、新しい属性 allowShowPause をサポートします。この属性は、フローを一時停止したときのユーザの操作性をカスタマイズするために使用します。

エディション

使用可能なエディション:
Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

[sforce.one.navigateToRelatedList\(\) のパラメータ値の変更](#)

sforce.one JavaScript ユーティリティオブジェクトは、Visualforce で作成された Salesforce1 アプリケーションのナビゲーションの管理に使用します。navigateToRelatedList() 関数の relatedListId パラメータの許容値に、常に関連リストの API 名を使用するように変更されました。

[重要な更新「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」の有効化日の変更](#)

Salesforce は、Winter '15 リリースで重要な更新を発行しました。この更新は、重要な更新コンソール (CRUC) の「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」というタイトルで提供されています。この重要な更新は本来 2014 年 12 月 10 日の自動有効化日付が設定されていました。顧客やパートナーがこの変更によって生じた問題の検証と解決により多くの時間を費やせるようにするため、自動有効化日付は Summer '15 リリースに延期されました。

場所データをより明確に表示するための Visualforce 地図コンポーネントの使用

Visualforce 地図コンポーネントを使用すると、サードパーティの地図サービスを使用する地図の作成が簡単になります。Visualforce 地図は、対話型で JavaScript ベースの地図であり、ズームやスクロールの操作ができるだけでなく、Salesforce または他のデータに基づいてマーカーを表示する機能もあります。スタンドアロンの地図ページ、ページレイアウトに挿入できる地図、Salesforce1 向けのモバイル地図を作成できます。

Visualforce 地図は、いくつかの関連する地図コンポーネントを使用して作成します。<apex:map> は、地図のサイズ、タイプ、中心点、初期ズームレベルを含めた地図キャンバスを定義します。<apex:mapMarker> 子コンポーネントは、地図に配置するマーカーを住所または地理位置情報(緯度と経度)に基づいて定義します。

地図を定義することにより、それをページに表示するための JavaScript コードが生成されます。この JavaScript は、地図サービスに接続して地図を作成するために、地図タイルの取得、マーカーの配置、住所の地理コードの作成(緯度と経度の指定がない場合)を行います。表示された地図は、他の一般的な地図サイトと同様に、ユーザがパンやズームで操作できます。つまり、サードパーティの地図サービスとやりとりする独自のカスタム JavaScript を作成できますが、実際には開発者が JavaScript を記述する必要はありません。Visualforce で地図を定義すれば、地図作成用の JavaScript を無料で利用できます。

 **メモ:** Developer Edition 組織では、Visualforce 地図コンポーネントは現在使用できません。

Visualforce 地図コンポーネントの使用例

次に、取引先の住所を中心にした、取引先の取引先責任者のリストを表示するページを示します。

```
<apex:page standardController="Account">

  <!-- This page must be accessed with an Account Id in the URL. For example:
       https://<salesforceInstance>/apex/NearbyContacts?id=001D000000JRBet -->

  <apex:pageBlock >
    <apex:pageBlockSection title="Contacts For {! Account.Name }">

      <apex:dataList value="{! Account.Contacts }" var="contact">
        <apex:outputText value="{! contact.Name }" />
      </apex:dataList>

    <apex:map width="600px" height="400px" mapType="roadmap"
      center="{!Account.BillingStreet},{!Account.BillingCity},{!Account.BillingState}">
```

```

<apex:repeat value="{! Account.Contacts }" var="contact">
  <apex:mapMarker title="{! contact.Name }"
    position="{!contact.MailingStreet},{!contact.MailingCity},{!contact.MailingState}"

  />
</apex:repeat>

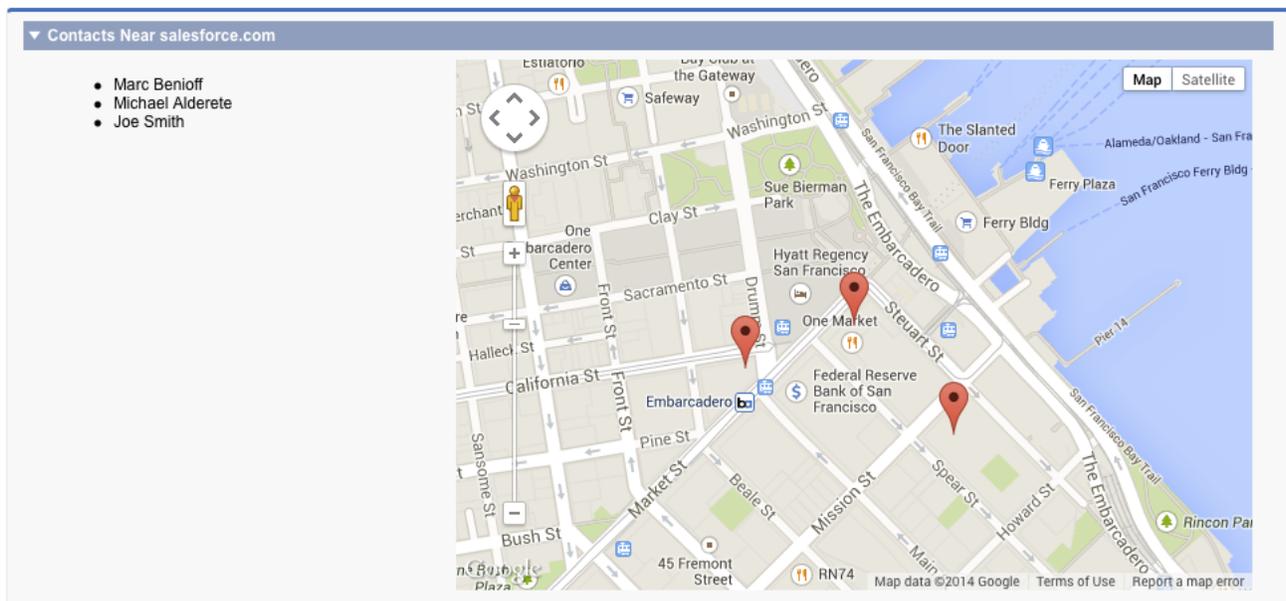
</apex:map>

  </apex:pageBlockSection>
</apex:pageBlock>

</apex:page>

```

このコードにより、次の地図が作成されます。



他のコードサンプルを含めた、新しいマップコンポーネントの使用方法は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』の「Visualforce を使用したマップの作成」を参照してください。

<flow:interview> の新しい属性

API バージョン 33.0 以降で使用可能な <flow:interview> コンポーネントは、新しい属性 `allowShowPause` をサポートします。この属性は、フローを一時停止したときのユーザの操作性をカスタマイズするために使用します。

`allowShowPause`

Visualforce ページにフローを埋め込んだら、ユーザにそのページからフローの一時停止を許可するかどうかを検討します。これは、一部のユーザに特定のフローの一時停止を許可し、他のユーザには許可しない場合に便利な方法です。ユーザが一時停止できないようにするには、<flow:interview> の `allowShowPause` 属性を `false` に設定します。

`sforce.one.navigateToRelatedList()` のパラメータ値の変更

`sforce.one` JavaScript ユーティリティオブジェクトは、Visualforce で作成された Salesforce1 アプリケーションのナビゲーションの管理に使用します。`navigateToRelatedList()` 関数の `relatedListId` パラメータの許容値に、常に関連リストの API 名を使用するように変更されました。

これまで、API 名ではなく、内部 ID を使用する標準リストがありました。これらの内部 ID は、文書に記録されず、見つけづらく、動的に取得することができませんでした。Spring'15 で、内部 ID がサポートされなくなりました。Salesforce1 アプリケーション内の関連リストへの移動に `sforce.one.navigateToRelatedList()` を使用していた場合は、ハードコード化されたパラメータ値の更新が必要な場合があります。

重要な更新「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」の有効化日の変更

Salesforce は、Winter '15 リリースで重要な更新を発行しました。この更新は、重要な更新コンソール (CRUC) の「Visualforce ドメインからの静的リソースの提供」というタイトルで提供されています。この重要な更新は本来 2014 年 12 月 10 日の自動有効化日付が設定されていました。顧客やパートナーがこの変更によって生じた問題の検証と解決により多くの時間を費やせるようにするため、自動有効化日付は Summer '15 リリースに延期されました。

重要な更新に記載のとおり、この有効化に備えて、組織に必要なテストおよび更新が行われていることを確認してください。

Apex コード

Java に似た、データベースのストアードプロシージャのように動作する構文を使用する Apex により、開発者は、ボタンクリック、関連レコードの更新、および Visualforce ページなどのほとんどのシステムイベントにビジネスロジックを追加できます。Apex コードの実行は、Web サービス要求、およびオブジェクトのトリガから開始できます。

Apex には、次の機能強化があります。これらの機能強化についての詳細は、『[Force.com Apex コード開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

[Apex Flex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加 \(正式リリース\)](#)

最大 100 件の一括処理ジョブを同時に送信し、キュー内にあるジョブの順序を有効に管理してどの一括処理ジョブを最初に処理するかを制御できます。この機能強化によって、一括処理ジョブをより柔軟に管理できます。

[Visualforce ページでの長時間コールアウトの実行](#)

非同期コールアウトを使用して、Visualforce ページから長時間の要求を外部 Web サービスに対して実行し、コールバックメソッドで応答を処理できます。Visualforce ページから実行される非同期コールアウトは、実行時間が 5 秒を超える要求を同時に実行できる数である Apex 制限の 10 件にはカウントされません。そのため、より多くの長時間コールアウトを実行でき、Visualforce ページを複雑なバックエンドアセットと統合できます。

エディション

使用可能なエディション:

Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

テストクラス全体のテストデータの設定

テスト設定メソッド (@testSetup アノテーションが付加されたメソッド) を使用して、テストレコードを1回作成し、テストクラスの各テストメソッドでそれらのレコードにアクセスできます。テスト設定メソッドを使用すると、すべてのテストメソッドに対する参照または前提データや、すべてのテストメソッドの操作対象となる共通のレコードセットを作成する必要がある場合に時間を節約できます。

キュー可能 Apex によるジョブキューニング数の増加

Winter '15 で導入されたキュー可能 Apex を使用すると、非同期プロセスを容易に開始および管理できます。これまで、キュー可能ジョブから別のジョブへのキューニングは1回しかできませんでした。ジョブから別のジョブへのキューニングを無制限に行えるようになりました。Developer Edition 組織とトライアル組織の場合は、キューニングできるキュー可能ジョブは最大5件です。

Apex を使用した住所複合項目および地理位置情報複合項目へのアクセス

Apex で新しい Address および Location クラスを使用して住所複合項目と地理位置情報複合項目にアクセスできるようになりました。これまで、Apex でアクセスできるのは複合項目のコンポーネント項目のみでした。新しい Address および Location クラスメソッドを使用して複合項目とそのコンポーネントをクエリできるようになりました。

Apex コールアウト実行のデータの増加

要求および応答のコールアウトサイズ制限がヒープサイズ制限まで増加されました。要求および応答のコールアウトサイズが大きくなったことで、外部 Web サービスとの間で送受信できるデータ量が増えました。

Tooling API エンドポイントを使用した Apex クラスおよびトリガのリスト

apexManifest Tooling API エンドポイントを使用して、インストール済み管理パッケージのグローバルクラスおよびトリガを含む、すべての Apex クラスおよびトリガをリストできます。ApexClass オブジェクトと ApexTrigger オブジェクトの両方をクエリするのではなく、1回の API コールだけでクラスとトリガの両方の簡易リストを取得できます。ApexClass とは異なり、apexManifest は内部クラスを取得します。これまで、内部クラスを取得するには記号テーブルを取得して解析する必要がありました。

エンドポイントとしての指定ログイン情報の指定による認証済み Apex コールアウトの簡略化

指定ログイン情報では、1つの定義にコールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを指定します。Apex コールアウトで指定ログイン情報をコールアウトエンドポイントとして指定するすべての認証が Salesforce によって管理されるため、コードでこれらを行う必要はありません。

Apex SOAP API で実行されたテストのデータ分離モードの確認

RunTestSuccess および RunTestFailure Apex API オブジェクトに seeAllData Boolean 型項目が追加されました。この項目は、テストメソッドに組織データへのアクセス権があるかどうかを示し、テストが失敗した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

追加の文字をエスケープするために修正された String メソッド

この更新を有効化すると、ApexString メソッドの escapeHtml3、escapeHtml4、および escapeEcmaScript によって追加の文字がエスケープされます。

新規および変更された Apex クラス

このリリースでは、次のクラス、メソッド、アノテーション、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

Apex Flex キューを使用した一括処理ジョブ送信数の増加 (正式リリース)

最大 100 件の一括処理ジョブを同時に送信し、キュー内にあるジョブの順序を有効に管理してどの一括処理ジョブを最初に処理するかを制御できます。この機能強化によって、一括処理ジョブをより柔軟に管理できます。

 **メモ:** Spring '15 で作成されるすべての新しい組織で、ApexFlex キューはデフォルトで有効になっています。既存の組織で Apex Flex キューを有効化するには、[設定] で Apex Flex キューの重要な更新を有効化します。この更新によって一括処理ジョブの送信方法が変更されることはありませんが、以前よりも多くの一括処理ジョブを送信できるようになります。この更新は、キューに追加された後に一括処理ジョブを処理する既存の動作には影響を与えません。一括処理ジョブに Holding 状況が追加されるため、AsyncApexJob に対するクエリに影響する可能性があります。

重要な更新についての詳細は、Salesforce ヘルプの「重要な更新の概要」を参照してください。

以前は、同時に送信できる一括処理ジョブは最大 5 個のみでした。Apex Flex キューを使用すると、さらに最大 100 件の実行用の一括処理ジョブを送信できます。実行のために送信されるジョブは保留状況になり、ApexFlex キューに置かれます。最大 100 個の一括処理ジョブを保留状況にできます。システムリソースが使用可能になったら、システムが ApexFlex キューの先頭からジョブを取り出し、一括処理ジョブキューに移動します。システムは最大 5 件のキュー内のジョブまたは有効なジョブを同時に処理できます。移動したこれらのジョブの状況は、Holding から Queued に変わります。キュー内にあるジョブは、システムが新しいジョブを処理できる状態になると実行されます。

システム管理者は、Apex Flex キューに保留されているジョブの順序を変更して、いつシステムに処理されるかを制御できます。たとえば、システム管理者は一括処理ジョブを保留キューの先頭位置まで移動して、システムが Flex キューから次の保留ジョブを取得するときに最初に処理されるようにすることができます。ジョブは、システム管理者の介入なしに、送信された順序(先入れ先出し)で処理されます。保留されている一括処理ジョブを監視し、並び替えるには、Salesforce ユーザーインターフェースで [設定] から [ジョブ] > [Apex Flex キュー] をクリックします。

Database.executeBatch コールによるジョブの送信

Database.executeBatch をコールして一括処理ジョブを送信すると、システムは一括処理ジョブを Holding 状況にしてからジョブを処理します。

Database.executeBatch の結果は次のようになります。

- 一括処理ジョブは Apex Flex キューに置かれ、その状況は Holding に設定されます。
- Apex Flex キューが最大ジョブ数の 100 に達した場合、Database.executeBatch は LimitException を発生させて、ジョブをキューに追加しません。

システムリソースが使用可能になったら、システムが Flex キューの先頭から次のジョブを処理するために取り出し、その状況を Queued に変更します。

AsyncApexJob の新しい状況項目値

一括処理ジョブを表す AsyncApexJob オブジェクトには、Status 項目値 Holding が新しく追加されました。これは、ジョブが Flex キュー内に置かれ、システムリソースが空いて処理されるのを待っていることを示します。

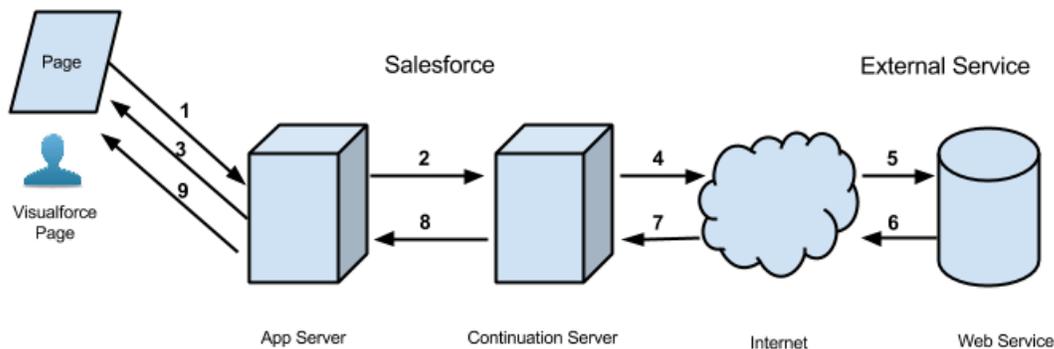
Visualforce ページでの長時間コールアウトの実行

非同期コールアウトを使用して、Visualforce ページから長時間の要求を外部 Web サービスに対して実行し、コールバックメソッドで応答を処理できます。Visualforce ページから実行される非同期コールアウトは、実行時間が 5 秒を超える要求を同時に実行できる数である Apex 制限の 10 件にはカウントされません。そのため、より多くの長時間コールアウトを実行でき、Visualforce ページを複雑なバックエンドアセットと統合できます。

非同期コールアウトは、Visualforce ページから実行され、Visualforce ページにコールバックメソッドで応答が返されるコールアウトです。非同期コールアウトは、*継続*とも呼ばれます。

次の図は、Visualforce ページから開始する非同期コールアウトの実行パスを示します。ユーザが Visualforce ページで Web サービスから情報を要求するアクションを呼び出します (ステップ 1)。アプリケーションサーバは、コールアウト要求を継続サーバに渡してから Visualforce ページに回答します (ステップ 2～3)。継続サーバは、要求を Web サービスに送信し、応答を受信します (ステップ 4～7)。その後で応答をアプリケーションサーバに戻します (ステップ 8)。最後に、応答が Visualforce ページに返されます (ステップ 9)。

非同期コールアウトの実行フロー



非同期コールアウトを使用するメリットがある典型的な Salesforce アプリケーションとして、Visualforce ページのボタンをユーザがクリックして外部 Web サービスからデータを取得するアプリケーションがあります。たとえば、Visualforce ページで特定の製品の保証情報を Web サービスから取得するとします。このページは、組織の数千ものエージェントによって使用される可能性があります。そのため、そのうちの 100 人のエージェントが同時に同じボタンをクリックして製品の保証情報を処理する場合があります。これらの 100 件の同時アクションは、長時間要求の同時実行数に対する 10 という制限を超えていますが、非同期コールアウトを使用することで要求はこの制限の対象とならず、実行できます。

次のアプリケーション例では、ボタンアクションは Apex コントローラメソッドで実装されます。このアクションメソッドは、`Continuation` を作成して返します。要求がサービスに送信された後、Visualforce 要求は一時停止されます。ユーザは応答が返されるまで待ってから、ページを使用して処理を進め、新しいアクションを呼び出す必要があります。外部サービスが応答を返すと、Visualforce 要求が再開され、ページはこの応答を受け取ります。

これは同じアプリケーションの Visualforce ページです。このページには、このページに関連付けられたコントローラの `startRequest` メソッドを呼び出すボタンが含まれています。継続の結果が返されてコールバック

メソッドが呼び出された後、ボタンは `outputText` コンポーネントを再度表示してレスポンスボディを表示します。

```
<apex:page controller="ContinuationController" showChat="false" showHeader="false">
  <apex:form >
    <!-- Invokes the action method when the user clicks this button. -->
    <apex:commandButton action="{!startRequest}"
      value="Start Request" reRender="result"/>
  </apex:form>

  <!-- This output text component displays the callout response body. -->
  <apex:outputText value="{!result}" />
</apex:page>
```

次は、Visualforce ページに関連付けられている Apex コントローラです。このコントローラには、アクションおよびコールバックメソッドが含まれます。

 **メモ:** 外部サービスをコールする前に、Salesforce ユーザーインターフェース内の認証されたリモートサイトのリストにそのリモートサイトを追加する必要があります。[設定] から [セキュリティのコントロール] > [リモートサイトの設定] をクリックし、[新規リモートサイト] をクリックします。

```
public with sharing class ContinuationController {
  // Unique label corresponding to the continuation
  public String requestLabel;
  // Result of callout
  public String result {get;set;}
  // Endpoint of long-running service
  private static final String LONG_RUNNING_SERVICE_URL =
    '<Insert your service URL>';

  // Action method
  public Object startRequest() {
    // Create continuation with a timeout
    Continuation con = new Continuation(40);
    // Set callback method
    con.continuationMethod='processResponse';

    // Create callout request
    HttpRequest req = new HttpRequest();
    req.setMethod('GET');
    req.setEndpoint(LONG_RUNNING_SERVICE_URL);

    // Add callout request to continuation
    this.requestLabel = con.addHttpRequest(req);

    // Return the continuation
    return con;
  }

  // Callback method
  public Object processResponse() {
    // Get the response by using the unique label
    HttpResponse response = Continuation.getResponse(this.requestLabel);
    // Set the result variable that is displayed on the Visualforce page
```

```
    this.result = response.getBody();

    // Return null to re-render the original Visualforce page
    return null;
}
}
```

-  **メモ:** 1つの継続内で3回まで非同期コールアウトを実行できます。これらのコールアウト要求を同じ継続に追加するには、Continuation クラスの `addHttpRequest` メソッドを使用します。この継続の間、コールアウトは並行して実行され、Visualforce 要求は一時停止します。外部サービスからすべてのコールアウトが返された後にのみ、Visualforce プロセスが再開されます。

テストクラス全体のテストデータの設定

テスト設定メソッド(`@testSetup` アノテーションが付加されたメソッド)を使用して、テストレコードを1回作成し、テストクラスの各テストメソッドでそれらのレコードにアクセスできます。テスト設定メソッドを使用すると、すべてのテストメソッドに対する参照または前提データや、すべてのテストメソッドの操作対象となる共通のレコードセットを作成する必要がある場合に時間を節約できます。

テスト設定メソッドによりテスト実行時間を短縮できます。特に多くのレコードを処理する場合に効果があります。また、共通のテストデータを容易かつ効率的に作成できます。クラスに対して1回レコードを設定すれば、テストメソッドごとにレコードを再作成する必要はありません。また、テスト設定中に作成されたレコードのロールバックは、クラス全体の実行終了時に行われるため、ロールバックされるレコードの数も削減されます。その結果、テストメソッドごとにこうしたレコードを作成してロールバックする場合に比べ、システムリソースの使用効率が向上します。

テストクラスにテスト設定メソッドが含まれる場合、テストフレームワークは、テスト設定メソッドを最初に実行してから、そのクラスの他のテストメソッドを実行します。テスト設定メソッドで作成されたレコードは、テストクラス内のすべてのテストメソッドで使用でき、テストクラス実行終了時にロールバックされます。レコード項目の更新やレコード削除など、テストメソッドがこれらのレコードを変更した場合、その変更は、各テストメソッドの実行終了後にロールバックされます。次に実行されるテストメソッドは、元の変更されていない状態のレコードにアクセスできます。

構文

テスト設定メソッドは、テストクラスで定義され、引数を取らず、値を返しません。テスト設定メソッドの構文は次のとおりです。

```
@testSetup static void methodName() {

}
```

例

次の例では、テストレコードを1回作成してから、複数のテストメソッドでそれらのレコードにアクセスする方法を示します。また、この例では、最初のテストメソッドで加えられた変更がロールバックされて2つ目のテストメソッドでは使用できないことも示します。

```
@isTest
private class CommonTestSetup {

    @testSetup static void setup() {
        // Create common test accounts
        List<Account> testAccts = new List<Account>();
        for(Integer i=0;i<2;i++) {
            testAccts.add(new Account(Name = 'TestAcct'+i));
        }
        insert testAccts;
    }

    @isTest static void testMethod1() {
        // Get the first test account by using a SOQL query
        Account acct = [SELECT Id FROM Account WHERE Name='TestAcct0' LIMIT 1];
        // Modify first account
        acct.Phone = '555-1212';
        // This update is local to this test method only.
        update acct;

        // Delete second account
        Account acct2 = [SELECT Id FROM Account WHERE Name='TestAcct1' LIMIT 1];
        // This deletion is local to this test method only.
        delete acct2;

        // Perform some testing
    }

    @isTest static void testMethod2() {
        // The changes made by testMethod1() are rolled back and
        // are not visible to this test method.
        // Get the first account by using a SOQL query
        Account acct = [SELECT Phone FROM Account WHERE Name='TestAcct0' LIMIT 1];
        // Verify that test account created by test setup method is unaltered.
        System.assertEquals(null, acct.Phone);

        // Get the second account by using a SOQL query
        Account acct2 = [SELECT Id FROM Account WHERE Name='TestAcct1' LIMIT 1];
        // Verify test account created by test setup method is unaltered.
        System.assertNotEquals(null, acct2);

        // Perform some testing
    }
}
```

テスト設定メソッドの考慮事項

- テスト設定メソッドは、テストクラスのデフォルトのデータ分離モードでのみサポートされます。テストクラスまたはテストメソッドが `@isTest (SeeAllData=true)` アノテーションを使用することで組織データにアクセスできる場合、そのクラスではテスト設定メソッドはサポートされません。テストのためのデータ分離を使用できるのは API バージョン 24.0 以降であるため、テスト設定メソッドを使用できるのもこれらのバージョンのみです。
- 1つのテストクラスで複数のテスト設定メソッドを使用できますが、テストフレームワークでそれらが実行される順序は保証されません。
- テスト設定メソッドの実行中に致命的なエラーが発生した場合 (DML 操作またはアサーションの失敗によって発生した例外など)、テストクラス全体が失敗し、クラス内でそれ以降のテストは実行されません。
- テスト設定メソッドが、別のクラスの非テストメソッドをコールする場合、その非テストメソッドのコードカバー率は計算されません。

キュー可能 Apex によるジョブチェーニング数の増加

Winter '15 で導入されたキュー可能 Apex を使用すると、非同期プロセスを容易に開始および管理できます。これまで、キュー可能ジョブから別のジョブへのチェーニングは 1 回しかできませんでした。ジョブから別のジョブへのチェーニングを無制限に行えるようになりました。Developer Edition 組織とトライアル組織の場合は、チェーニングできるキュー可能ジョブは最大 5 件です。

ジョブのチェーニングは、他の処理が完了した後にジョブを実行する必要がある場合に便利です。ジョブを別のジョブにチェーニングするには、キュー可能クラスの `execute()` メソッドから 2 つ目のジョブを送信します。たとえば、2 つ目のクラスが `Queueable` インターフェースを実装する `SecondJob` という名前である場合、次のように `execute()` メソッドでこのクラスをキューに追加できます。

```
public class AsyncExecutionExample implements Queueable {
    public void execute(QueueableContext context) {
        // Your processing logic here

        // Chain this job to next job by submitting the next job
        System.enqueueJob(new SecondJob());
    }
}
```

チェーン内のキュー可能ジョブで開始できるジョブは 1 件のみです。

Apex を使用した住所複合項目および地理位置情報複合項目へのアクセス

Apex で新しい `Address` および `Location` クラスを使用して住所複合項目と地理位置情報複合項目にアクセスできるようになりました。これまで、Apex でアクセスできるのは複合項目のコンポーネント項目のみでした。新しい `Address` および `Location` クラスメソッドを使用して複合項目とそのコンポーネントをクエリできるようになりました。

最初に `Address` または `Location` 型の変数を宣言し、次にその変数のサブ項目にアクセスします。たとえば、住所項目の市区郡、郵便番号、および都道府県の値を取得できます。

```
Account acct = [SELECT BillingAddress FROM account WHERE name='Acme' LIMIT 1];
Address addr = acct.BillingAddress;
```

```
String acctCity = addr.city;
String acctZipCode = addr.postalCode;
String acctState = addr.state;
```

または、地理位置情報項目の緯度と経度の値を取得できます。

```
Account acct2 = [SELECT id, MyLocation__c FROM Account WHERE Name='Cloud Computing' LIMIT 1];
Location loc = acct2.MyLocation__c;
Double lat = loc.latitude;
Double lon = loc.longitude;
```

Apex コールアウト実行のデータの増加

要求および応答のコールアウトサイズ制限がヒープサイズ制限まで増加されました。要求および応答のコールアウトサイズが大きくなったことで、外部 Web サービスとの間で送受信できるデータ量が増えました。

次の表では、要求および応答のコールアウトサイズについて、以前の制限と新しい制限を比較しています。

表 4: コールアウトサイズ制限の増加

説明	以前の制限	新しい制限
コールアウト要求または応答 (HTTP 要求または Web サービスコール) の最大サイズ	3 MB	同期 Apex の場合は 6 MB、 非同期 Apex の場合は 12 MB

Tooling API エンドポイントを使用した Apex クラスおよびトリガのリスト

apexManifest Tooling API エンドポイントを使用して、インストール済み管理パッケージのグローバルクラスおよびトリガを含む、すべての Apex クラスおよびトリガをリストできます。ApexClass オブジェクトと ApexTrigger オブジェクトの両方をクエリするのではなく、1 回の API コールだけでクラスとトリガの両方の簡易リストを取得できます。ApexClass とは異なり、apexManifest は内部クラスを取得します。これまで、内部クラスを取得するには記号テーブルを取得して解析する必要がありました。

 **例:** Apex クラスおよびトリガ、およびインストール済み管理パッケージのグローバル Apex クラスおよびトリガを取得するには、次のようにします。

```
req.setEndpoint('http://na1.salesforce.com/services/data/v33.0/tooling/apexManifest');
req.setMethod('GET');
```

エンドポイントとしての指定ログイン情報の指定による認証済み Apex コールアウトの簡略化

指定ログイン情報では、1 つの定義にコールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを指定します。Apex コールアウトで指定ログイン情報をコールアウトエンドポイントとして指定するすべての認証が Salesforce によって管理されるため、コードでこれらを行う必要はありません。

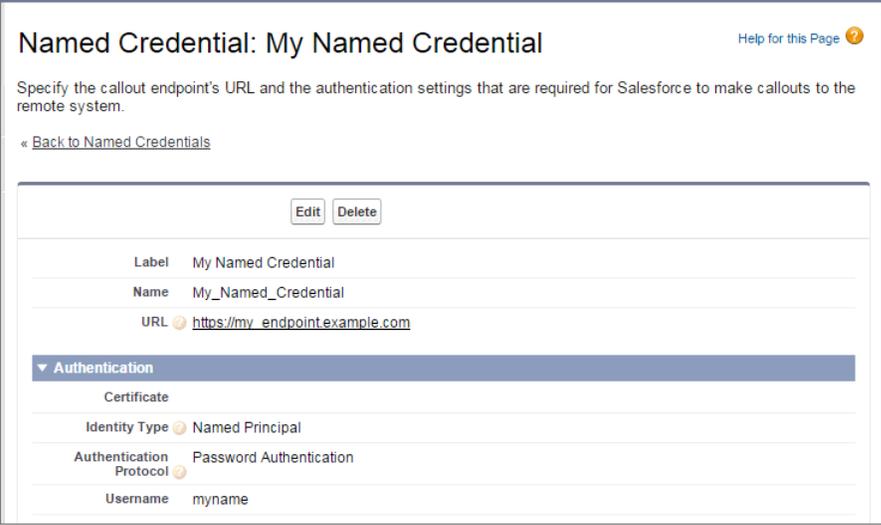
代わりに、URL をコールアウトエンドポイントとして指定し、その URL を組織のリモートサイト設定に登録できます。ただし、その場合はコードで認証を処理します。この処理ではセキュリティが低下し、OAuth 認証の場合は特に複雑になる可能性があります。

詳細は、Salesforce ヘルプの「指定ログイン情報の定義」を参照してください。

 **例:** 次のサンプルコードでは、指定ログイン情報と追加されたパスによってコールアウトのエンドポイントが指定されます。

```
HttpRequest req = new HttpRequest();
req.setEndpoint('callout:My_Named_Credential/some_path');
req.setMethod('GET');
Http http = new Http();
HTTPResponse res = http.send(req);
System.debug(res.getBody());
```

参照される指定ログイン情報では、エンドポイント URL と認証設定が指定されます。



The screenshot shows the configuration page for a Named Credential. The title is "Named Credential: My Named Credential". Below the title, there is a description: "Specify the callout endpoint's URL and the authentication settings that are required for Salesforce to make callouts to the remote system." There is a "Back to Named Credentials" link. The configuration fields are as follows:

- Edit** and **Delete** buttons.
- Label:** My Named Credential
- Name:** My_Named_Credential
- URL:** https://my_endpointexample.com
- Authentication:**
 - Certificate:** (empty)
 - Identity Type:** Named Principal
 - Authentication Protocol:** Password Authentication
 - Username:** myname

コールアウトエンドポイントを指定ログイン情報ではなく URL としてコーディングできますが、コードで認証を処理する必要があります。この例では、基本的なパスワード認証を使用していますが、OAuth 認証ははるかに複雑であるため、指定ログイン情報で処理することをお勧めします。

```
HttpRequest req = new HttpRequest();
req.setEndpoint('https://my_endpoint.example.com/some_path');
req.setMethod('GET');

// Specify the required user name and password to access the endpoint
// As well as the header and header information

String username = 'myname';
String password = 'mypwd';

Blob headerValue = Blob.valueOf(username + ':' + password);
String authorizationHeader = 'BASIC ' +
EncodingUtil.base64Encode(headerValue);
```

```

req.setHeader('Authorization', authorizationHeader);

// Create a new http object to send the request object
// A response object is generated as a result of the request

Http http = new Http();
HTTPResponse res = http.send(req);
System.debug(res.getBody());

```

Apex SOAP API で実行されたテストのデータ分離モードの確認

RunTestSuccess および RunTestFailure Apex API オブジェクトに seeAllData Boolean 型項目が追加されました。この項目は、テストメソッドに組織データへのアクセス権があるかどうかを示し、テストが失敗した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

Apex SOAP API の runTests() または compileAndTest() をコールして Apex テストを実行すると、RunTestsResult にすべてのテストの結果が含まれます。テストメソッドの成功または失敗ごとに、RunTestsResult にはそれぞれに対応する RunTestSuccess または RunTestFailure オブジェクトが含まれます。これらのオブジェクトの seeAllData Boolean 型項目を検査して、テストの実行時、テストメソッドに組織データへのアクセス権があったかどうかを判別できます。

追加の文字をエスケープするために修正された String メソッド

この更新を有効化すると、ApexString メソッドの escapeHtml3、escapeHtml4、および escapeEcmaScript によって追加の文字がエスケープされます。

現在、これらの String メソッドでは特定の文字がエスケープされません。この更新を有効化すると、これらのメソッドによって次の追加の文字がエスケープされます。

- escapeHtml3: ' (単一引用符)
- escapeHtml4: ' (単一引用符)
- escapeEcmaScript: < (開始山括弧) と > (終了山括弧)

この更新により、すべての API バージョンで、影響を受ける String クラスメソッドの動作が変更されます。

新規および変更された Apex クラス

このリリースでは、次のクラス、メソッド、アノテーション、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

新しいメソッド

次のクラスに新規メソッドが追加されました。

System.Test クラス

invokeContinuationMethod(Object, Continuation)

テストメソッド内で指定されたコントローラと継続のコールバックメソッドを呼び出します。

setContinuationResponse(String, System.HttpResponse)

テストメソッド内の継続 HTTP 要求に対する疑似応答を設定します。

変更されたメソッド

次のクラスでメソッドが変更されました。

Auth.SessionManagement クラス

getCurrentSession()

返される対応付けには LoginHistoryId および LoginDomain 値も含まれるようになりました。

LoginHistoryId 値は、成功したログインイベントの 18 文字の ID です。LoginDomain 値は、現在のセッションに関連付けられたドメインであり、他のドメインからのアクセスを防止するために使用されます。詳細は、[セッションドメインロックのセキュリティの強化](#)を参照してください。

トリガをサポートするオブジェクト

次のオブジェクトに対して、トリガを作成できるようになりました。

ChatterMessage

非公開メッセージのトリガを作成するには、[設定]から[カスタマイズ]>[Chatter]>[トリガ]>[ChatterMessage のトリガ]をクリックします。または、開発者コンソールで[ファイル]>[新規]>[Apex トリガ]をクリックし、sObject ドロップダウンリストから ChatterMessage を選択してもトリガを作成できます。

新規アノテーション

次のアノテーションが追加されました。

InvocableMethod

呼び出し可能なアクションとして実行できるメソッドを識別するには InvocableMethod アノテーションを使用します。

InvocableVariable

カスタムクラスで呼び出し可能なアクションによって使用される変数を識別するには InvocableVariable アノテーションを使用します。

詳細は、[呼び出し可能アクション](#)を参照してください。

新規クラス

次のクラスが追加されました。

Database.DMLOptions.DuplicateRuleHeader クラス

重複として識別されたレコードを保存できるかどうかを決定します。重複ルールは重複管理機能の一部です。

AllowSave

重複レコードを保存するには、true に設定します。重複レコードが保存されないようにするには、false に設定します。

Database.DuplicateError クラス

重複レコードを保存しようとして発生したエラーに関する情報が含まれます。組織に重複ルール(重複管理機能の一部)が設定されている場合に使用します。

getDuplicateResult()

重複ルールの詳細と検出された重複レコードを返します。

getFields()

1つ以上の項目名の配列を返します。オブジェクト内の項目でエラー条件に影響を与えるものが存在する場合、その項目を示します。

getMessage()

エラーメッセージのテキストを返します。

getStatusCode()

エラーを特徴付けるコードを返します。

Datacloud.AdditionalInformationMap クラス

一致レコードに関するその他の情報を表します(ある場合)。

getName()

要素の名前を返します。

getValue()

要素の値を返します。

Datacloud.DuplicateResult クラス

重複レコードを検出した重複ルールの詳細を表します。

getDuplicateRule()

実行されて重複レコードを返した重複ルールの開発者名を返します。

getErrorMessage()

重複レコードを作成している可能性があることをユーザに警告するために、システム管理者が設定したエラーメッセージを返します。

getMatchResults()

重複レコードを返します。

isAllowSave()

重複ルールが、重複と識別されたレコードの保存を許可するかどうかを示します。重複ルールで保存を許可する場合は `true`、それ以外の場合は `false` に設定します。

Datacloud.FieldDiff クラス

重複とその一致レコードについてすべての項目とその値を表します。

getDifference()

重複とその一致レコードについて項目値の比較結果を返します。

getName()

2つの一致レコード間で異なる項目の名前を返します。

Datacloud.MatchRecord クラス

重複レコードを表します。

getAdditionalInformation()

一致レコードに関するその他の情報を返します。たとえば、`matchGrade` は、一致レコードに含まれる D&B 項目のデータ品質を表します。

getFieldDiffs()

重複とその一致レコードについてすべての項目と項目値を返します。

getMatchConfidence()

一致レコードのデータと要求内のデータの類似度のランキングを返します。要求で指定された `minMatchConfidence` の値以上である必要があります。使用されていない場合は `-1` を返します。

getRecord()

重複の項目と項目値を返します。

Datacloud.MatchResult クラス

一致ルールの重複結果を表します。

getEntityType()

一致ルールのエンティティ種別を返します。

getErrors()

一致ルールの照合中に発生したエラーを返します。

getMatchEngine()

一致ルールのマッチングエンジンを返します。

getMatchRecords()

一致ルールの重複に関する情報を返します。

getRule()

一致ルールの開発者名を返します。

getSize()

一致ルールによって検出された重複の数を返します。

isSuccess()

一致ルールでエラーが発生した場合は `false`、一致ルールが正常に実行された場合は `true` を返します。

Reports.EvaluatedCondition クラス

レポート通知の評価条件の個々のコンポーネント (集計の名前と表示ラベル、演算子、集計と比較される値など) が含まれます。

getAggregateLabel()

集計のローカライズされた表示名を返します。

getAggregateName()

集計の一意の API 名を返します。

getCompareTo()

条件で集計と比較される値を返します。

getOperator()

条件に使用される演算子を返します。

getValue()

レポート実行時の集計の実際の値を返します。

Reports.NotificationActionContext クラス

レポート通知のレポートインスタンスおよびしきい値に関する情報が含まれます。

getReportInstance()

通知に関連付けられたレポートインスタンスを返します。

getThresholdInformation()

通知に関連付けられたしきい値情報を返します。

Reports.ThresholdNotification クラス

レポート通知の評価条件のリストが含まれます。

getEvaluatedConditions()

通知の評価条件のリストを返します。

System.Address クラス

住所複合項目のコンポーネント項目にアクセスするためのメソッドが含まれます。

getCity()

この住所の市区郡項目を返します。

getCountry()

この住所のテキストのみの国名コンポーネントを返します。

getCountryCode()

組織で都道府県選択リストと国選択リストが有効な場合、この住所の国コードを返します。

getDistance(Location, String)

この場所から指定された場所までの距離を指定された単位を使用して返します。

getLatitude()

この住所の緯度項目を返します。

getLongitude()

この住所の経度項目を返します。

getPostalCode()

この住所の郵便番号を返します。

getState()

この住所のテキストのみの都道府県名コンポーネントを返します。

getStateCode()

組織で都道府県選択リストと国選択リストが有効な場合、この住所の都道府県コードを返します。

getStreet()

この住所の町名・番地項目を返します。

System.Continuation クラス

SOAPまたはREST Web サービスに対して非同期にコールアウトを実行するには、**Continuation** クラスを使用します。

コンストラクタ:

Continuation(Integer)

指定されたタイムアウト秒数を使用して、**Continuation** クラスのインスタンスを作成します。タイムアウト制限は 60 秒です。

プロパティ:

continuationMethod

コールアウト応答が返された後にコールされるコールバックメソッドの名前。

timeout

継続のタイムアウト (秒)。上限は 60 秒です。

state

この継続で保存され、コールアウトが完了してコールバックメソッドが呼び出された後に取得可能なデータ。

メソッド:

addHttpRequest(HttpRequest)

この継続に関連付けられているコールアウトへの HTTP 要求を追加します。

getRequests()

この継続に関連付けられているすべての表示ラベルと要求をキー - 値ペアとして返します。

getResponse(String)

指定された表示ラベルに対応する要求への応答を返します。

System.Location クラス

地理位置情報複合項目のコンポーネント項目にアクセスするためのメソッドが含まれます。

getDistance(Location, String)

この場所と指定された場所との距離を指定された単位を使用して計算します。

getDistance(Location, Location, String)

2点間の距離を、半正矢公式の近似値と指定された単位を使用して計算します。

getLatitude()

この地理位置情報の緯度項目を返します。

getLongitude()

この地理位置情報の経度項目を返します。

newInstance(Decimal, Decimal)

指定された緯度と経度を使用して地理位置情報を作成します。

UserProvisioning.UserProvisioningLog クラス

送信ユーザプロビジョニング要求を監視するためのメッセージを記述するメソッドを提供します。

log(String, String, String, String, String)

ユーザプロビジョニング要求の進行状況を監視するために、エラーメッセージなど、特定のメッセージを記述します。このメソッドには、ユーザプロビジョニング要求に関連付けられたメッセージ、ユーザプロビジョニング要求に関連付けられたメッセージと状況、ユーザプロビジョニング要求と個々のユーザに関連付けられたメッセージの3つがあります。

UserProvisioning.UserProvisioningPlugin クラス

UserProvisioningPlugin 基本クラスは、接続アプリケーションのユーザプロビジョニングプロセスをプログラムでカスタマイズするための **Process.Plugin** を実装します。

buildDescribeCall()

このメソッドを使用して、基本クラスに定義されたパラメータ以外の入力および出力パラメータを追加します。

describe()

このメソッドのコールを記述する `Process.PluginDescribeResult` オブジェクトを返します。

getPluginClassName()

プラグインを実装するクラスの名前を返します。

invoke(Process.PluginRequest)

インターフェースを実装するクラスがインスタンス化されるときにシステムが呼び出す主なメソッドです。

新規インターフェース

次のインターフェースが追加されました。

`Auth.SamlJitHandler` インターフェース:

このインターフェースを使用して、SAML シングルサインオン時にジャストインタイムのユーザプロビジョニングロジックの制御とカスタマイズを行います。

createUser(Id, Id, Id, String, Map<String,String>, String)

指定された統合 ID を使用して `User` オブジェクトを返します。 `User` オブジェクトはユーザ情報に対応し、データベースに挿入されていない新規ユーザまたはデータベース内の既存のユーザを表す可能性があります。

updateUser(Id, Id, Id, Id, String, Map<String,String>, String)

指定のユーザの情報を更新します。ユーザが以前 SAML シングルサインオンを使用してログインしたことがあり、再度ログインする場合、またはアプリケーションが [既存ユーザをリンクする URL] を使用している場合、このメソッドがコールされます。

`Reports.NotificationAction` インターフェース:

ユーザが登録したレポートのレポート通知から、このインターフェースが実装されたカスタム Apex クラスをトリガできます。

execute(NotificationActionContext)

コンテキストオブジェクト `Reports.NotificationActionContext` の `context` パラメータで指定されたカスタム Apex アクションを実行します。オブジェクトには、レポートインスタンスと、通知をトリガするために満たさなければならない条件に関する情報が含まれます。

このセクションの内容:

[ConnectApi \(Chatter in Apex\)](#)

Salesforce でコミュニティおよび Chatter のカスタム操作を作成するには、Chatter in Apex を使用します。

ConnectApi (Chatter in Apex)

Salesforce でコミュニティおよび Chatter のカスタム操作を作成するには、Chatter in Apex を使用します。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、Chatter in Apex と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズ

され、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく1回のコールで行うことができます。

- ☑ **メモ:** モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションを Chatter や Communities に統合するには、[Chatter REST API](#) を使用します。

このセクションの内容:

[Chatter in Apex の全般的な更新](#)

[新規および変更された Chatter in Apex クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス](#)

[新規および変更された Chatter in Apex Enum](#)

Chatter in Apex の全般的な更新

アクションリンクを使用したサードパーティおよび Salesforce サービスのフィードへの統合 (正式リリース)

アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、Salesforce または外部サーバへの API コールを呼び出したりできます。アクションリンクには、URL と HTTP メソッドが含まれ、リクエストボディとヘッダー情報 (認証用の OAuth トークンなど) を含めることができます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。

たとえば、架空の 3D プリントショップ「BuildIt」が、アクションリンクを使用して Salesforce に統合される AppExchange アプリケーションを作成したとします。BuildIt の顧客は、このアプリケーションをインストールすると、BuildIt の Web サイトへのアクセス、アカウントの作成、BuildIt に部品を注文できるように特定のユーザを招待する Salesforce へのアクションリンクを含む投稿の送信を行えます。このサンプルフィード要素は、BuildIt の顧客である Pam Jones からその部下の Jin Chang に投稿されたものです。[ダウンロード] アクションリンクをクリックすると、BuildIt Web サイトから部品情報を含むファイルがダウンロードされます。[注文] アクションリンクをクリックすると、Jin Chang に BuildIt Web サイトのページが表示されて部品を注文できます。



アクションリンクをインスタンス化し、フィード要素を使用して投稿するためのワークフローは、次のようになります。

1. (省略可能) アクションリンクテンプレートを作成します (このステップの詳細は、[アクションリンクテンプレートを作成することによるアプリケーションでのアクションリンクの配布](#)を参照)。
2. `ConnectApi.ActionLinks.createActionLinkGroupDefinition(String, ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput)` をコールしてアクションリンクグループ定義をインスタンス化します。コミュニティ ID と、アクションリンクグループを定義する `ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput` オブジェクトを渡します。応答には、新しくインスタンス化されたアクションリンクグループの ID が含まれています。この ID を次のステップでフィード項目に関連付けます。
3. `ConnectApi.ChatterFeeds.postFeedElement(String, ConnectApi.FeedElementInput, ConnectApi.BinaryInput)` をコールしてアクションリンクをフィード項目に関連付けて投稿します。コミュニティ ID、前のステップで返されたアクションリンクグループ ID を使用してアクションリンクグループをフィード項目に関連付ける `ConnectApi.FeedItemInput` オブジェクトを渡します。必要に応じて、バイナリファイルをフィード項目に添付する場合は `ConnectApi.BinaryInput` オブジェクト、それ以外は `null` を渡します。

 **メモ:** `ConnectApi.ChatterFeeds.postFeedElement(String, ConnectApi.FeedElementInput, ConnectApi.BinaryInput)` メソッドは `ConnectApi.FeedElementInput` オブジェクトを取りますが、これは抽象クラスであり、抽象クラスからオブジェクトをインスタンス化することはできません。 `ConnectApi.FeedItemInput` サブクラスの具象インスタンスを渡します。

 **ヒント:** 詳細な手順は、『[Apex コード開発者ガイド](#)』の「[アクションリンクの定義とフィード要素を使用した投稿](#)」を参照してください。

アクションリンクテンプレートを作成することによるアプリケーションでのアクションリンクの配布

[設定] でアクションリンクテンプレートを作成し、Chatter REST API または Apex から共通のプロパティを持つアクションリンクグループをインスタンス化できます。テンプレートをパッケージ化して他の Salesforce 組織に配布できます。

アクションリンクテンプレートでは、バインド変数がサポートされます。バインド変数は、アクションリンクがテンプレートから作成される時に変数データを取り込めるようにするプレースホルダです。テンプレートにバインド変数を指定し、そのテンプレートからアクションリンクグループをインスタンス化するときに変数の値を設定します。たとえば、API バージョン番号、ユーザ ID、または OAuth トークンにバインド変数を使用します。

アクションリンクテンプレートでは、コンテキスト変数もサポートされます。コンテキスト変数は、アクションリンクを実行したユーザとアクションリンクが呼び出されたコンテキストに関する情報をサーバ側のコードに渡すために、Salesforce によって入力されるプレースホルダです。

バインド変数とコンテキスト変数は、アクションリンクテンプレートの [アクション URL]、[HTTP リクエストボディ]、および [HTTP ヘッダー] 項目で使用できます。アクションリンクグループテンプレートの公開後、バインド変数は、これらの項目間で移動でき、削除もできますが、新規追加はできません。これらの項目のコンテキスト変数は、テンプレートの公開後も移動、追加、削除できます。テンプレートの公開後、これらの項目の他のコンテンツも編集できますが、他の項目は編集できません。

テンプレートからアクションリンクをインスタンス化し、フィード要素を使用して投稿するためのワークフローは、次のようになります。

1. アクションリンクテンプレートを作成します。

- a. [設定] で、[作成] > [アクションリンクテンプレート] をクリックし、アクションリンクグループテンプレートを作成します。

The screenshot shows the 'Action Link Group Template Edit' interface. At the top, there are buttons for 'Save', 'Save & New', and 'Cancel'. Below is the 'Information' section with a red bar indicating required fields. The fields are: Name (Doc Example), Namespace Prefix (empty), Developer Name (Doc_Example), Category (Primary action), Executions Allowed (Once per User), and Hours until Expiration (empty). At the bottom, there are buttons for 'Save', 'Save & New', and 'Cancel'.

- b. 各アクションリンクグループに、少なくとも1つのアクションリンクが必要です。アクションリンクグループテンプレートとアクションリンクテンプレートは主従関係にあります。アクションリンクテンプレートを次のように作成します。

- c. アクションリンクテンプレートをアクションリンクグループテンプレートに追加し終わったら、アクションリンクグループテンプレートに戻り、公開します。

2. SOQL クエリ `ActionLinkGroupTemplate template = [SELECT Id FROM ActionLinkGroupTemplate WHERE DeveloperName='Doc_Example'];` を実行してテンプレート ID を取得します。
3. `ConnectApi.ActionLinks.createActionLinkGroupDefinition(String, ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput)` をコールしてテンプレートからアクションリンクグループをインスタンス化します。テンプレート ID とテンプレートバインド (バインド変数のキーと値) を `ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput` オブジェクトに指定します。応答には、新しくインスタンス化されたアクションリンクグループの ID が含まれています。この ID を次のステップでフィード項目に関連付けます。
4. `ConnectApi.ChatterFeeds.postFeedElement(String, ConnectApi.FeedElementInput, ConnectApi.BinaryInput)` をコールしてフィード項目を投稿し、アクションリンクを関連付けます。フィード項目の本文が含まれ、前のステップで返されたアクションリンクグループ ID を使用してアクションリンクグループをフィード項目に関連付ける `ConnectApi.FeedItemInput` オブジェクトを渡します。

必要に応じて、バイナリファイルをフィード項目に添付する場合は `ConnectApi.BinaryInput` オブジェクト、それ以外は `null` を渡します。

 **ヒント:** 詳細な手順は、『[Apex コード開発者ガイド](#)』の「[テンプレートのアクションリンクの定義とフィード要素を使用した投稿](#)」を参照してください。

アクションリンクコンテキスト変数を使用したサーバ側コードへのコンテキスト情報の引き渡し

コンテキスト変数を使用して、アクションリンクを実行したユーザとアクションリンクが呼び出されたコンテキストに関する情報を、アクションリンクの呼び出しによって実行された HTTP 要求に渡すことができます。

コンテキスト変数は、`Action Link Definition Input` リクエストボディまたは

`ConnectApi.ActionLinkDefinitionInput` オブジェクトの `actionUrl`、`headers`、および `requestBody` プロパティで使用できます。コンテキスト変数はまた、アクションリンクテンプレートの [アクション URL]、[HTTP リクエストボディ]、および [HTTP ヘッダー] 項目でも使用できます。テンプレートの公開後も、これらの項目は編集 (コンテキスト変数の追加と削除を含む) できます。

次のコンテキスト変数があります。

コンテキスト変数	説明
<code>{!actionLinkId}</code>	ユーザが実行したアクションリンクの ID。
<code>{!actionLinkGroupId}</code>	ユーザが実行したアクションリンクが含まれるアクションリンクグループの ID。
<code>{!communityId}</code>	ユーザがアクションリンクを実行したコミュニティの ID。内部組織の場合、値は空のキー "00000000000000000000" になります。
<code>{!communityUrl}</code>	ユーザがアクションリンクを実行したコミュニティの URL。内部組織の場合、値は空の文字列 "" になります。
<code>{!orgId}</code>	ユーザがアクションリンクを実行した組織の ID。
<code>{!userId}</code>	アクションリンクを実行したユーザの ID。

たとえば、あなたが Survey Example という会社に勤務していて、「Survey Example for Salesforce」というアプリケーションを Salesforce AppExchange 用に作成したとします。会社 A には「Survey Example for Salesforce」がインストールされています。会社 A の誰かが `surveyexample.com` にアクセスしてアンケートを作成します。Survey Example のサーバ側コードは、会社 A の Salesforce 組織に本文テキスト「Take a survey (アンケートに回答してください)」と、表示ラベル [OK] のアクションリンクを含むフィード項目を作成します。

そのアクションリンクの [HTTP リクエストボディ] または [アクション URL] に `{!userId}` コンテキスト変数が含まれる場合、ユーザがフィードのアクションリンクをクリックすると、Salesforce はクリックしたユーザの ID を送信します。

アクションリンクを作成する Survey Example のサーバ側コードに `{!actionLinkId}` コンテキスト変数が含まれる場合、Salesforce からの応答でアクションリンクの ID が返されるので、データベースに保存できます。

次の例では、アクションリンクテンプレートの [アクション URL] に `{!userId}` コンテキスト変数が含まれています。

ヒント: バインド変数とコンテキスト変数は同じ項目で使用できます。たとえば、アクション URL `https://www.example.com/{!Bindings.apiVersion}/doSurvey?salesforceUserId={!userId}` にはバインド変数とコンテキスト変数が含まれています。

アクションリンククラス、メソッド、および Enum

このセクションでは、新規追加されたアクションリンククラス、メソッド、および Enum の一覧を示します。

- [アクションリンククラス](#) (ページ 284)
- [アクションリンク入力クラス](#) (ページ 286)
- [アクションリンク出力クラス](#) (ページ 289)
- [新規および変更された Chatter in Apex Enum](#) (ページ 294)

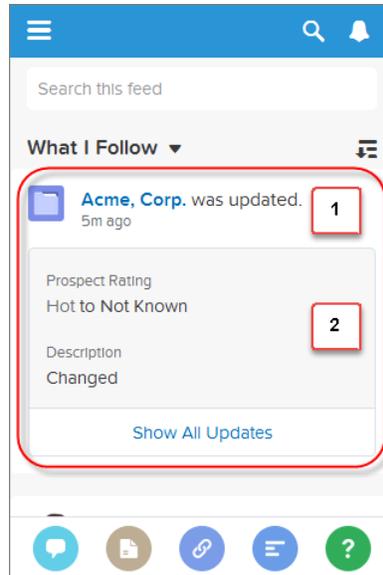
変更追跡フィードを集約したバンドル投稿の取得 (正式リリース)

バンドル投稿は、相対的な時間差が10分以内の変更追跡フィードを1つの汎用フィード要素に集約してフィードを読みやすくします。

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのこの機能についての詳細は、[1つの投稿にバンドルされた複数のレコード更新の表示](#)を参照してください。

バンドル投稿は、フィード要素をフィードから取得するメソッドによって返されます

(`ConnectApi.ChatterFeeds.getFeedElementsFromFeed(String communityId, ConnectApi.FeedType feedType, String subjectId)` など)。



バンドルは、バンドル機能(`ConnectApi.BundleCapability`)を備えた `ConnectApi.GenericFeedElement` オブジェクトです。次のバンドルレイアウト要素があります。

1. ヘッダー—バンドルには、`ConnectApi.GenericFeedElement` 出力オブジェクトの `header` が表示されます。このバンドルの場合、テキストは `[Acme, Corp. was updated. (Acme 社が更新されました。)]` です。ヘッダーの下にある時間は、`relativeCreatedDate` プロパティです。
2. 補助内容—バンドルには、フィード要素の `ConnectApi.TrackedChangeCapability` 内にネストされた最初の2つの `ConnectApi.TrackedChangeItem` オブジェクトについて、`fieldName` と、`oldValue` および `newValue` プロパティが表示されます。3つ以上ある場合、バンドルには `[すべての更新を表示]` リンクが表示されます。

新規および変更された Chatter in Apex クラス

これらのクラスについての詳細は、『*Apex コード開発者ガイド*』の「`ConnectApi` 名前空間」を参照してください。

Action Links

アクションリンクを操作するには、次の新しいメソッドを使用します。これらのメソッドは、`ConnectApi.ActionLinks` クラスに含まれます。

アクションリンクグループ定義の作成、削除、および取得

アクションリンクグループ定義の情報は、サードパーティの機密情報である可能性があるため (OAuth ベアータークンヘッダーなど)、アクションリンクグループ定義を作成した Apex 名前空間からのコールでのみ定義を参照、変更、または削除できます。さらに、コールを実行するユーザは、定義を作成したユーザか、「すべてのデータの編集」権限を持つユーザである必要があります。

- `createActionLinkGroupDefinition(String, ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput)` —アクションリンクグループ定義を作成します。アクションリンクグループをフィード要素に関連付けるには、まずアクションリンクグループ定義を作成します。次に、関連付けられたアクション機能を含むフィード要素を投稿します。

- `deleteActionLinkGroupDefinition(String, String)` — アクションリンクグループ定義を削除します。アクションリンクグループ定義を削除すると、その定義へのすべての参照がフィード要素から削除されます。
- `getActionLinkGroupDefinition(String, String)` — アクションリンクグループ定義に関する情報を取得します。

アクションリンクグループに関する情報の取得

- `getActionLinkGroup(String, String)` — コンテキストユーザの状態を含む、アクションリンクグループに関する情報を取得します。

アクションリンクに関する情報の取得

- コンテキストユーザの状態を含む、アクションリンクに関する情報を取得します。 — `getActionLink(String, String)`

実行されたアクションリンクに関する診断情報の取得

- `getActionLinkDiagnosticInfo(String, String)` — アクションリンクが実行されたときに返された診断情報を取得します。診断情報は、アクションリンクにアクセスできるユーザに対してのみ提供されます。

Groups

これらのメソッドは、`ConnectApi.ChatterGroups` クラスに含まれます。

グループに関連付けられたレコードの取得

グループに関連付けられたレコードを取得するには、次のいずれかの新しいメソッドを使用します。

- `getRecords(String, String)` — 指定されたグループに関連付けられたレコードの最初のページを返します。ページには、デフォルトの項目数が含まれます。
- `getRecords(String, String, Integer, Integer)` — グループに関連付けられたレコードのリストから指定されたページを返します。

Recommendations

これらのメソッドは、`ConnectApi.Recommendations` クラスに含まれます。

おすすめの取得

- `getRecommendationForUser(String, String, ConnectApi.RecommendationActionType, String)` — 指定されたアクションおよびオブジェクト ID のコンテキストユーザへのおすすめを返します。
- `getRecommendationsForUser(String, String, ConnectApi.RecommendationActionType, String, Integer)` — コンテキストユーザへのユーザ、グループ、ファイル、およびレコードのおすすめを返します。
- `getRecommendationsForUser(String, String, ConnectApi.RecommendationActionType, ConnectApi.RecommendationActionType, String, Integer)` — 指定されたアクションのコンテキストユーザへのおすすめを返します。必要に応じて、直前に実行されたアクションに基づいておすすめを返します。
- `getRecommendationsForUser(String, String, ConnectApi.RecommendationActionType, String, ConnectApi.RecommendationActionType, String, Integer)` — 指定されたアクシ

ンおよびオブジェクトカテゴリのコンテキストユーザへのおすすめを返します。必要に応じて、直前に実行されたアクションに基づいておすすめを返します。

これらのメソッドには、テストコンテキストで使用するデータを登録する `setTest` メソッドが関連付けられています。

おすすめ拒否

- `rejectRecommendationForUser(String, String, ConnectApi.RecommendationActionType, String)` — 指定されたアクションおよびオブジェクト ID のコンテキストユーザへのおすすめを拒否します。

Topics

これらのメソッドは、`ConnectApi.Topics` クラスに含まれます。

名前によるトピックの取得

大文字と小文字を含め、完全一致する名前でトピックを取得するには、このメソッドに `exactMatch` パラメータを使用します。

- `getTopics(String, String, Boolean)`

最大5個のトピックのマージ (ベータ)

最大5個のトピックをマージするには、次のいずれかのメソッドを使用します。

- `updateTopic(String, String, ConnectApi.TopicInput)`
- `mergeTopics(String, String, List<String>)`

 **メモ:** トピックのマージはベータ版で、既知の制限があります。 [IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

これらのクラスについての詳細は、『[Apex コード開発者ガイド](#)』の「[ConnectApi Input クラス](#)」を参照してください。

Action Links

`ConnectApi.ActionLinkDefinitionInput`

アクションリンクの定義。 アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、Salesforce または外部サーバへの API コールを呼び出したりできます。アクションリンクには、URL と HTTP メソッドが含まれ、リクエストボディとヘッダー情報 (認証用の OAuth トークンなど) を含めることができます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionType` — アクションリンクの種別を定義します。値は次のとおりです。
 - `Api` — アクションリンクは、アクション URL で同期 API をコールします。Salesforce は、サーバから返された HTTP 状況コードに基づいて状況を `SuccessfulStatus` または `FailedStatus` に設定します。

- ApiAsync — アクションリンクは、アクション URL で非同期 API をコールします。非同期操作が完了したとき、第三者が /connect/action-links/*actionLinkId* に対して要求を実行し、状況を SuccessfulStatus または FailedStatus に設定するまで、アクションは PendingStatus 状態のままです。
 - Download — アクションリンクはファイルをアクション URL からダウンロードします。
 - Ui — アクションリンクはアクション URL の Web ページをユーザに表示します。
-  **メモ:** アプリケーションから ApiAsync アクションリンクを呼び出す場合は状況を設定するコールが必要ですが、現在 Apex を使用してアクションリンクの状況を設定する方法がありません。状況を設定するには、Chatter REST API を使用します。詳細は、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「Action Link リソース」を参照してください。
- *actionUrl* — アクションリンクの URL。
 - *excludedUserId* — アクションの実行から除外する単一ユーザの ID。 *excludedUserId* を指定した場合、 *userId* を指定できません。
 - *groupDefault* — このアクションがアクションリンクグループのデフォルトまたはプライマリアクションリンクである場合は true、それ以外の場合は false。各アクションリンクグループに含めることができるデフォルトアクションリンクは1つだけです。デフォルトのアクションリンクのUIには特別なスタイルが適用されます。
 - *headers* — Api および ApiAsync アクションリンク種別の要求ヘッダー。 ConnectApi.RequestHeaderInput オブジェクトのリスト。リクエストボディを指定する場合、 application/json または application/xml の Content-Type ヘッダーを指定する必要があります。
 - *labelKey* — ユーザインターフェースに表示される表示ラベルのセットのキー。
 - *method* — HTTP メソッド。次のいずれかの値にします。
 - *HttpDelete* — 成功した場合は HTTP 204 を返します。レスポンスボディまたは出力クラスは空です。
 - *HttpGet* — 成功した場合は HTTP 200 を返します。
 - *HttpHead* — 成功した場合は HTTP 200 を返します。レスポンスボディまたは出力クラスは空です。
 - *HttpPatch* — 成功した場合は HTTP 200 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。
 - *HttpPost* — 成功した場合は HTTP 201 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。例外は、成功時に HTTP 200 を返すバッチ投稿リソースおよびメソッドです。
 - *HttpPut* — 成功した場合は HTTP 200 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。
 - *requestBody* — Api および ApiAsync アクションリンク種別のリクエストボディ。
 - *requiresConfirmation* — 確認を必要とするアクション (削除など) の場合は true、それ以外の場合は false。
 - *userId* — アクションを実行できるユーザの ID。指定しない場合や null の場合、すべてのユーザがアクションを実行できます。 *userId* を指定した場合、 *excludedUserId* を指定できません。

`ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput`

アクションリンクグループの定義。すべてのアクションリンクはグループに属している必要があります。1つのグループ内のアクションリンクは、相互排他的で、同じプロパティを共有します。各自のアクショングループでスタンドアロンアクションを定義します。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionLinks` — このグループを構成するアクションリンク。
`ConnectApi.ActionLinkDefinitionInput` オブジェクトのリスト。
- `category` — フィード要素上のアクションリンクグループの場所。値は次のとおりです。
 - `Primary` — アクションリンクグループは、フィード要素の本文に表示されます。
 - `Overflow` — アクションリンクグループは、フィード要素のオーバーフローメニューに表示されません。
- `executionsAllowed` — アクションリンクを実行できる回数を定義します。
- `expirationDate` — このアクションリンクグループが関連付けられたフィード項目から削除され、実行できなくなる日時を表す ISO 8601 日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `templateBindings` — `ConnectApi.ActionLinkTemplateBindingInput` オブジェクトのリスト。各オブジェクトには、アクションリンクテンプレートのバインド変数値またはカスタムユーザ別名に入力されるキー - 値のペアが含まれます。バインド変数またはカスタムユーザ別名を使用するアクションリンクテンプレートからこのアクションリンクグループをインスタンス化するには、すべてのバインド変数とカスタムユーザ別名の値を指定する必要があります。
- `templateId` — このアクションリンクグループのインスタンス化に使用されたアクションリンクテンプレートの ID。

`ConnectApi.ActionLinkTemplateBindingInput`

アクションリンクテンプレートのバインド変数値に入力されるキー - 値ペア。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `key` — [設定] でアクションリンクテンプレートに指定されたバインド変数キーの名前。たとえば、テンプレートのバインド変数が `{!Binding.firstName}` の場合、キーは `firstName` です。
- `value` — バインド変数キーの値。たとえば、キーが `firstName` の場合、この値は `Joan` などになります。

`ConnectApi.RequestHeaderInput`

HTTP 要求ヘッダー名と値のペア。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `name` — 要求ヘッダーの名前。
- `value` — 要求ヘッダーの値。

Capabilities

`ConnectApi.AssociatedActionsCapabilityInput`

フィード要素に関連付けるアクションリンクグループのリスト。アクションリンクグループをフィード要素に関連付けるには、アクションリンク定義を作成した Apex 名前空間からコールを実行する必要があります。

す。さらに、コールを実行するユーザは、定義を作成したユーザか、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザである必要があります。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionLinkGroupIds` — フィード要素に関連付けるアクションリンクグループIDのリスト。アクションリンクグループIDを作成するには、`createActionLinkGroupDefinition(String, ConnectApi.ActionLinkGroupDefinitionInput)` をコールします。

`ConnectApi.FeedElementCapabilitiesInput`

このクラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `associatedActions` — このフィード要素に追加されるアクションを記述します。`ConnectApi.AssociatedActionsCapabilityInput` オブジェクトです。

Topics

`ConnectApi.TopicInput`

この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `idsToMerge` — トピックにマージする最大5個のトピックIDのリスト。

 **メモ:** トピックのマージはベータ版で、既知の制限があります。[IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

これらのクラスについての詳細は、『[Apex コード開発者ガイド](#)』の「[ConnectApi Output クラス](#)」を参照してください。

Action Links

`ConnectApi.ActionLinkDefinition`

アクションリンクの定義。アクションリンク定義の情報は、サードパーティの機密情報である可能性があるため(OAuthベアータークンヘッダーなど)、アクションリンク定義を作成したApex名前空間からのコールでのみ定義を参照、変更、または削除できます。さらに、コールを実行するユーザは、定義を作成したユーザか、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザである必要があります。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionUrl` — アクションリンクのURL。
- `createdDate` — ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `excludedUserId` — アクションの実行から除外する単一ユーザのID。
- `groupDefault` — このアクションがアクションリンクグループのデフォルトまたはプライマリアクションリンクである場合は `true`、それ以外の場合は `false`。各アクションリンクグループに含めることができるデフォルトアクションリンクは1つだけです。
- `headers` — `Api` および `ApiAsync` アクションリンク種別の要求ヘッダー。`ConnectApi.RequestHeader` オブジェクトのリスト。
- `id` — アクションリンク定義のID。
- `labelKey` — ユーザインターフェースに表示される表示ラベルのセットのキー。

- `method` — HTTP メソッド。
- `modifiedDate` — ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `requestBody` — `Api` および `ApiAsync` アクションリンク種別のリクエストボディ。
- `requiresConfirmation` — 確認を必要とするアクション (削除など) の場合は `true`、それ以外の場合は `false`。
- `type` — アクションリンクの種別。値は次のとおりです。
 - `Api` — アクションリンクは、アクション URL で同期 API をコールします。Salesforce は、サーバから返された HTTP 状況コードに基づいて状況を `SuccessfulStatus` または `FailedStatus` に設定します。
 - `ApiAsync` — アクションリンクは、アクション URL で非同期 API をコールします。非同期操作が完了したとき、第三者が `/connect/action-links/actionLinkId` に対して要求を実行し、状況を `SuccessfulStatus` または `FailedStatus` に設定するまで、アクションは `PendingStatus` 状態のままです。
 - `Download` — アクションリンクはファイルをアクション URL からダウンロードします。
 - `Ui` — アクションリンクはアクション URL の Web ページをユーザに表示します。
- `userId` — アクションを実行できるユーザの ID。

`ConnectApi.ActionLinkDiagnosticInfo`

実行されたアクションリンクの診断情報。存在しない場合もあります。診断情報は、アクションリンクにアクセスできるユーザに対してのみ提供されます。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `diagnosticInfo` — アクションリンクが実行されたときに返される診断情報。診断情報は、アクションリンクにアクセスできるユーザに対してのみ提供されます。
- `url` — このアクションリンク診断情報の URL。

`ConnectApi.ActionLinkGroupDefinition`

アクションリンクグループの定義。アクションリンクグループ定義の情報は、サードパーティの機密情報である可能性があるため (OAuth ベアラー トークン ヘッダー など)、アクションリンクグループ定義を作成した Apex 名前空間からのコールでのみ定義を参照、変更、または削除できます。さらに、コールを実行するユーザは、定義を作成したユーザか、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザである必要があります。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionLinks` — アクションリンクグループを構成する `ConnectApi.ActionLinkDefinition` オブジェクトのリスト。
- `category` — フィード要素でのアクションリンクグループの位置を示します。値は次のとおりです。
 - `Primary` — アクションリンクグループは、フィード要素の本文に表示されます。
 - `Overflow` — アクションリンクグループは、フィード要素のオーバーフローメニューに表示されません。
- `createdDate` — ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `executionsAllowed` — アクションリンクを実行できる回数を定義します。値は次のとおりです。
 - `Once` — アクションリンクは、すべてのユーザで 1 回のみ実行できます。

- OncePerUser — アクションリンクは、各ユーザで1回のみ実行できます。
- Unlimited — アクションリンクは、各ユーザで無制限に実行できます。アクションリンクの `actionType` が `Api` または `ApiAsync` の場合、この値を使用できません。
- `expirationDate` — このアクショングループの有効期限が切れて実行できなくなる日時を表す ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。値が `null` の場合、有効期限はありません。
- `id` — アクションリンクグループ定義の ID。
- `modifiedDate` — ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `templateId` — このアクションリンクグループをインスタンス化するアクションリンクグループテンプレートの ID。または、このグループがテンプレートに関連付けられていない場合は `null`。
- `url` — このアクションリンクグループ定義の URL。

`ConnectApi.PlatformAction`

コンテキストユーザの状態情報を含むプラットフォームアクションインスタンス。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actionUrl` — subtype `Ui` または `Download` のアクションリンクの場合、このリンクからユーザにダウンロードやUIアクセスを行わせます。Salesforce は次の形式でリンクの JavaScript リダイレクトを発行します: `/action-link-redirect/communityId/actionLinkId?_bearer=bearerToken`
- `Api` アクションリンクおよびすべてのプラットフォームアクションの場合、この値は `null` になり、Salesforce によってコールが処理されます。
- `apiName` — API 名。この値は `null` になることがあります。
- `confirmationMessage` — このアクションに確認が必要で、状況が `New` の場合は、このプロパティがローカライズされたデフォルトのメッセージになり、このアクションを呼び出す前にエンドユーザに表示されます。それ以外の場合は、この値が `null` になります。
- `executingUser` — このプラットフォームアクションの実行を開始したユーザ。
- `groupDefault` — このプラットフォームアクションがプラットフォームアクショングループのデフォルトまたはプライマリのプラットフォームアクションの場合は `true`、それ以外の場合は `false`。デフォルトプラットフォームアクションはプラットフォームアクショングループごとに1つのみです。デフォルトアクションの UI には特別なスタイルが適用されます。
- `iconUrl` — プラットフォームアクションのアイコンの URL。この値は `null` になることがあります。
- `id` — プラットフォームアクションの ID。
- `label` — このプラットフォームアクションのローカライズされた表示ラベル。
- `modifiedDate` — ISO 8601 形式の日付文字列 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- `platformActionGroup` — このプラットフォームアクションを含むプラットフォームアクショングループへの参照。
- `status` — プラットフォームアクションの実行状況。値は次のとおりです。
 - `FailedStatus` — アクションリンクの実行に失敗しました。
 - `NewStatus` — アクションリンクの実行の準備が整っています。Download および `Ui` アクションリンクでのみ使用できます。
 - `PendingStatus` — アクションリンクが実行されています。この値を選択すると、`Api` および `ApiAsync` アクションリンクの API コールがトリガされます。

- `SuccessfulStatus` — アクションリンクが正常に実行されました。
- `subtype` — アクションリンクのサブタイプ。
- `type` — プラットフォームアクションの種別。値は次のとおりです。
 - `ActionLink` — フィード要素上に表示されるインジケータであり、API、Web ページ、またはファイルを指します。Salesforce Chatter フィード UI ではボタンで表されます。
 - `ProductivityAction` — 生産性アクションは Salesforce によって事前定義され、限られたオブジェクトのセットに適用されます。生産性アクションを編集または削除することはできません。
 - `CustomButton` — クリックすると、ウィンドウ内で URL または Visualforce ページが開くか、JavaScript が実行されます。
 - `QuickAction` — グローバルアクションまたはオブジェクト固有のアクション。
 - `StandardButton` — 事前定義された Salesforce ボタン ([新規]、[編集]、[削除] など)。
- `url` — このプラットフォームアクションの URL。

`ConnectApi.PlatformActionGroup`

コンテキストユーザに適した状態のプラットフォームアクショングループインスタンス。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `category` — フィード要素でのプラットフォームアクショングループの位置。値は次のとおりです。
 - `Primary` — アクションリンクグループは、フィード要素の本文に表示されます。
 - `Overflow` — アクションリンクグループは、フィード要素のオーバーフローメニューに表示されません。
- `id` — プラットフォームアクショングループの 18 文字の ID か、不透明な文字列の ID。
- `modifiedDate` — ISO 8601 の日付文字列 (例: 2014-02-25T18:24:31.000Z)。
- `platformActions` — このグループのプラットフォームアクションインスタンス。
`ConnectApi.PlatformAction` オブジェクトのリスト。
- `url` — このプラットフォームアクショングループの URL。

`ConnectApi.RequestHeader`

HTTP 要求ヘッダー名と値のペア。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `name` — 要求ヘッダーの名前。
- `value` — 要求ヘッダーの値。

機能

`ConnectApi.AssociatedActionsCapability`

フィード要素にこの機能がある場合、フィード要素にプラットフォームアクションが関連付けられています。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `platformActionGroups` — フィード要素に関連付けられたプラットフォームアクショングループ。

`ConnectApi.FeedElementCapabilities` クラス

このクラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `associatedActions` — `ConnectApi.AssociatedActionsCapability` オブジェクト。

`ConnectApi.ContentCapability`

投稿されたフィード要素からコンテンツが削除された場合、またはコンテンツへのアクセス権が非公開に変更された場合、`ConnectApi.ContentCapability` は存在しますが、そのほとんどのプロパティは Null になります。

`ConnectApi.OriginCapability`

フィード要素にこの機能がある場合、そのフィード要素はフィードアクションによって作成されています。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `actor` — フィードアクションを実行したユーザ。
- `originRecord` — フィードアクションが含まれるフィード要素への参照。

`ConnectApi.QuestionAndAnswersCapability`

このクラスには、次の新しいプロパティがあります。

- `escalatedCase` — 質問の投稿がエスカレーションされた場合のエスカレーション先ケース。

groups

`ConnectApi.Features`

これらのプロパティは、将来の使用のための予約の対象ではなくなりました。

- `chatterGroupRecords` — Chatter グループにレコードを関連付けられるかどうかを指定します。
- `chatterGroupRecordSharing` — Chatter レコードがグループに追加されたとき、そのレコードがグループメンバー間で暗黙的に共有されるかどうかを指定します。

`ConnectApi.GroupRecord`

グループに関連付けられたレコード。

この新しい出力には、次のプロパティがあります。

- `id` — グループに関連付けられたレコードの ID。
- `record` — グループに関連付けられたレコードに関する情報。
- `url` — グループに関連付けられたレコードへの URL。

`ConnectApi.GroupRecordPage`

`ConnectApi.GroupRecord` オブジェクトのページ設定されたリスト。

この新しい出力クラスには次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページへの URL。
- `nextPageUrl` — 次のページへの URL。
- `previousPageUrl` — 前のページへの URL。
- `records` — グループに関連付けられたレコードのコレクション。
- `totalRecordCount` — グループに関連付けられたレコードの総数。

Recommendations

ConnectApi.RecommendationCollection

推奨事項のリスト。

この新しいクラスには、次のプロパティがあります。

- `recommendations` — おすすめのコレクション。

Topics

ConnectApi.Topic

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `isBeingDeleted` — トピックを現在削除中かどうかを示します。トピックが削除された後にそのトピックを取得しようとすると、出力は `NOT_FOUND` になります。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

これらの Enum についての詳細は、『*Apex コード開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

ConnectApi.ActionLinkExecutionsAllowed

この新しい Enum には次の値があります。

- `Once` — アクションリンクは、すべてのユーザで1回のみ実行できます。
- `OncePerUser` — アクションリンクは、各ユーザで1回のみ実行できます。
- `Unlimited` — アクションリンクは、各ユーザで無制限に実行できます。アクションリンクの `actionType` が `Api` または `ApiAsync` の場合、この値を使用できません。

ConnectApi.ActionLinkType

この新しい Enum には次の値があります。

- `Api` — アクションリンクは、アクション URL で同期 API をコールします。Salesforce は、サーバから返された HTTP 状況コードに基づいて状況を `SuccessfulStatus` または `FailedStatus` に設定します。
- `ApiAsync` — アクションリンクは、アクション URL で非同期 API をコールします。非同期操作が完了したとき、第三者が `/connect/action-links/actionLinkId` に対して要求を実行し、状況を `SuccessfulStatus` または `FailedStatus` に設定するまで、アクションは `PendingStatus` 状態のままです。
- `Download` — アクションリンクはファイルをアクション URL からダウンロードします。
- `Ui` — アクションリンクはアクション URL の Web ページをユーザに表示します。

ConnectApi.FeedElementCapabilityType

この Enum では、次の値が新規追加および変更されました。

- `AssociatedActions` — これは将来の使用のための予約の対象ではなくなりました。このフィード要素には、関連付けられたアクションに関する情報が含まれます。
- `Origin` — このフィード要素は、フィードアクションによって作成されました。

ConnectApi.FeedItemType

`QuestionPost` フィード項目種別には、コンテンツ機能とリンク機能を設定できます。

ConnectApi.HttpRequestMethod

この新しい Enum には次の値があります。

- `HttpDelete` — 成功した場合は HTTP 204 を返します。レスポンスボディまたは出力クラスは空です。
- `HttpGet` — 成功した場合は HTTP 200 を返します。
- `HttpHead` — 成功した場合は HTTP 200 を返します。レスポンスボディまたは出力クラスは空です。
- `HttpPatch` — 成功した場合は HTTP 200 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。
- `HttpPost` — 成功した場合は HTTP 201 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。例外は、成功時に HTTP 200 を返すバッチ投稿リソースおよびメソッドです。
- `HttpPut` — 成功した場合は HTTP 200 を返し、レスポンスボディまたは出力クラスが空の場合は HTTP 204 を返します。

`ConnectApi.PlatformActionGroupCategory`

この新しい Enum には次の値があります。

- `Primary` — アクションリンクグループは、フィード要素の本文に表示されます。
- `Overflow` — アクションリンクグループは、フィード要素のオーバーフローメニューに表示されます。

`ConnectApi.PlatformActionStatus`

この新しい Enum には次の値があります。

- `FailedStatus` — アクションリンクの実行に失敗しました。
- `NewStatus` — アクションリンクの実行の準備が整っています。Download および Ui アクションリンクでのみ使用できます。
- `PendingStatus` — アクションリンクが実行されています。この値を選択すると、Api および ApiAsync アクションリンクの API コールがトリガされます。
- `SuccessfulStatus` — アクションリンクが正常に実行されました。

`ConnectApi.PlatformActionType`

この新しい Enum には次の値があります。

- `ActionLink` — API、Web ページ、またはファイルを指す、フィード要素上のインジケータで、Salesforce Chatter フィード UI のボタンによって表されます。
- `ProductivityAction` — 生産性アクションは Salesforce によって事前定義され、限られたオブジェクトのセットに適用されます。生産性アクションを編集または削除することはできません。
- `CustomButton` — クリックすると、ウィンドウ内で URL または Visualforce ページが開くか、JavaScript が実行されます。
- `QuickAction` — グローバルアクションまたはオブジェクト固有のアクション。
- `StandardButton` — 事前定義された Salesforce ボタン ([新規]、[編集]、[削除] など)。

`ConnectApi.RecommendationExplanationType`

この Enum には次の新しい値があります。

- `Custom` — カスタムのおすすめ。

Lightning コンポーネント (ベータ)

Lightning コンポーネントフレームワークは、Salesforce1 を強化します。このフレームワークを使用して独自の Lightning コンポーネントを作成し、Salesforce1 ユーザーに提供することができます。

Lightning コンポーネントには、次の機能強化があります。詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

新しいコンポーネント

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。

新しいイベント

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

Lightning コンポーネントのその他の変更

Lightning コンポーネントでさらに変更が行われました。

エディション

使用可能なエディション:

Contact Manager Edition、
Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

新しいコンポーネント

コンポーネントは、アプリケーションを迅速に作成するのに役立ちます。

次の Lightning コンポーネントが追加されました。これらは、Lightning アプリケーションまたは Salesforce1 のコンポーネントで使用します。

	主要コンポーネント	説明
Chatter フィード	forceChatter:feed	フィード項目を表示する Chatter フィード。Salesforce1 でのみサポートされます
通貨	ui:inputCurrency	通貨を入力するための入力項目
	ui:outputCurrency	デフォルトまたは指定された形式で、通貨を表示します
ドロップダウンリスト	ui:inputSelect	オプションを含むドロップダウンリスト
	ui:inputSelectOption	ui:inputSelect コンポーネントのオプション
メール	ui:inputEmail	メールアドレスを入力するための入力項目
	ui:outputEmail	クリック可能なメールアドレスを表示します
項目レベルのエラー	ui:inputDefaultError	エラーが発生したときに表示されるエラーテキスト
メニュー	ui:menu	表示を制御するトリガを含むドロップダウンリスト
	ui:menuList	メニュー項目のリスト
	ui:actionMenuItem	アクションをトリガするメニュー項目

	主要コンポーネント	説明
	<code>ui:checkboxMenuItem</code>	複数選択をサポートしてアクションをトリガできるメニュー項目
	<code>ui:radioMenuItem</code>	単一選択をサポートしてアクションをトリガできるメニュー項目
	<code>ui:menuItemSeparator</code>	メニュー項目の視覚的な分離線
	<code>ui:menuItem</code>	<code>ui:menuList</code> コンポーネントに含まれるメニュー項目の抽象かつ拡張可能なコンポーネント
	<code>ui:menuTrigger</code>	メニューを展開したり折りたたんだりするトリガ
	<code>ui:menuTriggerLink</code>	ドロップダウンメニューをトリガするリンク。このコンポーネントは <code>ui:menuTrigger</code> を拡張します
メッセージ通知	<code>ui:message</code>	さまざまな重要度レベルのメッセージ通知
パスワード	<code>ui:inputSecret</code>	秘密のテキストを入力するための入力項目
ラジオボタン	<code>ui:inputRadio</code>	単一選択のみをサポートする選択可能なオプション
リッチテキスト	<code>ui:inputRichText</code>	リッチテキストを入力するための入力項目
	<code>ui:outputRichText</code>	リッチテキストを表示します
スピナー	<code>ui:spinner</code>	読み込みスピナー
テキストエリア	<code>ui:inputTextArea</code>	複数行のテキストを入力するための入力項目
	<code>ui:outputTextArea</code>	参照のみのテキストエリアを表示します
URL	<code>ui:inputURL</code>	URLを入力するための入力項目
	<code>ui:outputURL</code>	クリック可能な URL を表示します

新しいイベント

イベントにより、コンポーネントにインタラクションのレイヤが追加されます。

次のシステムイベントを使用できるようになりました。システムイベントは、そのライフサイクルの間にフレームワークによって起動されます。これらのイベントは、Lightning アプリケーション/コンポーネント、および Salesforce1 内で処理できます。

属性名	説明
<code>aura:doneRendering</code>	ルートアプリケーションまたはルートコンポーネントの初期表示が完了したことを示します。

属性名	説明
<code>aura:doneWaiting</code>	アプリケーションまたはコンポーネントでサーバ要求への応答の待機が終了したことを示します。このイベントの前には <code>aura:waiting</code> イベントがあります。
<code>aura:locationChange</code>	URL のハッシュ部分に変更されたことを示します。
<code>aura:noAccess</code>	要求したリソースのセキュリティ上の制約により、そのリソースにアクセスできないことを示します。
<code>aura:systemError</code>	エラーが発生したことを示します。
<code>aura:valueChange</code>	値が変更されたことを示します。
<code>aura:valueDestroy</code>	値が破棄処理中であることを示します。
<code>aura:valueInit</code>	値が初期化されたことを示します。
<code>aura:waiting</code>	アプリケーションまたはコンポーネントでサーバ要求への応答を待機していることを示します。

次の `force` イベントを使用できるようになりました。これらのイベントは、Salesforce1 で処理されます。これらのイベントを Salesforce1 外の Lightning アプリケーション/コンポーネントで起動する場合は、必要に応じてイベントを処理する必要があります。

属性名	説明
<code>force:createRecord</code>	指定した <code>entityApiName</code> (「Account」や「myNamespace__MyObject__c」など) の新しいレコードを作成するページを開きます。
<code>force:editRecord</code>	<code>recordId</code> で指定したレコードを編集するページを開きます。
<code>force:navigateToList</code>	<code>listViewId</code> で指定したリストビューに移動します。
<code>force:navigateToObjectHome</code>	<code>scope</code> 属性で指定したオブジェクトホームに移動します。
<code>force:navigateToRelatedList</code>	<code>parentRecordId</code> で指定した関連リストに移動します。
<code>force:navigateToSObject</code>	<code>recordId</code> で指定した <code>sObject</code> レコードに移動します。
<code>force:navigateToURL</code>	指定した URL に移動します。
<code>force:recordSave</code>	レコードを保存します。
<code>force:recordSaveSuccess</code>	レコードが正常に保存されたことを示します。
<code>force:refreshView</code>	ビューを再読み込みします。
<code>force:showToast</code>	メッセージをポップアップに表示します。

次の `ui` イベントを使用できるようになりました。

属性名	説明
<code>ui:collapse</code>	メニューコンポーネントが折りたたまれていることを示します。
<code>ui:expand</code>	メニューコンポーネントが展開されていることを示します。
<code>ui:menuSelect</code>	メニューコンポーネントで1つのメニュー項目が選択されたことを示します。
<code>ui:menuTriggerPress</code>	メニュートリガーがクリックされたことを示します。
<code>ui:validationError</code>	コンポーネントに検証エラーがあることを示します。

Lightning コンポーネントのその他の変更

Lightning コンポーネントでさらに変更が行われました。

このセクションの内容:

大文字と小文字の区別

Lightning コンポーネントのマークアップで、大文字と小文字が区別されるようになりました。

他のエディションに追加された作成のサポート

Lightning コンポーネントの作成が、Developer Edition 以外の組織でサポートされるようになりました。以前は、他の組織のエディションで Lightning コンポーネントを有効にした場合、Lightning コンポーネントを使用することはできても作成することはできませんでした。一部の組織では、この追加ステップにより、新しい Developer Edition 組織で作成された Lightning コンポーネントを使用できます。

名前空間の要件の削除

Lightning コンポーネントでは、組織の名前空間を必要としません。以前は、Lightning コンポーネントで、組織の名前空間を設定する必要がありました。これは、名前空間に伴う複雑さを回避したい小規模な組織にとっては負担となる場合がありました。

デフォルトの名前空間のサポートの追加

Lightning コンポーネントでは、名前空間の設定に関係なく、組織のデフォルトの名前空間がサポートされます。以前は、Lightning コンポーネントで、コンポーネント、カスタムオブジェクトとカスタム項目、Apex クラスへのすべての参照に組織の名前空間を明示的に含める必要がありました。単純なコンポーネントにさえも、この追加作業と詳細事項への注意が必要でした。

Lightning コンポーネント/アプリケーションの拡張

Lightning コンポーネントで別の Lightning コンポーネントを拡張できるようになりました。同様に、Lightning アプリケーションで別の Lightning アプリケーションを拡張できるようになりました。この場合、オブジェクト指向プログラミングから継承概念を取り入れ、それがプレゼンテーションレイヤの開発に適用されません。

参照整合性の検証の追加

Lightning コンポーネントおよびコンポーネントの連動関係に加えられた変更は、変更によって既存のコードが破損しないことを確認するため保存時に検証されます。

Lightning アプリケーションビルダーおよび Lightning ページでの Lightning コンポーネントのサポート

Lightning アプリケーションビルダーおよび Lightning ページでできるようにカスタム Lightning コンポーネントを設定できるようになりました。

大文字と小文字の区別

Lightning コンポーネントのマークアップで、大文字と小文字が区別されるようになりました。

以前は、JavaScript または CSS への参照を除き、Lightning コンポーネントのマークアップで、大文字と小文字は区別されませんでした。Spring'15 では、マークアップで大文字と小文字の区別に注意する必要があります。大文字と小文字は、式でも区別されます。たとえば、`myNamespace__Amount__c` というカスタム項目は、`{!v.myObject.myNamespace__Amount__c}` として参照する必要があります。

他のエディションに追加された作成のサポート

Lightning コンポーネントの作成が、Developer Edition 以外の組織でサポートされるようになりました。以前は、他の組織のエディションで Lightning コンポーネントを有効にした場合、Lightning コンポーネントを使用することはできても作成することはできませんでした。一部の組織では、この追加ステップにより、新しい Developer Edition 組織で作成された Lightning コンポーネントを使用できます。

Visualforce が作成されている Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition のすべてのエディションで、Lightning コンポーネントを作成できるようになりました。Lightning コンポーネントは、すべての組織の開発者コンソールで作成されます。

名前空間の要件の削除

Lightning コンポーネントでは、組織の名前空間を必要としません。以前は、Lightning コンポーネントで、組織の名前空間を設定する必要がありました。これは、名前空間に伴う複雑さを回避したい小規模な組織にとっては負担となる場合がありました。

Spring'15 では、名前空間が設定されていない組織で Lightning コンポーネントを有効化できます。このような組織では、デフォルトの名前空間が使用され、作成操作が簡略化されます。

デフォルトの名前空間のサポートの追加

Lightning コンポーネントでは、名前空間の設定に関係なく、組織のデフォルトの名前空間がサポートされます。以前は、Lightning コンポーネントで、コンポーネント、カスタムオブジェクトとカスタム項目、Apex クラスへのすべての参照に組織の名前空間を明示的に含める必要がありました。単純なコンポーネントにさえも、この追加作業と詳細事項への注意が必要でした。

Spring'15 の Lightning コンポーネントでは、組織の名前空間の代わりに「c」名前空間を使用できます。これにより、コードが簡略化されてより読みやすくなり、切り取りと貼り付け(ブログの投稿などから)や未管理パッケージを使用して他の組織にコードが移植しやすくなります。名前空間が設定されていない組織では、「c」名前空間を使用する必要があります。

大規模な組織やサードパーティのコードを提供または使用する組織(つまり、AppExchange から管理パッケージを使用したり、AppExchange で独自のパッケージを提供する組織)では、名前空間を設定して使用することをお勧めします。

Lightning コンポーネントでの名前空間の使用についての詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

Lightning コンポーネント/アプリケーションの拡張

Lightning コンポーネントで別の Lightning コンポーネントを拡張できるようになりました。同様に、Lightning アプリケーションで別の Lightning アプリケーションを拡張できるようになりました。この場合、オブジェクト指向プログラミングから継承概念を取り入れ、それがプレゼンテーションレイヤの開発に適用されます。

別のコンポーネントを拡張するコンポーネントは、スーパーコンポーネントの属性と登録済みイベントを継承します。継承動作についての詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

次のシステム属性が、<aura:component> および <aura:application> タグで使用できるようになりました。

extensible

コンポーネントまたはアプリケーションが拡張可能な場合、true に設定されます。デフォルトは false です。次に例を示します。

```
<aura:component extensible="true">
```

extends

拡張するコンポーネントまたはアプリケーション。次に例を示します。

```
<aura:component extends="ui:message">
```

abstract

コンポーネントまたはアプリケーションが抽象クラスの場合、true に設定されます。デフォルトは false です。次に例を示します。

```
<aura:component abstract="true">
```

Java などのオブジェクト指向言語では、オブジェクトを部分的に実装して残りの実装を具体的なサブクラスに残すという抽象クラス概念がサポートされています。Java では抽象クラスを直接インスタンス化することはできませんが、非抽象サブクラスをインスタンス化することができます。同様に、Lightning コンポーネントフレームワークでは、部分的に実装して残りの実装を具体的なサブコンポーネントに残すという抽象コンポーネント概念がサポートされています。抽象コンポーネントを使用するには、それを拡張して残りの実装を入力する必要があります。抽象コンポーネントをマークアップで直接使用することはできません。

参照整合性の検証の追加

Lightning コンポーネントおよびコンポーネントの連動関係に加えられた変更は、変更によって既存のコードが破損しないことを確認するため保存時に検証されます。

コンポーネント名、カスタムオブジェクト名とカスタム項目名、クラス名などはすべて、Lightning コンポーネントのマークアップで参照できます。たとえば、カスタムコンポーネント名などを変更すると、変更された項目を参照するコードも、それに合わせて変更する必要があります。カスタムオブジェクト名の変更など、場合によっては、バックグラウンドで自動的に変更できることもあります。そうでない場合は、コードを手動で変更する必要があります。その場合、互換性のない変更を保存しようとする、コンパイルエラーが発生します。

以前は、Lightning コンポーネントの連動関係は、Salesforce に組み込まれ Visualforce および Apex コードを保護する参照整合性の検証には含まれていませんでした。Spring '15 では、Lightning コンポーネントへのこの保護レイヤの追加プロセスが開始されます。このセーフティネットは、まだ Apex および Visualforce のセーフティネットほど完璧ではありませんが、既存のコードが動作を停止するような変更を加えることはきわめて困難です。

Lightning アプリケーションビルダーおよび Lightning ページでの Lightning コンポーネントのサポート

Lightning アプリケーションビルダーおよび Lightning ページで使用できるようにカスタム Lightning コンポーネントを設定できるようになりました。

メモ: Lightning アプリケーションビルダーは現在、パイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用できます。このパイロットプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムへの参加には、追加の契約条件が適用される場合があります。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、このパイロットプログラムへの参加や、特定の期間にこの機能を有効化することは保証できません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

実行する必要がある操作は、次のとおりです。

1. このインターフェースを Lightning コンポーネント `flexipage:availableForAllPageTypes` で実装します。
2. デザインファイルをコンポーネントバンドルに追加します。デザインファイルは、コンポーネントをページまたはアプリケーションに追加できるようにするため、Lightning コンポーネントの設計時の動作 (ビジュアルツールで必要な情報) を記述します。
3. (省略可能) SVG ファイルをコンポーネントバンドルに含めます。SVG ファイルを使用して、Lightning アプリケーションビルダーのコンポーネントペインに表示するときの、コンポーネントのカスタムアイコンを定義できます。

単純な「Hello World」コンポーネントのサンプルコードを次に示します。

```
<aura:component implements="flexipage:availableForAllPageTypes">
  <aura:attribute name="greeting" type="String" default="Hello" />
  <aura:attribute name="subject" type="String" default="World" />

  <div style="box">
    <span class="greeting">{!v.greeting}</span>, {!v.subject}!
  </div>
</aura:component>
```

「Hello World」コンポーネントと共にバンドルに含める design リソースを次に示します。

```
<design:component>
  <design:attribute name="subject" label="Subject" description="Name of the person you
  want to greet" />
  <design:attribute name="greeting" label="Greeting" type="picklist"
  datasource="Hello,Hola,Bienvenue,Shalom" />
</design:component>
```

詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

API

Salesforce と統合されるアプリケーションを作成するには、API を使用します。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Unlimited Edition、および
Performance Edition

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、APIバージョン33.0で新規追加または変更されました。

REST API

REST APIバージョン33.0では、機能が新規追加され、リソースが新規追加および変更されました。

Chatter REST API

モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティWebアプリケーションをコミュニティおよびChatterに統合するには、Chatter REST APIを使用します。

Data.com API

Data.com APIを使用して、最新のData.comレコードにアクセスできます。企業および取引先責任者レコードを検索、照合、および購入できます。

Bulk API

Bulk APIに、2つの新しい要求ヘッダーが追加されました。一方の要求ヘッダーでは、データをアップロードしたときに、Salesforceが行末を読み取る方法を指定できます。もう一方の要求ヘッダーでは、一括クエリに対する自動的な主キー (PK) チャンク分割を有効化できます。

ストリーミング API

ストリーミング APIバージョン33.0では、新機能の汎用ストリーミングが追加されました。

Tooling API

Tooling APIを使用すると、Salesforceアプリケーション用のカスタム開発ツールを作成できます。

SOAP API

SOAP APIバージョン33.0では2つのコールが変更されました。

メタデータ API

組織のカスタムオブジェクト定義やページレイアウトなどのカスタマイズ情報を管理するには、メタデータ APIを使用します。

Publisher.js API

publisher.js APIの3つのイベントで投稿およびソーシャル投稿アクションがサポートされるようになり、これらのアクションとやりとりするカスタムコンソールコンポーネントを作成できるようになりました。

Salesforce コンソール API (インテグレーションツールキット)

ツールキットでは、コンソールをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

Open CTI API

Open CTIでは、Salesforceをカスタマイズしてコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムと統合可能にするメソッドが新規追加および更新されています。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、APIを使用してSalesforceで実行できるアクションのことです。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、API バージョン 33.0 で新規追加または変更されました。

このセクションの内容:

新しいオブジェクト

API バージョン 33.0 の新しいオブジェクトは、次のとおりです。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、API バージョン 33.0 で変更されました。

新しいオブジェクト

API バージョン 33.0 の新しいオブジェクトは、次のとおりです。

ActionLinkGroupTemplate

アクションリンクテンプレートを使用すると、アクションリンク定義を再利用し、アクションリンクをパッケージ化して配布できます。アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、外部サーバまたは Salesforce への API コールを呼び出したりできます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合できます。すべてのアクションリンクはアクションリンクグループに属しており、グループ内のアクションリンクは相互排他的です。

ActionLinkTemplate

アクションリンクテンプレートを使用すると、アクションリンク定義を再利用し、アクションリンクをパッケージ化して配布できます。アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、外部サーバまたは Salesforce への API コールを呼び出したりできます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合できます。すべてのアクションリンクテンプレートは、アクションリンクグループテンプレートに属します。アクションリンクグループがテンプレートに基づいて作成された場合、アクションリンクはそのアクションリンクテンプレートに基づいて作成されます。グループ内に同じアクションリンクを含めることはできません。

AssetOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと Asset レコードを共有するルールを表します。

AssetShare

Asset レコードの共有エントリを表します。

CollaborationGroupRecord

Chatter グループに関連付けられたレコードを表します。

ConnectedApplication

接続アプリケーションとその詳細を表します。すべての項目が参照のみです。

ContentHubItem

Files Connect 外部データソース (Microsoft SharePoint や OneDrive for Business など) のファイルまたはフォルダを表します。

ContentHubRepository

Files Connect 外部データソース (Microsoft SharePoint や OneDrive for Business など) を表します。

ContentNote

Salesforce のメモを表します。このオブジェクトは、API バージョン 32.0 以降で使用できます。

EmailDomainKey

組織のドメインのドメインキーを表します。Salesforce が組織に代わって送信する送信メールの認証に使用されます。

FlowInterview

フローインタビューを表します。フローインタビューは、フローの実行中のインスタンスです。

ForecastingOwnerAdjustment

このオブジェクトは、ForecastingItem を使用して個々の売上予測ユーザが行う各自の売上予測の調整を表します。API バージョン 33 以降で使用できます。これは、マネージャが行う部下の売上予測の調整を表す ForecastingAdjustment オブジェクトとは別のオブジェクトです。

目的

Goal オブジェクトは、名前、説明、状況など、目標のコンポーネントを表します。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

GoalFeed

Goal レコードについて表示されるフィード内の単一フィード項目を表します。目標フィードには、目標に関するフィード、投稿、およびコメントで追跡された項目の目標に対する変更が表示されます。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

GoalHistory

この参照のみのオブジェクトには、Goal オブジェクトに対して行われた変更に関する履歴情報が含まれます。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

GoalLink

2つの目標間のリレーションを表します。これは多対多のリレーションであるため、各目標を他の多数の目標にリンクできます。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

GoalShare

Goal オブジェクトの共有エントリを表します。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

ListViewChart

Salesforce1 リストビューに表示されるグラフを表します。グラフでは、現在表示されているリストビューに基づいて絞り込まれたデータが集計されます。

Metric

Metric オブジェクトは、名前、総計値種別、現在の値など、目標総計値のコンポーネントを表します。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

MetricDataLink

総計値とデータソース(レポートなど)間のリンク。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

MetricDataLinkHistory

この参照のみのオブジェクトには、MetricDataLink オブジェクトに対して行われた変更に関する履歴情報が含まれます。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

MetricFeed

Metric レコードに表示されるフィード内の単一フィード項目を表します。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

MetricHistory

この参照のみのオブジェクトには、Metric オブジェクトに対して行われた変更に関する履歴情報が含まれます。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

MetricShare

Metric オブジェクトの共有エントリを表します。このオブジェクトは現在、拡張目標パイロットに関連付けられています。パイロットプログラムへの参加についての詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

NamedCredential

指定ログイン情報を表します。指定ログイン情報では、コールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを1つの定義内に指定します。指定ログイン情報は、エンドポイントとして指定できるため、認証コールアウトの設定が簡略化されます。

OrderOwnerSharingRule

注文の所有者の注文共有アクセス権を決定するルールを表します。

PartnerNetworkSyncLog

Salesforce の [組織同期ログ] タブに対応します。このタブでは Salesforce システム管理者が、組織同期で実行されるレコードの挿入と更新の複製を追跡できます。PartnerNetworkSyncLog オブジェクトは、組織同期が有効な組織でのみアクセスできます。

PlatformAction

PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトで、ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコード ID に応じて、UI に表示するアクション(標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなど)をクエリできるようにします。

TopicLocalization

トピック名の翻訳バージョンを表します。トピックのローカライズは、コミュニティのナビゲーショントピックと主要トピックにのみ適用されます。

UserProvAccount

Salesforce ユーザプロビジョニングが有効な接続アプリケーションのユーザについて、Salesforce ユーザアカウントをサードパーティ (対象) システム (Google など) のアカウントにリンクする情報を表します。

UserProvAccountStaging

ユーザがユーザプロビジョニングウィザードを実行する間、一時的にユーザアカウント情報を保存します。これは、ユーザがボタンをクリックして対象システムのアカウントを収集および分析するときに UserProvAccount オブジェクトに保存される情報です。

UserProvMockTarget

データをユーザプロビジョニングのためにサードパーティシステムにコミットする前にユーザデータをテストするためのエンティティを表します。

UserProvisioningLog

サードパーティアプリケーションのユーザをプロビジョニングするプロセスで生成されたメッセージを表します。

UserProvisioningRequest

サードパーティサービスシステム(または別の Salesforce 組織)のユーザアカウントを作成、更新、または削除するための個々のプロビジョニング要求を表します。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、API バージョン 33.0 で変更されました。

ActivityHistory

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

[Usage (利用状況)] セクションの並び替え順の制約と例が更新されました。

AssignmentRule

AssignmentRule オブジェクトで、search() コールがサポートされるようになりました。

Approval

Approval オブジェクトで、create()、update()、および upsert() コールがサポートされなくなりました。ApproveComment、OwnerId、RequestComment、および Status 項目で、Create プロパティと Update プロパティがサポートされなくなりました。また、ParentId で Create プロパティがサポートされなくなりました。

AuthProvider

AuthProvider オブジェクトに新規項目 LogoutURL が追加されました。この項目は、ユーザがソーシャルサインオンを使用して認証された場合にログアウト後の特定の移動先を指定します。URL は、http または https プレフィックスで完全修飾する必要があります(https://acme.my.salesforce.com など)。詳細は、[ソーシャルサインオンユーザのログアウトページの選択](#)を参照してください。

AuthSession

AuthSession オブジェクトに新規項目 LoginHistoryId が追加されました。この項目の値は、成功したログインイベントの 18 文字の ID です。

ContentDocumentLink

フィードで追跡可能なレコードタイプの LinkedEntityId で ContentDocumentLink オブジェクトを作成および削除します。そのレコードタイプでフィード追跡が無効な場合でも同様です。組織で Chatter が有効になっている必要があります。

これまで、レコード (Account や Lead など) へのファイルの関連付けは、FeedItem および Comment オブジェクトからか、レコードの Chatter パブリッシャーからのみ可能でした。

ContentVersion

ContentVersion オブジェクトの ContentUrl 項目に最大1,300文字を入力できるようになりました。以前は、255文字のみでした。

DatacloudCompany

DatacloudCompany オブジェクトで queryMore() がサポートされるようになりました。

DatacloudContact

DatacloudContact オブジェクトで queryMore() がサポートされるようになりました。

DatacloudDandBCompany

DatacloudDandBCompany オブジェクトで queryMore() がサポートされるようになりました。

LocationStatus 項目と Name 項目が絞り込み可能になりました。

EmailStatus

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

行動

WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhoId	名前 ID

FeedItem

次の項目が追加されました。

- BestCommentId — Type QuestionPost のフィード項目で最良の回答としてマークされたコメントの ID。
- HasContent — フィード項目にコンテンツがあるかどうかを示します。
- HasLink — フィード項目にリンクが添付されているかどうかを示します。

ForecastingItem

新規項目 HasOwnerAdjustment は、売上予測項目に売上予測所有者が加えた調整が含まれているかどうかを示します。このフラグは、項目に所有者による調整が含まれていて、クエリを実行するユーザにその調整への参照アクセス権がある場合にのみ true になります。

Case

Case オブジェクトに新規項目 FeedItemID が追加されました。この項目には、ケースに関連付けられた Chatter 内の質問の ID がリストされます。

LookedUpFromActivity

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

[Usage (利用状況)] セクションの並び替え順の制約と例が更新されました。

MarketingAction

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

OpenActivity

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

[Usage (利用状況)] セクションの並び替え順の制約と例が更新されました。

OpenActivity

WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhoId	名前 ID

[Usage (利用状況)] セクションの並び替え順の制約と例が更新されました。

ToDo

WhatId および WhoId の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
WhatId	関連先 ID
WhoId	名前 ID

PartnerNetworkConnection

PartnerNetworkConnection オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

- `ConnectionType`: Salesforce to Salesforce 接続が標準か、複製接続かを示します。
- `IsSyncAuditFields`: 複製接続で監査項目が同期されるかどうかを示します。
- `IsSyncMetadata`: 複製接続でユーザメタデータが同期されるかどうかを示します。
- `ReplicationRole`: 複製接続内の Salesforce 組織のロールを示します。

`ConnectionStatus` 項目に、次の 2 つの選択リスト値が追加されました。

- `Disconnecting`: Salesforce to Salesforce 接続が無効化の処理中である場合に使用されます。
- `UsersInitialSync`: 複製接続でユーザレコードの複製が実行中である場合に使用されます。

Network

Network オブジェクトに新規項目 `OptionsShowAllNetworkSettings` が追加されました。この項目は、コミュニティ管理のすべての設定が表示されるか、コミュニティの設定に基づき動的に非表示にしてコミュニティの設定に関連する情報のみが表示されるかを決定します。

Opportunity

このオブジェクトに新規項目 `IsExcludedFromTerritory2Filter` が追加されました。将来の使用のために予約されています。

このオブジェクトに新規項目 `Territory2Id` が追加されました。この項目により、開発者はテリトリーを商談に割り当てることができます。

PersonListMember

`WhatId` および `WhoId` の表示ラベルが変更されました。

項目名	表示ラベル
<code>WhatId</code>	関連先 ID
<code>WhoId</code>	名前 ID

SamlSsoConfig

SamlSsoConfig オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

- `ExecutionUserId`: SAML JIT ハンドラクラスを実行したユーザを示します。
- `RequestSignatureMethod`: SAML 要求の署名に使用されるメソッドを示します。
- `SamlJitHandlerId`: Apex Auth.SamlJitHandler インターフェースを実装するクラスの名前を示します。

Territory2Model

このオブジェクトに新規項目 `LastOppTerrAssignEndDate` が追加されました。この項目は、将来の使用のために予約されています。

Territory2Type

このオブジェクトに新規項目 `Priority` が追加されました。この項目は、将来の使用のために予約されています。

TopicAssignment

- 新規項目 `EntityType` は、トピックが含まれるレコードのオブジェクト種別 (取引先、商談など) を示します。
- `EntityKeyPrefix` 項目で、`idLookup` プロパティがサポートされるようになりました。

User

- このオブジェクトに新規項目 `UserPreferencesProcessAssistantCollapsed` が追加されました。この項目は、ユーザにセールスパスが折りたたまれて表示されるか、非表示になるかを示します。
- `IsBadged` 項目は削除されました。

WebLink

- `WebLink` オブジェクトで、`search()` コールがサポートされるようになりました。
- `PageOrSubjectType` 項目で、値 `MarketingAction` がサポートされなくなりました。

WorkFeedback

`WorkFeedback` オブジェクトに新規項目 `Name` が追加されました。さらに、`QuestionId` 項目の `updateable` プロパティが `false` に変更されました。

WorkFeedbackQuestionSet

`FeedbackType` 項目の `updateable` プロパティが `false` に変更されました。

WorkFeedbackRequest

`WorkFeedbackRequest` オブジェクトで `search()` コールがサポートされるようになり、次の新規項目が追加されました。

- `Description`
- `LastReferencedDate`
- `LastViewedDate`
- `Name`

WorkPerformanceCycle

`WorkPerformanceCycle` オブジェクトに次の新規項目が追加されました。

- `LastReferencedDate`
- `LastViewedDate`

REST API

REST API バージョン 33.0 では、機能が新規追加され、リソースが新規追加および変更されました。

Blob データの挿入および更新 (正式リリース)

これまで、`SObject Basic Information` および `SObject Rows` リソースを使用して、サイズが最大 500 MB のファイルを Salesforce 標準オブジェクトにアップロードできるようにする REST 機能がパイロットとして提供されてきました。この機能が正式リリースされ、`Salesforce CRM Content` にアップロードされるファイルの最大ファイルサイズが 2 GB に増加されました。今後、REST API を使用してより大きなファイルのアップロードを管理できるようになりました。

CORS を使用した REST API へのアクセス

CORS (クロスオリジンリソース共有) は、Web ブラウザが他のオリジンからのリソースを要求 (クロスオリジン要求) できるようにする W3C 勧告です。たとえば、CORS を使用すると、`https://www.example.com` にある JavaScript スクリプトで `https://www.salesforce.com` からのリソースを要求できます。

REST API で、CORS がサポートされるようになりました。Web ブラウザで JavaScript からこの API にアクセスするには、スクリプトを提供するオリジンを CORS ホワイトリストに追加します。

オリジンを CORS ホワイトリストに追加するには、[設定] から [セキュリティのコントロール] > [CORS] を選択します。[新規] をクリックし、オリジンの URL パターンを入力します。

オリジンの URL パターンには、HTTPS とドメイン名、必要に応じてポートが含まれている必要があります。ワイルドカード文字 (*) はサポートされますが、第 2 レベルドメイン名の前にある必要があります。たとえば、`https://*.example.com` では、`example.com` のすべてのサブドメインがホワイトリストに追加されます。

CORS をサポートするブラウザが、Salesforce CORS ホワイトリスト内のオリジンから要求を行うと、Salesforce はオリジンを含む `Access-Control-Allow-Origin` HTTP ヘッダーと、追加の CORS HTTP ヘッダーを返します。オリジンがホワイトリストにない場合、Salesforce は HTTP 状況コード 403 を返します。

OAuth トークンが必要な要求では、OAuth トークンを渡す必要があります。

新しいリソース

Salesforce ヘルプの Limits リソース

`/vXX.X/limits`

これまで、Limits リソースはパイロットとして提供されてきました。Limits リソースを使用すると、組織の制限情報を取得して、残りの API コール数、イベント数、ストレージ容量を簡単に追跡できます。Limits リソースは、REST API バージョン 29.0 以降で、「設定・定義を参照する」権限を持つ API ユーザに対し、正式リリースされました。さらに、このリソースは、次の制限情報の取得にも使用できるようになりました。

- 1 日あたりの汎用ストリーミングイベント数 (組織で汎用ストリーミングが有効な場合)
- レポート非同期実行の結果への同時 REST API 要求数
- REST API を使用したレポート同時同期実行数
- 1 時間あたりの REST API を使用したレポート非同期実行数
- 1 時間あたりの REST API を使用したレポート同期実行数
- 1 時間あたりの REST API を使用したダッシュボード更新数
- 1 時間あたりのダッシュボードの結果への REST API 要求数
- 1 時間あたりの REST API を使用したダッシュボード状況要求数
- 1 日あたりのワークフローメール数
- 1 時間あたりのワークフロータイムトリガ数

このリソースは、Spring '15 リリース後 24 時間以内に使用可能になります。

Subject PlatformAction リソース

`/vXX.X/subjects/PlatformAction`

PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトで、ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコード ID に応じて、UI に表示するアクション (標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなど) をクエリできるようにします。

List Invocable Apex Actions リソース

GET /vXX.X/actions/custom/apex

使用可能なすべての呼び出し可能 Apex アクションのリストを返します。 Apex 呼び出し可能アクションを使用すると、一連のロジックを Apex メソッド内にカプセル化して、 Apex を使用できる場所であればどこにでも使用できます。

応答

```
{
  "actions" : [ {
    "label" : class_label,
    "name" : [namespace__]class_name,
    "type" : "APEX"
  } ]
}
```

List Invocable Apex Actions Describe リソースGET /vXX.X/actions/custom/apex/*[namespace__]class_name*

指定された呼び出し可能 Apex アクションのメタデータを返します。

応答

```
{
  "description" : null,
  "inputs" : [ {
    "byteLength" : 0,
    "description" : null,
    "label" : variable_label,
    "maxOccurs" : (1 | 2000),
    "name" : variable_name,
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : (null | sObject_type),
    "type" : data_type
  },
  ... ],
  "label" : class_label,
  "name" : [namespace__]class_name,
  "output" : [ {
    "description" : null,
    "label" : (variable_label | "outputs"),
    "maxOccurs" : (1 | 2000),
    "name" : (variable_name | "outputs"),
    "picklistValues" : null,
    "subjectType" : (null | sObject_type),
    "type" : data_type
  },
  ... ],
  "standard" : false,
  "targetEntityName" : null,
  "type" : "APEX"
}
```

Invoke an Invocable Apex Actions リソース

POST /v33.0/actions/custom/apex/[**namespace__**] **class_name**

指定された呼び出し可能 Apex アクションを呼び出します。

要求

```
{
  "inputs" : [ {
    "variable_name" : variable_value,
    ...
  }, {
    "variable_name" : variable_value,
    ...
  },
  ... ]
}
```

応答

```
{
  "outputs" : [ {
    "variable_name" : variable_value,
    ...
  }, {
    "variable_name" : variable_value,
    ...
  },
  ... ]
}
```

変更されたリソース**Salesforce ヘルプの Suggestions リソース**

Spring '15 では、中国語、日本語、および韓国語のクエリの `q` パラメータに必要なのは 1 文字のみです。

クエリ文字列に対し、区切りの空白なしの連続した 200 文字という制限も追加されました。

さらに、次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- ActionEmail
- ActionTask
- ContentVersion
- Document
- Product2
- Solution
- WorkflowRule

Query Resource Explain パラメータ

クエリリソースを使用して、Salesforce がレポートまたはリストビューに対してクエリをどのように最適化したかに関するフィードバックを取得できるようになりました。これを行うには、`explain` パラメータに

クエリリソースを使用するとき、クエリ文字列の代わりにレポート ID またはリストビュー ID を使用します。次の例では、レポート ID を使用しています。

```
/services/data/v33.0/query/?explain=00OD0000001hCzMMAU
```

クエリリソースからの応答は、Salesforce による最適化の、より多くの詳細が含まれるように改善されました。これらの詳細は、応答の JSON データのメモ項目で提供されます。次の例は、Salesforce の Merchandise カスタムオブジェクトで IsDeleted 項目のインデックスが作成されていなかったため、この項目を最適化に使用できなかったことを示す抜粋です。

```
{
  ...
  "notes" : [ {
    "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
    "fields" : [ "IsDeleted" ],
    "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
  } ],
  ...
}
```

Process Rules リソース

Process Rules リソースは、以前の説明にあった「すべてのワークフロー」ではなく、すべての有効なワークフローを返します。

Chatter REST API

モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティ Web アプリケーションをコミュニティおよび Chatter に統合するには、Chatter REST API を使用します。

 **メモ:** Salesforce で Chatter およびコミュニティのカスタム操作を作成するには、[ConnectApi \(Chatter in Apex\)](#) を使用します。

このセクションの内容:

[Chatter REST API の全般的な更新](#)

[新規および変更された Chatter REST API リソース](#)

[新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ](#)

[新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ](#)

Chatter REST API の全般的な更新

アクションリンクを使用したサードパーティおよび Salesforce サービスのフィードへの統合 (正式リリース)

アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、Salesforce または外部サーバへの API コールを呼び出したりできます。アクションリンクには、URL と HTTP メソッドが含まれ、リクエストボディとヘッダー情報 (認証用の OAuth トークンなど) を含めることができます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサード

パーティサービスをフィードに統合することで、ユーザはアクションを実行して生産性を高め、イノベーションを促進できます。

たとえば、架空の3Dプリントショップ「BuildIt」が、アクションリンクを使用して Salesforce に統合される AppExchange アプリケーションを作成したとします。BuildIt の顧客は、このアプリケーションをインストールすると、BuildIt の Web サイトへのアクセス、アカウントの作成、BuildIt に部品を注文できるように特定のユーザを招待する Salesforce へのアクションリンクを含む投稿の送信を行えます。このサンプルフィード要素は、BuildIt の顧客である Pam Jones からその部下の Jin Chang に投稿されたものです。[ダウンロード]アクションリンクをクリックすると、BuildIt Web サイトから部品情報を含むファイルがダウンロードされます。[注文]アクションリンクをクリックすると、Jin Chang に BuildIt Web サイトのページが表示されて部品を注文できます。



アクションリンクをインスタンス化し、フィード要素を使用して投稿するためのワークフローは、次のようになります。

1. (省略可能) アクションリンクテンプレートを作成します (このステップの詳細は、[アクションリンクテンプレートを作成することによるアプリケーションでのアクションリンクの配布](#)を参照)。
2. `/services/data/v33.0/connect/action-link-group-definitions` に対して POST 要求を行い、Action LinkGroupDefinitionInput リクエストボディを渡してアクションリンクグループ定義をインスタンス化します。応答には、新しくインスタンス化されたアクションリンクグループの ID が含まれています。この ID を次のステップでフィード項目に関連付けます。
3. `/services/data/v33.0/chatter/feed-elements` に対して POST 要求を行い、FeedItem input リクエストボディを渡します。前のステップで返されたアクションリンクグループ ID を使用して、アクションリンクグループをフィード要素に関連付け、そのフィード要素を投稿します。

ヒント: 詳細な手順は、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「アクションリンクの定義とフィード要素を使用した投稿」を参照してください。

アクションリンクテンプレートを作成することによるアプリケーションでのアクションリンクの配布

[設定] でアクションリンクテンプレートを作成し、Chatter REST API または Apex から共通のプロパティを持つアクションリンクグループをインスタンス化できます。テンプレートをパッケージ化して他の Salesforce 組織に配布できます。

アクションリンクテンプレートでは、バインド変数がサポートされます。バインド変数は、アクションリンクがテンプレートから作成される時に変数データを取り込めるようにするプレースホルダです。テンプレートにバインド変数を指定し、そのテンプレートからアクションリンクグループをインスタンス化するときに変数の値を設定します。たとえば、API バージョン番号、ユーザ ID、または OAuth トークンにバインド変数を使用します。

アクションリンクテンプレートでは、コンテキスト変数もサポートされます。コンテキスト変数は、アクションリンクを実行したユーザとアクションリンクが呼び出されたコンテキストに関する情報をサーバ側のコードに渡すために、Salesforce によって入力されるプレースホルダです。

バインド変数とコンテキスト変数は、アクションリンクテンプレートの [アクション URL]、[HTTP リクエストボディ]、および [HTTP ヘッダー] 項目で使用できます。アクションリンクグループテンプレートの公開後、バインド変数は、これらの項目間で移動でき、削除もできますが、新規追加はできません。これらの項目のコンテキスト変数は、テンプレートの公開後も移動、追加、削除できます。テンプレートの公開後、これらの項目の他のコンテンツも編集できますが、他の項目は編集できません。

テンプレートからアクションリンクをインスタンス化し、フィード要素を使用して投稿するためのワークフローは、次のようになります。

1. アクションリンクテンプレートを作成します。
 - a. [設定] で、[作成] > [アクションリンクテンプレート] をクリックし、アクションリンクグループテンプレートを作成します。

The screenshot shows the 'Action Link Group Template Edit' interface. It includes the following fields and options:

- Name:** Doc Example
- Namespace Prefix:** (empty)
- Developer Name:** Doc_Example
- Category:** Primary action (dropdown menu)
- Executions Allowed:** Once per User (dropdown menu)
- Hours until Expiration:** (empty)

Buttons: Save, Save & New, Cancel (top); Save, Save & New, Cancel (bottom). A red bar indicates required information.

- b. 各アクションリンクグループに、少なくとも1つのアクションリンクが必要です。アクションリンクグループテンプレートとアクションリンクテンプレートは主従関係にあります。アクションリンクテンプレートを次のように作成します。

- c. アクションリンクテンプレートをアクションリンクグループテンプレートに追加し終わったら、アクションリンクグループテンプレートに戻り、公開します。

2. SQL クエリ

`/services/data/v33.0/query?q=SELECT+id+FROM+ActionLinkGroupTemplate+WHERE+DeveloperName='Doc_Example'` を実行してテンプレート ID を取得します。

3. `POST /services/data/v33.0/connect/action-link-group-definitions` 要求を実行して、テンプレートからアクションリンクグループをインスタンス化します。テンプレート ID とテンプレートバインド (バインド変数のキーと値) を Action Link Definition Input リクエストボディに指定します。応答には、新しくインスタンス化されたアクションリンクグループの ID が含まれています。この ID を次のステップでフィード項目に関連付けます。
4. `POST /services/data/v33.0/chatter/feed-elements` 要求を実行します。Feed Item Input リクエストボディで、アクションリンクグループ ID を指定してアクションリンクをフィード項目に関連付けます。

ヒント: 詳細な手順は、『*Chatter REST API 開発者ガイド*』の「テンプレートのアクションリンクの定義とフィード要素を使用した投稿」を参照してください。

アクションリンクコンテキスト変数を使用したサーバ側コードへのコンテキスト情報の引き渡し

コンテキスト変数を使用して、アクションリンクを実行したユーザとアクションリンクが呼び出されたコンテキストに関する情報を、アクションリンクの呼び出しによって実行された HTTP 要求に渡すことができます。

コンテキスト変数は、Action Link Definition Input リクエストボディまたは

ConnectApi.ActionLinkDefinitionInput オブジェクトの `actionUrl`、`headers`、および `requestBody` プロパティで使用できます。コンテキスト変数はまた、アクションリンクテンプレートの [アクション URL]、[HTTP リクエストボディ]、および [HTTP ヘッダー] 項目でも使用できます。テンプレートの公開後も、これらの項目は編集 (コンテキスト変数の追加と削除を含む) できます。

次のコンテキスト変数があります。

コンテキスト変数	説明
{!actionLinkId}	ユーザが実行したアクションリンクの ID。
{!actionLinkGroupId}	ユーザが実行したアクションリンクが含まれるアクションリンクグループの ID。
{!communityId}	ユーザがアクションリンクを実行したコミュニティの ID。内部組織の場合、値は空のキー "00000000000000000000" になります。
{!communityUrl}	ユーザがアクションリンクを実行したコミュニティの URL。内部組織の場合、値は空の文字列 "" になります。
{!orgId}	ユーザがアクションリンクを実行した組織の ID。
{!userId}	アクションリンクを実行したユーザの ID。

たとえば、あなたが Survey Example という会社に勤務していて、「Survey Example for Salesforce」というアプリケーションを Salesforce AppExchange 用に作成したとします。会社 A には「Survey Example for Salesforce」がインストールされています。会社 A の誰かが `surveyexample.com` にアクセスしてアンケートを作成します。Survey Example のサーバ側コードは、会社 A の Salesforce 組織に本文テキスト「Take a survey (アンケートに回答してください)」と、表示ラベル [OK] のアクションリンクを含むフィード項目を作成します。

そのアクションリンクの [HTTP リクエストボディ] または [アクション URL] に `{!userId}` コンテキスト変数が含まれる場合、ユーザがフィードのアクションリンクをクリックすると、Salesforce はクリックしたユーザの ID を送信します。

アクションリンクを作成する Survey Example のサーバ側コードに `{!actionLinkId}` コンテキスト変数が含まれる場合、Salesforce からの応答でアクションリンクの ID が返されるので、データベースに保存できます。

次の例では、アクションリンクテンプレートの [アクション URL] に `{!userId}` コンテキスト変数が含まれています。

ヒント: バインド変数とコンテキスト変数は同じ項目で使用できます。たとえば、アクション URL `https://www.example.com/{!Bindings.apiVersion}/doSurvey?salesforceUserId={!userId}` にはバインド変数とコンテキスト変数が含まれています。

アクションリンクのパイロットから正式リリースへの移行

API バージョン 33.0 では、いくつかの新規プロパティが追加されています。さらに、いくつかのプロパティ値が変更されています。次のトピックには、変更のリストがあります。

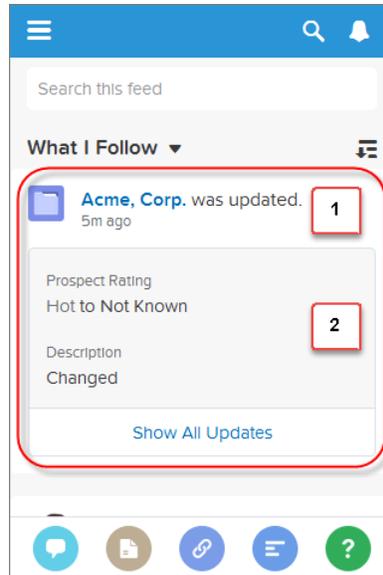
- [アクションリンクのリクエストボディ](#) (ページ 323)
- [アクションリンクのレスポンスボディ](#) (ページ 325)

変更追跡フィードを集約したバンドル投稿の取得 (正式リリース)

バンドル投稿は、相対的な時間差が10分以内の変更追跡フィードを1つの汎用フィード要素に集約してフィードを読みやすくします。

Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーションのこの機能についての詳細は、[1つの投稿にバンドルされた複数のレコード更新の表示](#)を参照してください。

バンドル投稿は、フィード内のフィード要素を表すリソースへの要求によって返されます (GET `/chatter/feeds/news/me/feed-elements` など)。



バンドルは、バンドル機能を備えた汎用フィード要素です。次のバンドルレイアウト要素があります。

1. **ヘッダー**—バンドルには、Generic Feed Element レスポンスボディの header が表示されます。このバンドルの場合、このテキストは [Acme, Corp. was updated. (Acme 社が更新されました。)] です。ヘッダーの下にある時間は、relativeCreatedDate プロパティです。
2. **補助内容**—バンドルには、フィード要素の Tracked Change Bundle Capability 内にネストされた最初の 2 つの Feed Tracked Change レスポンスボディについて、fieldName と、oldValue および newValue プロパティが表示されます。変更追跡フィードが 3 つ以上ある場合、バンドルには [すべての更新を表示] リンクが表示されます。

CORS (クロスオリジンリソース共有) を使用した JavaScript から Salesforce リソースへのアクセス

CORS は、Web ブラウザが他のオリジンからのリソースを要求 (クロスオリジン要求) できるようにする W3C 勧告です。たとえば、CORS を使用すると <https://www.example.com> の JavaScript スクリプトが <https://www.salesforce.com> にあるリソースを要求できます。

Spring '15 では、すべての組織で CORS が有効化され、REST API でもサポートされます。

新規および変更された Chatter REST API リソース

これらのリソースについての詳細は、『*Chatter REST API 開発者ガイド*』の「Chatter REST API リソース」を参照してください。

Capabilities

フィード要素の発生源機能へのアクセス

フィード要素にこの機能がある場合、そのフィード要素はフィードアクションによって作成されています。発生源とは、フィードアクションが含まれていた元のフィード要素とそのフィードアクションを実行したユーザを示します。

発生源機能にアクセスするには、`/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/origin` に対して GET 要求を実行します。

Communities

フラグ付きファイルの検索

コミュニティ内のフラグ付きファイルをクエリするに

は、`/connect/communities/communityId/chatter/files/moderation` に対して、新しい `q` パラメータを指定して GET 要求を実行します。

Files

ルートフォルダの同期

ルートフォルダを Salesforce Files Sync と同期するには、`/chatter/folders/folderId` に対して、新しい `isInMyFileSync` パラメータまたは更新された Folder Input を指定して PATCH 要求を実行します。一度ルートフォルダを同期したら、このパラメータまたは Folder Input を使用して設定を元に戻すことはできません。

`/chatter/folders/folderId/items` に対して、新しい `isInMyFileSync` パラメータを指定して POST 要求を実行してもルートフォルダを同期できます。一度ルートフォルダを同期したら、このパラメータを使用して設定を元に戻すことはできません。

同期した項目の絞り込み

同期した項目を絞り込むには、`/chatter/folders/folderId/items` に対し、新しい `filter` パラメータを指定して GET 要求を実行します。フォルダで同期されていない項目を除外するには、値 `isInMyFileSync` を使用します。

Groups

グループに関連付けられたレコードの取得

グループに関連付けられたレコードを取得するには、`/chatter/groups/groupID/records` に対して GET 要求を実行します。

Recommendations

実行されたアクションに基づいたおススメの取得

実行されたアクションに基づいて新しいおススメを取得するには、次のリソースに対し、新しい `contextAction` および `contextObjectId` パラメータを指定して GET 要求を実行します。

- `/chatter/users/userId/recommendations`
- `/chatter/users/userId/recommendations/action`
- `/chatter/users/userId/recommendations/action/objectCategory`
- `/chatter/users/userId/recommendations/action/idPrefix`

 **メモ:** バージョン 33.0 以降では、`followed` および `viewed` 要求パラメータの代わりに、`contextAction` および `contextObjectId` 要求パラメータを使用します。

カスタムのおススメ

コミュニティマネージャ(「コミュニティの作成および設定」または「コミュニティの管理」権限を持つユーザ)および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみが、カスタムのおススメのアクセスと作成

を行うことができます。これらのおすすめは、Salesforce1 で Napili や Salesforce タブと Visualforce テンプレートを使用して、および Chatter REST API を介して、コミュニティのフィードでのみ使用できます。

おすすめ定義のリスト取得、おすすめ定義の作成

おすすめ定義のリストを取得する場合、または新しいおすすめ定義を作成する場合は、新しい `/connect/recommendation-definitions` リソースに対して GET または POST 要求を実行します。

おすすめ定義に関する情報の取得、おすすめ定義の変更または削除

おすすめ定義に関する情報を取得する場合、またはおすすめ定義を変更または削除する場合は、新しい `/connect/recommendation-definitions/recommendationDefinitionId` リソースに対して GET、PATCH、または DELETE 要求を実行します。

おすすめ定義の写真の取得、アップロード、変更、および削除

おすすめ定義の写真に関する情報を取得する場合、またはおすすめ定義の写真をアップロード、変更、削除する場合は、新しい `/connect/recommendation-definitions/recommendationDefinitionId/photo` リソースに対して GET、PUT、PATCH、または DELETE 要求を実行します。

スケジュール済みおすすめ定義のリスト取得、スケジュール済みおすすめの作成

スケジュール済みおすすめのリストを取得する場合、または新しいスケジュール済みおすすめを作成する場合は、新しい `/connect/scheduled-recommendations` リソースに対して GET または POST 要求を実行します。

スケジュール済みおすすめに関する情報の取得、スケジュール済みおすすめの変更または削除

スケジュール済みおすすめに関する情報を取得する場合、またはスケジュール済みおすすめを変更または削除する場合は、新しい `/connect/scheduled-recommendations/scheduledRecommendationId` リソースに対して GET、PATCH、または DELETE 要求を実行します。

Topics

最大5個のトピックのマージ(ベータ)

指定されたトピックに最大5個のトピックをマージするには、`/connect/topics/topicId` リソースに対して、新しい `idsToMerge` パラメータを指定して PATCH 要求を実行します。

 **メモ:** トピックのマージはベータ版で、既知の制限があります。 [IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

これらのリクエストボディについての詳細は、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「Chatter REST API リクエストボディ」を参照してください。

Action Links

Action Link Definition Input

`labelKey` プロパティで使用可能な定義済みキーおよび表示ラベルのリストが更新されました。完全なリストは、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「アクションリンクの表示ラベル」を参照してください。

`method` プロパティの値が変更されました。バージョン33.0以降では新しい値を使用する必要があります。次の表は、古い値と新しい値の対応付けを示します。

古い method プロパティ値	新しい method プロパティ値
Delete	HttpDelete
Get	HttpGet
Head	HttpHead
Patch	HttpPatch
Post	HttpPost
Put	HttpPut

Action Link Group Definition Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `templateBindings` — Action Link Template Binding Input リクエストボディのコレクション。コレクションの各項目が、アクションリンクテンプレートのバインド変数値またはカスタムユーザ別名に入力されます。バインド変数またはカスタムユーザ別名を使用するアクションリンクテンプレートからこのアクションリンクグループをインスタンス化するには、すべてのバインド変数とカスタムユーザ別名の値を指定する必要があります。
- `templateId` — このアクションリンクグループのインスタンス化に使用されたアクションリンクグループテンプレートの ID。

Action Link Input

`status` プロパティの値が変更されました。バージョン 33.0 以降では新しい値を使用する必要があります。次の表は、古い値と新しい値の対応付けを示します。

古い status プロパティ値	新しい status プロパティ値
Failed	FailedStatus
New	NewStatus
Pending	PendingStatus
Successful	SuccessfulStatus

Action Link Template Binding Input

アクションリンクテンプレートのバインド変数値に入力されるキー-値ペア。

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `key` — [設定] でアクションリンクテンプレートに指定されたバインド変数キーの名前。たとえば、テンプレートのバインド変数が `{!Binding.firstName}` の場合、キーは `firstName` です。
- `value` — バインド変数キーの値。たとえば、キーが `firstName` の場合、この値は `Joan` になります。

Files

Folder Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `isInMyFileSync` — フォルダが Salesforce Files Sync と同期されるかどうかを示します。

`isInMyFileSync` 設定は、ルートフォルダでのみ有効です。一度 `true` に設定すると、`isInMyFileSync` を `false` に設定することはできません。

Recommendations

コミュニティマネージャ(「コミュニティの作成および設定」または「コミュニティの管理」権限を持つユーザ)および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみが、カスタムのおすすめのアクセスと作成を行うことができます。これらのおすすめは、Salesforce1 で Napili や Salesforce タブと Visualforce テンプレートを使用し、および Chatter REST API を介して、コミュニティのフィードでのみ使用できます。

Recommendation Definition Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `actionUrl` — おすすめに基づいて行動するための URL (グループに参加するための URL など)。
- `explanation` — おすすめの説明 (本文)。
- `name` — おすすめ定義の名前。この名前が [設定] に表示されます。
- `title` — おすすめ定義のタイトル。

Scheduled Recommendation Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `rank` — スケジュール済みおすすめの相対的なランク。1 から開始する昇順の整数で示されます。
- `recommendationDefinitionId` — このスケジュール済みおすすめによってスケジュールされたおすすめ定義の ID。

Topics

Topic Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `idsToMerge` — マージする最大 5 個のトピック ID のリスト。

 **メモ:** トピックのマージはベータ版で、既知の制限があります。 [IdeaExchange](#) でフィードバックをお寄せください。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

これらのレスポンスボディについての詳細は、『[Chatter REST API 開発者ガイド](#)』の「Chatter REST API レスポンスボディ」を参照してください。

Action Links

Action Link Definition

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `templateId` — アクションリンクがアクションリンクテンプレートからインスタンス化された場合、そのテンプレートのID。アクションリンクがテンプレートからインスタンス化されていない場合、値は `null` です。

`method` プロパティに、新しい値が追加されました。次の表は、古い値と新しい値の対応付けを示します。

古い <code>method</code> プロパティ値	新しい <code>method</code> プロパティ値
Delete	HttpDelete
Get	HttpGet
Head	HttpHead
Patch	HttpPatch
Post	HttpPost
Put	HttpPut

Action Link Group Definition

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `templateId` — アクションリンクグループがアクションリンクグループテンプレートからインスタンス化された場合、そのテンプレートのID。アクションリンクグループがテンプレートからインスタンス化されていない場合、値は `null` です。

Platform Action

このレスポンスボディには、新しい `createdRecords` プロパティがあります。このプロパティは、このアクションがコンテキストユーザによって呼び出された後にそのアクションによって作成されたレコードのコレクションです。

`status` プロパティに、新しい値が追加されました。次の表は、古い値と新しい値の対応付けを示します。

古い <code>status</code> プロパティ値	新しい <code>status</code> プロパティ値
Failed	FailedStatus
New	NewStatus
Pending	PendingStatus
Successful	SuccessfulStatus

`type` プロパティの `AnchorAction` 値が `ProductivityAction` に変更されました。

Capabilities

Content Capability

投稿されたフィード要素からコンテンツが削除された場合、またはコンテンツへのアクセス権が非公開に変更された場合、`Content Capability` は存在しますが、そのプロパティのほとんどが `null` になります。

Origin Capability

フィード要素にこの機能がある場合、そのフィード要素はフィードアクションによって作成されています。この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `actor` — フィードアクションを実行したユーザ。
- `originRecord` — フィードアクションが含まれるフィード要素への参照。

Question and Answers Capability

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `escalatedCase` — 質問の投稿がエスカレーションされた場合のエスカレーション先ケース。

Files

Folder

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `isInMyFileSync` — フォルダが Salesforce Files Sync と同期されるかどうかを示します。

Groups

Features

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `chatterGroupRecords` — Chatter グループにレコードを関連付けられるかどうかを指定します。
- `chatterGroupRecordSharing` — Chatter レコードがグループに追加されたとき、そのレコードがグループメンバー間で暗黙的に共有されるかどうかを指定します。

Group Record

グループに関連付けられたレコード。

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — グループの ID。
- `record` — グループに関連付けられたレコードに関する情報。
- `url` — グループに関連付けられたレコードへの URL。

Group Record Page

グループに関連付けられたレコードのページ設定されたリスト。

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページへの URL。
- `nextPageUrl` — 次のページへの URL。
- `previousPageUrl` — 前のページへの URL。
- `records` — グループに関連付けられたレコードのコレクション。
- `totalRecordCount` — グループに関連付けられたレコードの総数。

Recommendations

コミュニティマネージャ (「コミュニティの作成および設定」または「コミュニティの管理」権限を持つユーザ) および「すべてのデータの編集」権限を持つユーザのみが、カスタムのおすすめのアクセスと作成を行う

ことができます。これらのおススメは、Salesforce1 で Napili や Salesforce タブと Visualforce テンプレートを使用して、および Chatter REST API を介して、コミュニティのフィードでのみ使用できます。

Recommendation Definition

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `actionUrl` — このおススメに基づいて行動するための URL。
- `explanation` — おススメ定義の説明。
- `id` — おススメ定義の 18 文字の ID。
- `name` — おススメ定義の名前。この名前が [設定] に表示されます。
- `photo` — おススメ定義の写真。
- `title` — おススメ定義のタイトル。
- `url` — おススメ定義の Chatter REST API リソースへの URL。

Recommendation Definition Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `recommendationDefinitions` — おススメ定義のリスト。
- `url` — おススメ定義コレクションの Chatter REST API リソースへの URL。

Scheduled Recommendation

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — スケジュール済みおススメの 18 文字の ID。
- `rank` — このスケジュール済みおススメの順序を決めるランク。
- `recommendationDefinitionRepresentation` — このスケジュール済みおススメによってスケジュールされたおススメ定義。
- `url` — スケジュール済みおススメの Chatter REST API リソースへの URL。

Scheduled Recommendation Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `scheduledRecommendations` — スケジュール済みおススメのリスト。
- `url` — スケジュール済みおススメコレクションの Chatter REST API リソースへの URL。

Topics

Topic

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `isBeingDeleted` — トピックを現在削除中かどうかを示します。トピックが削除された後、トピックを取得しようとすると、応答は 404: Not Found になります。

Data.com API

Data.com API を使用して、最新の Data.com レコードにアクセスできます。企業および取引先責任者レコードを検索、照合、および購入できます。

すべての Datacloud オブジェクトで `queryMore()` をサポート

- `LIMIT` が指定されていない場合、`queryMore()` は応答全体を 25 レコードずつのチャンクに分けて返します。結果全体は一度に 25 レコードずつスクロールできます。
- `LIMIT` が 1 ~ 100 に設定されていると、実際のレコード数または `LIMIT` 値と等しいレコード数のいずれか小さい方のレコードが返されます。次のクエリは、1,000件を超えるレコードが含まれる応答から最初の 75レコードのみを返します。次のページは返されません。

```
SELECT City,State,Street,CompanyId
FROM DatacloudCompany
WHERE Name like 'Salesforce'
LIMIT 75
```

- 100 レコードずつのチャンクに分かれた大きな応答をスクロールするには、応答内のレコード数以上の `LIMIT` を指定します。たとえば、1,900レコードが含まれる応答があり、`LIMIT` が 2,000 に設定されている場合、応答全体を 100レコードずつのチャンクでスクロールできます。スクロールできるのは `LIMIT` で指定された数のレコードのみです。`LIMIT` が、応答内のレコード数よりも小さい場合、`queryMore()` は `LIMIT` 値で指定された数のレコードのみを処理します。

`DatacloudDandBCompany` オブジェクトの `Name` および `LocationStatus` に基づいた絞り込み

`DatacloudDandBCompany` オブジェクトの `LocationStatus` および `Name` に基づいて絞り込みができるようになりました。

項目	=	!=	<	<=	>	>=	LIKE	IN	NOT IN	ORDER BY
LocationStatus	√							√		
Name	√						√	√		

Bulk API

Bulk API に、2つの新しい要求ヘッダーが追加されました。一方の要求ヘッダーでは、データをアップロードしたときに、Salesforce が行末を読み取る方法を指定できます。もう一方の要求ヘッダーでは、一括クエリに対する自動的な主キー (PK) チャンク分割を有効化できます。

Line Ending ヘッダー

一括アップロードジョブを作成するとき、Line Ending 要求ヘッダーを使用すると、データ型が [テキストエリア] および [ロングテキストエリア] の項目について、行末を改行 (LF) または行頭復帰/改行 (CRLF) のどちらとして読み取るかを指定できます。

たとえば、行末を CRLF として読み取る場合は、`Sforce-Line-Ending: CRLF` のように指定します。

エディション

使用可能なエディション:

Developer Edition、**Professional** Edition (アドオン)、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

PK Chunking ヘッダー

PK Chunking 要求ヘッダーを使用すると、一括クエリに対する自動的な主キー (PK) チャンク分割を有効化できます。PK Chunking では、非常に大きなテーブルに対する一括クエリを、クエリされるレコードのレコード ID (主キー) に基づいたチャンクに分割します。各チャンクは、別個のバッチとして処理されて 1 日あたりのバッチ制限にカウントされます。また、その結果は別個にダウンロードする必要があります。PK Chunking は、Account、Campaign、CampaignMember、Case、Contact、Lead、LoginHistory、Opportunity、Task、User の各オブジェクトとカスタムオブジェクトでサポートされます。

Salesforce は、レコード数が 1,000 万を超えるテーブルをクエリする場合や、一括クエリがいつもタイムアウトしてしまう場合に PK Chunking を有効化することをお勧めします。ただし、PK Chunking の有効性は、クエリおよびクエリされるデータの詳細に応じて異なります。

たとえば、1つのチャンクのサイズを 50,000 レコードとして PK Chunking を有効化する場合は、`sforce-Enable-PKChunking: chunkSize=50000` のように指定します。

ストリーミング API

ストリーミング API バージョン 33.0 では、新機能の汎用ストリーミングが追加されました。

汎用ストリーミング (正式リリース)

これまで汎用ストリーミングはパイロットとして提供されてきました。このストリーミング API 機能を使用すると、Salesforce データの変更に関連付けられていないイベントの通知を送信できます。汎用ストリーミングを使用して、特定のチームや組織全体にカスタム通知を送信したり、Salesforce 以外のイベントの通知を送信したりできます。汎用ストリーミングは正式にリリースされました。詳細は、『[Force.com ストリーミング API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

この機能は、Spring '15 リリース後 24 時間以内に使用可能になります。

Tooling API

Tooling API を使用すると、Salesforce アプリケーション用のカスタム開発ツールを作成できます。

Tooling API バージョン 33.0 が変更され、次の新機能が追加されました。

機能	説明
メタデータ名前空間	以前のバージョンの SOAP Tooling API では、メタデータ型の要素は、API の sObject と同じ名前空間 <code>tooling.soap.sforce.com</code> で定義されていました。これらの型を一意に命名できるように、サフィックス「Metadata」がメタデータ型に追加されました。このバージョンの API では、新しい名前空間 <code>metadata.tooling.soap.sforce.com</code> が導入され、サフィックスは使用されなくなりました。古い名前は、古い API エンドポイントに対するクライアントで引き続き機能します。
SOSL サポート	Tooling API に SOSL (Salesforce Object Search Language) サポートが追加されました。

Tooling API バージョン 33.0 が変更され、次の新規オブジェクトが追加されました。

オブジェクト	説明
AutoResponseRule	mns 名前空間に AutoResponseRule および AssignmentRule オブジェクトが新規追加されました。以前の AutoResponseRule および AssignmentRule オブジェクトは引き続き tns 名前空間で使用できます。
BusinessProcess	ビジネスプロセスのメタデータを表します。
CustomFieldMember	カスタム項目メンバーのメタデータを表します。
CustomTab	カスタムタブのメタデータを表します。
FieldSet	項目のグループのメタデータを表します。
RecentlyViewed	現在のユーザが最近表示したか、関連レコードを表示して最近参照したレコードを表します。

Tooling API バージョン 33.0 では、次の項目が変更されました。記載がない限り、すべて新規項目です。

オブジェクト	項目
ApexTrigger	<p>ApiVersion — このトリガの API バージョン。どのトリガにも、作成時に API バージョンが指定されます。</p> <p>Body — Apex トリガの定義。最大 100 万文字です。</p> <p>BodyCrc — クラスファイルまたはトリガファイルの CRC (周期的冗長チェック)。</p> <p>EntityDefinition — このオブジェクトに関連付けられている EntityDefinition オブジェクト。</p> <p>EntityDefinitionId — このオブジェクトに関連付けられている EntityDefinition オブジェクトの ID。</p> <p>IsValid — トリガが最後にコンパイルされた後に連動メタデータが変更されたか (true)、否か (false) を示します。</p> <p>LengthWithoutComments — コメントを除くトリガの長さ。</p> <p>Metadata — トリガのメタデータ。</p> <p>Status — Apex トリガの現在の状況。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Active — トリガは有効です。 • Inactive — トリガは無効ですが、削除されてはいません。 • Deleted — トリガは削除のマークが付いています。管理パッケージの更新時にクラスを削除できるため、管理パッケージに利用すると便利です。 <p> メモ: Inactive は ApexClass の場合は無効です。詳細は、『Force.com メタデータ API 開発者ガイド』を参照してください。</p> <p>UsageAfterDelete — トリガが after delete トリガか (true)、否か (false) を指定します。</p>

オブジェクト	項目
	<p>UsageAfterInsert — トリガが <code>after insert</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageAfterUndelete — トリガが <code>after undelete</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageAfterUpdate — トリガが <code>after update</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageBeforeDelete — トリガが <code>before delete</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageBeforeInsert — トリガが <code>before insert</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageBeforeUpdate — トリガが <code>before update</code> トリガか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>UsageIsBulk — トリガが一括トリガとして定義されているか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。</p> <p> メモ: この項目は、Salesforce API バージョン 10.0 以降の Apex トリガでは使用されません。バージョン 10.0 からすべてのトリガが自動的に一括トリガと見なされるため、この項目は必ず <code>true</code> を返します。</p>
EntityDefinition	<p>FieldSets — エンティティに関連付けられている項目セット。</p> <p>Fields — エンティティに関連付けられている項目。</p> <p>IsCreatable — オブジェクトを作成できるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>IsDeletable — オブジェクトを削除できるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を指定します。</p> <p>IsQueryable — オブジェクトをキューに追加できるか (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。</p> <p>KeyPrefix — エンティティ ID の最初の 3 桁。オブジェクト種別 (取引先、商談など) を示します。</p>
FieldDefinition	<p>DataType — 項目のデータ型。</p>
Layout	<p>EntityDefinition — このオブジェクトに関連付けられている EntityDefinition オブジェクト。</p> <p>EntityDefinitionId — このオブジェクトに関連付けられている EntityDefinition オブジェクトの ID。</p>
RecordType	<p>BusinessProcessId — 関連付けられた BusinessProcess の ID。</p> <p>IsActive — このレコードが有効か (<code>true</code>)、否か (<code>false</code>) を示します。有効なレコードタイプのみをレコードに適用できます。</p>

オブジェクト	項目
User	FirstName — ユーザの名。 LastName — ユーザの姓。 Name — FirstName と LastName の連結です。最大 121 文字です。
WorkflowAlert、 WorkflowOutboundMessage、お よび WorkflowTask	TableEnumOrId 項目が削除されました。

詳細は、『[Force.com Tooling API Developer's Guide](#)』を参照してください。

SOAP API

SOAP API バージョン 33.0 では 2 つのコールが変更されました。

変更されたコール

次のコールは、API バージョン 33.0 で変更されました。

`describeFlexiPages()` および `DescribeFlexiPageResult`

次の項目が追加されました。

- `subjectType` — この項目は、将来の使用のために予約されています。
- `template` — FlexiPage が関連付けられているテンプレート。

`describeSObject()` および `describeSObjectResult`

Field サブタイプに次の項目が追加されました。

- `highScaleNumber` — 項目詳細の指定内容に関係なく、項目に小数点以下 8 桁までの数値が保存されるか (`true`)、否か (`false`) を示します。価格が数分の 1 セントで、数千個単位で販売される製品の通貨を処理するために使用されます。組織で、高スケールの単価設定が有効ではない場合、この項目は返されません。

メタデータ API

組織のカスタムオブジェクト定義やページレイアウトなどのカスタマイズ情報を管理するには、メタデータ API を使用します。

このセクションの内容:

[メタデータ API コール](#)

バージョン 33.0 では、複数のメタデータ API コールが変更または追加されました。

[メタデータ型とメタデータ項目](#)

バージョン 33.0 では、複数のメタデータ型およびメタデータ項目が変更または追加されました。

メタデータ API コール

バージョン 33.0 では、複数のメタデータ API コールが変更または追加されました。

新しいメタデータコール

次のメタデータ API コールが追加されました。

`deployRecentValidation()`

Apex テストを実行せずに最近検証されたコンポーネントセットをリリースします。

`deployRecentValidation()` を使用して、Apex テストの実行を省略し、より短い時間でコンポーネントを本番にリリースできます。最近の検証をリリースする前に次の要件が満たされていることを確認します。

- コンポーネントが対象の環境で過去 4 日 (96 時間) 以内に正常に検証されている。
- 検証の一部として、対象組織でのすべての Apex テストに合格している。
- 組織の全体的なコードカバレッジが 75% 以上で、Apex トリガのカバレッジも同じである。

このコールは、Salesforce ユーザーインターフェースの [リリース状況] ページで最近の検証のクイックリリースを実行するのと同じです。

メタデータ型とメタデータ項目

バージョン 33.0 では、複数のメタデータ型およびメタデータ項目が変更または追加されました。

新しいメタデータ型

ActionLinkGroupTemplate

アクションリンクグループテンプレートを表します。アクションリンクテンプレートを使用すると、アクションリンク定義を再利用し、アクションリンクをパッケージ化して配布できます。アクションリンクは、フィード要素上のボタンです。アクションリンクをクリックすると、ユーザを別の Web ページに移動したり、ファイルダウンロードを開始したり、外部サーバまたは Salesforce への API コールを呼び出したりできます。アクションリンクを使用して Salesforce およびサードパーティサービスをフィードに統合できます。すべてのアクションリンクはアクションリンクグループに属しており、グループ内のアクションリンクは相互排他的です。

MatchingRule

重複レコードを識別するために使用される一致ルールを表します。

NamedCredential

指定ログイン情報を表します。指定ログイン情報では、コールアウトエンドポイントの URL と必要な認証パラメータを 1 つの定義内に指定します。指定ログイン情報は、エンドポイントとして指定できるため、認証コールアウトの設定が簡略化されます。

SharingBaseRule

アクセスレベルやアクセス権の付与先など、共有ルール設定を表します。

更新されたメタデータ型とメタデータ項目

API バージョン 33.0 では、次のメタデータ型の変更およびメタデータ項目の追加または変更がありました。

AuraDefinitionBundle

次の項目が追加されました。

`designContent`

設計定義の内容。コンポーネントバンドル内部でのみ有効です。

`SVGContent`

定義の SVG 画像。

AuthProvider

次の項目が追加されました。

`logoutURL`

ユーザがシングルサインオンフローを使用して認証された場合にログアウト後の特定の移動先を指定します。URL は、`http` または `https` プレフィックスで完全修飾する必要があります (`https://acme.my.salesforce.com` など)。

次の項目が更新されました。

`authorizeUrl`、`consumerKey`、`consumerSecret`、`defaultScopes`、`tokenUrl`、`userInfoUrl`

これらの項目の動作は、Salesforce が管理する認証プロバイダ設定をサポートするように変更されました。これにより、Salesforce は、Facebook、Salesforce、LinkedIn、Twitter、または Google の認証の値を管理できるようになります。ただし、これらの項目の値を指定する場合は、`consumerKey` と `consumerSecret` も指定する必要があります。この設定についての詳細は、[Salesforce 管理値を使用した認証プロバイダの設定](#)を参照してください。

`providerType`

Google が、サポート対象の `AuthProviderType` 列挙値に追加されました。

ExternalDataSource

次の項目が更新されました。

`customConfiguration`

外部データソースが OData 型の場合、新規パラメータ `requestCompression` をこの JSON 符号化された設定文字列で使用できます。このパラメータは、ユーザインターフェースの [圧縮要求] 項目に対応します。

FlexiPage

次の項目が追加されました。

`subjectType`

この項目は、将来の使用のために予約されています。

`pageTemplate`

FlexiPage に関連付けられているテンプレート。

Flow

次の項目が追加されました。

`interviewLabel`

インタビューの表示ラベル。この表示ラベルは、ユーザとシステム管理者が同じフローからのインタビューを区別するのに役立ちます。

`FlowActionCall` サブタイプの `actionType` 項目で、次の値が新規にサポートされます。

`apex`

Apex メソッドの呼び出し

FlowScreen サブタイプに次の項目が追加されました。

allowPause

実行時に [一時停止] ボタンを画面に表示するか (true)、非表示にするか (false) を示します。

pausedText

エンドユーザが [一時停止] をクリックすると表示される確認メッセージ。

FlowRule および FlowWaitEvent サブタイプの次の項目で新しい値がサポートされます。

conditionLogic

この項目で、1 AND (2 OR 3) のような高度なロジックがサポートされるようになりました。高度なロジックを使用する場合、文字列は 1,000 文字以内にする必要があります。

FlowWaitEvent サブタイプに次の項目が追加されました。

outputParameters

イベントの出力パラメータの配列。パラメータ値は、フロー内でイベントから変数に割り当てられません。

NameSettings

これまで、NameSettings はベータリリース種別としてリリースされていました。API バージョン 33.0 で、NameSettings が正式リリースされます。

RunTestFailure

RunTestFailure 結果オブジェクトに次の項目が追加されました。

seeAllData

テストメソッドに組織データへのアクセス権があるか (true)、否か (false) を示します。

RunTestSuccess

RunTestSuccess 結果オブジェクトに次の項目が追加されました。

seeAllData

テストメソッドに組織データへのアクセス権があるか (true)、否か (false) を示します。

SamlSsoConfig

次の項目が追加されました。

executionUserId

Apex ハンドラクラスを実行するユーザ。このユーザは「ユーザの管理」権限を持っている必要があります。SAML JIT ハンドラクラスを指定した場合は、ユーザが必要です。

requestSignatureMethod

SAML 要求の署名に使用されるメソッド。有効な値は、RSA-SHA1 および RSA-SHA256 です。

samlJitHandlerId

Auth.SamlJitHandler インターフェースを実装する既存の Apex クラスの名前。

SecuritySettings

SessionSettings サブタイプに次の項目が追加されました。

lockSessionsToDomain

別のドメインでのセッションIDの不正使用防止に役立つように、コミュニティユーザなどのユーザの現在の UI セッションが特定のドメインに関連付けられているかどうかを示します。これは、Spring '15 リリース以降に作成された組織ではデフォルトで有効になっています。

SharingRules

SharingRules に、SharingCriteriaRule、SharingOwnerRule、SharingTerritoryRule という 3 つの子サブタイプが追加されました。

組織のすべての共有ルールを、すべてのオブジェクトに対して取得およびリリースできるようになり、ワイルドカードもサポートされます。種別 (条件、所有者、テリトリー) による手動共有および共有ルールの取得およびリリースはサポートされません。

型 AccountSharingRules、CampaignSharingRules、CaseSharingRules、ContactSharingRules、LeadSharingRules、OpportunitySharingRules、AccountTerritorySharingRules、CustomObjectSharingRules は使用できなくなりました。

Territory2Type

このメタデータ型に新規項目 `Priority` が追加されました。この項目は、将来の使用のために予約されています。

API バージョン 33.0 では、次のメタデータ項目型が追加または変更されました。

ActionLinkTemplate

この新規項目は、ActionLinkGroupTemplate 型のサブタイプで、アクションリンクグループテンプレートに関連付けられたアクションリンクテンプレートを表します。

Publisher.js API

publisher.js API の 3 つのイベントで投稿およびソーシャル投稿アクションがサポートされるようになり、これらのアクションとやりとりするカスタムコンソールコンポーネントを作成できるようになりました。

publisher.js の操作についての詳細は、「[コードを使用したケースフィードのカスタマイズ](#)」の「ケースフィードとやりとりするカスタムコンソールコンポーネントの作成」を参照してください。

次のイベントは、API バージョン 33.0 で変更されました。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

Salesforce コンソール API (インテグレーションツールキット)

ツールキットでは、コンソールをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。

ツールキットについての詳細は、『[Salesforce コンソールインテグレーションツールキット開発者ガイド](#)』(英語版のみ)を参照してください。

次のメソッドが API バージョン 33.0 で新規追加または変更されました。

`getPageInfo()`

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。

`setSidebarVisible()`

`tabId` と領域に基づいてコンソールのサイドバーを表示または非表示にします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition (Service
 Cloud 付属)

使用可能なエディション:
Performance Edition および
Developer Edition (Sales
 Cloud 付属)

有料オプションで使用可能なエディション:
Enterprise Edition および
Unlimited Edition (Sales
 Cloud の有料オプション)

Open CTI API

Open CTI では、Salesforce をカスタマイズしてコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) システムと統合可能にするメソッドが新規追加および更新されています。

Open CTI についての詳細は、『[Open CTI 開発者ガイド](#)』(英語版のみ)を参照してください。

次のメソッドが API バージョン 33.0 で新規追加または変更されました。

`getPageInfo()`

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。

`onClickToDial()`

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。
 コールで `PersonAccount` オブジェクトがサポートされるようになりました。

`onFocus()`

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。

`searchAndGetScreenPopUrl()`

コールで、選択リスト値の数ではなく選択リスト値が返されるようになりました。

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。

`searchAndScreenPop()`

コールで、選択リスト値の数ではなく選択リスト値が返されるようになりました。

コールすると、新しい `displayName` 属性でオブジェクトタブの表示ラベルが返されるようになりました。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、APIを使用してSalesforceで実行できるアクションのことです。

すべての呼び出し可能アクションは一般的な要求オブジェクトを使用して呼び出されるため、さまざまなSOAPオブジェクトまたはREST JSON ボディ形状とのインターフェースは必要ありません。呼び出し可能アクションでは、「describe」がサポートされるため、各アクションの有効な入力パラメータとアクションの出力値をプログラムで調べることができます。

呼び出し可能アクションはREST APIを介してのみ使用でき、次の特性がありません。

- 動的な入力値および出力値
- プログラムによる describe のサポート
- 一貫性のある呼び出しインターフェース

次のアクションを使用できます。

- 標準アクション—これらのアクションはそのまま呼び出すことが可能で、設定やインスタンスの作成は必要ありません。
 - メール
 - Chatter に投稿する。
 - 承認申請
- カスタムアクション—これらのアクションはユーザが作成します。通常、Apexアクションは開発者が作成しますが、他のアクションはシステム管理者が作成します。
 - Apex
 - メールアラート
 - フロー
 - クイックアクション

呼び出し可能アクションについての詳細は、『[Force.com REST API 開発者ガイド](#)』の「呼び出し可能アクション」を参照してください。

ISVforce

Spring '15 には、環境ハブとパッケージ化の機能拡張が含まれています。

このセクションの内容:

環境ハブへの組織の接続時にデフォルト SSO を使用して時間を節約

環境ハブに組織を接続するときに、シングルサインオン (SSO) がデフォルトで有効化されているため、手動で SSO を設定する時間と手間を省くことができます。

エディション

使用可能なエディション:
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

環境ハブの説明によるメンバー組織の追跡

環境ハブのメンバー組織リストが長く、メンバーを見つけられないことがあります。各ハブメンバーの説明を追加すると、ハブに接続した組織を簡単に追跡できます。

未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化

管理パッケージを更新するときに、Visualforce ページ、Visualforce コンポーネント、および静的リソースを削除できるようになりました。アプリケーションで使用されなくなったコンポーネントを削除することで、複雑性を軽減し、より合理化されたユーザ操作を登録者に提供できます。これらのコンポーネントの削除機能は、Spring '14 リリースで導入された同様の機能を基に作成されています。

指定ログイン情報のパッケージ化

管理パッケージと未管理パッケージで指定ログイン情報コンポーネントを使用できるようになりました。指定ログイン情報をパッケージに追加し、登録者組織の認証済み Apex コールアウトでコールアウトエンドポイントとして指定ログイン情報を指定できるようにします。これにより、Salesforce がそれらのコールアウトのすべての認証を安全に処理できるため、Apex コードでの処理は不要になります。

環境ハブへの組織の接続時にデフォルト SSO を使用して時間を節約

環境ハブに組織を接続するときに、シングルサインオン (SSO) がデフォルトで有効化されているため、手動で SSO を設定する時間と手間を省くことができます。

以前は、環境ハブメンバーの SSO を有効にするには、環境ハブに組織を接続した後、有効にする必要がありました。現在は、環境ハブに組織を接続するときに、SSO はデフォルトで有効になっています。後で SSO を自分自身で有効にする場合は、組織に接続する前にこのオプションを無効にします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

環境ハブの説明によるメンバー組織の追跡

環境ハブのメンバー組織リストが長く、メンバーを見つけられないことがあります。各ハブメンバーの説明を追加すると、ハブに接続した組織を簡単に追跡できます。

環境ハブに多数のメンバーがいる場合、または似た名前のメンバーがいる場合、組織の追跡が難しくなる可能性があります。他のメンバーと区別するために、各ハブメンバーに最大 4,000 文字の説明を追加できるようになりました。この項目は省略可能であるため、ハブメンバーの現在の追跡と管理に満足している場合は、この項目を空のままにします。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、および
Unlimited Edition

未使用のコンポーネントの削除による管理パッケージの合理化

管理パッケージを更新するときに、Visualforce ページ、Visualforce コンポーネント、および静的リソースを削除できるようになりました。アプリケーションで使用されなくなったコンポーネントを削除することで、複雑性を軽減し、より合理化されたユーザ操作を登録者に提供できます。これらのコンポーネントの削除機能は、Spring '14 リリースで導入された同様の機能を基に作成されています。

エディション

使用可能なエディション:
Developer Edition

- 📌 **メモ:** この機能は使用資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

以前は、これらのコンポーネントは管理パッケージから削除できませんでした。しかし、複雑なパッケージでは、リリースを繰り返すうちにコンポーネントの数が膨大になることがあります。このような場合は、未使用の管理コンポーネントを削除することで、アプリケーションを整理された状態に保ちながら管理およびアップグレードできます。

🚨 **重要:**

- コンポーネントを削除すると、そのコンポーネントに存在するすべてのデータが完全に削除され、追跡された履歴データが削除されて、割り当てルールやエスカレーションルールなど、そのコンポーネントに依存するインテグレーションはすべて変更されます。さらに、管理パッケージのコンポーネントを削除すると、復元することも、同じ API 名で別のコンポーネントを作成することもできなくなります。

ただし、お客様が特定のアクションを実行しなければ、登録者組織のデータやメタデータが削除されることはありません。新しいパッケージバージョンにアップグレードする登録者は、削除したコンポーネントを引き続き組織で使用できます。該当するコンポーネントは、[パッケージの詳細] ページの [未使用のコンポーネント] セクションに表示されます。このリストにより、登録者は、使用されていないコンポーネントを明示的に削除する前に、データをエクスポートしたり、これらのコンポーネントを伴うカスタムインテグレーションを変更したりすることができます。

- コンポーネントの削除によって予想される影響を顧客に指導することはシステム管理者の責任です。Salesforce では、アップグレードしたパッケージのリリースノートに、削除したすべてのカスタムコンポーネントをリストして、顧客に実行する必要があるアクションを通知することをお勧めします。

管理コンポーネントを削除する場合は、次の制限事項が適用されます。

- コンポーネントが、ワークフロールール、入力規則、または Apex クラスなどの他のメタデータで参照されている場合、そのコンポーネントは削除できません。

管理コンポーネントは、ユーザインターフェースで宣言して削除することも、メタデータ API を使用してプログラムで削除することも可能です。後者の場合は、`destructiveChanges.xml` マニフェストファイルに削除するコンポーネントを指定して、標準の `deploy()` コールを使用します。管理対象外のコンポーネントを削除する場合も処理は同じです。API についての詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。管理パッケージのコンポーネント削除についての詳細は、『[ISVforce ガイド](#)』を参照してください。

指定ログイン情報のパッケージ化

管理パッケージと未管理パッケージで指定ログイン情報コンポーネントを使用できるようになりました。指定ログイン情報をパッケージに追加し、登録者組織の認証済み Apex コールアウトでコールアウトエンドポイントとして指定ログイン情報を指定できるようにします。これにより、Salesforce がそれらのコールアウトのすべての認証を安全に処理できるため、Apex コードでの処理は不要になります。

次の点に留意してください。

- 指定ログイン情報はパッケージに自動的に追加されません。コールアウトエンドポイントとして指定ログイン情報を指定する Apex コードをパッケージ化

エディション

使用可能なエディション:

Group Edition、
Professional Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、および
Developer Edition

する場合は、その指定ログイン情報も追加するか、登録者組織に同じ名前の有効な指定ログイン情報が存在することを確認してください。

複数の組織がある場合、各組織に同じ名前の指定ログイン情報を作成できます。それぞれの指定ログイン情報には、異なるエンドポイント URL を含めることができるので、たとえば開発環境と本番環境の違いにも対応できます。コードは指定ログイン情報の名前のみを参照するため、コードのプログラムで環境を確認することなく、同じ Apex クラスをパッケージ化してすべての組織にリリースできます。

- 証明書はパッケージ化できません。証明書を指定する指定ログイン情報をパッケージ化する場合は、登録者組織に同じ名前の有効な証明書があることを確認してください。
- 管理パッケージまたは未管理パッケージからインストールした後、登録者は外部システムへの再認証を行う必要があります。
 - パスワード認証の場合、登録者は指定ログイン情報定義でパスワードを再入力する必要があります。
 - OAuth の場合、登録者は認証プロバイダのクライアント設定でコールバック URL を更新し、指定ログイン情報で「保存時に認証フローを開始」を選択して再認証する必要があります。

管理パッケージの指定ログイン情報の属性

管理パッケージからインストールした後に編集可能な指定ログイン情報の属性を次の表に示します。

- **開発者による編集可能:** 開発者はこの列のコンポーネント属性を編集できます。これらの属性は、登録者の組織ではロックされます。
- **登録者と開発者による編集可能:** 登録者と開発者はこの列のコンポーネント属性を編集できます。ただし、これらの属性はアップグレードできません。最新の変更が適用されるのは新規登録者のみです。
- **ロック:** パッケージが「管理-リリース済み」になると、開発者と登録者はこの列のコンポーネント属性を編集できません。

開発者による編集可能	登録者と開発者による編集可能	ロック
<ul style="list-style-type: none"> • エンドポイント • 表示ラベル 	<ul style="list-style-type: none"> • 認証プロバイダ • 証明書 • ID 種別 • OAuth 範囲 • Password • プロトコル • ユーザ名 	<ul style="list-style-type: none"> • 名前

Force.com 開発のその他の変更

ユーザエクスペリエンスを向上させるために Force.com 開発ツールを追加しました。

このセクションの内容:

リリース可能なカスタムメタデータ型の開発 (パイロット)

カスタムメタデータ型を作成してから、それらの型の特性を使用するカスタムメタデータを作成できるようになりました。ISV およびエンタープライズ IT 部門には、リストカスタム設定および場合によってはカスタムオブジェクトを使用して過去にエミュレートされたカスタムメタデータ型がありますが、これらの項目の行はメタデータではなくデータであり、データは別の組織にはリリースできません。より少ない開発ツールを作成することで開発期間が 20% 以上短縮され、以前は何万行ものコードが必要であったものが数個のカスタムメタデータ型だけで達成され、インストールされたアプリケーションのアップグレードが 50% 高速化されます。カスタムメタデータ型を使用して、設定を定義し、パッケージ化およびリリースできる再利用可能なアプリケーションコンポーネントと機能を作成します。

リリース可能なカスタムメタデータ型の開発 (パイロット)

カスタムメタデータ型を作成してから、それらの型の特性を使用するカスタムメタデータを作成できるようになりました。ISV およびエンタープライズ IT 部門には、リストカスタム設定および場合によってはカスタムオブジェクトを使用して過去にエミュレートされたカスタムメタデータ型がありますが、これらの項目の行はメタデータではなくデータであり、データは別の組織にはリリースできません。より少ない開発ツールを作成することで開発期間が 20% 以上短縮され、以前は何万行ものコードが必要であったものが数個のカスタムメタデータ型だけで達成され、インストールされたアプリケーションのアップグレードが 50% 高速化されます。カスタムメタデータ型を使用して、設定を定義し、パッケージ化およびリリースできる再利用可能なアプリケーションコンポーネントと機能を作成します。

エディション

使用可能なエディション:
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition、
Developer Edition、および
Database.com Edition

- 📌 **メモ:** カスタムメタデータ型は現在、パイロットプログラムを通じて一部のお客様が使用できます。このパイロットプログラムに参加する方法については、salesforce.com にお問い合わせください。パイロットプログラムへの参加には、追加の契約条件が適用される場合があります。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、このパイロットプログラムへの参加や、特定の期間にこの機能を有効化することは保証できません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。サービスのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

Salesforce1 Platform によって、Salesforce は CRM の市場リーダーとなりました。カスタムメタデータ型とカスタムメタデータでは、Salesforce がこれまでしてきたように、アプリケーションのエコシステムを構築できます。カスタム設定およびカスタムオブジェクトを使用して独自のプラットフォームのような機能を構築したことがある場合、カスタム設定およびカスタムオブジェクトデータでは、管理可能な方法でのパッケージ化、リリース、アップグレード、カスタマイズはできないことは理解していると思います。顧客とパートナーに監査機能を提供する場合、メタデータでデバッグ用の監査履歴を得ることができます (項目履歴管理はパッケージ化できません)。アプリケーションのセキュリティを構築する場合、カスタムメタデータ型を使用することによって簡素化されたプロファイル管理が可能になります (カスタム設定はプロファイルに関連付けられるため、権限セットに簡単に関連付けることはできません)。

Spring '15 以降、カスタムメタデータ型によって次が可能になります。

- Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、または Database.com Edition 組織でカスタムメタデータ型およびレコードを作成する。

- 未管理パッケージ、管理パッケージ、または管理パッケージ拡張でカスタムメタデータ型およびレコードをパッケージ化する。
- カスタムメタデータ型パイロットの一部である Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、または Database.com Edition 組織にカスタムメタデータ型およびレコードを含むパッケージをリリースする。
- 変更セットを使用して、Sandbox からカスタムメタデータ型およびレコードをリリースする。
- カスタム設定で使用できる、通貨項目以外のすべての項目種別をカスタムメタデータ型で使用する。
- データベースへのクエリを繰り返し行う手間を省くために、効率的なアクセスを実現するため、カスタムメタデータをアプリケーションキャッシュで公開する。
- Apex でカスタムメタデータ型およびレコードを参照する。getByName()、getByNames()、および getAllNames() メソッドを使用して、カスタムメタデータ型でのカスタムメタデータレコードの API 名を取得する。次のような操作が可能です。

- getByName() を使用して OurCustomMetadata__mdt 型から OurCustomMdInstance1_md というレコードを取得する。

```
public class GetByNameWithExistingCmd {
    public static void testGetByName() {
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt cmd =
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt.getByName('OurCustomMdInstance1_md');
    }
}
```

- getByName() を使用して OurCustomMetadata__mdt 型から OurCustomMdInstance1_md というレコードを取得し、そのレコードの datetime__c カスタム項目の値を fromCmd という Datetime 変数に割り当てる。

```
public class CustomFieldTests {
    public static void testCustomFields() {
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt cmd =
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt.getByName('OurCustomMdInstance1_md');
        Datetime fromCmd = cmd.datetime__c;
    }
}
```

- getAllNames() を使用して OurCustomMetadata__mdt 型からすべてのレコードを取得し、それらのレコードを allNames という Set<String> 変数に割り当て、allNamesList という String 変数を使用して一覧表示する。

```
public class GetByNamesUsingGetAllNames {
    public static void testGetAllNames() {
        Set<String> allNames = CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt.getAllNames();
        String allNamesList = '';
        for (String name : allNames) {
            allNamesList += name + ' ';
        }
    }
}
```

- `getByNames()` を使用して `OurCustomMetadata__mdt` 型から2件のレコードを取得し、それらのレコードを `cmdMap` という `Map<String, CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt>` 変数に割り当て、それらのレコードの値を `cmd` および `cmd2` という変数に割り当てる。

```
public class GetByNamesUsingGetAllNames {
    public static void testGetAllNames() {
        Set<String> allNames = CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt.getAllNames();
        Map<String, CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt> cmdMap =
CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt.getByNames(allNames);
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt cmd =
cmdMap.get('OurCustomMdInstance1__md');
        CustomMetadata.OurCustomMetadata__mdt cmd2 =
cmdMap.get('OurCustomMdInstance2__md');
    }
}
```

カスタムメタデータ型を使用すると、内部チーム、パートナー、および顧客向けの独自の宣言型開発者フレームワークを作成できます。データからアプリケーションを構築する代わりに、独自のメタデータ型で定義および駆動するアプリケーションを構築できます。カスタムメタデータ型パイロットへの参加についての詳細を Salesforce に問い合わせるか、success.salesforce.com で [カスタムプラットフォームコミュニティグループ](#) に参加してこの画期的な新機能について議論してください。

その他の Salesforce 製品

Desk.com

Desk.com は、小規模ビジネスや成長中のチーム向けの、オールインワンカスタマーサポートアプリケーションです。

新機能についての詳細は、[「Desk.com Product Updates Blog」](#) を参照してください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、[「Heroku Changelog」](#) を参照してください。

Salesforce Marketing Cloud

Salesforce Marketing Cloud は統合されたソーシャルマーケティングスイートであり、これを使用して、企業は顧客と対話して関係を構築し、コンテンツを公開して、広告を最大限に活用し、キャンペーンの成果を測定して、ソーシャルインサイトと顧客データを統合することができます。

新機能についての詳細は、[Salesforce Marketing Cloud Facebook ページ](#) を参照してください。

関連トピック:

[セールス機能が使用可能になる方法と状況](#)